何かが起きている? 青木真也、DREAM離脱……!?

kamipro

紙のプロレス

MMA & PRO-WRESTLING M

enterbrain MOOK

特集 俺たちの
ゴールデンプロレス2011

まだら狼、最後のロングインタビュー

上田馬之助

寺西勇/菊地毅
キラー・カン/橋本大地

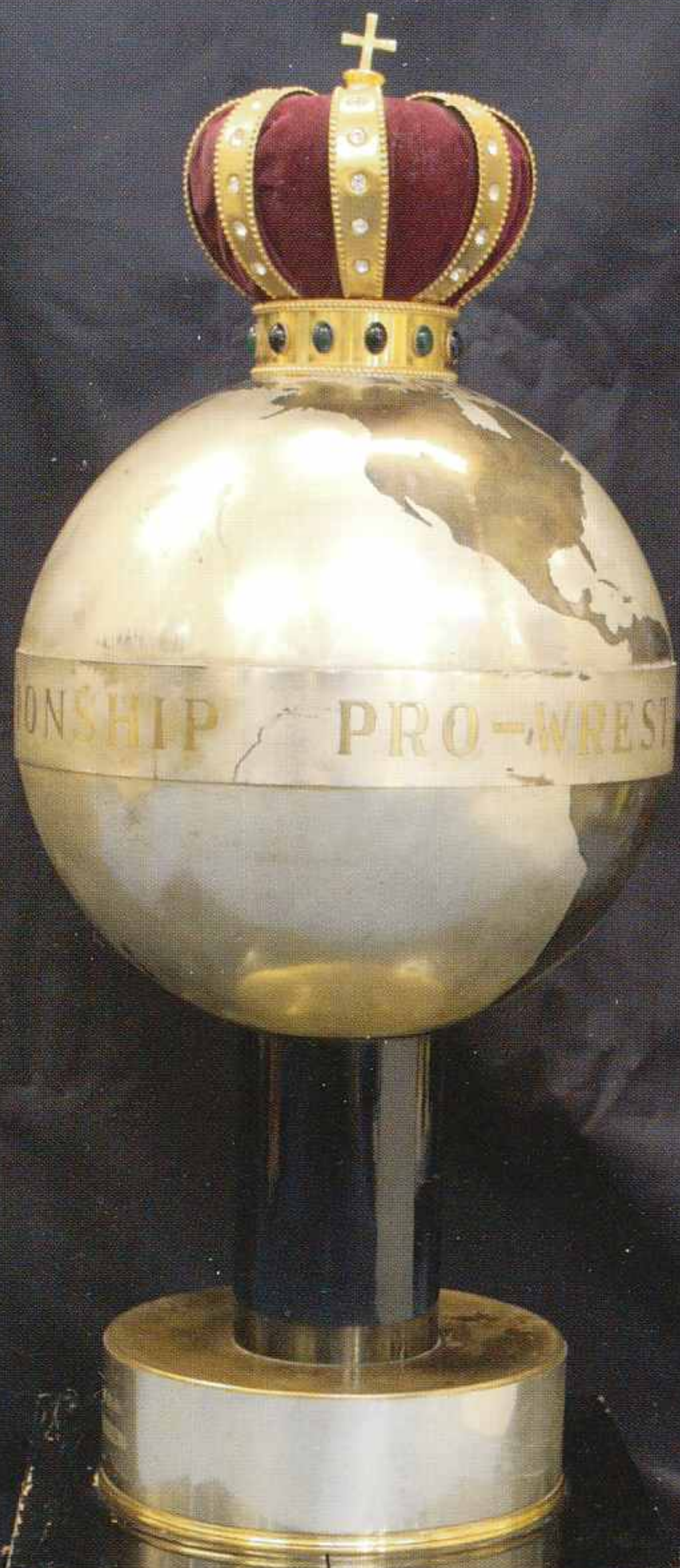
迷えるマット界への遺言……

男は黙って馬之助!!

2011
155

特別定価940yen

行こうぜナメック星へ!
2.5 UFC126に日本の至宝が揃い踏み!!

山本KID徳郁
小見川道大

ANNIVERSARY 10th thanks! eb!

kamipro 2011 No.155 CONTENTS

表紙写真／松永 源さん

新旧レスラー大集合！ 新春プロレス特集！

MMA

004 山本KID徳郁
012 小見川道大
018 ジョー・シルバ UFCマッチメーカー
022 ストライクフォース・ヘビー級GP
024 スコット・コーカー ストライクフォースCEO
028 石井 慧
033 菊地成孔
038 北岡 悟
042 菊野克紀
046 マカオとは何か?
049 青木に何が起きたのか?
054 谷川貞治 FEG代表
058 2010年大晦日変態座談会 with 玉袋筋太郎&椎名基樹
113 中井りんへの50の質問
118 松本天心
124 デイブ・ハーマン
128 ニック・ディアス
132 ゲガール・ムサシ
136 修斗に何が起こっているのか?

PRO-WRESTLING

065 上田馬之助
073 掟ポルシェの『突撃！ 俺の晩ごはん』キラー・カン編
078 ユセフ・トルコ
081 嶋田紋奈 天龍プロジェクト代表
086 橋本大地
090 菊地 毅
097 伊藤 薫
104 寺西 勇

Columns

048 花くまゆうさくの『豆リングの汁』／金原弘光の『どこまでやるの!?』
142 椎名基樹の『サムライ三昧』

FEG解体？ 新組織を突貫工事で建設中!?

K-1、DREAMは ただいま工事中です!!

マット界・春の〝工事〟から何が生まれるのか——？

今年の春より体制を刷新して再スタートすることを宣言した谷川貞治FEG代表。K—1WGPやK—1MAX、DREAMを主催する現FEGを解体し、新会社設立を示唆する発言も口にしている。その判断は現在のスキームではもはやビジネスとして成立しないということなのだろう。

そしてフジテレビやTBSとの地上波放映契約更新の交渉もこれから。投資銀行PUJIとの業務提携の影響もあってか、これまでにはない大工事が行なわれる模様だ。

肝心のイベント再開時期について諸説飛び交っている。業界では「3月末」説が有力とされているが、これはDREAMサイドが3月末頃に某会場を仮押さえしているため。この号が発売される頃には今後のスケジュールについて何かしら発表されている可能性もあるが、まずは〝新体制〟の概要が固まってからの話だろう。

〝新体制〟の動向をファン以上に注視しているのは選手たちだ。大会開催時期が明確でないのであれば、ほかの舞台に目を向けるのはあたりまえ。とくにMMAの場合は、オンリーワンな存在のK—1と違って競合イベントは数多い。SRCが脱・メジャー路線を進むいま、有力ファイターが進む先はアメリカしか残されていない。山本KID徳郁、小見川道大に続く〝脱藩者〟が現われてもおかしくないのである。そしてあの青木真也も〝脱糞〟……ではなく〝脱藩〟を匂わせている。

新組織による再開時期はいつになるのか。そしていったい何が建てられようとしているのか。読者の皆さま、2・5『UFC126』と2月から始まるストライクフィースのヘビー級GPでもご覧になって、再開までいましばらくお待ちくださ〜い。

D”徳郁

KID INVITED TO UFC

金も地位も捨て裸一貫のUFC挑戦!
“神の子”の決意を聞け!!

「俺がUFCで暴れて“日本のMMAここにあり”を見せる!」

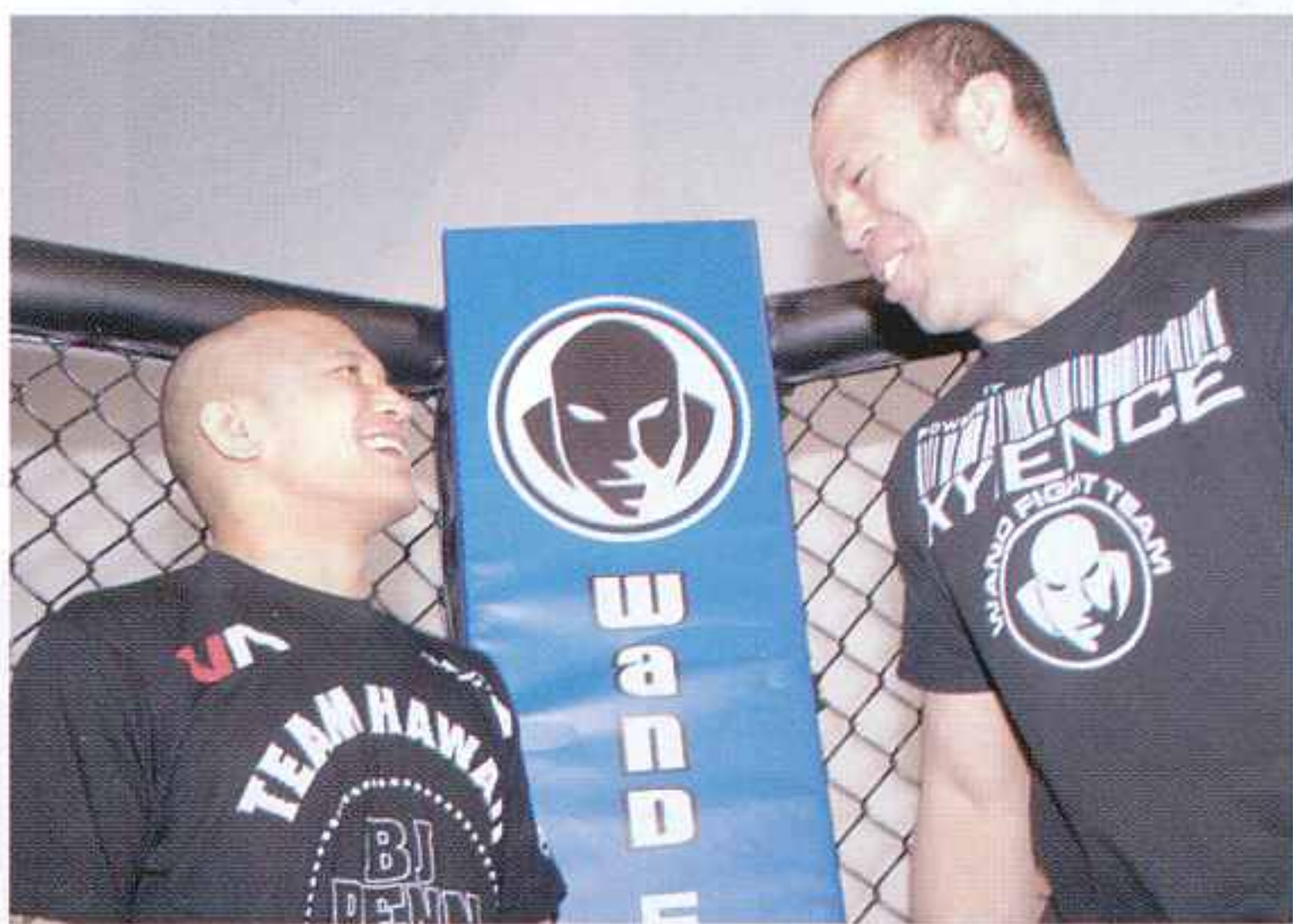
山本“KI

あの“神の子”KIDがUFCと電撃契約! 2.5『UFC126』ラスベガス大会で、デミトリウス・ジョンソン相手に早くもデビューが決まった。
日本格闘技界が混迷の時代に入るなか、KIDはどのような思いからUFC参戦を決断したのか?
UFCの“前座”から裸一貫でリスタートするKIDの決意のほどを聞いてみた。

聞き手/堀江ガンツ　撮影/吉場正和　試合写真/Josh Hedges(UFC)、Getty

――KIDさん、そのニューヘアスタイルはインパクトありますね！
KID　いいでしょ。どうですか？
――非常に似合うと思いますよ。
KID　似合いますか、よかった。
――これはUFCデビューに向けての〝戦闘用ヘアスタイル〟なんですか？
KID　いや、全然。UFCが決まる前から伸ばしてたんで。
――モヒカンにするために伸ばしてたんですか？
KID　そうっすね。いい感じで伸びたんで、バッチリと刈って、これでオクタゴンに上がってやろうかなって。
――では、ヘアスタイルもキマったところで、まずUFC参戦が正式に決まったいまの心境から聞かせてください。
KID　かなり気合い入ってるっすね。アメリカのUFCっていうのは、ずっと前から俺のなかでは格闘技の最高峰だって思ってるし。いろんなプロモーションが世界中にありますけど、やっぱり選手層も一番厚い。これまでの結果を見ても、こっちで活躍してた日本人とかが行ってもなかなか勝てなかったり、こっちでベルト巻いてた人がアメリカに行ってやっつけられて帰ってきちゃうっていうのが現実だから。
――軽量級のWECですら、そうでしたからね。
KID　そうそう。だから自分のなかで「ああ、最高峰のところだな」っていう思いはずっとあったし、そんなに甘くないってこともわかってるんで。でも、そこで試合をやれるっていうチャンスをUFCからもらえたんで。自分自身も凄い気合い入ってるし、ガッチリいくことになると思う。
――先日、ウチでKIDさんと福田力選手の対談をやらせてもらったじゃないですか。
KID　ああ、はいはい。たしか、リキがUFC参戦決まったときにやったやつですよね。
――そうです。で、そのあとKIDさんのUFC参戦が正式に決まったあと、福田選手と話したら「ボクがノリさんに影響を与えちゃったんですかね？」って言ってたんですよ。
KID　アハハハハ！　何言ってんだ、あいつ(笑)。大丈夫だって、おまえのせいじゃないよ。
――「ボクのUFC参戦がきっかけで、ノリさんも行きたい気持ちが大きくなっちゃったんじゃないか」ってことだったんですけど、そうじゃない、と(笑)。
KID　オレがリキに憧れてUFCに行きたくなっちゃったり？(笑)。まあ、それぐらい大きな気持ちに成長してくれて、うれしいですよ。
――でも正直、福田選手のUFC参戦が決まったとき、若干うらやましい気持ちはあったりしませんでしたか？
KID　うらやましいというより、なんかスゲエうれしかった！
――心のなかで「次はオレも」という気持ちもなく。
KID　うん。ただ単純に、あいつがそういうデカい舞台に出るって決まったことがうれしかった。
――では、KID選手自身はもうけっこう前からUFCに参戦したい気持ちは固まってたわけですね。
KID　前からありましたね、はい。
――それがこのタイミングになったというのは、やはり今回WECがUFCに統合されて、UFCバンタム級というKID選手に合う階級ができたことが大きいわけですか？
KID　そうですね。自分のクラスである61・5キロっていうクラスができた時点で、もう気持ちは固まったし。
――それまではUFCに参戦しようにも、一番下が70キロ級でしたからね。これがアメリカでもWECだとやはり触手は動きませんでしたか？
KID　いや、アメリカで勝負したかったんでWECでも行こうと思ってたんですけど、ちょうどUFCと一緒になってくれたんで。これはなんかの縁じゃないけど、いい風がオレに吹いてきたなって思います。

金も地位も関係ない。いつでも俺はルーキーの気持ちでやってるんで

――KID選手のジムには以前からケージがありますけど、UFC参戦が決まって、オクタゴン用に練習内容を変えた部分はありますか？
KID　とくにないですけど、練習中に金網際のテイクダウンになるシチュエーションがあったら、そういう練習はしてます。でも、オレは金網で試合しても絶対に

2年前、本誌の対談企画でヴァンダレイのジムを訪れたKID。このとき、ジムにあるフルサイズのオクタゴンで1時間ほど練習させてもらっていたのだ。

『UFC126』でKIDと対戦するデミトリウス・ジョンソン（右）。アグレッシブで素早い動きには定評があり、KIDとは激しいファイトになること必至だ。

山本"KID"徳郁

下がらないし、普通に詰めていくから、押さえ込んだりはさせない。

——オクタゴンの広さって気になりますか？

KID　2年前にヴァンダレイ・シウバの道場がオープンするときに行って、あそこはオクタゴンがあるんで、一回練習させてもらったんですよ。

——ヴァンダレイのジムにあるオクタゴンはフルサイズですよね。

KID　入ったらメチャクチャでかくてビックリ、みたいな。やっぱりデカい選手が入って闘う場所だったけど、あそこにオレみたいにちっちゃい選手が入って、テレビに映るのかなって。凄くちっちゃくしか映らないかもしれない（笑）。

——リングと比べてもかなり広いですよね？

KID　凄く広い。でも、そのぶん自由に動けますね。もう、やりたい放題。

——じゃあ、2年前にヴァンダレイのジムで練習してみたときから「自分の戦場としていいな」みたいな手応えもありましたか？

KID　やりやすいなって思った。

——リングより闘いやすいくらいですか？

KID（去年の）5月にDREAMの金網でやったときも、凄くやりやすかったし、居心地がよかったから。

——じゃあ、5月のホワイトケージでの経験も自信になったというか。

KID　そうですね。

——その5月以降、試合がありませんでしたが、どういうふうにすごされていたんですか？

KID　ひたすら練習してました。

——それは日本で試合をするイメージではなく、もうアメリカを見据えての練習ですか？

KID　アメリカで試合するイメージで。そのなかで、自分で「行く」って決めて。

——UFCのどこに一番、魅力を感じました？

KID　向こうは強い選手がたくさんいるし、世界の最高峰だし。あと、チャンピオンがてっぺんにいて、下から勝ち上がったヤツが挑戦できるっていうスタイルもそうだし。

——KIDさんは、いままでK—1ルールとかいろいろやってきましたけど、残りの格闘技人生、いち競技者として頂点に挑んでみたい、という感じですか？

KID　そうですね。もう、あんまり遠回りできないし。やっぱり年齢的にもいまが一番、脂が乗ってるときなんで、そのときにブチ当たって、ベルトを獲って。そのあとは日本に帰ってきて自分の興行でもやりたいですね。

——今回、UFCのマッチメイカーである

昨年５月のDREAMでケージを経験しているKID。このときも広い空間を有効に使い、キコ・ロペスを１分41秒でKO！　UFCでも本領発揮となるか？

ジョー・シルバにも話を聞いたんですよ。そしたら「KIDが本当に来るとは驚きだ。日本のビッグスターがその地位を捨てて、ルーキーで入ってくるなんて」って驚いてたんですよ。

KID　べつにオレは地位とかそんなの、いっつも持ってるつもりはないんで。常にルーキーの気持ちでいってるんで。全然関係ないですね。

――でも、日本では毎回メインクラスで、テレビ中継もある試合だったわけじゃないですか。それが今回はPPV放送がないアンダーカードからスタートというのも気になりませんか？

KID　全然気にならないです。これまでは、たまたまデカい大会に出たり、メインでテレビに出たりしてただけだって。それだけの話なんで。だから（UFC参戦に）迷わないし、うしろなんか振り返ってるヒマもないし。

――逆にいままでのものを一度リセットしたほうが燃える感じですか？

KID　そうですね。そういう考えもあります。

――これまでずっと日本でやってきて、ある意味、煮詰まってた部分はありますか？　日本でやりたいことがなくなってきたり、とか。

KID　煮詰まったというか、「アメリカでやりたい」っていう気持ちが前からあったんで、そのチャンスがようやく来たかなって。

――でも正直言って、ルーキースタートっていうことは、ファイトマネーもこれまでとはずいぶん変わるわけじゃないですか？

KID　はい。そこは全然、大丈夫です。

――「最初は低い金額でも、勝ち上がって稼いでやる」って感じですか？

KID　稼いでやるって気持ちもあるし。もしダメんなっても、多摩川土手の橋の下で、『あしたのジョー』みたいに掘っ建て小屋のジムでもやっていけるし。泪橋スタイルでやったっていいから（笑）。

――いつでも"橋の下"から出直せる気持ちを持っている、と。

KID　全然大丈夫。それに夢もあるし。まあ、為せば成る。大丈夫です。

――KIDさんはこれまで日本で、『HERO'S』ミドル級という舞台を作り、DREAMではフェザー級という舞台を作ってきたじゃないですか。いま、自分が日本でやるべきことは、もうやったなって気持ちはありますか？

KID　そうですね。だからあとはほかの人が、ガンガンDREAMで活躍してほしい。オレはもうアメリカでがっちり活躍して、オレのやり方で「日本のMMA、ここにあり」みたいなものを見せるつもりなんで。

山本"KID"徳郁

ユライア・フェイバーとは絶対やる。同じ階級だし、もう逃がさない！

――UFCバンタム級で気になる選手はいますか？

KID　自分のクラスにはいないですね。

――いませんか！

KID　気になるのは、一個上のチャンピオン。

――フェザー級王者のジョゼ・アルドですか。

KID　そう。あれはずば抜けて強いと思いますから。気になるのはそのくらいで、自分のクラスはそんなたいしたことない。

――以前、よく比較されていた"カリフォルニアKID"ことユライア・フェイバーもバンタム級に落としたので、闘う可能性もあると思うんですが。

KID　うん、絶対やる。あっちがやりたがらなくても、オレが目の前に現われるし。いままでは一個上の階級で、当たることはなかったけど、もう逃がさない。

――バンタム級王者のドミニク・クルーズにはどんな印象がありますか？

KID　（ミゲール・）トーレスを倒したんでしたっけ？

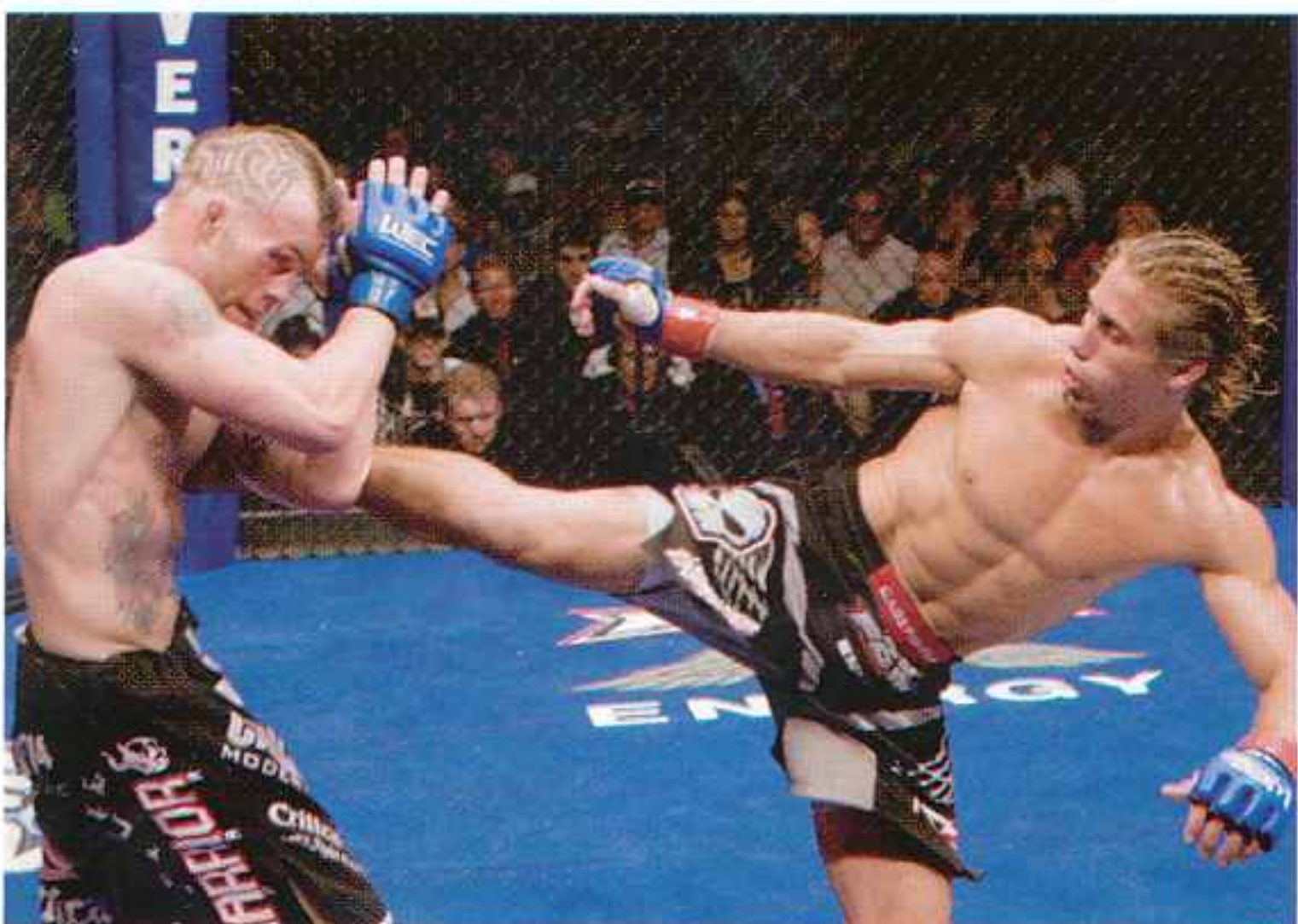
――いや、トーレスを倒したブライアン・ボウルズに勝ってチャンピオンになった選手ですね。

KID　ふ～ん、とくに全然大丈夫。心配してないです。

――じゃあ、連勝して最短でチャンピオンまでいくようなイメージができてますか？

KID　はい、自信はありますね。ただ、まだUFCという場所に慣れてないんで、そこだけですね。でも、オクタゴンの中に入っちゃえば関係なくなるから。問題ないです。

――アメリカ本土での試合は初めてですけど、アメリカで試合をするということについて、どんな気持ちですか？

KID　やっぱりアメリカの、UFCの雰囲気で闘うのが燃えますね。前にラスベガスでUFCを観たんですけど、やっぱもう全然雰囲気が違くて。観客の身でいたから、出てくる選手がうらやましいというか、カッコよく見えた。もうファンみたい

数年前からKIDとの対戦を熱望していた"カリフォルニアKID"ことユライア・フェイバー。同じUFCバンタム級となりKID戦実現は時間の問題か。

な感じで、全然知らない選手とかにも「あ
〜、触りてえ〜」みたいな(笑)。だから、

は、自分でも観てわかったし。トレーナー
の人も観て「こう

は日本代表で行くつもりだし。やっぱ、こ

いから。

山本“KID”徳郁

俺のオリジナルの日本スタイルでアメリカ人をビックリさせたい

な感じで、全然知らない選手とかにも「あ〜、触りてえ〜」みたいな（笑）。だから、あそこに立てるのが楽しみだし、入場はじっくり噛みしめたいなって。

――UFCデビューの舞台が、そのラスベガスですもんね。

KID　はい。いきなりラスベガスで、ラッキー。やっぱり、そこでもオレに風が吹いてるなって思います。

――今回UFCと契約して、ダナ・ホワイト社長からのメッセージなんかはありました？

KID　言葉は交わしてないけど、クリスマスプレゼントをもらいましたね。

――それはアメリカから送られてきたんですか？

KID　なんか全選手にクリスマスプレゼントを贈ってるらしいんですけど、いいヘッドホンをもらいました。そこも「すげえな」って思いました。だから今度ラスベガスに行って会ったとき、お礼を言わないと。「クリスマスプレゼント、ありがとう」って。

――UFCデビュー戦の相手であるデミトリウス・ジョンソンの試合映像はもうご覧になられましたか？

KID　WECのときの映像を観ました。

――どんな印象を持ちましたか？

KID　凄く動きの速い選手。だけど、もう大丈夫です。どう闘うかっていうことは、自分でも観てわかったし。トレーナーの人も観て「こうしよう」っていうことが決まってるから。

――もう傾向と対策はバッチリだ、と。

KID　バッチリですね。

――最初にKIDさんは「UFCでは日本人がなかなか勝てない」っていう話をされてましたけど、日本人が勝てない理由はどこにあると思いますか？

KID　やっぱり闘い方が、あっち用に合ってないんだと思います。

――KID選手はよりUFC用に合わせるために、アメリカで長期トレーニングをやる予定とかはないんですか？

KID　それはないですね。あくまでオレは日本代表で行くつもりだし。やっぱ、ここでやってきたことをあっちに持っていって勝負する。それも含めて挑戦だから。

――日本のトレーニングで、アメリカと勝負する、と。

KID　とか言って、いきなりあっちに移住とかしたらウケるっすけどね（笑）。いまは日本でやったことで勝負したい、そういう気持ちです。まあ、オレは気持ちがコロコロ変わるからわからないけど（笑）。

――いま日本人ファイターは、世界に挑むためにフィジカルトレーニングを取り入れてる選手が多いですけど、KID選手はそのあたりどうですか？

KID　まあ、みんないろいろ試行錯誤でやってるかもしんないけど、オレはオレのオリジナルのトレーニングスタイルあるから。オレは5歳から身体一つでここまできてるから、UFCにもいいトレーナーいるかもしれないけど、そこらへんのトレーナーには負けないから。

――なんか言葉の端々から、とにかくやる気が感じられますね。

KID　そうでしょ？　凄いやる気だから。ラスベガスでは、初めのほうの試合だけど、下からやるっていうのはかえって燃えるし。アメリカ人をビックリさせてやりたいなって。それであっちで名前売って、レストランとか行っても「KIDだろ？　今日のお代はいいぜ」とか言ってもらえるようになりたいな、と（笑）。

――UFCだとアメリカだけじゃなく、世界的にその名を轟かせる可能性もありますからね。

KID　ね！　もう悪いことできなくなっちゃう。すぐツイッターで広められちゃうから（笑）。

――では、アメリカでKID旋風を巻き起こすのを期待してますよ。

KID　大丈夫です。あとは、日本でいままでオレを応援してくれた人に、オレがあっちでベルトを巻く姿を見せたいし。それぐらいやるつもりです。

――まずはUFCデビュー戦、頑張ってください！

【11年1月13日／都内・YSAにて収録】

やまもと・きっど・のりふみ■1977年3月15日、神奈川県出身。02年に修斗でプロデビュー。04年にK-1 MAXに初出場し、村浜武洋をKOしてブレイク。05年大晦日には須藤元気を破り、HERO'Sミドル級トーナメントに優勝した。163cm、61kg。

豪華カード連発!
UFC怒濤の興行ラッシュ!!

2.5 UFC126
Silva vs Belfort

米国ネバダ州ラスベガス
マンダレイベイ・イベントセンター

主要対戦カード

［UFC世界ミドル級タイトルマッチ］
アンデウソン・シウバ vs ビクトー・ベウフォート

フォレスト・グリフィン vs リッチ・フランクリン
ライアン・ベイダー vs ジョン・ジョーンズ
アントニオ・バヌエロ vs ミゲール・トーレス
山本“KID”徳郁 vs デミトリウス・ジョンソン
小見川道大 vs チャド・メンデス

2.27 UFC127
Penn vs Fitch

オーストラリア・ニューサウスウェールズ州シドニー
エイサーアリーナ

主要対戦カード

BJペン vs ジョン・フィッチ
マイケル・ビスピン vs ホルヘ・リベラ
ジョージ・ソティロポウロス vs デニス・シヴァー
福田力 vs ニック・リング
マーク・ハント vs クリス・タッチシェール

3.19 UFC128
Shogun vs Evans

米国ニュージャージー州ニューアーク
プルデンシャルセンター

主要対戦カード

［UFC世界ライトヘビー級タイトルマッチ］
マウリシオ・ショーグン vs ラシャド・エヴァンス

ユライア・フェイバー vs エディ・ワインランド
秋山成勲 vs ネイサン・マーコート
ミルコ・クロコップ vs ブレンダン・シャウブ

クソッタレ劇場～UFC章～に突入！
2・5『UFC126』で〝無敗男〟チャド・メンデスと対戦！

「UFCで天下を獲ってやりますよ」

小見川道大

日本フェザー級最強の男がついにUFCへ！ 10年『Dynamite!!』参戦にも色気を見せていた小見川だが12月の後半、早くもUFCに参戦するという情報がネットを中心に出回った。日本のリングでは、勝ち星を重ねつつもどこか悶々としていた小見川だがUFC参戦が決定したいま、何を思っているのか。新章に突入したクソッタレ劇場から目が離せない！

聞き手／橋本宗洋　撮影／笹井孝祐

小見川道大

―UFC参戦が正式に決まった小見川選手ですが、去年の年末は何をされてたんですか?

小見川 格闘技観戦ですね。

―どの試合が印象的でした?

小見川 日沖選手とサンドロ選手。去年一番のベストバウトっていうくらい、いい試合だったと思います。

―小見川さんは二人とも対戦してるわけで、よりリアルに凄さが感じられたかもしれないですね。

小見川 サンドロ選手の攻撃をしのいだら日沖選手が有利じゃないかなって予想はしてましたね。ただ、サンドロ選手の寝技がわかんない状態だったんですよね。できるのか、できないのか。

―そういえばそうですよね。柔術系なんだけどスタンドの展開が多くて。

小見川 そこが見られたのもよかったし、5ラウンドの日沖選手も凄かった。タップしないサンドロ選手も凄いですけど。

―大晦日はいかがでした?

小見川 ん~、まあバラエティに富んでてよかったんじゃないですかねぇ(笑)。

―なるほど(笑)。ちなみに大晦日のメインも、フェザー級のタイトルマッチだったんですよね。どっちの試合にしても、小見川選手の存在が大きく絡んでいるという。

小見川 まあでも、自分はもう違うもんに目が行っちゃってましたから。

―UFCへの参戦が決まって、スッキリした気分で観てたというか。

小見川 そうですね。試合展開はだいたい予想してたとおりなんですけど、最後ビビアーノ選手が引き込んだのはミスかな、と。たぶん柔術ならあのかたちで正しいんでしょうけどね。それまでのラウンドを取ったって頭もあっただろうし。

―ラウンドごとの採点か、全体で見るかの計算違いがあったかもしれないですね、ビビアーノ選手には。大晦日でいうと、小見川選手が一時期、対戦を希望されていた青木選手の試合もありました。まさかという結末だったんですけども。小見川選手から見て、あのミックスルールの試合はいかがでしたか?

小見川 そうですねぇ……長島選手があっぱれでしたよね。1ラウンドで、タックルで入ってくる瞬間はつかんでたと思うんですよ。

―あ、青木選手が1ラウンドで組みつい

たぶん、長島選手が感覚をつかめたんじゃないか、と。

小見川 だから2ラウンドにヒザが出せたと思うんですよね、自然に。

―1ラウンド、やっぱり青木選手からしたらあのやり方しかなかったんですかね。専門家の打撃はそれだけ脅威というか。

UFCとWECの統合で、俄然気持ちがアメリカに行きましたね

小見川 俺だったらいっちゃいますけどね、1ラウンド(笑)。しのぐかいくかですけど、俺ならいっちゃいそうですね。

―専門家の打撃にも怖さは感じないですか?

小見川 俺は怖くない(笑)。ボクシングのランカーとか元チャンピオンといっぱいスパーリングしてますからね。

―あとは旧知のマッハ選手が負けてしまいましたね。判定には不服だったようですが。

小見川 そうみたいですけど……でもやっぱり、1、2ラウンドは取られてますからね。3ラウンドのヒザは効かせたと思うんですけど。

―マッハ選手も含めて、今回の大晦日はとりわけ対戦カードの決定が遅かったじゃないですか。「日にちだけ決まってれば大丈夫」っていう選手も多いんですけど、やっぱりたいへんですよねぇ。

小見川 いや~、ありますよそれは。自分のときもそうでしたけど、選手はみんなそうじゃないですか。たいへんだったと思いますよ、大晦日に出た選手は。その点、俺は早々に(笑)。

―12月の段階で2月の試合が決まって(笑)。まあ、それが普通なんですけどね。

小見川 選手からしたら、それが一番身体も作りやすいし、コンディションを万全にできますよね。

―小見川選手も、ある時期までは大晦日出場の噂がありましたけど、どんな経緯でUFC参戦が決まったんですか?

小見川 UFCに興味があるっていうのは前から言ってきたことなんで、それを向こうも感じ取ってくれたってことだと思いますね。それでちょうど自分の気持ち……不満っていうかまあ、いろいろあったじゃないですか。それとオファーがうまく噛み合ったんですよね。

―完全にUFCに行こうと決心したのはいつ頃だったんですか?

小見川 発表っていつでしたっけ?

―J-ROCKからの正式発表は12月の23日ですね。

小見川 じゃあ20日くらいかなぁ。もうちょっと前か。まあ、事務所がいろいろやってくれてたんで。

―年内に発表されたんで、かなりスパッと気持ちを切り替えたんだなぁと思ったんですよ。

小見川 まあ、気持ちはかなりアメリカに行っちゃってましたね。一番大きかったのはUFCとWECの統合で。

―フェザー級でもUFCに上がるチャンスができたっていう。

小見川 それで俄然、気持ちがあっちに行きましたよね。

―以前にもUFCには出場されたわけ

ですけど、アメリカで闘う魅力ってやっぱり大きいですか。

小見川　ケージの魅力っていうよりも、盛り上がりですよね。会場全体の。でもケージの中に関していえば、3年前に勝てなかった屈辱しかないですけどね。

――リベンジっていう気持ちも当然、強いということですよね。

小見川　ただ、同じ小見川道大でもだいぶ変わってますからね。そこを見せたいって気持ちが強いんですよね。

――実際、フェザー級に転向してからの小見川選手は凄まじい強さを発揮してますからね。そこは向こうもしっかりリサーチ済みでしょう。単純にアメリカで闘うことに対してロマンを感じたりもしませんか？

小見川　あぁ、やっぱり一番になる、チャンピオンになるっていうことですよね。そこはやりがいのある部分ですよ。

――ましてやいま、UFCのチャンピオンこそが世界一だっていう説得力は増す一方ですからね。年明けのUFCはご覧になりました？

小見川　観ました。メイン（フランク・エドガーvsグレイ・メイナード）凄かったっすねぇ！　よくやりましたよね、エドガー選手。

――1ラウンドにKO寸前になって、そこから盛り返してドローですからね。

小見川　5回くらい倒れてたのに。インターバル中になんか打たれたんじゃないかってくらい復活しましたよねぇ（笑）。

去年の3試合は、相手も強かったし間違いなく足踏みではなかったです

いや、あれは凄いっすよ。

――UFCのトップ中のトップっていうのは、ああいうレベルなんですねぇ。

小見川　すげえっす、あれは。

――ああいう選手に混じってやるっていうだけでもロマンありますよね。

小見川　あぁ、確かにそうですね。

――UFCサイドから、参戦にあたって何か言葉を送られたりはしてませんか？

小見川　とくにないですけど……クリスマスプレゼントが届いたくらいっすね。

――お～！　何をもらったんですか？

小見川　いや、たいしたもんじゃないですよ。

――いやいや、気になるんで教えてくださいよ（笑）。

小見川　ヘッドホンですね。UFCのロゴが入った。けっこうかわいいやつで。

――へぇ～。そういうこともやってるんですねぇ、UFCは。12月に参戦が決まって、2月に試合っていうのはタイミング的にどうですか？

小見川　まあ、ちょうどいいっすね。頭の中には大晦日もあって、それで調整もしてたんで。いい感じでき上がってきてるかなと思います。

――いざこうしてUFC参戦が決まってみて、去年1年間の闘いっていうのはどういうふうに感じてますか。ASTRAで1試合、DREAMで2試合されたわけですけども。

小見川　去年の3試合っていうのは、相手もそこそこ強かったし、間違いなく足踏みではなかったですね。確実に自分の力を確かめられたし。完璧な闘い方ができたかな、と。それがあってのUFCっていうか。で、UFCにはもっともっと強い相手がいるし、去年以上に完璧な仕上げをしていきたいっすね。

――ミカ・ミラーとかコール・エスコベドに勝ってるわけですから、得たものは間違いなくありますよね。

小見川　自信になりましたね。一昨年は6試合か7試合やったんで、試合数としては少なかったと思うんですけど、その3試合には手応えありますね。イラ立ちながらも、ですけど（笑）。

――そうですね（笑）。そのイラ立ちが目立ってた部分はあったんですけど、何より試合に説得力がありましたよ。UFCの闘いでは、求められるものは少し違ってきそうですけど、そのあたりはいかがですか？

小見川　そうですね、金網、壁があるんで、それの使い方だったりとか。あとヒジもあるし。多少は違うんでしょうけど、やっぱり気持ちは一緒ですね。デビュー当時からいろんなリングに上がってきてるんで、最後っつったらアレですけど、UFCですべて活かしたいですよね。より一層、自分で納得できるコンプリートなファイトを目指して。

――初戦の相手はチャド・メンデスという選手なんですが、もう映像は観ました？

小見川　観ました。

――9連勝中の選手ということですけど、印象はいかがですか。

小見川　まあレスラーですね。

――テイクダウンとパウンド主体の。

年末は『戦極 Soul of Fight』も『Dynamite!!』もフェザー級タイトルマッチがメインを飾ったが、ビビアーノを除けば3人とも小見川が過去に勝利した選手ばかり。その小見川の強さがどこまで通用するのか、これは見逃せない！

小見川　はい。もう完全に固めてくるタイプですね。日本でいうと宮田選手とか石田選手みたいな。

――じゃあ、いかにもアメリカっていうタイプの選手ですね。そういうタイプとの試合って、小見川選手はあまりないですよね。そういう意味でも一つチャレンジなのかな、と。

小見川　ん～、そのなかでも、自分のスタイル、ネオ柔道っていうものを貫き通したいですね。貫き通せるって自分で信じてるし。

――タイプが違うだけに、観ているほうとしてはおもしろそうです。

小見川　俺はおもしろくないっすけどねぇ。

――ダハハハ！　まあ確かに本人としては厄介ですよねぇ。

小見川　メンドくさい、もう。

――メンドくさいですか（笑）。「ちゃんと殴り合おうぜ」っていう。

小見川　な～んかすぐタックルきて、何するわけでもなく上取って固めてっていう、ねぇ（笑）。

――正直でいいですねぇ（笑）。何か仕掛けてくるなら、こっちも返しようがあるけどっていう。

小見川　映像観てても、なんもしてこないんですもん。「パスもしねぇのかよ！」って（笑）。それで淡々と時間がすぎていって、判定で勝つみたいな。

――それはウンザリしそうですねぇ。嫌な相手ですよ。

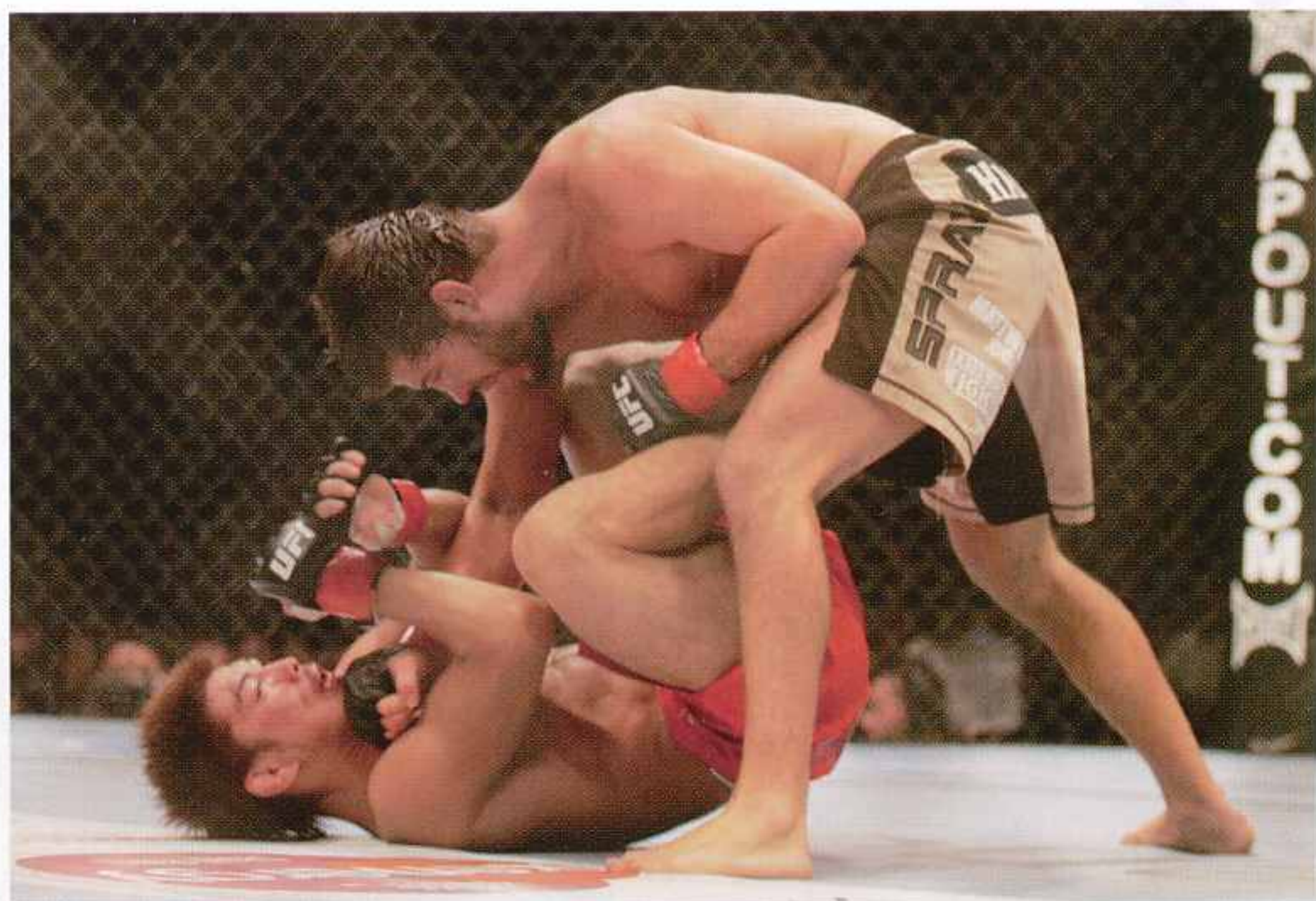
9月くらいだったと思うんですけど 五反田でたまたまKIDくんに会って……

小見川　嫌だけど……やっつけないといけないっすからねぇ。まあ、しょうがないですね。

――確かに（笑）。そういう相手に勝っていかないと上には行けないですし、上に行ったらチャンピオンのアルドみたいなのがいるわけですからね。凄まじくアグレッシブなのが。

小見川　逆にああいうのほうがやりやすいと思っちゃいますよ。

――ああ、アルドみたいなほうが。

小見川　真っ向勝負できるじゃないですか。レスラーだと真っ向勝負にならないじゃないですか。「またタックルぅ？」みたいな。

07年9月、08年1月と、二度UFCに参戦したことのある小見川だが、結果はいずれも判定負け。しかし、その後『戦極』、DREAMでの急成長を考えると、UFCにリベンジする日も近いだろう。

――それならアルドのほうがやりやすいっていうのも凄い話ですけどねぇ。

小見川　まあでも、そこを超えないといけないっすからね。また相手が無敗っていうのもね。そういう相手とやるのは好きなんで。

――お、そういうもんですか。

小見川　初黒星つけてやりたいっすよ。俺はけっこう負けが多いですけど、向こうは知らないわけじゃないですか、負けの悔しさを。こっちはどん底まで味わってますからね。それを知らないヤツっていうのは逆にムカついてきますよ。

――「おまえ、俺が味わってきた苦労を知らねえだろ！」と。

小見川　「こっちはどん底までいってんだぞ！」って。負けるのがどんだけ悔しいか、味わわせてやろうかなって。そういうとこは燃えてきますね。

――いいですねぇ、小見川選手らしくて。小見川選手が出る2月の大会には、山本"KID"徳郁選手も出ることになりましたね。日本人が二人出場ということで、日本人のファンも凄く注目する大会になりそうです。

小見川　そうっすね。そういえば、何カ月か前、たぶん9月くらいだったと思うんですけど、五反田を歩いてたらたまたまKIDくんに会ったんですよ。話したことなかったんですけど、向こうから声かけてくれて。

――へぇ～。

小見川　その頃から「アメリカでギャフンって言わせたいんだよね」って言ってたんですよ。そういうことがあって、今回たまたま同じ大会に出ることになったんで、凄くおもしろいっすね。

――小見川選手にせよKID選手にせよ、強い選手になってくると自然にアメリカが視界に入ってきますよね。そういう時代というか。

小見川　まあ、どんどん自分で言ってかなきゃダメだなとは思いますね。強くなきゃいけないのはもちろんですけど。自分のやりたいことを抑えて選手やってるよりも、自分から言って夢をかなえにいくほうがいいっすよ。何をやりたいのかハッキリさせていかないと。我慢してたって伝わらないんですから。

――また日本はいろいろ我慢しなきゃいけないこともありますからねぇ。そこで頑張ってる選手もかっこいいんですけど。

小見川　なんかねぇ、やりたいこと言っても「なんなんだろ？」っていうねぇ。

――実感こもってますねぇ（笑）。

小見川　強くても、なんか……っていうのがありますからね。「結局、無冠だよ」って。

――まあ、そうなっちゃいましたねぇ。

小見川　でもまあ、小見川道大はこれからですよ。

――『戦極』でもDREAMでもタイトルには縁がなかったわけですけど、ここでUFCという道も開けたことだし、気持ちを切り替えて、と。

小見川　縁がなかったっていうよりも、神様が「おまえはUFCのチャンピオンになれ」って言ってるのかなって。日本のリングは「おまえが目指すのはそこじゃない」ってことだったのかなと思いますね。そういう道を神様が用意してくれたってことだと思うんで、あとはそれを俺がかなえられるかかなえられないか。

小見川道大

――選手生活はUFC王者になるためにあった、という。デビューからしばらくは勝てない時期もあって、『戦極』に出るまでの戦績は4勝7敗1分だったわけですけど、踏んばってきた結果としてこういう大きいチャンスをつかめたわけですよね。正直、やめようと思った時期もあったんじゃないですか?

小見川　そりゃありましたよ。負けが込みましたからね。

――佐伯さんに聞いたんですけど、『グラジエーター』でジョン・チャンソンに負けたときは本当に落ち込んだみたいですね。のちにWECで出世しますけど、当時のチャンソンは「無名の韓国人」でしたから。

小見川　かなりヘコみましたよぉ、あのときは。

――それでも踏んばれたのはどうしてだと思います?

小見川　火事場のクソ力っていうか、崖っぷちで凄いパワーが出るんですよね。生活から何からすべて懸けて、少しのミスもできないっていう状況で力が出たんですよ。まあ、もうちょっと早くやれよって話ですけどね。

――いやいや（笑）。

小見川　俺、ゲームでも説明書読まないタイプなんですよ（笑）。

――まずやってみるっていう。

小見川　何回も負けて、だんだん覚えてくタイプなんで。それでやっと強くなるっていう。人に言わすと、「先に準備しとけ」ってなるんですけど。

――でも、その結果としていまがある、と。ちなみに、いま一歩引いたところから見て日本の格闘技界は小見川選手にはどう映ってますか。

小見川　いや～、厳しいと思いますね、やっぱり。日本でやってる人たちには悪いですけど、後輩たちには「アメリカ目指せよ」って思っちゃいますもんね。フェザーとバンタムがUFCにできたし、再来年くらいにはフライ級もできるっていうじゃないですか。そうなったらアメリカ、世界を目指そうよってなりますよ。

――そういう選手はこれから増えてくるでしょうね。

小見川　俺が出ることになって、後輩のなかにも「自分も出たい」とか「まず見に行ってみたい」とか、そういう連中がいますからね。

――勝つのはたいへんすけど、スッキリした世界が広がってますからね。

小見川　逆にこれが日本しかなかったら、どうしようかってなっちゃいますよ。

――軽量級で世界への道を切り拓くという意味でも小見川選手の活躍は重要になってくると思うので、まずは2月の試合、楽しみにしてます。

小見川　うん、これからですね。UFCでも負けてやり方覚えたんで、これからは大丈夫っすよ。ホントやり返さないといけないっすからね、UFCのクソッタレには（笑）。

【11年1月11日/都内・吉田道場にて収録】

おみがわ・みちひろ■1975年12月19日、茨城県出身。柔道からMMAに転向し、05年5月に『PRIDE武士道』でプロデビュー。09年『戦極』フェザー級GPではマルロン・サンドロを判定で下し準優勝。同年大晦日には高谷裕之を撃破。10年12月下旬にはUFC参戦が発表され、2.5『UFC126』への出場が決定している。168cm、65kg。

UFCマッチメイカーが明かす

KID、小見川獲得の真相

UFCマッチメイカー

Joe Silva

ジョー・シルバ

山本“KID”徳郁、小見川道大、福田力と立て続けに3人の日本人ファイターと契約したUFC。
日本格闘技界が混迷するなか、トップファイターの海外流出という流れはなかなか止まりそうにない。
はたしていまUFCは日本人ファイターをどう見ているのか。UFCマッチメイカーであり、
選手スカウトの最高責任者であるジョー・シルバ氏を独占直撃した。

聞き手&撮影／石井史彦　試合写真／Josh Hedges（UFC）、Getty　構成／堀江ガンツ

日本のビッグスターであるＫＩＤが
ＵＦＣで出直すという決断は驚きだった

──昨年末、ＵＦＣは山本ＫＩＤ、小見川道大、福田力と立て続けに3人の日本人ファイターと契約しましたが、それぞれ契約に至った経緯を教えてください。

ジョー　我々は常に世界中でベストのファイターを探しているんだ。そのなかでもとくに、日本のファイターたちには敬意を払っている。ここにきて、日本のトップファイター3人と契約できて、とてもハッピーだよ。

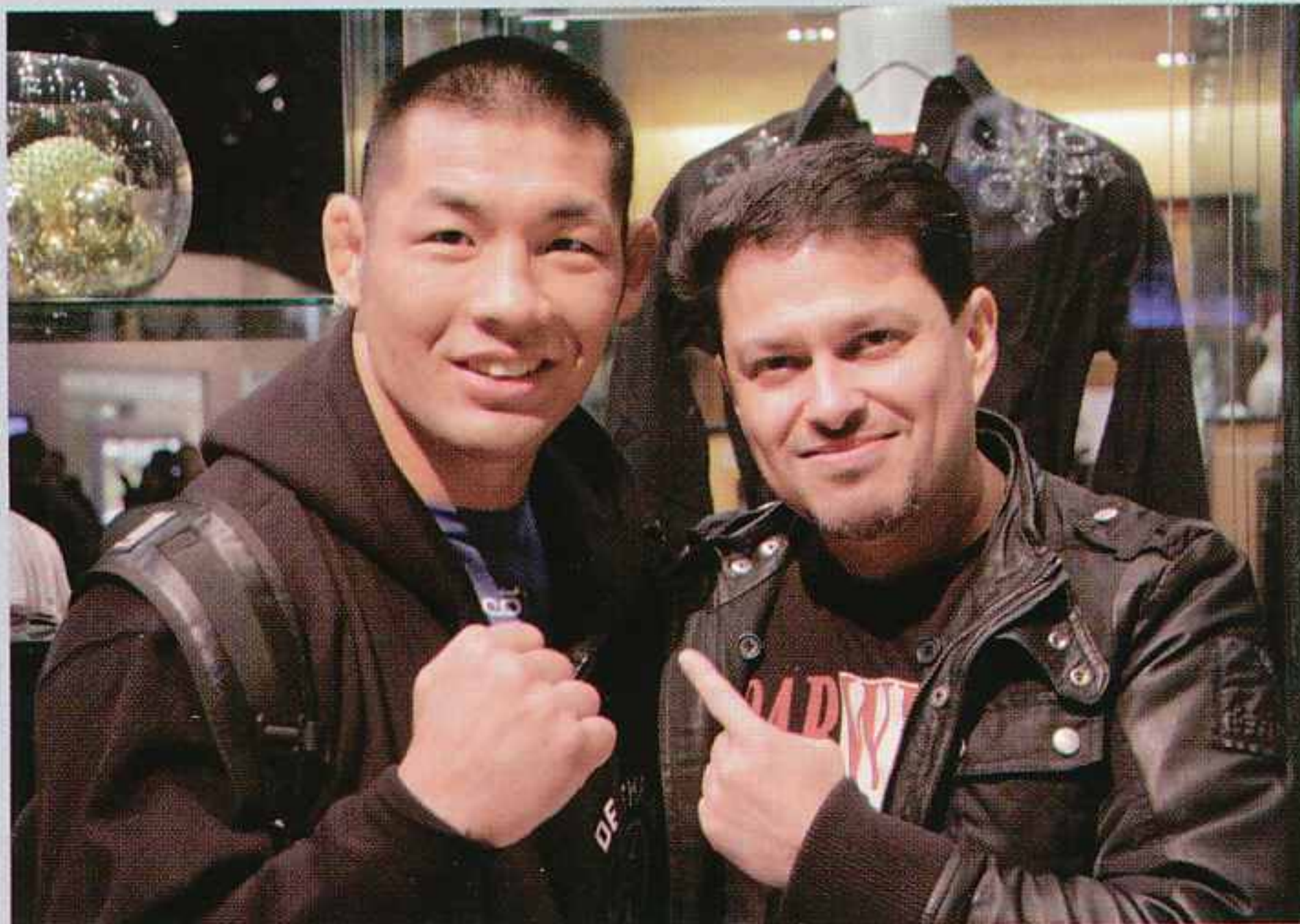
──まず福田選手はどういった理由で契約したんでしょうか？

ジョー　リキについてはミドル級の有望選手として2008年からすでに、契約の可能性を探っていたんだ。そして昨秋に契約できたということは、やっとその時期がきたということだよ。これはＫＩＤヤマモトも同様で、ＫＩＤについてはとくにダナが昔からの大ファンで、ずっと契約したいと思っていた。でも、これまではタイミングが合わなかったのが、ついにすべてが合致するときがきたということだよ。

──福田についてはどのように評価していますか？

ジョー　彼はレスリングベースで打撃も強い。ＵＦＣで成功する可能性を秘めているし、それを実現するためのタレントも持っていると思っているんだ。ただし、過去の戦績や実績でその判断は下せないんだよ。たとえばヨーロッパで無敗の選手がＵＦＣに参戦してきたとき、メディアや関係者から「この選手はどのくらい素晴らしい選手なんだい？」って聞かれるけど、答えはいつも「アイ・ドント・ノー」なんだ。それはこれから、ファイター自身に証明してもらうしかないことだからね。

──確かに他団体で大活躍しても、ＵＦＣのオクタゴンでは本来の実力が発揮できていない選手はたくさんいますからね。

ジョー　ＭＭＡというのは、対戦相手によっても、またちょっとしたルールの違いによっても勝敗は左右されるからね。それに、たとえば一つの地区で無敗の高校生レスラーを探すのは簡単だけど、全米規模で考えたら別の次元だろう？　同様にＵＦＣの外でいくらいい成績でも、ＵＦＣで実際に試合をしてみないとわからない。でも、リキはＵＦＣでも成功できるスキルを持ったファイターの一人だと評価していることは事実なんだ。どんな結果を残してくれるか、彼のデビュー戦が楽しみだよ。

1.1『UFC125』ラスベガス大会を視察した福田力とのツーショット。福田はミドル級の有望株としてジョー・シルバが2年前から目をつけていた選手なのだ。

──ミドル級にはほかに岡見、秋山という日本人選手がいますが、ＵＦＣで今後、日本人対決が行なわれる可能性はありますか？

ジョー　ちょっとおもしろい状況だよね。一般的にアジア系ファイターは軽量級にタレントが集まってるから、ミドル級のように大きくてパワーのある選手が3人もいることなんてとても想像できなかったし、それだけ彼ら3人はアジアでも特別なファイターなんだ。オカミはタイトル挑戦が決定しているトップファイターで、アキヤマはエキサイティングな試合を連発するＵＦＣになくてはならないファイターだ。彼らが今後も勝ち続ければ日本人対決のニーズが高まるだろうし、実現の可能性はおおいにあるだろうね。

──では次に、急きょ参戦が決まった感のあるＫＩＤ選手と契約した経緯は？

ジョー　じつは約2年前にもＫＩＤと関わりのある人を通して契約についての話し合いを持ったんだが、なんらかの理由で契約には至らなかった。しかし、去年の11月中旬にある代理人を通して「ＫＩＤがＵＦＣ参戦に再び興味を持ちだした。オファーは可能かい？」って打診があって、「この条件なら可能だよ」と返事をしたら、トントン拍子で話が進んだんだよ。

──ＫＩＤ側から提案があったんですか。

ジョー　そうなんだよ。2年前の交渉不成立以来、ＫＩＤは日本の大スターだから契約は無理じゃないかと、半ばあきらめていたんだ。ところが、ひょんなところから再び話があり、それでも契約交渉で揉める覚悟はしていたんだけど、今回は驚くほどシンプルでスムーズに契約締結に至ったんだ。とにかくハッピーだよ。

──それはやはりＫＩＤ選手自身が「ＵＦＣに参戦したい」という気持ちが強かったから、スムーズに進んだんでしょうか？

ジョー　そういうことだろうね。詳しくは言えないけど、たとえばＵＦＣと日本やほかの団体を天秤にかけられたりすると、交渉は難航するんだ。でも、ＫＩＤはあくまでもＵＦＣ参戦ありきで交渉してくれた。そのため、条件面を詰めるだけですぐに契約締結ができたんだ。

──ＵＦＣではＫＩＤ選手に対して、どういった評価をしていますか？

ジョー　文句のつけようのない〝スーパー・タレンテッド〟のファイターだよ。強いて不安面を挙げるとすれば、試合から遠ざかってしまっていることだけだね。そのブランクが、オクタゴンという環境の違いや、グラウンドでヒジ攻撃が許されたＵＦＣルールでの試合にどのくらい影響するか。たとえばミルコ・クロコップのような誰もが認めるトップファイターでも、なかなかＵＦＣの環境に順応できなかった例があるように、ファイターによってはＵＦＣルールに苦しむ選手もいるんだ。逆に簡単にオクタゴンを自分のものにできる場合もあるからね。

──ＫＩＤ選手の場合もＵＦＣ参戦が吉と出るか凶と出るかは、やってみなければわからない、と。

ジョー　でも、だからこそＫＩＤのデビュー戦は楽しみなんだ。オクタゴンでどんな〝ニューＫＩＤ〟を見せてくれるのかがね。ブランクやルールに影響されず、ＫＩＤが彼の持っている素晴らしいパフォー

マンスと潜在能力が爆発することを期待しているよ。

――KIDのUFC参戦を「2年遅かった」と言う人もいますが、ここ数年のKIDの闘いについてはどう思いますか？

ジョー　難しい質問だね。当時、KIDは日本で素晴らしい活躍をしていたし、大スターだったから、そのまま日本に留まって試合をすることが、彼自身にとっても日本の格闘技界にとっても重要なことだったと思うんだ。今回UFCに来たって、ここではルーキーとして出直しになるわけだし、現時点ではまだチケットの売り上げにも貢献してないんだよ。もちろん、これからKIDが世界中のファンを自分のものにしていくことは可能だけど、日本ではすでにカリスマ的な大スターになっているわけだろう？　そういうことから考えても、今回話があっても、本当に契約締結できるなんて正直思わなかったんだ。日本に残っていればKIDは安泰だったわけだからね。それでもKIDは「UFCで勝負する」と決断したことを尊重したいと思うんだ。

――安定より冒険を選んだわけですからね。

ジョー　日本にいれば、これまで築き上げた実績のうえで試合ができるし、引退後もなんらかのポジションを得ることは可能だっただろう。でも、KIDはUFCでイチから勝負することを選んだんだ。もしかしたら、日本の格闘技業界が混迷の時期に入ってしまったという現状もKIDの判断に影響したのかもしれないけどね。また階級の問題もある。KIDはこれまでずっと自分より大きなファイターと闘い続けてきただろう？　本来なら適正体重のクラスで試合をするべきなんだ。

――KIDはベストが60キロなのに『HERO'S』では70キロ級、DREAMになってからも63キロ級で闘っていましたからね。

ジョー　60キロが適正の選手が70キロ級で闘うなんて、とんでもなく大きなハンデになるからね。KIDがこれまで適正階級より2階級も上のクラスで素晴らしいパフォーマンスを見せてきたということ自体が驚きだよ。とくに最近は、どのファイターもMMAのスキルを上げてきているので、体重差はどうしようもないハンデになってしまうんだ。オミガワを見てもわかるだろう？　ライト級（70キロ）のときの戦績はどうしようもないものだった。あれは完全に間違えた階級で試合をしていたということなんだよ。オミガワが階級を落としてからの素晴らしい活躍を見ればそれがわかるよね？

――KIDのようなレジェンドの参戦は、新設されたUFCバンタム級を盛り上げ

Joe Silva

2年前にラスベガスを訪れてUFCを現地で観戦したKID。このときにダナ・ホワイトとも会談を持ったようだが、DREAMフェザー級GP出場のために、UFC参戦は流れていた。KID参戦はUFCにとっても2年越しのプランなのだ。

オミガワはチャド・メンデスに勝てばすぐにでもタイトル戦が見えてくるよ

る大きな力になると思いますか？

ジョー　もちろんだね。「KIDの魅力はなんだい？」って聞かれたら「エキサイティング！」の一言なんだ。KIDはその魅力をUFCに持ってきてくれるんだよ。それがUFCにとって最大の価値なんだ。何度も言うけれど、今回KIDがUFCに来てくれるという決断を下したことに対して、個人的には驚きであり同時に尊敬しているんだ。日本のビッグスターが、UFCでイチから出直しして再度UFCでもスターの座をつかもうとしている。KIDはビッグスターにありがちな、特別な配慮も要求してこなかったし、一契約ファイターとしてUFCに乗り込んでくるんだ。「パフォーマンスですべてを証明してやるさ」という思いなんだろう。その姿勢には、敬意を払わずにいられないよ。

――「KID参戦」を発表してからの、アメリカでの反響はいかがですか？

ジョー　とくにハードコアなファンは、KIDのUFC参戦を昔から待ち望んでいたことだし、インターネットでは「いつUFCと契約するんだ」と話題になっていたからね。契約の正式発表を聞いて、みんな喜んでくれたし、「デビュー戦が待ち遠しい」という声が多いよ。そして、実際にデビューしたあとは、カジュアルなファンのあいだでも人気が爆発することを期待しているんだ。

――近い将来、山本KIDと〝カリフォルニアKID〟ユライア・フェイバーの対戦が実現する可能性はありますか？

ジョー　もちろんだよ。すぐに実現することは難しいだろうけど、KIDがUFCで何試合か経験を積めば、将来的には間違いなく実現するカードだよ。これはカリフォルニアKID自身が待ち望んでいるカードでもあるからね。

――では、小見川選手が参戦する経緯は？

ジョー　オミガワの最近の活躍ぶりは日本のファンが一番よく知っているだろう？　彼は以前、70キロ級でUFCに参戦し、いい結果が残せなかったけど、適正体重に変更して以来、素晴らしいパフォーマンスを見せてくれているので、UFCと再契約することになったんだ。

――小見川選手は日本を主戦場とするフェザー級ファイターのなかでも、最も評価が高い選手ですか？

ジョー　もちろん、日本人フェザー級ファイターのなかで最高の評価をしているよ。だからこそ契約の可能性を探っていたし、実際に契約を締結したんだ。UFCが海外の選手と契約する際、ファイトマネー以外の経費がかかるんだよ。たとえばアメリカのビザを取得するだけでも3300ドル（約31万円）の費用は発生するし、英語も話せないからプロモーションのためのインタビューをするにも通訳を雇ったり、写真を撮るにしてもすぐにアレンジできるわけじゃないだろう？　それだけ面倒なことがあっても、UFCが契約するということは、それらのファイターたちが大きな価値をUFCに持ってきてくれるということなんだ。

――逆にKID選手や小見川選手は、日本でのファイトマネーよりも低い金額で契約したと聞いています。なぜファイターたちは、ファイトマネーが下がってもUFC参戦を希望するのだと思いますか？

ジョー　まず、自分がベストのファイターであることを証明するには、UFCに参戦しなければならない状況になったということだと思う。また金銭的にはUFCが出しているボーナスシステム、ファイト・オブ・ザ・ナイト、KO・オブ・ザ・ナイト、サブミッション・オブ・ザ・ナイトというものが明確に定義されてるし、仮にそれらの賞を獲得できなくても契約書に書かれていない部分で、なんらかのアワードをもらえる可能性があるからだろうね。だからUFCには単純に契約書で明記されている条件だけでは語れない魅力があるんだと思う。

――活躍すればするほど、いいファイトを見せれば見せるほどお金が稼げるという、インセンティブが豊富なんですね。

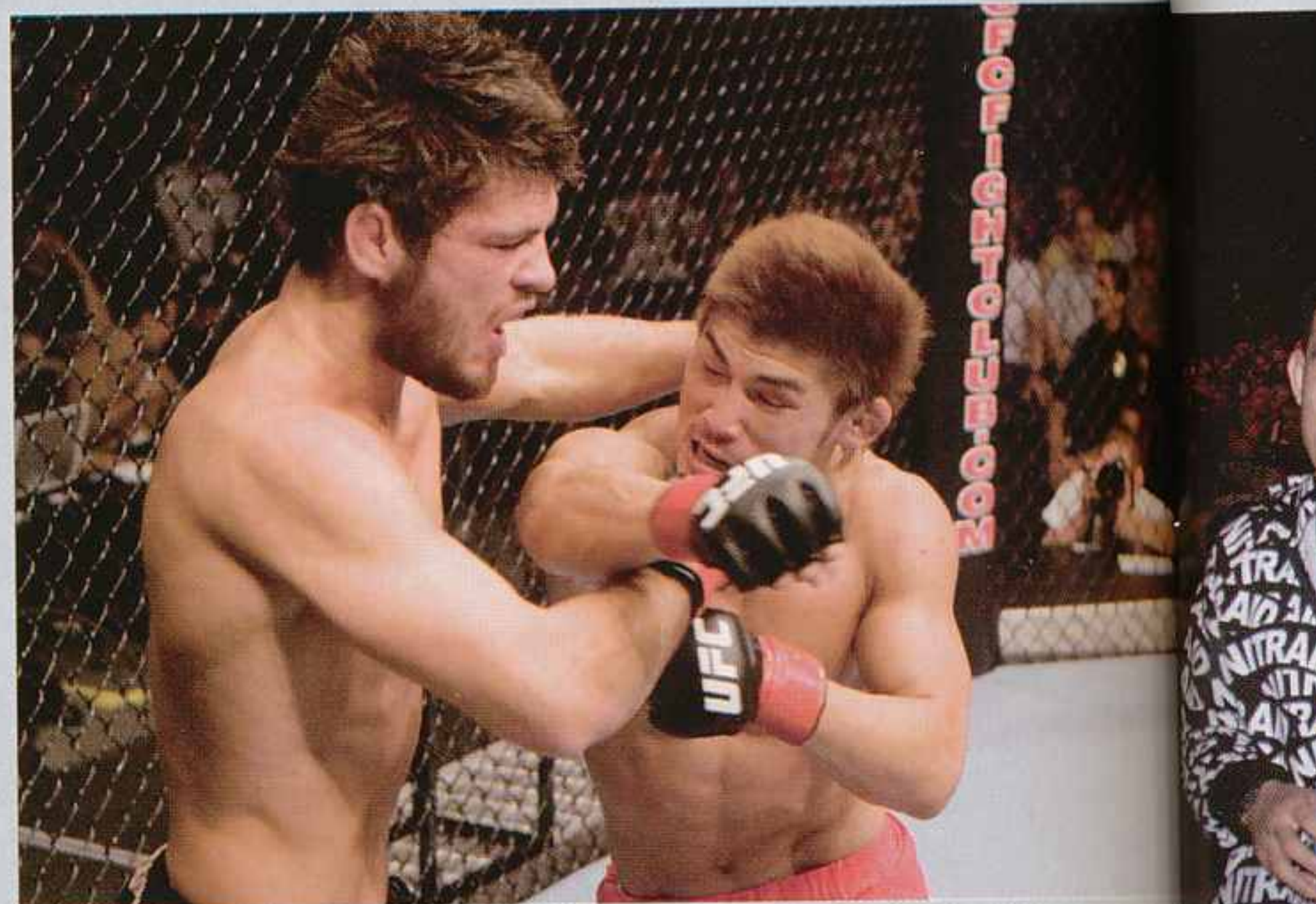
ジョー　ファイターたちのマネージャーはベストの条件をプロモーターから引き出すのが仕事だろう？　KIDの交渉のときは、マネージャーといろいろな可能性を協議したから、その内容をKIDに明確に説明できたんだろうね。それもあってスムーズに契約ができたんだよ、とにかくハッピーさ。

――小見川選手のUFCデビュー戦の相手が、いきなりチャド・メンデスというMMA9戦全勝の強豪になった理由はなんですか？

ジョー　理由は簡単で、今日現在フェザー級のランキングでオミガワが高い位置にいるからなんだ。ちなみにKIDは最高のタレントを持っているけど、最近試合から遠ざかっていることもあり、ランキングは低いんだよ。

――となると、小見川選手は早い段階でのタイトルマッチもありえますか？

ジョー　そのとおり。チャド・メンデスとのマッチアップはハイランク同士の試合になるから、この試合に勝てばすぐにでもタイトル戦が見えてくるよ。

――それは楽しみですね！　WECがUFCに統合され、UFCフェザー級、バンタム級が新設されたことで、今後、日本人選手の参戦が増える可能性はありますか？

07〜08年初頭にかけてUFCに参戦した小見川道大。しかし、このときはライト級での参戦だったため、思うような闘いができず2戦2敗でリリース。適正階級のフェザー級で再度オクタゴンに殴り込む今回こそ、本領発揮となるか？

ヒオキは最も興味のあるファイター。タカヤも連勝すれば再契約したいね

ジョー　日本人選手にかぎらず、ブラジルでも、ヨーロッパでも、世界中でベストのファイターたちと契約していくよ。現在ミドル級だけで3人の日本人UFCファイターがいるように、ベストのフェザー級、バンタム級のファイターがいればその可能性は増えるよ。

――日本人有力選手のほとんどはDREAMやSRCと契約しているので、UFCに参戦させたくてもさせられない選手がいたりしますか？

ジョー　正直言って何人もいるよ。トップレベルのファイターはみんな興味があるから、いまの団体と契約がクリアになれば、今後も獲得していく選手が増えていくと思う。

――たとえば、マルロン・サンドロを倒した日沖発選手には興味はありませんか？

ジョー　ヒオキは最も興味のあるファイターの一人だね。また、同じフェザー級ではタカヤ（高谷裕之）もおもしろい存在だ。彼はWECでは2戦2敗だったけれど、ニューイヤーズ・イブの大会でビビアーノ・フェルナンデスを相手に素晴らしい結果を残したからね。ご存知のとおりMMAではいいときも悪いときもあるから、タカヤがこれからも連勝を重ねれば、UFCと再契約という話になると思う。もちろん契約上問題がなければね。

――UFCがほしいファイターというのは、どんなタイプですか？　戦績と試合内容、人気、どれが一番優先されますか？

ジョー　最も重要視するのは戦績。もちろん、エキサイティングで観客を楽しませるファイターには興味があるけど、戦績が伴なわないといけないんだ。UFCでは現在、7つの階級で世界タイトル戦が組まれている。だから私の仕事で最も重要なのは、それらの7つの階級のチャンピオンに挑戦できるベストファイターを探し出し、契約することなんだよ。エキサイティングなだけで勝ったり負けたりの戦績だと、チャンピオンとのカードを組むことができないからね。新しく契約したファイターがデビュー後連勝を続けたらタイトルに挑戦させたいので、そういう面からも戦績が一番重要な要素になってくるんだよ。

――ランキングシステムについてはどのような考えをお持ちですか？

ジョー　ランキングを決めるのはとても難しいことだし、ランキングを公表しているウェブサイトのほとんどが同意できないものばかりなんだ。ただし、異なる4〜5つのランキングを見ていれば、なんらかの共通点がおのずと見えてくるだろうし、とくにトップにランクされるファイターたちは、だいたい同じようなポジションにいるんだよ。たとえばトップ3はどのランキングシステムでも同じようにね。

――いまUFCに日本人ファイターが増えていますが、これによって日本大会開催に近づいていると思いますか？

ジョー　大昔に（SEGが運営していた）旧UFCが日本で大会を開催してるし、私自身もPRIDE観戦のために日本に行ってる。日本は大好きな国の一つだからね。UFCの日本開催の話は昔から出ているので、自分としても早い時期に開催できることを祈っているところなんだ。少し時間はかかるかもしれないけど、待っていてほしいね。

【11年1月1日／米国ネバダ州ラスベガス、MGMグランド・ガーデンアリーナにて収録】

人類最強決定トーナメントふたたび!

70億分の1

ストライクフォース・ワールドGP

開催決定!!

人類最強決定トーナメントふたたび！

かねてから噂されていたストライクフォース・ヘビー級トーナメント開催がついに正式発表された。その名も「ストライクフォース・ワールドGP」！

この大会はヘビー級トップファイター8人によって行なわれるが、そのメンバーが凄まじい。エメリヤーエンコ・ヒョードル、アリスター・オーフレイム、ファブリシオ・ヴェウドゥムという〝ストライクフォースヘビー級3強〟にジョシュ・バーネット。さらにはアンドレイ・アルロフスキー、アントニオ・シウバ、セルゲイ・ハリトーノフ、ブレット・ロジャースという、〝非UFC〟のヘビー級トップファイターが勢揃いした。

これだけのメンバーのなかで、勝ち残れるのはもちろんたった一人。それ以外のファイターには全員〝黒星〟がつくという、ひさびさにトーナメントの醍醐味を味わえる大会になることは間違いない。

このGPは2月12日にニュージャージーで開幕。ここでは1回戦としてまず皇帝ヒョードルが今大会のダークホース的存在であるアントニオ・シウバと対戦。またアンドレイ・アルロフスキーvsセルゲイ・ハリトーノフというヘビー級屈指のハードパンチャー対決も組まれている。

さらに1回戦残り2試合は4月に開催予定。ここではアリスターとファブリシオがいきなり激突！ ジョシュ・バーネットはブレッド・ロジャースと対戦することになる。

そして年間を通してGP王者を決めるというこの壮大なイベント。どの組み合わせをとっても夢の対決となるが、ここであらためて大会の見どころを紹介しておきたい。

まずなんといっても最大の目玉は、04年のPRIDEヘビー級GP以来となるヒョードルのトーナメント参戦だろう。ここ数年、ヒョードルは対戦カードを組むこと自体が難航し、年に1～2試合程度しか行なわずファンをやきもきさせてきたが、このGPへの参加が決定したことで、今年は（勝ち残れば）必ずトップファイターと3試合闘うということになる。

昨年、ファブリシオにまさかの一本負けを喫し、いよいよ本気になった皇帝の大逆襲には、注目せずにはいられない。

そしてヒョードルと同じブロックでは、アリスター・オーフレイムvsファブリシオ・ヴェウドゥムという〝頂上対決〟がいきなり実現。ヒョードルが1回戦を勝ち抜けば、アリスターかファブリシオとの闘いが必ず実現するというのだ。

しかし、ヒョードルとて勝ち抜くのが容易ではないのがこのGPだ。1回戦の相手アントニオ・シウバは、〝ビッグフット〟の異名どおり、ヘビー級リミットギリギリである120キロの体格を誇る怪物であり、それでありながら、立ってよし寝てよしのオールラウンダー。スタンドかグラウンドのどちらかにやや難のあるファブリシオやアリスターより、ある意味、難しい相手ともいえるのだ。

はたして、ヒョードルはこの難敵を倒し、復活の狼煙をあげることはできるのか。皇帝の活躍はGP自体の成功を左右するだけに、力強い復活劇に期待したい。

ヒョードル、アリスター、ファブリシオの〝3強〟とダークホースのシウバが潰し合うこのブロックに比べ、もう一方はやや楽なブロックにも見えるが、こちらも実績充分のファイターが揃っている。

ハリトーノフはこのところ調子を落としていたが、昨年大晦日の水野竜也戦で力強い勝利を見せ復調の兆しを見せている。なんといっても、3年間無敗の快進撃を続ける怪物アリスターがMMAで最後に敗れた相手こそ、このハリトーノフ。本領を発揮すれば怖い存在だ。また対戦相手のアルロフスキーも同じ07年にUFCでファブリシオを破っており、ハリトーノフvsアルロフスキーは、〝アリスターを破った男〟vs〝ファブリシオを破った男〟の対戦なのだ。

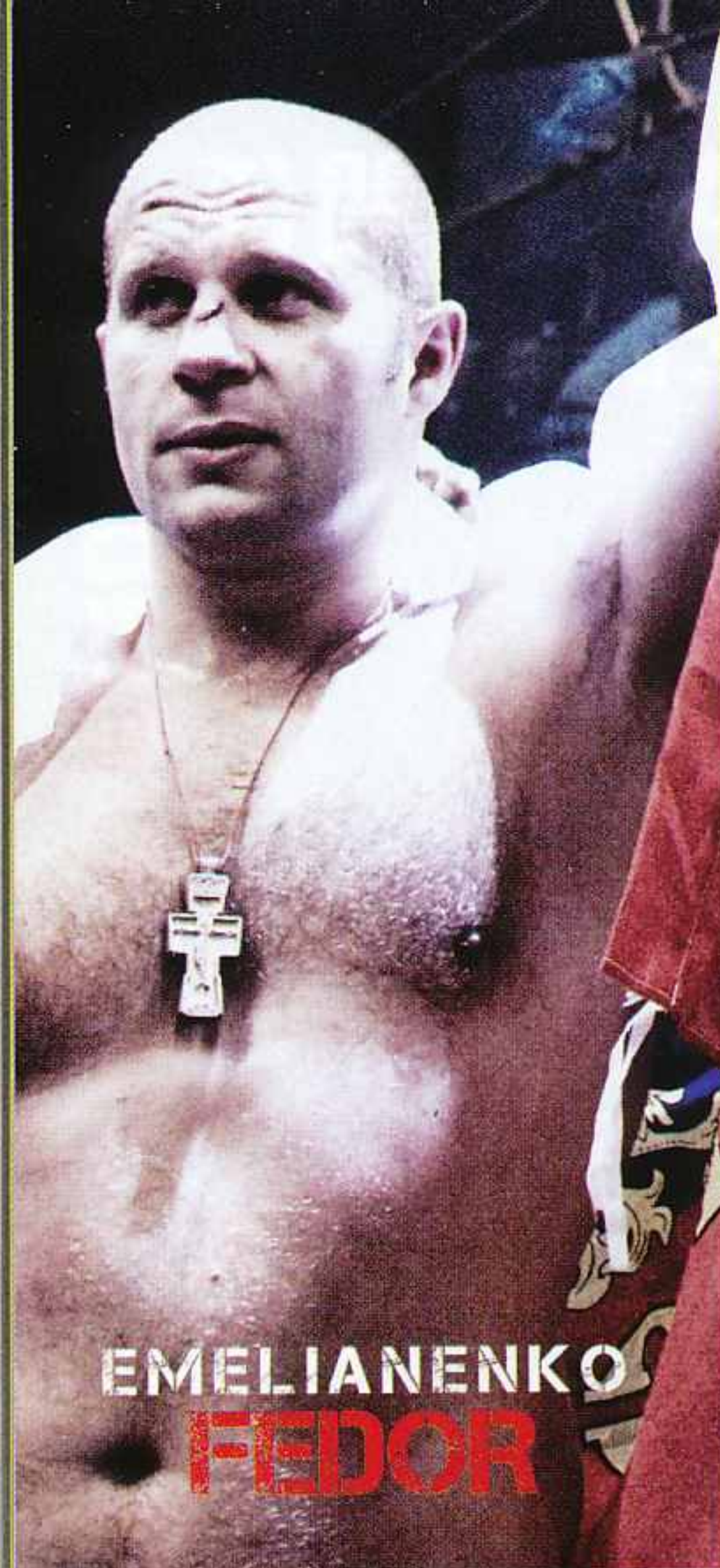
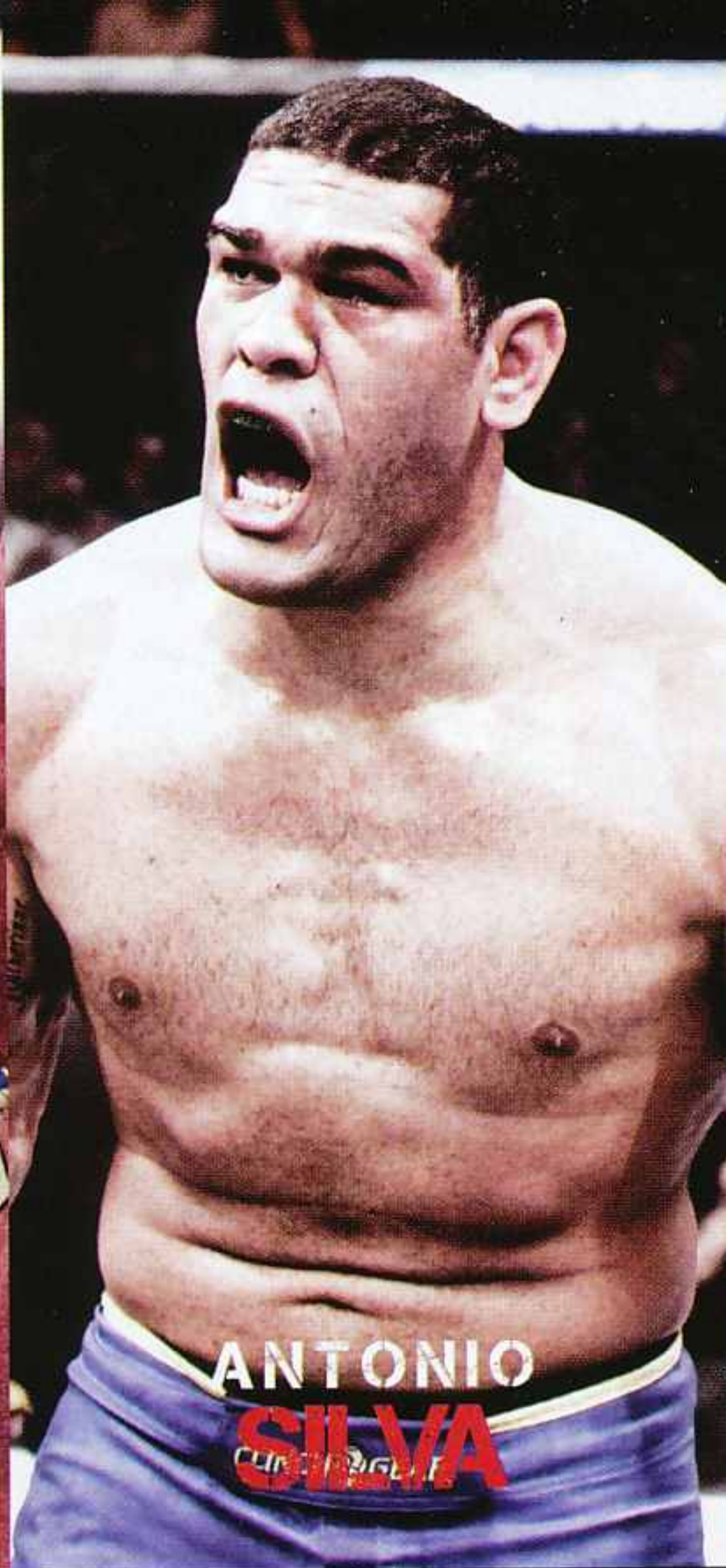
またこのブロックには、ジョシュ・バーネットも控える。ジョシュは08年に『アフリクション』でヒョードル戦が決まっていながら、薬物検査にパスすることができず、評価と信用を失なってしまったが、このGPは名誉挽回の最大のチャンス。本来の実力からすれば、決勝進出の可能性が最も高い位置におり、優勝候補と言ってもいいだろう。

ただ、問題はジョシュにはいまだにアスレチック・コミッションから正式なライセンスが下りていないこと。スコット・コーカーCEOは、出場に自信を見せるが、はたしてホントに4月に間に合うのか。ジョシュはこのGPの巨大なピースの一つであるだけに、無事出場を祈らずにいられない。

なお、このGPではアリスターが決勝に残ったときのみ、決勝戦がストライクフォース・ヘビー級タイトルマッチとなり、アリスターが途中で脱落した場合は、優勝者がアリスターの持つヘビー級王座への挑戦権を獲得することになりそうだ。

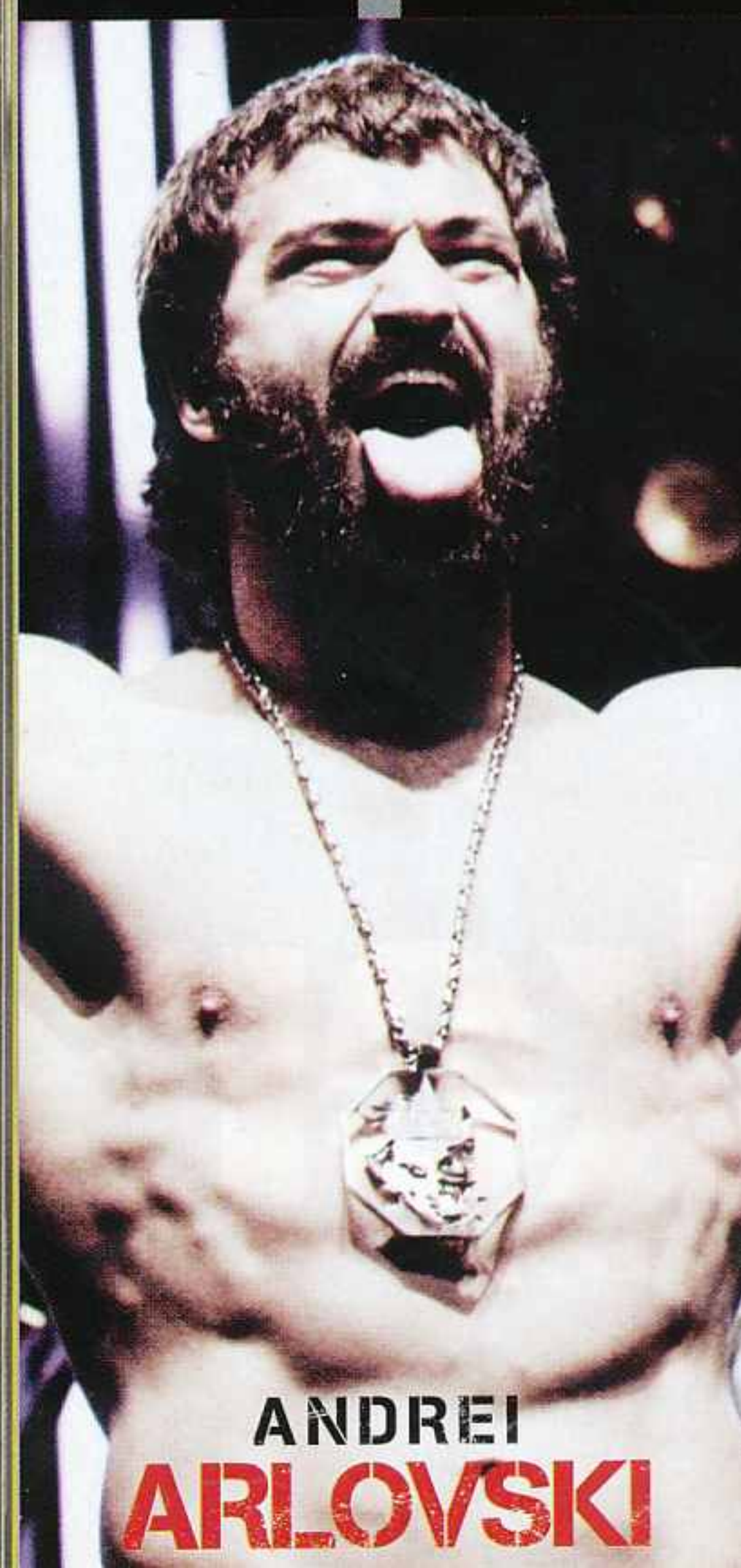
いずれにしても、現状考えうる最高のメンバーが揃った「ストライクフォース・ワールドGP」。

かつてのPRIDEヘビー級GPを上回る規模で行なわれる今大会。ちょうどUFC世界ヘビー級王者ケイン・ヴェラスケスが長期欠場しているだけに、まさに〝60億分の1〟を超えた、現在の世界人口〝70億分の1世界最強〟を決定するトーナメントと言っても過言ではない。

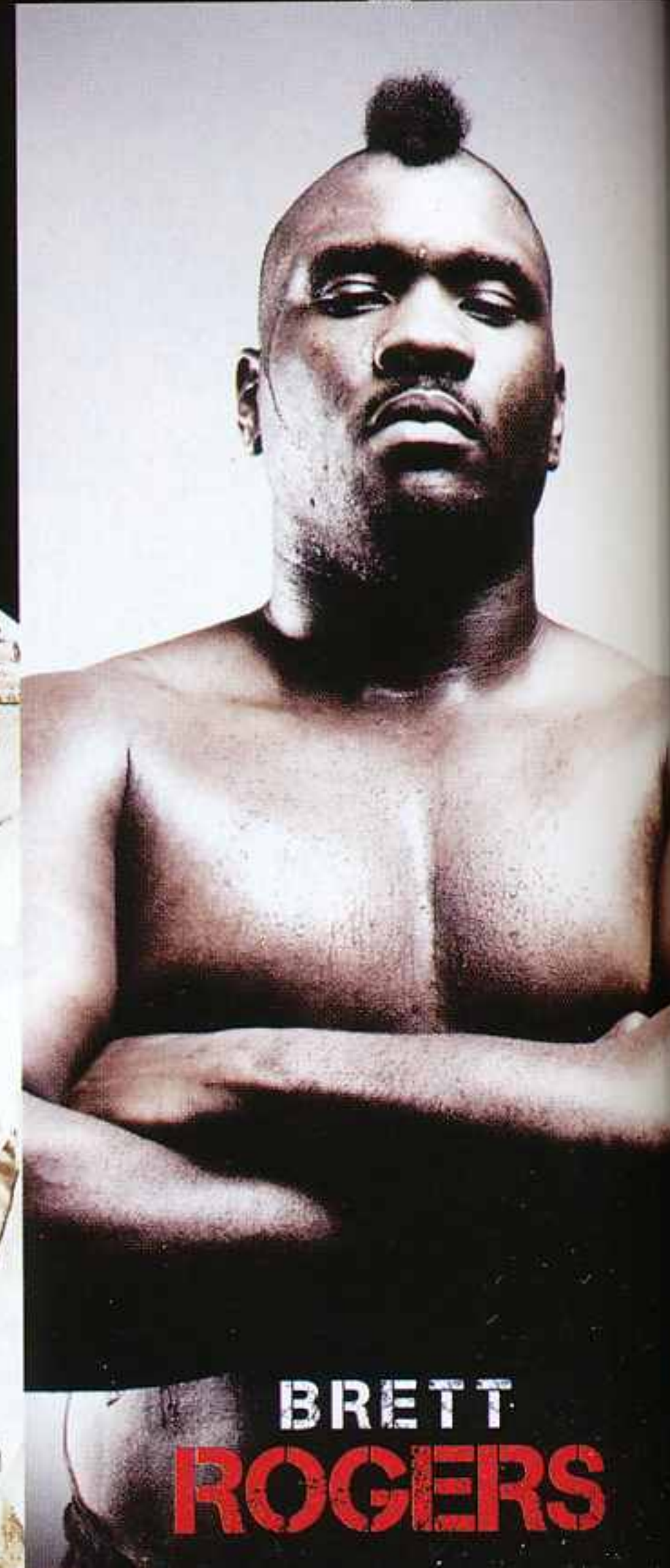
あとはなんとか日本での放送環境が整うことを期待するのみだ。スカパー！、ネットPPV、ニコ動、なんでもいいから、俺たちにこの闘いを見せてくれ！　（文／堀江ガンツ）

EMELIANENKO
FEDOR

ANTONIO
SILVA

ALISTAIR
OVEREEM

FABRICIO
WERDUM

STRIKEFORCE
WORLD GRAND PRIX
HEAVY WEIGHT TOURNAMENT

ANDREI
ARLOVSKI

SERGEY
KHARITONOV

JOSH
BARNETT

BRETT
ROGERS

2011年のストライクフォースとDREAMの関係 さらに話題沸騰のヘビー級GPを語る!

メレンデスvs川尻達也をぜひ実現させたい

ストライクフォースCEO

スコット・コーカー

Scott Coker

大晦日の『Dynamite!!』で川尻達也が、ストライクフォースライト級トップコンテンダーであるジョシュ・トムソンに判定勝ち! これを受けて、川尻のストライクフォース参戦、そして王者メレンデスへの挑戦の目が出てきた。はたしてストライクフォース側はこの対戦についてどう考えているのか。スコット・コーカーCEOを独占直撃!

聞き手／石井史彦　撮影／Esther Lin（STRIKEFORCE）　構成／堀江ガンツ

――昨年末は日本に行ってきたそうですね？

コーカー　そのとおり。大好きな寿司もたくさん食べられたし、有意義なニューイヤーを迎えることができたよ（笑）。

――今回の訪日は、やはり今後のDREAMとの関係を強化する話し合いのためですか？

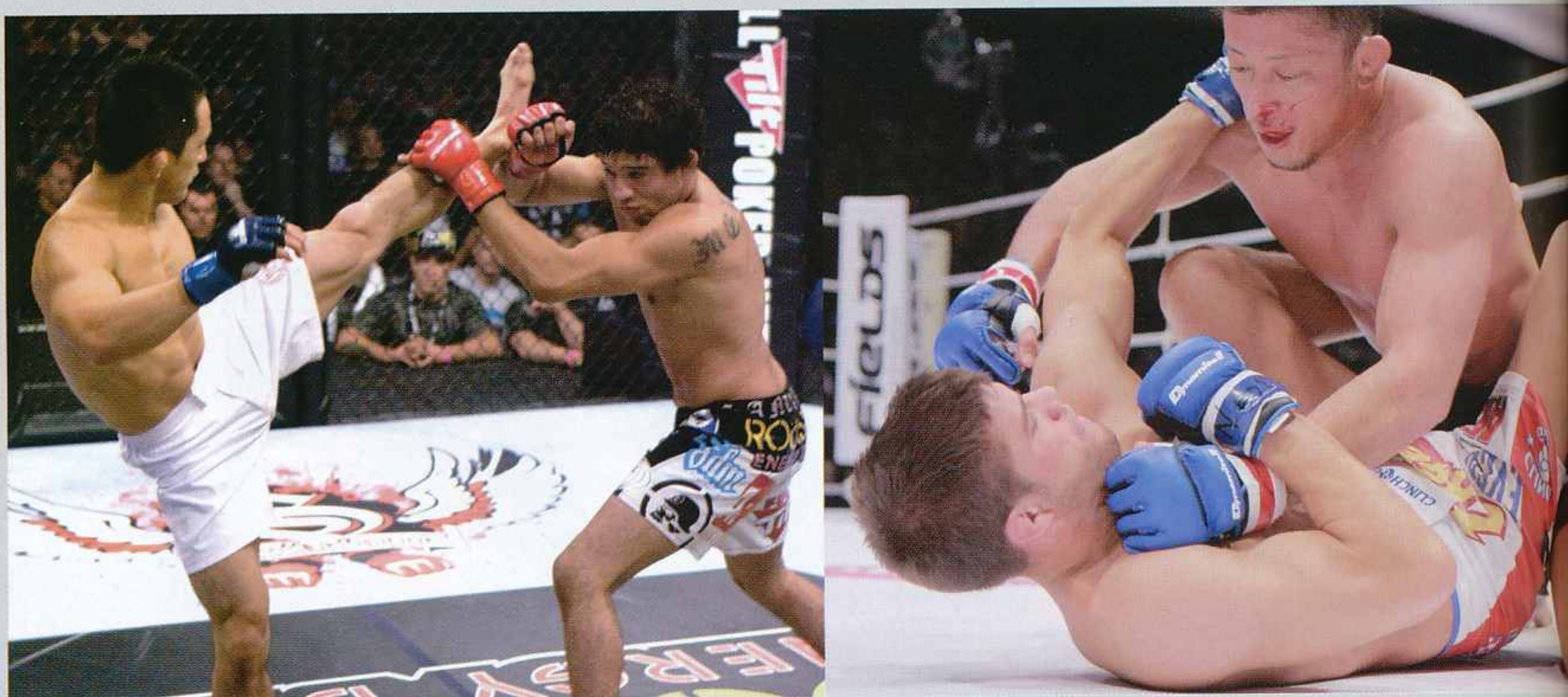
コーカー　もちろんDREAMとは今後もよりよい提携関係を結んで、協力し合うことでお互い納得しているんだけど、今回についてはジョシュ・トムソンをはじめ、ゲガール・ムサシ、セルゲイ・ハリトーノフ、そしてアリスター・オーフレイムとストライクフォース契約ファイターがたくさん出場したからね。それもあって日本へ行くことになったんだ。

――では、今回の訪日では、DREAM関係者と今後についての具体的な話し合いは持っていないわけですか？

コーカー　やはり『Dynamite!!』は年間最大のイベントだからね。大会当日の大晦日はもちろん、試合後も忙しかったし、私自身もすぐにアメリカへ戻らなければいけなかったので、とくに突っ込んだ話し合いはできなかったんだ。でも、DREAMとは常に連絡を取り合っているから、今後いろんなアレンジが可能だと思うけどね。

――では、『Dynamite!!』を観戦した感想を聞かせてください。

コーカー　とても楽しめたよ。素晴らしいKOシーンもあったし、K-1とMMAの試合を一度に満喫できたからね。ゲガールがK-1ヘビー級チャンピオンであるキョータロー（京太郎）を相手に、K-1ルールでありながら、じつに内容のある試合で勝つことができたし、アリスターもトッド・ダフィーに圧勝。ハリトーノフもミズノ（水野竜也）から素晴らしいKOを収めたし、なんといってもK-1ファイターのナガシマ（長島☆自演乙☆雄一郎）がアオキをKOしたのには驚かされた。

メレンデスへの挑戦者第一候補はカワジリ。大晦日に流れたアオキとの再戦案もある

大晦日にトムソンを下し、メレンデス戦実現が望まれる川尻。メレンデスは自身が一度判定負けを喫し、盟友・石田くんも敗れている因縁の相手だ。

――あれは衝撃的でしたね。

コーカー　それにトコロ（所英男）と対戦したボクサーはエンターテイナーとして観客を沸かせてくれたね。イシイ（石井慧）とジェロムの試合も興味深いマッチアップだったしね。とにかく大晦日に2万5000人のファンを集めてビッグショーを行なうことができるなんて感銘を受けたし、素晴らしいことだよ。

――でも、ジョシュ・トムソンが川尻選手に敗れたのは、残念なんじゃないですか？

コーカー　もちろん私はストライクフォースの代表だから、いつもストライクフォースの契約ファイターが勝つことを祈っている。でも、DREAMは提携関係にある団体だし、勝負は勝つこともあれば負けることもある。だからジョシュとカワジリの試合については、好勝負を観ることができて満足しているよ。試合はカワジリがジョシュをテイクダウンしてゲームをコントロールしていた。この勝利はカワジリにとって大きいだろうし、アオキ戦の敗北を払拭するものであったと思うよ。

――この結果は予想していましたか？

コーカー　もしこれがケージでの闘いであれば、経験で上回るジョシュが勝つと予想しただろうけど、リングだからフィフティ・フィフティだと思っていたんだ。だからとくに驚きや誤算というものはなかったね。

――ストライクフォースライト級のトップコンテンダーであるトムソンを破ったことで、川尻選手にはメレンデスへの挑戦権が生まれましたか？

コーカー　我々は今回の結果を尊重しているし、ぜひメレンデスvsカワジリのマッチアップを実現させたいと思っている。DREAMとはそのことを含めて、今後どのような関係を築いていくのか、早急に協議しないといけない。

――チャンピオンであるメレンデスの復帰戦はいつになりますか？　また現時点での対戦相手候補は川尻選手以外にもいますか？

コーカー　とてもいい質問だね。いまメレンデスとは、契約条件のことで話し合っている最中なんだよ。それも最終的なところまできているので、もうそろそろ契約締結の発表ができる予定だ。対戦相手としては、まず第一候補がカワジリ。ほかには大晦日に流れてしまったアオキとのリマッチという案もあるし、ほかにはジョシュ・トムソンと互角の闘いをしたJZ（カルバン）も候補の一人だ。あとはビリー・エヴァンゲリスタ、KJヌーン、ジョシュ・トムソンらも考えられるね。

――日本では石井慧選手と参戦交渉中との報道がありましたが、それは事実ですか？

コーカー　ああ、事実だよ。

――石井選手のどんなところに興味を持ったんですか？

コーカー　じつはイシイとの交渉は今回が初めてじゃなくて、たしか4カ月ほど前に関係者を通じて「イシイとオミガワを参戦させないか？」と紹介されたんだよ。

――小見川選手の話もあったんですか。

コーカー　残念ながらストライクフォースにはフェザー級というウェートクラスはまだないので、オミガワについては話を進めることができなかったけどね。イシイについては柔道でオリンピックの金メダルを獲ったほど才能を持ったファイターだし、将来がとても楽しみなヘビー級ファイターの一人だと評価しているんだ。

――石井選手が出場する大会は3月5日のオハイオ州コロンバス大会ですか？

コーカー　3月5日のコロンバス大会参戦の可能性も含めて話しているところだよ。ただし、まだ契約を締結してないので具体的にどの大会かというのは困難だね。

――石井の対戦相手の候補は誰がいますか？　アリスターの兄であるヴァレンタイン・オーフレイムなどおもしろいと思うのですが。

コーカー　まずは契約をしないとなんとも言えないね。参戦する時期が決まらないと、対戦相手のスケジュールもわからないからね。まあ、そのときがきたら、日本のファンにとっても興味深いカードを組むことを約束するよ。

――石井慧、川尻、青木らが参戦すれば日本でも大きな話題を呼ぶと思いますが、DREAMと協力してストライクフォース日本大会を行なうプランはありますか？

コーカー　DREAMとの合同興行は以前から提案はしているんだ。でも、まだ具体的に話せることは何も決まってないね。今回の訪日でも時間がなくて、突っ込んだ話はできなかったし。でも、近い将来の可能性は常に探っているよ。

――大晦日にFEGの谷川代表が「キング・モーをK-1に参戦させたい」とコメントしましたが、実現する可能性はありますか？

コーカー　「実現しない」と断言するね。

――断言しますか（笑）。

コーカー　キング・モーはライトヘビー級の選手だよ？　それなのにヘビー級のトーナメントに参戦させること自体がナンセンスだし、彼はストライクフォースと契約しているMMAファイターでレスラーなんだからね。もともとキックボクサーだったゲガールとは、まったく違うんだよ。ミスター・タニカワはキング・モーにケガをさせたいのかい？

そんな素晴らしい女子ファイターがいるなら、一度契約の話をしてみたいね

大晦日にジェロム・レ・バンナを破った石井慧は、現在ストライクフォースと参戦交渉中。かねてからアメリカ本土での試合を希望していた石井だけに、単発ではなく複数回契約となる可能性も高い。

――まあ、キング・モーがK-1に興味を持っているという話を聞いたうえでの発言だったんでしょうけどね。

コーカー　キング・モーはストライキングの練習も熱心にやっているし、興味はあるんだろうけど、それはファンの一人としてK-1が好きということだろう。でもキング・モーはライトヘビー級のトップファイターだから、“本業”でやることがたくさんあるんだよ。

――『Dynamite!!』の前日に開催された『戦極ソウル・オブ・ファイト』はご覧になりましたか？

コーカー　いや、日本にはいたんだけど、都合がつかなくて観戦できなかったんだ。でも、会場で観戦したHD Net（DREAMをアメリカで放送するケーブルテレビ局）の友人から「とても素晴らしい大会だった」と聞いている。HD Netは来年度のSRC放映権を買ったらしいので、近々、アメリカのファンも観ることができるようだ。

――どの試合が良かったと言ってましたか？

コーカー　「ミサキ（三崎和雄）がとくによかった」と言っていたよ。ミサキとは契約も残っているし、ぜひまたストライクフォースに参戦してほしいと思っているんだ。今度、その話し合いもする予定だよ。

――ヴァルキリー無差別級チャンピオンである女子ファイターの中井りん選手がストライクフォース参戦を希望しているようですが、興味はありますか？

コーカー　その選手のことは知らなかったんだけど、オープンウェートなのかい？

――無差別級のチャンピオンですが、実際の体重は62キロぐらいですね。

コーカー　なるほど。そんな素晴らしい選手がストライクフォースに興味を示してくれているのなら、一度話をしてみたいね。ご存知のとおり、ストライクフォースでは女子の試合にも力を入れているからね。

日本が誇る“エロツヨ”女子ファイター、中井りんもついにスコットの視界に入った！　現在、女子MMAの最高峰でもあるストライクフォースへの中井りん参戦も近々実現するか!?

――楽しみにしてます！（笑）。ところで、かねてから噂されていたストライクフォースヘビー級トーナメントは実現しそうですか？（このインタビューは開催発表前に収録）。

コーカー　もちろん開催されるよ。「ストライクフォース・ワールド・グランプリ」の名称で、8人参加のトーナメントとして行なわれる。2月12日のニュージャージー大会で開幕だ。これは今週水曜日（1月5日）には正式にリリースされることになってるんだ。

――ついに正式決定しましたか！　組み合わせもすでに決まっているんですか？

コーカー　これも水曜日に発表する予定なんだが、『kamipro』は月刊誌だか

か、もったいないくらいですね。

tCoker

昨年6月にファブリシオに敗れたヒョードルが捲土重来、ストライクフォースヘビー級トーナメントに参戦！　1回戦の相手は120キロの巨体を誇るアントニオ・シウバ。じつに危険な相手だ。

なんだが、『kamipro』は月刊誌だから、言ってしまってもいいかな（笑）。

――ぜひお願いします（笑）。

コーカー　まず2月12日にはヒョードルvsビッグフット（アントニオ・シウバ）、アルロフスキーvsハリトーノフの2試合が組まれる。ヒョードルとの再契約に少し時間がかかったけど、先日、正式に再契約を結ぶことができたので、これは決定だ。

――ヒョードルがトーナメントに参加というのは、2004年のPRIDEヘビー級GP以来のことですから、これは凄いですね。

コーカー　そうだろ？　そして4月にはアリスター・オーフレイムvsファブリシオ・ヴェウドゥム、ジョシュ・バーネットvsブレット・ロジャースが組まれる。

――1回戦からいきなりアリスターvsファブリシオですか！　これは贅沢というか、もったいないくらいですね。

コーカー　この対戦はアリスター、ファブリシオの両方が以前から望んでいたことだし、いいカードをなるべく優先して組みたいと思っていたので、自分でも1回戦から最高のマッチアップが実現したと満足しているんだ（笑）。

――ヘビー級トーナメントの試合では、アリスターのヘビー級チャンピオンベルトはどうなるんですか？

コーカー　優勝者がアリスターへの挑戦権を得るのか、それともアリスターの試合はすべてタイトルマッチとして行なうのか、そこをいま最終調整中なんだ。

――それにしても、よくこれだけのメンバーを揃えましたね。

コーカー　間違いなくヘビー級世界最強を決めるトーナメントと言っていいだろう。これだけのメンバーで、勝ち残れるのはたった一人なんだからね。私自身、いまからわくわくしているし、日本のファンも「ストライクフォース・ワールド・グランプリ」をぜひ、楽しみにしていてほしいね。

――楽しみなのはあたりまえなんですが、テレビで観ることができるかどうかが重要なんですよ。どうにかなりませんか？

コーカー　もちろん、さまざまなアレンジを考えなければいけないと思っている。まずネットPPVが考えられるし、2月12日の大会はもう時間がないから間に合わないかもしれないが、それ以降では衛星放送でのPPVも実現できたらと考えている。放送環境も含めて、このGPシリーズ成功に全力を傾けたいと思っているよ。

――では、2011年のストライクフォースに期待してます！

【11年1月3日／米国カリフォルニア州サンノゼのカフェにて収録】

僕は練習も試合も会見もすべて全力。
もっと期待に応えられるようになりたい
EVERGREEN HOME

バンナに判定勝ちするもブーイング！
理解されぬ大器のいまを直撃!!

石井慧

「2011年の目標は、さらに本物のMMAファイターになることです」

09年の大晦日、プロ総合格闘技デビュー戦で吉田秀彦に判定負けを喫した石井慧。あの大きな一敗を払拭すべく、10年は勢力的に試合経験を積んできたが、その一つの集大成として大晦日にバンナと対戦。ここで石井は成長ぶりを見せ、判定勝ちを収めたが、一本を奪えなかったこともあり、ブーイングを浴びてしまった。はたして石井は現状をどう認識しているのか？

聞き手／堀江ガンツ　試合写真／今村陽子

——遅ればせながら、あけましておめでとうございます！

石井 おめでとうございます。

——どんな新年を迎えられました？

石井 今年はレベルアップを図れた新年が迎えられたかな、と思います。

——去年とは気分的に全然違いますか？

石井 それは全然、違いますね。もう去年は恥ずかしくて、部屋から一歩も外に出られませんでしたから。部屋にこもって、後輩に買ってきてもらったジャムパンをひたすら食べてすごしてましたからね。

——では、バンナ戦を終えた感想は？

石井 素直に「勝ててよかった」と思いますね。

——やっぱり試合前に恐怖心はありましたか？

石井 ありましたね。やっぱりスーパーヘビー級で、バリバリのK-1ファイターの打撃っていうのは経験したことがないので、「もらったらどうなっちゃうんだろう」っていうのがあったんですよ。総合格闘技でデビューする前にラスベガスのランディ・クートゥアーのジムにいたとき、レイ・セフォーと打撃のスパーリングやったことがあるんですけど、セフォーのフックもらったとき、首が吹っ飛んだかと思いましたからね。

——で、バンナといえば、セフォー以上のハードパンチャーですからね。しかも120キロというデカい相手で。

石井 はい。

——これは前回、「体重の軽い相手とばかりやってる」って言われたからデカい相手を選んだんですか？（笑）。

石井 いや、自分の成長につながる相手とやりたいと思ってたんで、ヘビー級の打撃が強い選手とやりたかったんですよ。それにピッタリの相手だと思ったんで。でも、バンナは思った以上に寝技が強かったですね。

——なぜかミノワマンや柴田選手より"総合の寝技"ができてましたよね。

石井 その二人よりも全然、脚が利くんですよ。

——脚を利かせてエビでガードに戻したりする動きですよね。

石井 そうですね。どういうことやと思いましたね。試合前は「打撃は怖いけど、倒したらいけるかな」と思ってたんですよ。自分、アメリカで（ファブリシオ・）ヴエウドゥム選手と寝技のスパーリングやっても、サイド（ポジション）に回ったら押さえ込めてたんですよ。バンナはなぜか、同じくらい脚が使えてましたからね。

——なぜか柔術チャンピオンみたいな脚の使い方をしてた、と。石井選手はパス（ガード）がうまいですもんね。

石井 パスには自信あったし、これまでパスできなかった試合ってないんですよ。吉田選手とやったときも、パスはできましたから。バンナはこれまでやった相手で、一番パスしやすいかと思ったら、一番難しかったですね。

——バンナって数年前から総合転向も視野に入れてて、ずっと練習はしてたみたいですけどね。

石井 あ、そうなんですか。

——やっぱりミルコが総合でいくら稼いでるとか、そういう情報は入ってくるでしょうからね。

石井 バンナはテイクダウンの切り方も、ちゃんとレスリングの切り方だったんですよ。タックルにヒザを合わせてくるかなと思って、それだったら片脚をキャッチしてもっと簡単に倒せてたかもしれないんですけど。実際はタックルにいったら、腰を落としてバービーのかたちになって、脚を広げて切ってたんで、凄くやりにくかったですね。筋肉痛になりました。

——じゃあ、石井選手からしたら「おいおい、K-1ファイターじゃねえのかよ!?」っていうことの連続だった、と。

石井 そうですね。試合の途中で「またジャムパンかよ」ってブルーになりかけましたから（笑）。

——デビュー戦で判定負けした悪夢が頭をよぎりましたか（笑）。

石井 よぎったっすね。足関にいったときも、アキレス腱固めの防御の仕方を知ってたんですよ。足を引っこ抜いて逃げようとしないで、逆に足を差し込んで極まらなくするっていうね。だから「あ、これヤバイな」と思ってヒールホールドに変えたら、ヒールの足の抜き方も知ってて、「やべえ」と思ってジェロムの顔見たらニヤッ

て笑ってきたんですよ。

――「俺は足関の防御も知ってるぜ」みたいな。

石井　そうなんです。K―1の選手なんでアキレス取って絞りあげたら、ビビッてタップするかと思ったら、全然そんなことなかったですね（笑）。

――じゃあ、試合中は精神的にもけっこう追い込まれたんじゃないですか？

石井　苦しかったですよ。怖かったし。スタンドに戻されたら、いつラッシュされるかわからないじゃないですか。それでも去年の〝ジャムパン〟があったから、最後まで集中力を途切れさせずに闘い抜けたんだと思いますね。

――それはそれで自信になったんじゃないですか？

石井　なりましたね。あと打撃もちょっと自信になりました。バンナより怖い打撃の人はそんなにいないと思うし。自分もローキックが当てられて、スーパーマンパンチもいいタイミングで出せた。あとはもっと強く蹴れるようになりたいし、打撃で相手を削ることができたら、もっと有利に試合を進められるんじゃないかなって。もっと強いパウンドも打てるようにならないといけないし。

――高阪さんも〝極め〟にいくまでの〝削り〟が必要と言ってましたね。

石井　やっぱり削ってないと、攻めてる自分の体力が奪われちゃいますからね。バンナは下からのパンチも痛かったし。

――それにバンナはパワーもハンパじゃないでしょうからね。

石井　力が強いし、腕がめちゃくちゃ太いんですよ。自分、試合前は腕関節を極めたかったんで、柔道の後輩にバンナの様子を偵察に行かせたんですよ。そしたら、どう

バンナは力が強くて筋肉痛になった。こんなの柔道で棟田選手とやって以来

見ても異常なくらい腕が太かったらしくて、「試合前に石井先輩をビビらせちゃダメだから」って、「脚はそんなに太くないですね」とか言って、腕については触れないんですよ（笑）。

――まあ、体重120キロであれだけ身体が締まってるっていうのは、ブロック・レスナー級ですからね。

石井　自分、試合前に母方の親戚と電話する機会があったんですけど、その親戚もバンナのことはテレビで観てよく知ってたみたいで「ちょっとでも殴られたら、すぐ参ったせなアカンで！」って言ってましたから（笑）。

――バンナの怖さは一般にもよく知られてますからね。そういう意味では、いいカードだったんでしょうね。

石井　これで一本極められれば一番よかったんですけどね。でも、それは言ってもしょうがないんで。いまは「なぜ極められなかったのか」を考えて、今後の練習につなげたいと思います。

――「極められなかった理由」っていうのは、自分のなかで答えは出ました？

石井　寝技の極め自体は、普通のさらの状態でやってたら極められたと思うんですよ。でも、試合でああいう大きな選手を押さえ込んでると、腕が張っちゃってもう力が入らなかったんですよね。自分に打撃の恐怖心があったことも消耗を早める要因になっただろうし、よけいな力を使いすぎましたね。

――スーパーヘビー級相手に3ラウンドフルに闘うっていうのは、想像以上に体力を消耗した、と。

石井　自分、持久力には自信あるんですけど、あんなに消耗するもんなんだって思いましたね。試合後、首が筋肉痛で上を向けませんでしたから。

――そこまでですか。

石井　腹筋と左腕も凄い筋肉痛で。あれだけ腕が張ったのって、柔道時代に棟田（康幸）選手とやったとき以来ですね。それぐらい張ってました。

――それぐらい全力で力を出してたんでしょうね。

石井　力の抜きどころも覚えないといけないですよね。だから今回は収穫と課題が両方ありました。

――試合後、極められなかったことでブーイングも飛んでましたけど、あれはどう思いましたか？

石井　べつに気にはしてないです。でも、もっとみんなの期待に応えられるような試合ができるようになりたいですね。

――とりあえず、現時点での全力をつくした結果だ、と。

石井　はい。自分はもう常に全力ですもん。デビュー戦はもちろん、ミノワマン選手とやったときも柴田選手とやったときも全力でしたから。プロになってから余裕なんて全然なくて、いつも全力です。

――で、たまに全力でスベることもあって（笑）。

石井　はい、練習から会見まで僕は全力なんですけどね（笑）。

――その練習は、試合前にアメリカでみっちりやってきたんですか？

石井　はい。アメリカでみっちりやりすぎて、凄く疲れが溜まってヘルペスが出たんですよ。だから、ちょっと早めに切り上げて、日本に帰ってきて田代トレーナーと最終調整をしてましたね。

――じゃあ、ボクシングを中心にやられてたんですか？

石井　ボクシングと寝技ですね。吉田道

[10.12.31 Dynamite!! ～勇気のチカラ2010～]
埼玉・さいたまスーパーアリーナ
○石井慧 vs ジェロム・レ・バンナ×
(3R終了 判定3-0)
石井慧プロ７戦目は体重120kgのK-1ファイター、バンナと対戦。石井は大内刈りでテイクダウンし、グラウンドで優位に試合を進めるが、バンナのパワーと守りの固さに阻まれ極めきれず、判定勝ちとなった。

石井慧

場で全体的に確認して。

――煽りVでも流れてましたけど、アメリカではヒョードルを破ったヴェウドゥムのジムで練習してたんですよね？

石井　はい、今回初めて行ったんですけど、元シュートボクセのヘッドコーチだったハファエル・コルデイロさんのジム（キングスMMA）にヴェウドゥム選手が所属してるんですよ。あと長南（亮）さんの紹介でジェイソン・〝メイヘム〟・ミラーのジムに行って、ライアンさんにレスリングを習ってましたね。そしてハファエルさんには、打撃を中心に習ってました。

――練習環境としては最高ですね。

石井　申し分ないです。シュートボクセ流の練習っていうのが、やっぱり凄く実戦的で、練習でもボクシンググローブじゃなくて、薄い総合のグローブでやるんですよ。それに慣れてたんで、バンナの打撃もそこまで怖くなかった。やっぱり普段大きいグローブで練習してて、試合で小さいグローブになったら、それだけでビビっちゃいますからね。

――ちっちゃいグローブしたバンナが目の前に立ってるわけですからね。

石井　バンナって拳がメチャクチャでかいんですよ。シェーン・カーウィンが一番でかいって言われてますけど、バンナも相当なもんでしたよ。

――そういうバンナの怖さが、なぜか総合格闘技ファンにはそれほど伝わってないのが残念ですけどね。

石井　なんで伝わってないんですか？

――やっぱり本職のMMAファイターでないっていう部分で、「楽な相手」みたいに見る人もいるんですよ。

石井　全然、楽じゃないですよ！　楽な部分なんて一つもなかったじゃないですか。……まあ、試合やるたびにいろいろ言われますね。「軽い相手」とか「楽な相手」とか。もう自分は何を言われても必死に頑張るだけですよ。

――北岡選手なんかは「石井選手、強くなってる」ってほめてましたけどね。

石井　ホントですか。自分、じつを言うと北岡選手の試合映像を観て足関節を勉強してたんですよ。

――あ、そうだったんですか。

石井　『戦極』のDVDとか繰り返し観たし、雑誌で説明してたの読んだりとか。だから自分も北岡選手が五味選手を極めたみたいに、腹這いになってアキレス極めたかったんですけど、バンナの防御が予想以上だったのと、いかんせん〝通信教育〟だったんで、極まりませんでした（笑）。

――〝通信教育〟で身につけて、実戦で使うのも凄いですね（笑）。

石井　北岡選手は吉田道場とかで会うこともあると思うんで、今度、足関節を教えてもらいたいですけどね。足関でいうと桜庭選手とかミノワマン選手もうまいですけど、自分どっちかというと北岡選手タイプだと思うんですよ。体型とか。

――確かにそうですね。北岡選手みたいな身体全体をパワーに変えて、極められたら大きな武器になるでしょうね。

石井　そうなんですよ。自分、桜庭さんみたいな器用なタイプじゃないし。あ、そういえば桜庭さんに直接謝ったんですよ。

――えっ!?　例の「バーサク」発言の件ですか？

石井　そうです。試合前のルールミーティングのときに、直接「すいませんでした」って言ったら、「なんのこと？」って言われて。「じつはバーサクのことでして……」って。

試合前日、桜庭さんに謝ったんですよ。「バーサクのことはすいませんでした」って

――本人に「バーサクのことでして」って言ったんですか（笑）。

石井　そしたら「全然気にしてないよ。気にしないで」って言ってもらえて。ホント誤解が解けてよかったですよ。危なくガンツさんのせいで桜庭さんに嫌われるところでしたから。

――僕は「石井選手と桜庭選手の試合が観たい」って言っただけですよ！（笑）。

石井　僕はリング外ではみんなと仲良くしたいんですから。バンナとも試合後、凄く仲良くなったんですよ。終わったあと、バンナが自分の控室に来てくれて、Tシャツ交換して。自分も帰りにバンナ選手の控室に行って。

――へえ、そんなことがあったんですか。バンナも敗れたものの満足感があったんでしょうね。そんな友情も芽生えつつ、去年とは違った新年が迎えられたわけですね。

石井　そういう意味ではホントよかったです。

――デビュー戦の悪夢が払拭できたというか。

石井　いや、でもまだ払拭できてはいないですね。引退するまでずっと心に残るかもしれない。それにまだ自分は、みんなの期待を裏切る試合しかできてないんで、とにかく練習を頑張って。2011年の目標はさらに本物のMMAファイターになることですね。そのためには、どんどん試合をやって経験を積んでいかなきゃいけないと思ってるし。

――去年は4試合でしたっけ？

石井　いや、6試合です。

――そんなにやってましたか。

石井　ハワイで二回、ニュージーランドで一回、あと日本でミノワマン選手、柴田選手、バンナ選手ですね。

――1年間で6試合って、かなり多いですね。

石井　でも、いまは年6試合ぐらいやるペースのほうがいいです。ダメージがあるわけじゃないし、どんどん経験を積むことが必要だと思うんで。

――若いうちはそうかもしれないですね。次の試合は？

石井　3月にアメリカでやる予定です。いまストライクフォースと交渉してもらってるんですけど。アメリカ本土で試合をするのは初めてなんで、とにかくアメリカで1勝したいですね。そして、どんどんスキルアップして「ああ、成長したな」って、みんなに言ってもらえるような試合がしたい。僕はほめられて伸びるタイプですから。

――けなされると傷つくタイプ（笑）。

石井　そうそう。けっこうガラスのハートなんですよ。負けるとジャムパンしか食べられなくなるし（笑）。

――じゃあ、ますます負けられないですね。とくに闘いたい相手っていますか？

石井　う～ん、イニシャルだと「O」ですかね。

――小川（直也）さんですか？

石井　いや、もっと強い……っていうか、MMAファイターの。

――ということは、オーフレイムですか？

石井　言っちゃうと、すぐ組まれても困るんで、強い選手に勝てるようになるのを目標に、自分が成長できる選手とやりたいですね。

――そういえば、バンナ戦のあとに放送席の小川さんと言葉を交わしてましたけど、どんなことを話してたんですか？

石井　「おまえ、プロだったらもっと魅せなきゃダメだろう。オレが教えてやるよ！」って言ってました。

――先輩風をおもいっきり吹かせてましたか（笑）。

石井　「プロはわかりやすく、マウントだよ！」とも言われたんですけど、自分、バンナにマウント取っても返されてたと思うんですよね。バンナって身体が分厚いじゃないですか。

――マウントでバランスをとるのが難しい体型ですよね。

石井　昔、髙阪さんに教えてもらったときも「石井はマウントよりサイドのほうがいい」って言われたんですよ。アメリカでもメイヘムのコーチであるライアンさんに「キミはサイドで押さえ込むのが強いから、マウントは取りにいかないほうがいい」って言われたし。

――でも、小川さんは「プロならマウントだ」と（笑）。

石井　小川さんは脚が長いから、マウントが得意なんでしょうけどね。自分は自分の体型に合った闘い方をしながら、「プロは魅せることを考えろ」っていうアドバイスも真摯に受け止めて、頑張りますよ。自分は器用じゃないから、身を削って頑張るしかないんで。

――では、2011年の飛躍を期待してます！

【11年1月6日／都内・某レストランにて収録】

石井慧

いしい・さとし■1986年12月19日、大阪府出身。小学5年生で柔道を始め、06年に19才4カ月の史上最年少で全日本柔道選手権に優勝。08年に北京オリンピック柔道100kg超級で金メダルを獲得し、同年11月にプロ総合格闘家転向を表明。現在まで戦績は6戦5勝1敗1ノーコンテスト。181cm、107kg。

青木vs自演乙に見た

Cool Japan!!

音楽家にして文筆家
菊地成孔

本質を突く鋭い批評でおなじみの菊地氏の不定期インタビュー。
今回のテーマは大晦日の青木真也vs自演乙戦!!
物議を醸したこの闘い、菊地氏はどんな見立てを披露するのか……?

聞き手／ジャン斉藤

菊地成孔

青木は信者型の狂気だが いまは教祖を失なってるように見える

――今回は大晦日で物議を醸した青木真也vs長島☆自演乙☆雄一郎戦についておうかがいします！

菊地　いやあ～、なんと言ったらいいんでしょうね、ワタシ、この試合で初めてこの選手（長島☆自演乙☆雄一郎）を観た人間ですから（笑）。

――あ、そうか。菊地さんって格闘技は『ジ・アウトサイダー』とUFCしか観ないんですもんね。ボクらが取材するときにDREAMの映像を観るぐらいで。

菊地　長島選手のミドルネームなんて読むのかもわかんなかった人ですよ！（笑）

――ワハハハハハ！

菊地　まあ「じえんおつ」だよな。それ以外はないもんなとは思いましたけど（笑）、とにかくそんなヤツの言うことだと思っていただきたいんですが、フィニッシュはよくあるかたちですよね。懐かしいぐらいで。サウスポーとスタンダード、ヒザと片足タックルがインパクトしたと。誰でも100回ぐらい観てるかたちですよね。また、そこまでに至る流れも、まあ、さほどの変種ではない。これまた、むしろ懐かしいぐらいのかたちで。だから試合の解釈に関しては、誰もがそんなに変わった見立てのできるものではないですよね。しかし、いつも思うのは、青木選手ってね、この近くですれ違ったことがあるんですが、間近だと映像で観るよりずっと大きいのよね。胸板も厚くて大きいわけ。だからよく「俳優は本物より大きく見えなきゃいけない」と言うじゃない。青木は逆で本物より小さい。

――映像で見ると頼りない感じがしますよね。

菊地　というか単にサイズが小さく宇野（薫）くらいに見える。と思って本物に会うとちゃんとデカいことにまず驚くんですよね。青木真也の意味って、第一にそこに集約されてるような気がします。

――「本物より小さく見える」という。

菊地　最初に出てきた頃は、警察官を辞めてMMAに入ってきて、勝ってお父さんと抱き合って泣く、超日本人級の技術と青春と親孝行っていう、100パーセントのベビーだったわけじゃないですか。それがジワジワといまみたいなキャラクターになりましたよね

――いつのまにやら（笑）。

菊地　いまは「狂人」みたいになってる。確認はしてないんで推測になりますけれども、ネット世論みたいななかではおそらく「技術はあるかもしれないけど、人間的にダメだ」とかいうふうに言われてるんだと思うんですよね。

――そのとおりですねぇ。

菊地　ワタシは「人間的にダメだ」とはとくに思わないんだけど、大味な仕分け方をするとそうなってしまっても仕方がない。昔、その（大味な）レッテルを貼られたのが秋山（成勲）で、それを征伐しようとしたのが青木だった。因果はめぐるとしか言いようがないです。

――以前、菊地さんは「青木は信者型の狂気だ」とおっしゃってましたけど。

菊地　はい。いまは教祖を失なっているように見えますけど。

――ああ……。いまって教祖型の狂気は成立すると思いますか？

菊地　ファシズムみたいな強いものという意味では、いまは過渡期というか、潜伏期じゃないですかね。たとえば猪木さんは教祖性も狂気性もだいぶ希釈されて、自己パロディみたいになってますし。ここ数十年で我が国にもいろんな教祖が現われては消えていったわけですが、我々が嫌というほど知ったのは、教祖自体は空虚で、側近に実質があるという宗教の原理ですよね。

――オウム真理教の麻原はもの凄く小者に見えましたもんね。

菊地　青木は小さいところの信者で小さい狂気だと思いますね。「小ささ」ですよ。彼のキーワードは。「人間の器が」とかいう大味な話じゃなくてね。

――1ラウンドに青木がとった戦法はいかがでしたか。

菊地　「逃げ方が見苦しい」というのが一番大味な裁かれ方なんでしょうけれども、青木としては2ラウンドで倒してればよかったわけだし、どういう流れか知らないし、興味もありませんが、グローブもなぜかアレ使ってるわけだから、厳正なミックスマッチではないですよね。それに青木は嫌々出たでしょうから、こんな試合侮辱してやれと思ったんでしょう。腰の抜けたドロップキックとかは、確かに根性悪い感じですが、そこだけ叩いてもなんの音もしませんよね。あのう、『ジ・アウトサイダー』の昨年ラス前のビッグマッチが横浜文体だったんですが。

――ああ、ボクがチケットを紛失してご一緒できなかった大会ですね（笑）。

菊地　あれは歴史に残るイベントだったと思うんですよね。あの大会だけで一冊の本が作れるんじゃないかってぐらいの内容で。そのときにZST vs『ジ・アウトサイダー』の対抗戦があったんですよ。

――その企画はかなり盛り上がったみたいですね。

菊地　この図式は『ジ・アウトサイダー』が始まったときからいつか行なわれるんじゃないかなと思っていた、一種のパンドラの箱で。不良vsオタク、A系vsB系という構図です。どんどん希釈するとドキュンvsメンヘルという言い方をされるかもしれない。ZSTの選手は仮面ライダーの人形を集めてるフィギュアオタクで、色は真っ白でタトゥーなし。目がくりっとしてね。男なんだけど中川翔子さんみたいな感じなんですよ。格闘技の選手であることとオタクであることが無理なく結びついてるんですよね。この先駆けが佐竹（雅昭）だというところに涙が出ますけど（笑）。でも、彼らにとって文体は完全なアウェーなんです。観客は不良ばっかですから。

――「プロなんか倒しちまえ！」という雰囲気。

菊地　それで、アウトサイダー側の猛者ね。全身和彫りですが、そういう選手が開始4秒ぐらいで男・中川翔子にうしろからスリーパーでキュっと絞められてしまう。そのときに狂ったような雰囲気といったら……客が酒を飲んでるからビール瓶を叩き割るわ（笑）。

――え？　飲んでるんですか!?

菊地　うん。文体は酒オッケーでしたね。

――危険すぎる（笑）。

菊地　それで終わったあとは小競り合いが起きるわけですよ。オタクに負けたん

だからオタクを狩りに行けばいいのに、オタクはみんな先に帰っちゃったから、しょうがないから仲間割れが始まって（笑）。

——ワハハハハ！

菊地　昭和新日本の暴動までは至りませんでしたけど。小さな竜巻くらいは起きて。あのときの高揚感は凄かったです。良い頃のプロレスにあった怒りというか。ワタシも怒りで気が狂うかと思いました（笑）。でね、文体でのZSTのオタクの選手と、『ジ・アウトサイダー』の選手は、画的に全然、似てないんですよ。それに対して、ワタシが青木vs長島戦で印象に残ったのは、この二人がよく似てるってことなんですよね。

——ああ、あの二人は似てるとよく言われますね。

菊地　ですから、ワタシは青木が特別好きでもないし、特別嫌いでもないですし、さっき言ったように、今回青木がああいうふうに、茶化すような、怖がっているような逃げまくりのはてに、よくあるかたちで一撃KOされたからといって、特別溜飲が下がったわけでもなく、後味は複雑なばかりなんですよね。しかし、大味な人々の、大味な裁量をよしとし、青木がもの凄く悪いヤツで、長島のヒザが入ってしまったのは神罰であったとする。そしたら、青木に課せられる最重罰は、長島選手のコスプレをさせることなんですね。

——あ〜、なるほど。それは屈辱的ですね（笑）。

菊地　二人はそれくらい鏡面的なんですよ。年齢がどのくらい違うか知らないし、スリーサイズや骨格までそっくりとは言いませんが、どちらも現代日本の平均的な格闘家の身体つきと顔つきですよね。ボクシングの国内戦なんかによくあるような。「分離と融合」ってことで言えば、『ジ・アウトサイダー』ではきれいにいってたわけですよ。

——構図がA系vsB系でわかりやすかった。

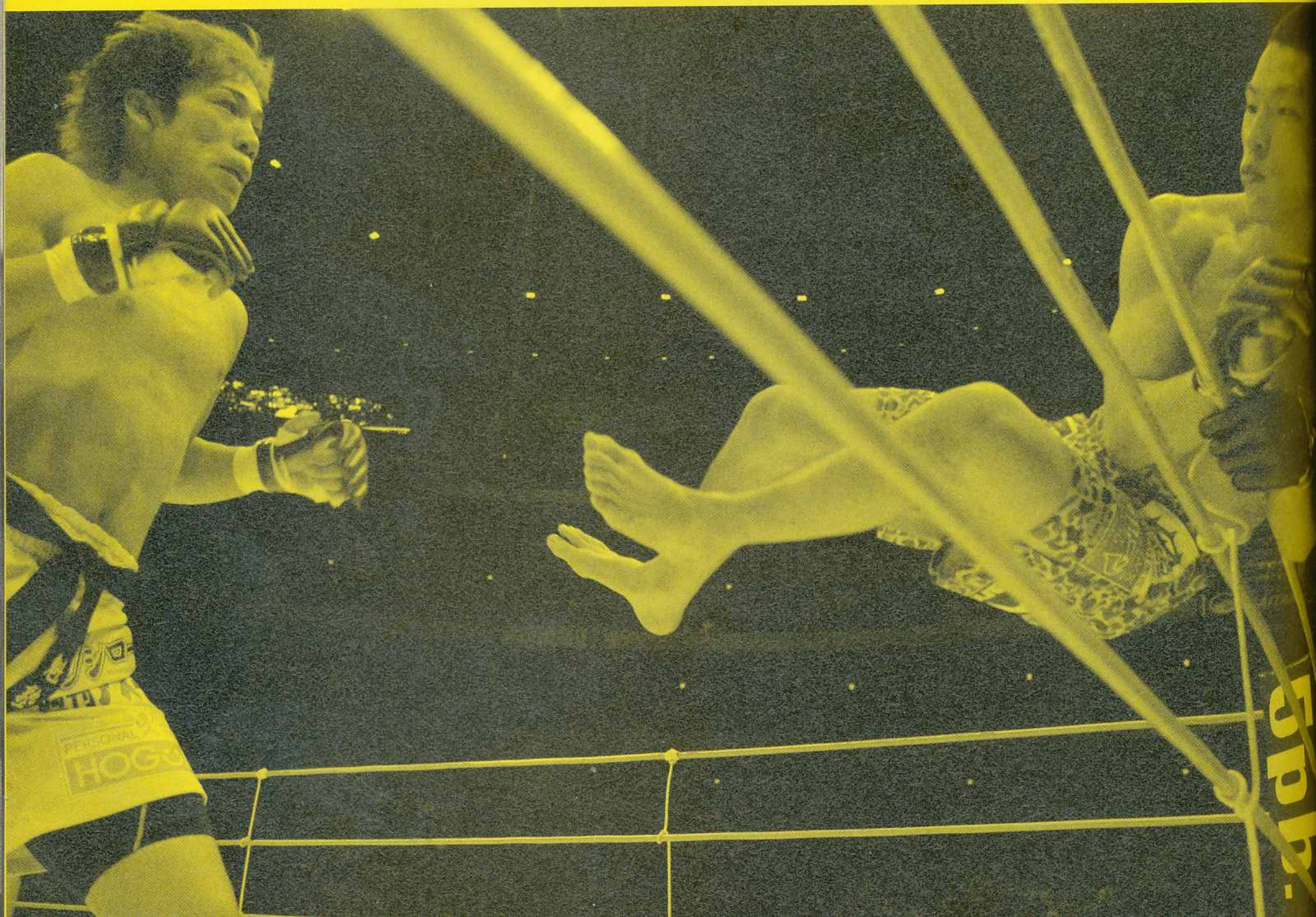
菊地　マンガ的というかね。天使と悪魔みたいに。青木と長島は融合しちゃってますよね。同じ人間同士が闘ってるみたいなところがあって。なんせ長島選手の試合は初めて観たし、マイクも初めて聴いたんですけど、「どんなふうにしゃべる人なのかな」って期待しながら観てたら、声の張り方や発生の仕方、話す内容など、青木と同じテンションなんですよね。長島が坊主頭にして『バカサバイバー』で現われても気がつかないのではないかという。

——言われてみると違和感ないですね（笑）。

菊地　だってこの写真（33ページ参照）だって、こうやって頭を隠したら青木だもんね。青木だよ、これ（笑）。

——間違いなく青木真也です！（笑）。それが『ジ・アウトサイダー』の不良vsオタクみたいに分離していればまだわかりやすかったけど、融合してるから……。

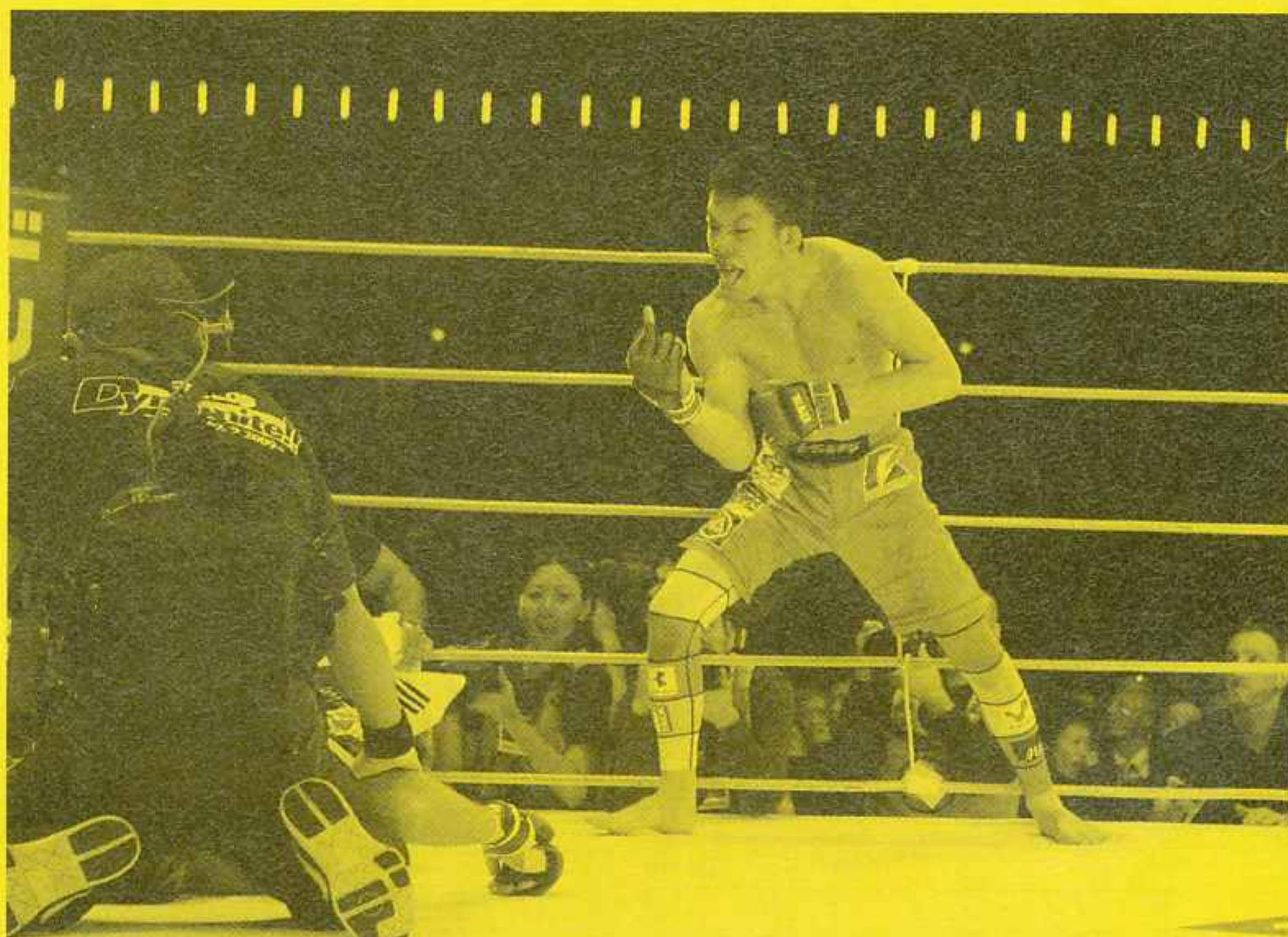
菊地　そこが最重要だと思いました。『ジ・

長島が坊主にして『バカサバイバー』で入場しても気がつかない

アウトサイダー』では、極端に言うと、黒人と白人が闘うようなわかりやすさがあった。そうすると、応援してる人は自分が応援してるほうが負けるとキレますよね。ただ、今回の青木vs長島っていうのは、敵味方という構図が、一見ハッキリしてるように見えて、じつのところ、そうでもなかったということなんです。長島はコスプレイヤーということで100パーセント差別されてるんですか？

——う〜ん、アキバ系という個性を受け付けない人はいますね。

菊地　とはいえ、長島が普段からアニメ声でしゃべってたら、ずいぶん違ったと思うんですよね。要するに、「気持ち悪い」とか「乗れる、乗れない」っていうパーセンテージが似通っちゃってると思うんですよ。二人とも「気持ち悪いから嫌いだ」って言わせる要素を持ってるし、二人とも「頑張れ！」って応援したくなる要素も持ってる。選手自身の性ではないですが、この点がヌルかったです。鏡面的だっつうんだったら、完全に見分けがつかないぐらいに、身体的にも精神的にも技術的にも似てればおもしろいですよね。どっちが負けても勝ってもいいわけです。

——同じタイプが闘っただけですから。

菊地　それだったらそれで、なかなか味わい深い。ところが今回は僅差で「青木の卑怯者、ざまあみろ！」みたいになった。少なくともテレビ観戦ではそうなったと思うんですよね。先日、会場観戦していたケン・イシイさんと仕事をしたときに話したんですが、会場の青木ファン席みたいな側だと、1ラウンドは笑って余裕で観ていたというのよね。もうこの時点でヌルいんです。「1ラウンドの逃げ方が悪かったからだ」っていうふうに落とし込まれてるんだけど、はたしてそれでいいのかなっていう気がします。ベビーとヒールという分離がつきにくい時代。ナショナリズムの奇妙な高揚と、同族嫌悪のダルい無限ループといいましょうか。現代の日本人のなかに「全方位的に、うっすら気持ち悪い」という差別感が蔓延して

いまの日本を凄く表わしている感情の行方が難しい試合だった

いるわけよね。

——いまは何事も「キモイ」というひと言で判断されていく傾向はありますね。

「鏡面的な二人の闘い」と評した菊地氏。確かに両雄は外見的にも個性的にもわかりづらい。現代のモノサシでは「キモイ」で切り捨てられがちである。

菊地　青木の米軍仕様のヘルメットが微妙にキモイ、自演乙のキモさも、キモきれない。べつにいまは普通なんじゃない、あれはあれで。というヌルさ。だからまあスッキリしてない闘い。クールジャパンな試合だったわけですよ。

——クールジャパンでしたか！（笑）。

菊地　いまの日本を凄く表わしてる、感情の行方が凄い難しい試合だと思いましたよ。あんなに見事な瞬殺的なフィニッシュなのに、なんかムラムラする。青木も長島も結局、知らない人でもぱっと見てわかりやすいキャラじゃない。昔のタイガー・ジェット・シンとは言わないですけどね（笑）。

——「アイツは悪党だ！」っていうわけじゃない。

菊地　二人ともちょっと難しいキャラ。という鏡面性ですよね。完全なベビーでヒーロー志向だった青木が、だんだんとわからない人、ちょっと難しい人になってきた、だからって一転して悪になったわけじゃないし、まだ良かった頃を覚えてるファンもいるだろうし。

——そうなんですよねぇ。

菊地　自演乙は青木よりはるかにストレートな好感が持てる人ではあるのだけども、これはオタクうんぬんではなく一般論としてはやっぱりニュータイプですよね。コスプレしないけど、アニソンが好きだからアニソンで入ってくる選手は『ジ・アウトサイダー』にもいるんですよね。不良がアイドルやアニソンが好きというのはよくあるじゃないですか。そういうのとまったく違う。長島は「微妙にイタくない」わけです。昔気質な目線で、差別する気マンマンで相対すると、スカされるわけ。ちゃんと闘ったら強いし。そもそもゲイでもバイでもないんだぞっていう（笑）。そしてべつにコスプレをする絶対的な理

いまのネットはかぎりなくピュアになっているんです。童貞感覚というか

由がとくにないという点からしても（笑）、やっぱりこの人は難しいですよ。無限の謎を隠してるっていう難しさじゃなくて、「ちょっと難しいな」っていう。

—それが一番、困る難しさですね。

菊地　そう。その二人が闘ったんだよね。青木もゆっくり時間をかけてちょっと難しい人になっちゃったし、長島選手も破竹の勢いで上がってきたんでしょうけど難しい人ではあって。

—でも、試合展開はわかりやすかったっていう。

菊地　そうですね。しかし一撃ですから、見立てはいくらでもできるはず。しかし、長島の心のほうが清く、青木の心は清くなかったという落とし込みになってしまった。これはほかのメディアでも言ってますけど、いまはネットの世論はかぎりなくピュアになってるんです。童貞感覚というか。だから昔だったら今回の青木みたいなことをやっても、まあまあほめられたことじゃないけど、「仕方ないよな」というふうにとらえられてたのが、「なんだ、あの闘い方は⁉ 神罰下るぞ！！」みたいな感じの、なんて言うかな、虚しい怒りみたいなものを喚起したとしても仕方がない。

—良いか悪いかではなく、格闘技術的にはべつに目新しい戦術ではないですよね。

菊地　そうそう。いくらだってそんなことはあるわけで。でも、ネットはどこまでも潔癖になってるから。ネットは「清濁併わせ飲もうよ」っていう余裕がないメディア。白黒つけたがる。

—確かに「敵か、味方か」「おまえは守るのか、叩くのか」っていう二択を突きつけられますもんね。

菊地　倫理的にも退行してるわけですよね。童貞であり、純愛である。もの凄く大人の冥利がなくなっていくメディアだから。べつにそれはそれでかまいませんし、構造的にそういうふうになってるメディアだから仕方ないんですが、いまってどのジャンルも「ネットでどう書かれたか」っていう第一波があって、それを見て紙が批評していくみたいなスタンスがもう動かせないじゃないですか。紙のリーディングはないですよね。単純に速度と量の問題で。

—はい。

菊地　世論は昔からあったんだけど、ネットは世論が最強化した形態ですよね。

—そういえば、失神KO負けした青木が脱糞したっていう騒ぎがウェブで起きたんですよ（笑）。

菊地　アッハハハハ！　絵に描いたような肛門期！！（笑）「ウンコたれ！」という（笑）。

—グーグル検索で「青木真也」って打つときに「脱糞」で1位になるようにしようって運動もあったみたいで（笑）。

菊地　おもしろいけど、こちらもいまっぽく、スッキリしないおもしろさですね（笑）。実際に脱糞したんですか？（笑）

—してないですけどね。みんなネタでやってるんでしょうけども（笑）。

菊地　たとえば、これは前も似たような話をしたかもしれないけど、昔は邦楽が洋楽に似てると「あそこからパクッてきたんだ。ふむ」とか、「おもしろいな」とか言われてたの。それがいまは「パクッたらしいよ」って聞いただけで、いきなりボロカスで、要するに先生に言いつけてやる感覚ですが、一種の熱狂状態で「もうちょっと落ち着けば、あれだってこれだって許容できることじゃん」っていう余裕は失なわれていく。そんで、第一波としての世論がそうなっちゃってるんで、プレスもその第一波を見てなんか言わなきゃいけなくなるっていう。

—常にカウンターになってしまってるという。

菊地　しつこいようですが、青木は天誅神罰が下るほどのことはやってないと思いますし、蒸し返すようですが、昔のワタシのインタビュー記事は秋山に対する、一人擁護キャンペーンみたいな感じ、みんながウンザリしてやっと秋山を忘れる頃に、一番でっかい韓流ブームが来たわけですが（笑）、とにかく世論って理屈抜きに責めてくるから。

—理屈で考えないですよね。

菊地　桜庭vsホイスが古典化するわけですよね。あんなにコントラストが明確な試合はない。いまの日本はネットの中の自我が過度にハッキリしていくのに対して、起こる現象は過度に複雑になっている。というコントラストですよね。

—そういう意味ではいまの日本を表わす試合だった、と。

菊地　クールジャパンですね。ワタシ、慶応でクラス持ったときの講義録を本にしたんですが、それが『アフロ・ディズニー』っていうんですね。でもこれ、最初のタイトルは「ヲタク＝黒人」だったの。出版社に「それだけは勘弁してくれ」と言われたんですが（笑）。要するに、現代日本のヲタクは、1950〜60年代の北米の黒人と同じで、世界中がその固有の文化をクールと言って賞賛し、憧れまくっている真っ最中に、国内的には非差別感でいっぱいだった。という見立てですが、この心性はまあ、複雑ちゃあ複雑ですよね。しかし、その講義、08年のなんですよ。たった4年後に、世界は青木と長島戦になっていたということです。

【11年1月11日／都内・某所にて収録】

きくち・なるよし■音楽家にして文筆家。先鋭的なジャズミュージシャンとしての活動を行なう一方、精神分析学から音楽理論史、そして格闘方面では『ジ・アウトサイダー』まで、膨大な知識を駆使する異形な批評家。

菊地成孔

総合格闘家が青木にケチつけるのは間違ってる

“盟友”が語る青木vs自演乙

北岡 悟

いまも物議を醸す青木真也vs長島☆自演乙☆雄一郎戦。この一戦での青木に試合前から間近で接していた“盟友”北岡悟は、この試合、そして試合後の青木をどう見ているのか。また、北岡自身の今後の闘いはどういう展開を見せていくのか。

聞き手&撮影／堀江ガンツ　試合写真／今村陽子

ミックスルールが組まれることは否定しない。桜庭vs田村戦が組まれるのと変わらないから

北岡　今日は「青木のｍｉｘｉアカウント名を教えてくれ」って話ですか？

―いや、全然違いますけど（笑）。アカウント名はご存知なんですか？

北岡　知らないんですよ。でも、今日はどうせ青木の話ですよね？

―まあ、それも含めていろいろ聞いていきたいと思いますんで、よろしくお願いします。まず、先月インタビューしたとき「大晦日は会場に行かない」って言ってましたよね？

北岡　言いましたけど、気分が変わったんで行ったんですよ。

―それはどんな心境の変化があったんですか？

北岡　大晦日の前にクリスマスイブを一人ですごしたんですよ。そのとき、やっぱり一人は寂しいなと思ったんです。

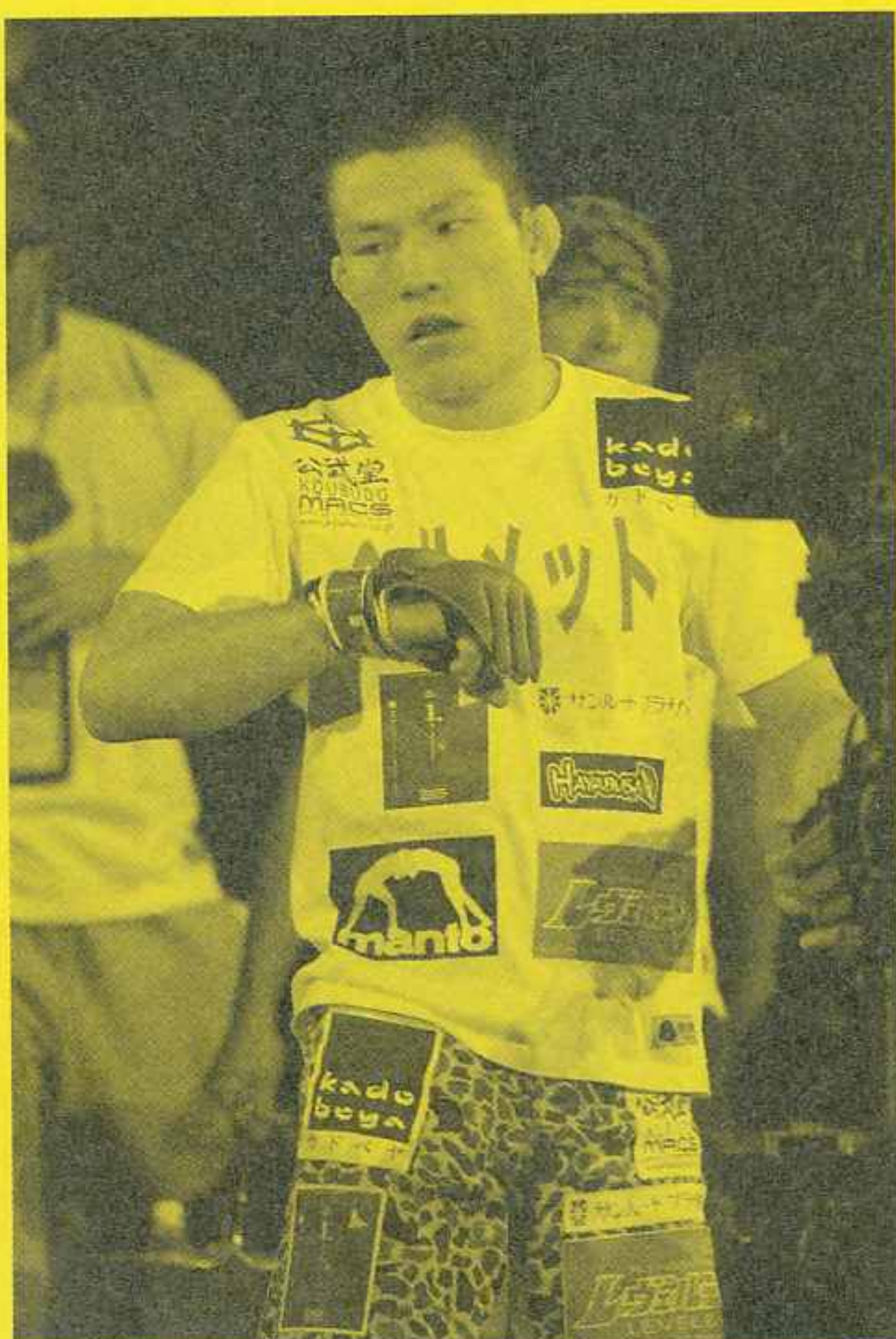
―あらためて寂しさを覚えましたか（笑）。

北岡　それに大晦日はクリスマスイブと違って、会場に行けば仲間がいるし、関係者と話をしたりできるんで。

―会場に行けば寂しくない、と（笑）。

北岡　ま、それもありますけど、一番は青木がこの試合に向けていろいろな思いがあるなか、頑張ってるのを知ってたんで。青木を観たい、青木を観る価値はあると思ったんでさいたまに行ったんですよ。僕も最初は「青木真也vs自演乙ってどうなの？」って思ったすけど、日が近づくにつれて「やっぱりこれは価値があることなんじゃないかな」って思い始めたし。

―それはどういったところに価値を見いだしたんですか？

北岡　やっぱり総合格闘技とK―1というジャンルの代表同士じゃないですか。長島選手について詳しくは知りませんけど、テレビとかで観るかぎり、試合への取り組み方が素晴らしいのは知ってたんで。その長島選手と青木がぶつかったら、どういうものになるのかっていう興味が生まれたんですよね。『Ｄｙｎａｍｉｔｅ!!』の全カードを見て、どれに一番興味が湧いたかといえば、青木と長島選手の試合だったし。

自演乙戦入場時の青木の表情。完全な戦闘モードに入っており、普段のMMAの試合よりピリピリとした緊張感がうかがえる。北岡はこの入場時の花道で、いつものとおり青木に言葉をかけている。

―あの試合を組むことに関しては賛否ありますけど、「興味がない」っていう人はほとんどいなかったでしょうからね。

北岡　だから、やってよかったと思いますけどね。二人の〝勇気のチカラ〟が見えたし。

―北岡選手はミックスルールみたいな試合は許容できるタイプですか？

北岡　そんなに拒否反応みたいなものはなかったかもしれないですね。レジェンドマッチを組むことに近いものがあるというか。2年前に桜庭vs田村戦が組まれたのとべつに変わらないんじゃないかな。むしろ現状を代表する選手がぶつかるというのは、意味があることだと思うし。

―興行的に「アリ」ということは理解できる、と。

北岡　そうそう。青木の対戦相手候補っていうのはほかにもちょっと聞いてたんですけど、そのなかから青木やイベンターが長島選手との試合をチョイスしたんなら、そういう意味合いの大会なんだな、と。だからこそ自分なんかは出番がないんだなと思ったし。理解してますよ。

―試合前、自演乙戦を受けた青木選手の「これでプロになれた気がする」という発言に対して、北岡選手は「わかる気がする」と言ってましたけど、それはどういった意味ですか？

北岡　プロは自分が求めることをやるだけじゃなくて、求められたことに応えなきゃいけないときがあるってことですね。ただ、そこに落とし穴があったんですけどね。

―まさかの結果でしたからね。

北岡　この試合に関して、青木が責められるのは負けたことだけでいいと思うんですよ。1ラウンドの闘いというのも負けたことである意味、落とし前をつけたと思うし。勝ったら勝ったでリアクションも違ったかもしれないけど。まあ、1ラウンドについては、もう少しうまくやらなきゃいけなかったんだろうな、とは思いますけど。

―青木選手は「総合格闘技を代表として出ながら負けた」ということだけ責められるべきだ、と。

北岡　ファンがいろいろ言うのは仕方がないですけどね。でも、総合格闘家であの場に立つ資格があったのは、青木真也だけなんですよ。

―総合格闘家でトップだからこそ、ああいう闘いに駆り出されたわけですもんね。

北岡　それを考えると、青木であれだったんだから、誰もケチつけちゃいけないと思うんです。少なくとも総合格闘技の選手はケチつけちゃいけない。

―代表になれない人間が、代表した人間を批判できる立場にない、と。

北岡　そうですよ。言う権利はないです、僕自身もそうですしね。だからあえて突っ込むなら、負けたことだけでいいと思うし。それでも僕は試合直後とかも付き添いましたけど「ホント、お疲れさま」という気持ちにしかなりませんでしたね。

―青木選手って、じつは自演乙戦に対して、凄く真摯に向き合ってましたよね？

北岡　そうだと思いますよ。

―エキシビション気分で、練習もそんなにしないで出ていって負けたのとは全然違いますよね。

北岡　違います。精一杯挑んだと思いますよ。それははたから見てても伝わって

きましたし。1ラウンドだって、いろいろ批判されてますけど、映像を観たら青木は余裕のない顔してましたよ。余裕がなかったから、ああいうかたちで負けたんだと思いますし。僕はメレンデス戦を思い出したんですよね。ナッシュビルのときも、あの場に立つ資格があったのは青木だけだし。それはわかんない人にはわかんないと思うんすよ。だけど総合格闘技の選手は文句言う資格ねえぞって思いますよね。

―青木の立場になれない人間に言う資格はない。

北岡　僕も『戦極』で青木に近い立場になったことがあるんで、気持ちはわかるんですよ。でも、そういう立場になったことがない人はわかんないんでしょう。今回は青木真也にしかできない仕事をやったんだと思うし。悔しかったら青木より強くなって青木に勝って、青木を上回る存在になるしかない。「それができないんだったら、青木のことをとやかく言うな！」と思っちゃいますね。

―そして試合が終わったあと、青木選手はインタビュー等には出てきてませんけど、ツイッターではつぶやいてましたよね。

北岡　もうやめちゃいましたけどね。

―そこで「いままでとは取り組み方が違ってくる」とか、意味深なこともつぶやいてましたけど、なかなかファンには何が起こってるかわかりづらいと思うんですよね。

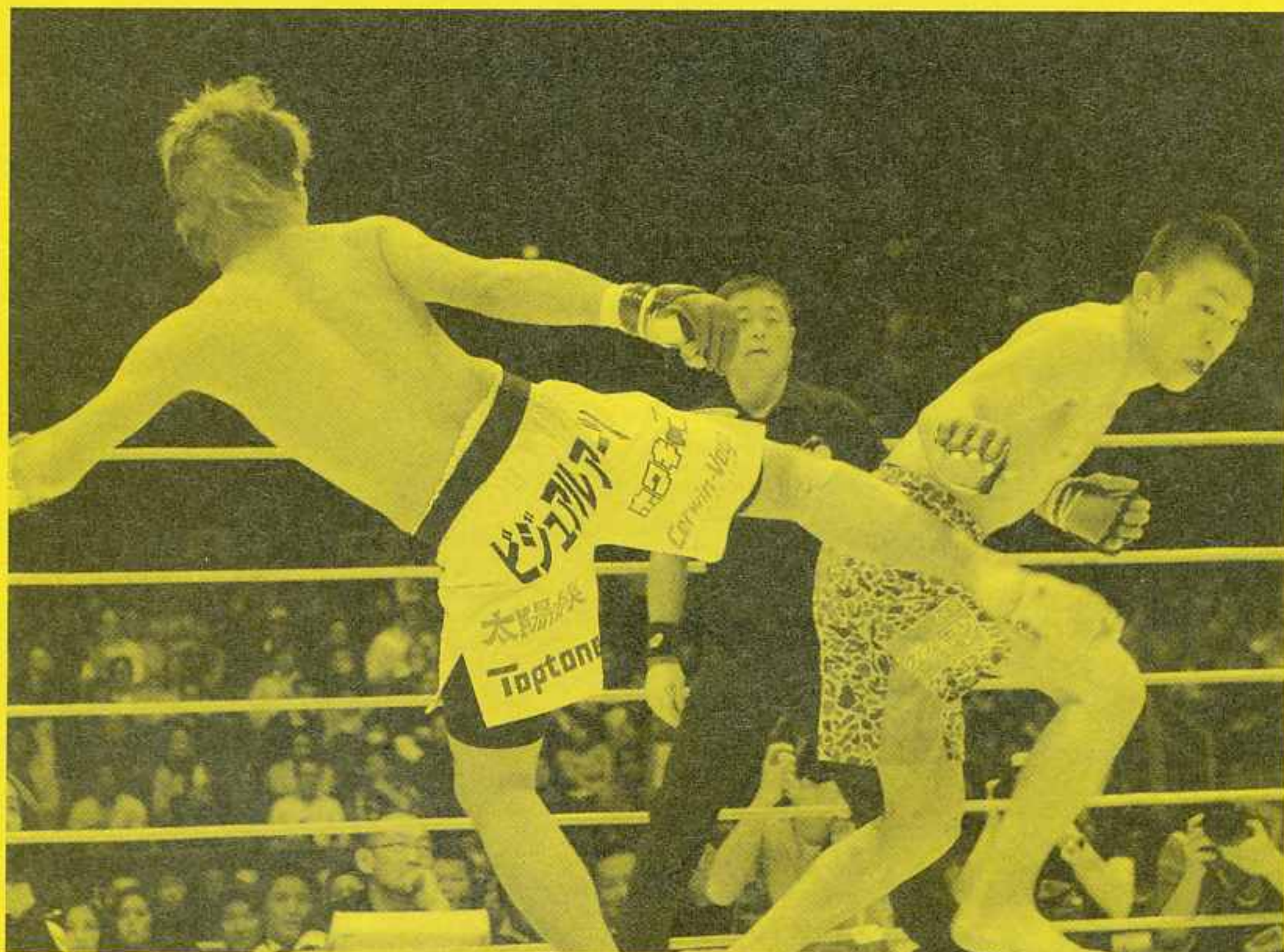
北岡　でも、ちゃんと青木のインタビューとか読んでた人はわかるんじゃないですか。ニワカにはわからないでしょうけど。

―青木選手はべつに今回負けたから「取り組み方が違ってくる」というわけじゃないですよね。

北岡　負けたことじゃなくて、周囲の態度ですよね。

―何があったんですか？

北岡　それは僕、言えんですよ。「いったい何があったんでしょうね」。國保さんの名言で濁しておいてください。

―ダハハハハ！　國保さんがワールドビクトリーロードの取締役を解任されたときの発言ですね（笑）。

物議を醸した青木の1ラウンドの闘い方。北岡は「どんなかたちでも、しのぎきることが大事」と理解を示し。DEEP佐伯代表からは「あれができるのは、青木とおまえだけ」と言われたことを明かした。

メレンデス戦も自演乙戦もあの場に立つ権利があったのは青木だけですよ

北岡　僕も「何があったんでしょうね」としか言えないです。青木も親しい記者の人とかには少し話してるみたいですけどね。

―精神面でのケアが必要な時期なんでしょうね。

北岡　でも、青木には奥さんいるだろって！　僕は彼女もいませんからね。いま負けたら立ち直れない。廣田瑞人戦とマスヴィダル戦後の当時は連れがいたからなんとかなりましたけど、いま負けたらどうなっちゃうんだろうって思いますよ。

―それぐらい闘う男に女性の支えは大事だ、と（笑）。

北岡　青木の奥さんは、いい奥さんだと思いますしね。

―北岡選手自身は、今年に入ってから青木選手と会ったりしてるんですか？

北岡　一回会ってメシ食いましたけどね。

―どんな感じでした？

北岡　まあ、ブログとかツイッターで言ってるようなことを言ってましたよ。

―青木選手ってまだ練習も再開してないんですよね？

北岡　そうですね。青木が試合終わったあと、1週間練習しないって珍しいことですよ。いつもは3日後くらいにはもう練習してましたから。疲れてたんだと思いますよ。ずっと突っ走ってきたわけだから。

―いままで休みなく厳しい試合を続けてきて、肉体的にも精神的にも疲れてるんでしょうね。

北岡　しんどかったと思いますよ。僕もそうでしたから、気持ちはわかりますよ。僕が負けたときに、青木がかけてくれた言葉があるんですけど、同じ言葉をかけてあげたいですね。

―今後、青木選手はどうすると思いますか？

北岡　「取り組み方が違ってくる」って言ってるとおり、今後の話し合い次第では、海外に行くっていうこともありえる話だと思うんですけどね。「日本に残って誰とやんの」って話だし。

―自演乙戦も、メレンデス以外にやる相手がいないからこそ出てきた案ですもんね。

北岡　青木vsジョシュ・トムソンでよかったと思うんですけどね。

―北岡選手自身も「悩める北岡悟」から脱却して、今後についての答えは出たんですか？

北岡　それを言う前に、アメリカのMMAサイトで「北岡はUFCとすぐには契約できない」みたいなニュースが出てたんですよ。

―あ、そうなんですか？　全然知りませんでした。

北岡　なんかそんな記事を見つけちゃったんですよ。だから、すぐにはUFCに出られないみたいですよ。そうなると、さあどうしよう、と（笑）。

―すぐにUFC参戦という選択肢が消えてしまったかもしれない（笑）。でも、日本の格闘技界も先行き不透明ですよね。

海外はこれまで考えてこなかったけど アメリカに行って一度勉強してきたい

まだ日程も全然発表されてないし。

北岡　そういう時代なんでしょうね。つらいのは僕だけじゃない。自分がやるべきことをやるしかないですよ。

――練習だけはあいかわらずガッチリやってるんですよね？

北岡　試合もないのにガッチリやってますよ（苦笑）。そういえば昨日、初めて石井（慧）選手とスパーリングしたんですよ。

――へえ、そうなんですか。どうでした？

北岡　美濃輪さんみたいな目に遭わされましたよ（笑）。僕も頑張りましたけど、しんどかったー。

――つい先日、石井選手のインタビューをしたんですけど、バンナ戦でやったアキレス腱固めは、北岡選手の映像を観て練習したものらしいですよ。

北岡　あ、そうなんですか。だから昨日も「アキレス腱固めを教えてください」って言われたんですよ。それでポイントとか軽く教えたんですけど。

――石井選手は「サイズは違うけど、体格が似てるから、北岡選手の動きが自分には向いてるんじゃないか」って言ってました。

北岡　そうかもしれないですね。それにしても、思ったより全然強かったですよ。いきなり一本目のスパーで（中村）カズさんに言われてやったんですけど。ほかの人と2～3本やったあと、向こうから「もう一本お願いします」って言われて、「えー！」とか思いながらも断るのもアレだと思ってやったら、しんどかったですね。

――川尻vsトムソンはご覧になりました？

北岡　観ましたよ。なんか青木と予想してたとおりでしたね。「テイクダウンして勝つでしょ」って言ってて、そのとおりだったんで。

きたおか・さとる■1980年2月4日、奈良県出身。2000年にパンクラスに入門し、プロデビュー。08年より『戦極』に参戦し、戦極ライト級GPシリーズで優勝。09年1月には五味隆典を破り戦極ライト級王者となる。09年8月に廣田瑞人に敗れ王座転落。昨年10月にパンクラスを退団した。168cm、70kg。

――1月1日のUFCはいかがでした？

北岡　UFCはメインとか観ると、なんか「うわ～」って思っちゃいますね。

――「うわ～」っていうのは、どういう感情ですか（笑）。

北岡　いや、向こうに対するケチのつけどころって、「強いけど、あいつら試合はつまんねーよ」ってことだったのに、おもしろい試合をやっちゃったじゃないですか。あれは厄介ですよね。

――強くておもしろいというのは脅威ですよね。

北岡　ホントにアスリートとしてのレベルはめちゃくちゃ高いですよ。運動能力とかハンパないですよね。エドガーとか試合観てるだけで疲れましたから。もし自分が闘ったらって考えながら観ちゃうんで、頭でイメージするだけでバテる（笑）。

――あれだけ動いて5ラウンドフルに闘い抜いちゃうわけですからね。

北岡　エドガーvsメイナードについては、普通にレベルがめちゃくちゃ高いから、もう黙るしかないですよ。

――五味選手の試合はどうでした？

北岡　五味選手の試合は、やっぱりメインと同じで対戦相手のクレイ・グイダの運動能力の高さが目につきましたね。あの身体の厚みであれだけ動けて、戦略も凄く練ってると思うし、技術もまあ高いですよね。五味選手はパンチが鋭いからプレッシャーはかけれてましたけど、前回の試合で闘い方がバレちゃってる部分もあるだろうし。動きは悪くなかったと思うんですけどね。

――最後のギロチンはどう思いましたか？

北岡　あれはとくに驚くものじゃなくて、普通の入り方ですよ。でも、グイダはうまいと思いますよ。試合でちゃんとできるっていうことは。ただ、五味選手はやっぱりグラップリングの練習をあんまりしてないんじゃないですか。少なくとも強い選手とやってるようには思えない。どういう人たちと練習してるのか知らないから、なんとも言えないですけど。

――五味選手に勝ったグイダがUFCでは中堅どころっていうのが、また恐ろしいですよね。

北岡　海外には強い選手がいっぱいいますよね。青木がメレンデスとやったあと、「アメリカにはメレンデスくらいのヤツいっぱいいそう」って話してたんですけど、そんな感じありますからね。でも、現役でトップになるためには、そういうなかで勝ち上がらなきゃいけないわけで、たいへんだなって思いますよ。

――今年はどうしていきたいですか？

北岡　いっぱい練習して、3試合はやりたいですね。

――どんな試合をしたいですか？

北岡　みんなに注目してもらえる試合がしたいですよね。自分から観られてなんぼだし。でも、僕が試合をすれば、どこで試合をしようとそれだけで注目されると思うんですよ。ただ、やっぱり強いヤツと「どうなっちゃうんだろう？」っていうような試合がやりたいですし。

――海外は視野に入ってますか？

北岡　これまでは、あんまり考えてこなかったんですけど、僕は向こうの実態を知らなすぎるんで、ちょっと勉強しないと、とは思ってます。「百聞は一見にしかず」で、アメリカに行って一度生で観てきたいな、と。

――生で観たら、感じるものがあるでしょうね。

北岡　絶対にテレビで観るのとは違うものを感じると思うんで。

――では、北岡選手の今後の動きに注目させてもらいますよ。

北岡　はい、注目してください！

【11年1月9日／都内・某喫茶店にて収録】

北岡悟

戦意喪失のボブ・サップにマジ怒り!!

菊野克紀

青木真也vs長島☆自演乙☆雄一郎で波紋が広がった10年大晦日。その多くは青木の闘いぶりに関する議論だが、そんななか、あの試合直後から自演乙戦に名乗りを挙げている男がいた。「自信があります!」と公言する菊野だが、いったいどんな思いを抱えているのか。悶々としたその気持ちを読め!

聞き手/山本宗忠（THE PEHLWANS）
試合写真/今村陽子　撮影/菊池茂夫

『Dynamite!!』に出られなかったのは試合で負けることよりも悔しいことでした

――ツイッターで、K－1ルールでの自演乙戦を希望するつぶやきが大きな反響を呼んでいますね。

菊野　いい感じで盛り上がっていますよね。どっちが勝つかわからないというのがあるから期待してくれているんだと思います。僕としては普通に自信がありますけど（キッパリ）。

――いきなり出ましたね（笑）。ということで、昨年大晦日にさかのぼって話をおうかがいしたいんですけど、残念ながら熱望していた『Dynamite!!』出場はなりませんでした。

菊野　も～、残念でならなかったですよね。一昨年の大晦日もその前のアルバレス戦に負けて、それでもわずかな望みに賭けて準備はしていたんですけど、やはり声はかからなくて。だから、去年こそは絶対に出てやるという気持ちでずっとやってきて、10月に帯谷選手に勝って周りも「あるだろう」という感じで、実際に進んでいた話もあって準備していたんですけど、なんだかんだでなくなってしまって……。

――実際に進んでいた話もあったんですよね。

菊野　ある選手との試合があるかもしれないから、という話はあったんですけど、いろんな事情でなくなってしまいました。

大会前から「自演乙選手なら、相手は僕でしょう!」と対戦を希望していた菊野。倒すべきDREAMライト級王者・青木真也が目の前で惨敗し、自演乙戦への熱はますます高まったことだろう。

――DREAMモバイルサイトのコラムで心境を綴っていましたけど、印象的だったのは「試合で負けるよりも悔しいこと」だった、と。

菊野　ほんとそういう感覚ですよね。やっぱり選手としてオファーされないというのは価値がないと言われているようなものなので、一番悔しいことですよね。負けたときよりもはるかに気分が悪かったです。

――では、準備しているなか、続々とカードが発表されていったときってのはもう……。

菊野　「えっ、このカード？　ここは俺じゃないの⁉」とか、そういう感じでしたね。最後の最後までずっとそんな感じで、カード発表されるたびに苦しくなっていました。で、大会当日になったらボブ・サップがいないという（苦笑）。「お～い‼　大事な枠を～‼‼」ってほんとにもう、ハハハ……（乾いた笑い）。

――もはや笑うしかないという（笑）。

菊野　ずっとこんなに出たいと思っている男がいて、「ふざけんな‼」って思いましたね。僕が代わりに鈴川選手とやりたかったくらいですもん。でもまあ、もうすぎたことなので、いまはいい経験になったととらえています。いままでは直前で対戦相手が変わったことはあったんですけど、試合自体が流れたことはなかったんです。だから、試合があるかないかわからないけどしっかり準備をして、そしてあるはずだったのになくなってしまったという感覚を今回初めて味わって、プロというのはそういうこともあるんだな、と。それでも選手としてやっていかなければいけないわけですし、なるべく味わいたくない経験でしたけど、そのぶん、今年は燃えていますよ。

――大晦日はPPVの解説をされていましたけど、ツイッターでは印象に残った試合として青木選手と川尻選手の2試合を挙げていましたね。

菊野　そうですね、はい。

――川尻選手はジョシュ・トムソン選手に完勝しました。

菊野　川尻選手は青木選手との試合にもの凄く懸けていたと思うんですけど、ああいう結果になって、しかもケガもあって、選手としてそこから立て直すというのはもの凄くたいへんな作業だと思うんですよ。しかも、その相手がジョシュ・トムソン選手で、万全の状態でもわからない相手とやるという。それだけでも凄いのに、しっかり結果も出して、完勝に近いかたちで勝つってほんと凄いな、と。

――文句なしでしたよね。

菊野　素晴らしいですよね。川尻選手らしい試合でしたし、あそこまで徹底的にやれる強さ、力は凄いです。テイクダウン、キープの強さというのは、いままでで一番感じましたね。横田選手とやったときも強いなって思いましたけど、それ以上のインパクトを感じました。

――そして青木選手の試合なんですけど、まずあのルールであのマッチメイクが発表されたとき、菊野選手はどう思いましたか？

菊野　正直、「え～っ⁉」ですよね、やっぱり（苦笑）。純粋に格闘技として見たときに、「これ、おもしろいの？」……というのは正直、思いました。ほんと、こう……コメントしづらいですけど、解説のときも言葉にならなかったんですよね。僕自身そのおもしろさがわからないので、なんと言っていいかわからないですし……。これが一般の視聴者にとってはおもしろいのか、僕にはわからない感覚なんですよね。

――ちなみに、もし菊野選手にミックスルールのオファーが来ていたらどうでしたか？

試合後、なんと自演乙に対戦要求しようとリングサイドにまで駆け寄っていた菊野だが……。北岡ちゃんにさえ阻止されなければ！　う～ん、惜しい‼

菊野　やっぱり、基本的にはしたくないですよね。青木選手を見ていてそうでしたけど、集中力というか、こう、なんなんですかね？　なんかへんな感覚があったように見えますよね。たとえば、最後のタックルなんてもう全然ですよね。あんな不用意なことは絶対にしないから、青木真也なんですから！　よくわからないですけど、いろんな要因が絡み合って、ああいう行動になって、ああいう結果になってしまったという。

――1ラウンドの青木選手の闘いぶりについてはどう感じましたか？

菊野　あの行為自体は青木選手らしいというか、想像の範囲内でした。あそこまでやるかどうかは別として、「ああ、やったな」という感じで、とくに驚くというのは全然。

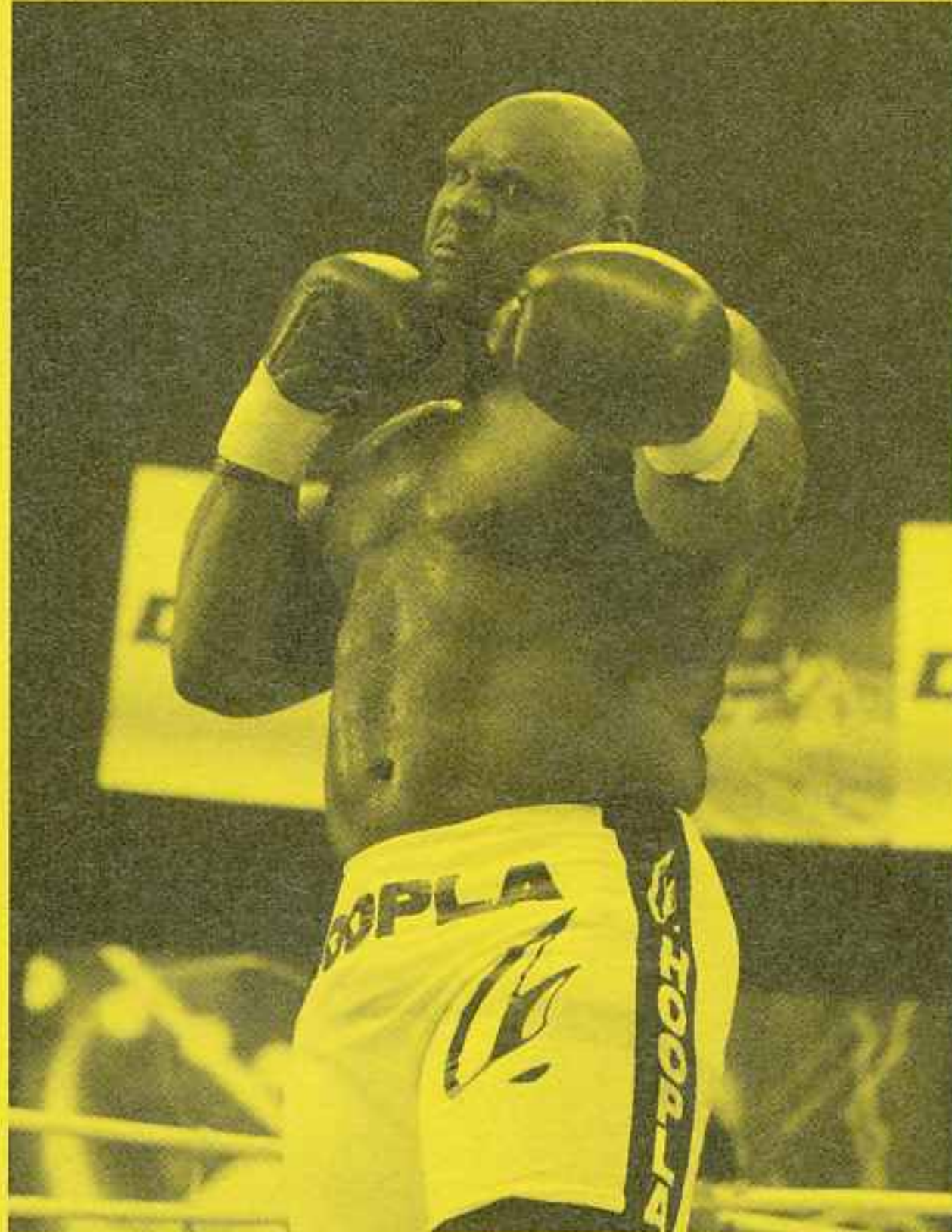
――青木選手だったらやりかねない、と。

菊野　はい。妙に納得した部分もありましたし。で、レフェリーも反則を取らなかったじゃないですか。あれですぐにイエローカードを出すなり、反則負けにすれば、競技としてまだ成り立つかもしれないですけど。だから結局、青木選手に何をさせたかったんだろうなって。青木真也に打ち合わせたかったのかな、という。もしそうだとしたら、ほんと無理がありますよ。あのぉ、僕、歌うことが超苦手なんですよ。

――えっ、歌？

菊野　歌うことに関しては、僕は小学校の時点でもうドロップアウトしたんですけど、そんな僕に大晦日の夜に地上波放送されるなかで、「歌え！」って言っているようなもんですからね。大衆の面前でできないことをやれって言ってるようなもんじゃないですか。あのチャンピオンに。それを期待していたんだとしたら、「ええ!?」ってことですよね。多少ごまかして、前蹴りやミドルを蹴って3分間しのげってくらいの感覚だったのかもしれないですけど、なんかそれも……という。だから、あの行為は勝つための手段といえば勝つ手段ですよね。実際にダメージを受けず、あれで1ラウンドをしのいだわけですから。勝つために一生懸命考えて選んだ戦術。そう見てもいいと思いますけどね。

――では、一人のプロとして、たくさんの人が観ているなかであの戦法をとったということについてはどうですか？

菊野　う～ん……まあ、何を相手にするかってことですよね。あのルールで自演乙選手に勝つ手段として考えたら正解。ただ、テレビの向こう側で観ている人を相手にするのであれば、間違いなのかもしれないですよね。だから……結局、選手

今回、第1試合で鈴川真一と注目のカードが決まっていたサップだが、なんと試合当日に戦意喪失……。意外にも、これに菊野がマジ怒りしていたのだが、確かに選手にとっては信じられない光景だっただろう。

あの闘い方は想像の範囲内でした。でも結局青木選手に何をさせたかったんだろう

はいったい何を相手にすればいいんでしょう？（苦笑）。

――しかも、結果的にその試合が一番のインパクトを残しちゃったという……。

菊野　完全に世間に誤解を生んでいますよね。格闘技に対しても、青木選手に対しても。青木真也はめちゃくちゃ凄いんですよ！　僕のいま、目標の男ですよ！　強いし、格闘技に対してまじめだし、あんなにハートの強い男はいないです。僕は命懸けであの男に勝つために毎日一生懸命練習しているわけですよ。それを世間があのシーンだけを切り取って認識してしまうというのはもう……悔しいですよね。あれは絶対にいつもの青木真也じゃないですもん。もちろん自演乙選手は一生懸命攻めていましたし、お見事ですし、素晴らしいと思いますけどね。

――勝負が決した瞬間はどのように思いました？

菊野　「あぁ～……」ですよ、ほんと。「やっちゃったぁ……」という。で、僕はずっと自演乙選手とはやってみたいと思っていたので、試合直後にリングサイドに上がったんですよ。

――えっ、それは気づきませんでした！

菊野　そうしたら北岡選手に止められて、失礼にあたるのかなと思って下がったんですけど、すぐにでもやりたいと思いました。

――自演乙選手とK-1ルールでやってみたいというのは、大会前に行なわれた場外イベントでのトークショーでも言っていましたよね。

菊野　はい。

――それはどういった理由からだったんですか？

菊野　実力、知名度、試したい気持ち、あと何より、こうなった流れですよね。本腰入れてK-1ルールで試合したいとは思わないんですけど、自演乙選手とのK-1ルールの試合には興味あります。

――MMAルールで自演乙選手とやってもしょうがない、と？

菊野　それじゃあ全然燃えないですし、ファンの方もそうだと思うんですよ。MMAルールで自演乙選手とやるのであれば、僕は絶対に打ち合わないですよ。テイクダウンを狙います。それは勝つために必要なことですから。

――逆に自演乙選手じゃなければK-1ルールで闘いたいとは思わない？

菊野　いまのところないですね。「絶対にしない」とは言わないですけど。僕はMMAで世界チャンピオンになりたいという目標があるので、基本的にその邪魔になるような参戦はあまり考えてないです。ただ、自演乙選手との試合には興味ありますし、勝つ自信もあります。

――昨年のMAX日本王者にK-1ルールで勝つ自信がある、と。

菊野　K-1のトップ選手とスパーリングしたことないんでわからないっちゃあわからないですけど、正直、打撃で誰とやっても負ける気がしないんですよね。帯谷選手との試合後もかなり進化していて、

「ローで削って」みたいに言う人もいますが グサッ!! 一瞬で斬る!! それが僕の理想です

菊野克紀

それこそ大晦日はK－1ルールもあると思っていて、その練習もしていたんですよ。そのなかでまた感覚も研ぎ澄まされているので、はい。

――K－1ルールの練習もされていましたか。

菊野　むしろそっちのほうが濃厚だろうなと思っていましたから、そのつもりで準備はしていました。そんななかで自分なりに手応えというのはつかめています。もちろんルールが違うので思うようにいかない部分もあるんですけどね。ここでタックルいけば簡単なのになとか、首相撲もないですから、そういう部分は厄介だなと思いますけど。

――MAXはけっこう観られたりしているんですか？

菊野　積極的には観てないですね。基本的に僕は観ることが好きじゃないタイプなので、寝ちゃうんです（笑）。自分と、自分とやる相手にしか興味がないというか。あと、K－1って観ていると若干ストレスが溜まるんですよ。やれることがかぎられているので、ここは投げればいいのになとか、その距離で打ち合ってたらつかまれるだろとか、観ていると少しストレスが溜まっちゃうんですよね。

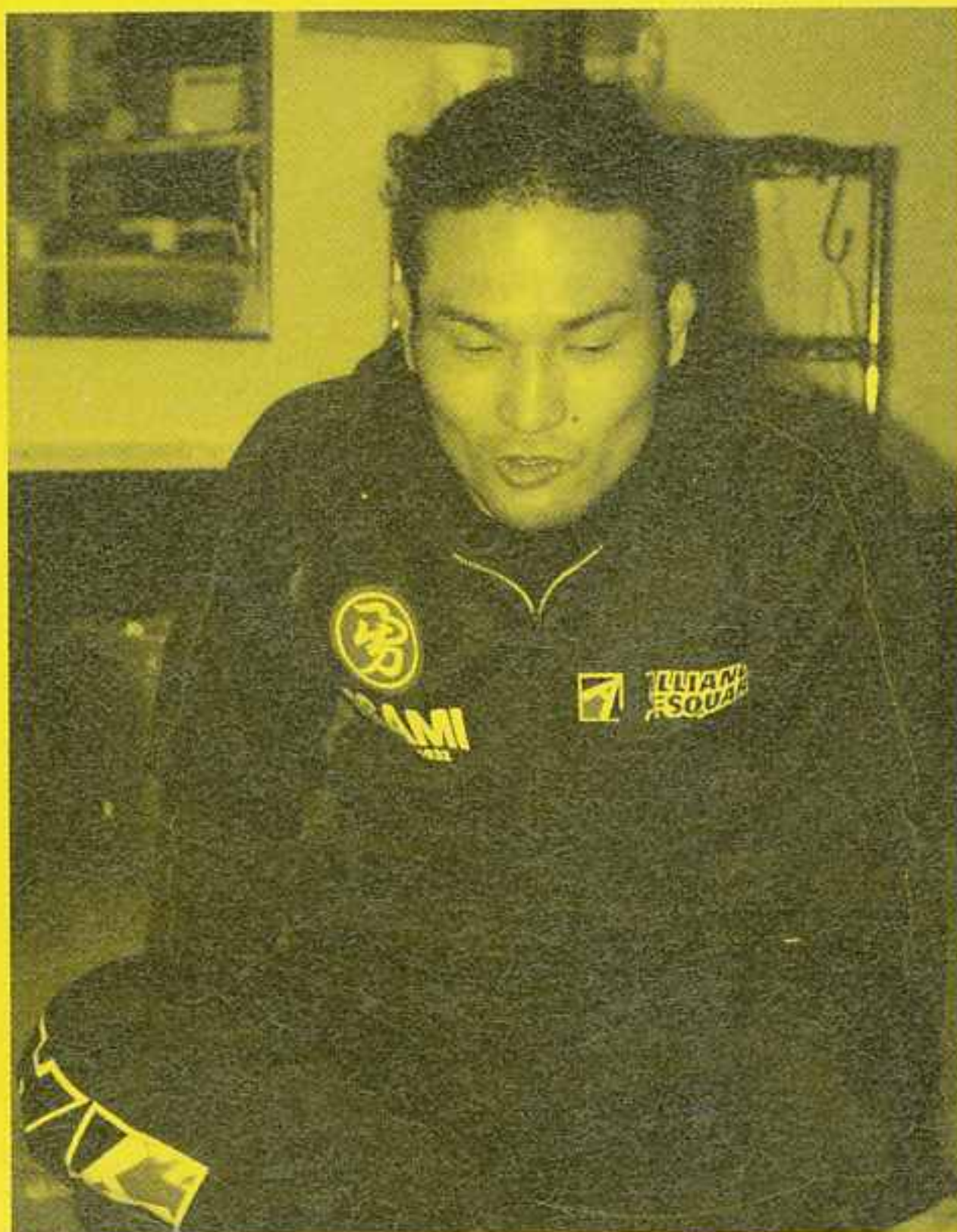
――グローブが変わると距離も変わりますよね。

菊野　確かに距離は変わるんですけど、8オンスのグローブは意外と小さいので、そんなに苦にはならないかなという。ただ指が使えないんですよね。僕のスタイルって指の先まで神経を通して使いきるんですけど、まあ、そこらへんを差し引いても僕が勝つだろうと思います。

――菊野選手ってあまり吹かないタイプじゃないですか。

菊野　デカいことは言いますけど、本気で思ってることしか言わないです。

――だから、よけいに自信あるんだろうなというのを感じます。

菊野　あります、あります。僕のバックボーンが極真だから「ローで削って」みたいなことを言う人もいるんですけど、僕が目指しているところはそこじゃないので。グサッ!!　一瞬で斬る!!　それが僕の理想です。

きくの・かつのり■1981年10月30日、鹿児島県出身。05年12月にプロデューをはたし、以降、DEEPを主戦場に実績を積む。09年にはDEEPライト級トーナメントを制し、王者に君臨。その後DREAMで闘うも、昨年の大晦日には参戦ならず。その怒りも含め、いまメラメラと長島☆自演乙☆雄一郎戦に燃えている。170cm、70kg。

――K－1ルールで自演乙選手と闘いたいというなかには、ミックスルールとはいえ、DREAMルールで同じDREAMで闘うチャンピオンがあんな負け方をしたということが許せない、というのはあります？

菊野　なくはないんですけど、そこが一番の理由ではないですね。「僕が自演乙選手に勝って、青木選手の仇討ちになるの？」って話ですし。

――おっしゃるとおりです。

菊野　ただ、僕はDREAMの選手で、向こうはK－1の選手で、構図的にはK－1の選手がDREAMのチャンピオンに勝ってしまった、と。じゃあ次、僕がリベンジしたいっていう。そういう単純な気持ちもありますけどね。それに、こういう流れになったら僕以外に適任はいないと思うんですよ。だから、青木選手と自演乙選手の試合が決まったときに「そこは俺だろ！」と思いましたよ、正直。ゲガール・ムサシ選手がやったように、僕だったらMMAの代表として打撃で自演乙選手と勝負できるよという気持ちはあります。

――今回もゲガールは強さを見せつけましたよね。

菊野　強いですよね！　あの試合、京太郎選手のほうが大きかったですよね？

――前日計量で京太郎が104キロ、ゲガールは97キロでした。

菊野　だからもう、K－1の選手がK－1ルールだったら必ず勝つかっていったらそうでもない、というのが結果として出ていますよね。

――京太郎選手はK－1ヘビー級のチャンピオンですからね。

菊野　ウィッキー選手も大和選手を相手に普通にやっていましたからね。

――大和選手はK－1の63キロ以下の日本チャンピオンです。

菊野　そういう感じなのかなって思いますよね。

――こういう流れになって、もしやるならすぐかもしれませんね。

菊野　冷めちゃいますからね。でも、真剣に考えてくれそうな雰囲気はあります。笹原さんも「谷川さんに話してみる」と言っていただきましたし、谷川さんにはもともと、会場のトイレで横になったときに「菊野く～ん、MAX出てよ～」とよく言われていましたから（笑）。

――連れション時に（笑）。その谷川さんも言っていましたけど、日本で知名度を上げるには一度、MAXに出るのは大きいと思います。

菊野　それもモチベーションの一つですよね。むしろそっちのほうが大きいのかもしれないです。実際、僕は全国ネットの試合に出たことがなくて、4試合して4試合とも関東ローカルでの試合でしたから。そういう意味では自演乙選手というのはおいしい相手ですね。まあ、自演乙選手にとってメリットはないと思いますけど。

――あのMAXの雰囲気のなか、菊野選手がどう迎えられるのかというのも興味あります。

菊野　完全アウェーってことですよね？　僕は嫌いじゃないですよ、そういうの、フフフ。

――今年の一発目の試合はMAXになるかもしれないですね。

菊野　この試合が実現することになったら、武術の打撃がK－1を制圧する瞬間をお見せしますので、楽しみにしていてください（ニヤリ）。

【11年1月7日／都内・ALLIANCE-SQUAREにて収録】

幻のDEEPマカオの旅

1.8ヴェネチアン大会

でも、行くんだよ!!

文・写真／橋本宗洋

何かの間違いじゃないかというようなリリースが送られてきたのは、1月4日のお昼前のことだった。1・8DEEPマカオ大会が延期になったというのだ。

延期を決定したのはホテル側。リリースによると、理由は「プロモーションの期間が短く、チケットの売り上げが芳しくないため」だという。まあ格闘技イベントの中止や延期は海外では珍しい話ではないんだが、会場の『ヴェネチアン』はマカオ随一の高級ホテル&カジノ。そういうところでも直前の開催延期があるということに驚いた。

困ったのは佐伯さんである。この大会はいわゆる〝売り興行〟、つまり興行のパッケージをホテル側が買い上げるシステムだったのでリスクはないはずだったのだが、延期となると話は別だ。先に払っておいた選手の航空券、準備期間の旅費などで、けっこうな額がかかってしまっているらしい。もちろん選手は試合に向けて練習と減量を進めていたわけで、彼らに対してのケアも欠かせない。できるだけ近いタイミングで試合を組んであげる必要があるわけだ。

実際、マカオ大会のメインで行なわれるはずだった桜木裕司vs田澤和久のメガトン級タイトルマッチは2・25後楽園大会にスライド。また臼井祐矢、桜井隆多、LUIZも同大会に出場することになった。とはいえこれで問題解決というわけではない。DEEPには選手がひしめいているだけに、これからしばらく佐伯さんはカード編成に頭を悩ませることになるはずだ。

そんなわけでマカオに行っても何もないことが確定してしまったわけだが、僕はといえばとっくに航空券とホテルを押さえてしまっていたのである。DEEPの海外初進出となれば、そりゃあ見逃すわけにはいかなかった。でも大会は延期になり、といっていまさらマカオ行きを取りやめてもキャンセ

ル料がかかるだけ。ここは気持ちを切り替えて〝単なる香港・マカオ旅行〟を楽しむことにした。まあ香港は前から行きたかったし。

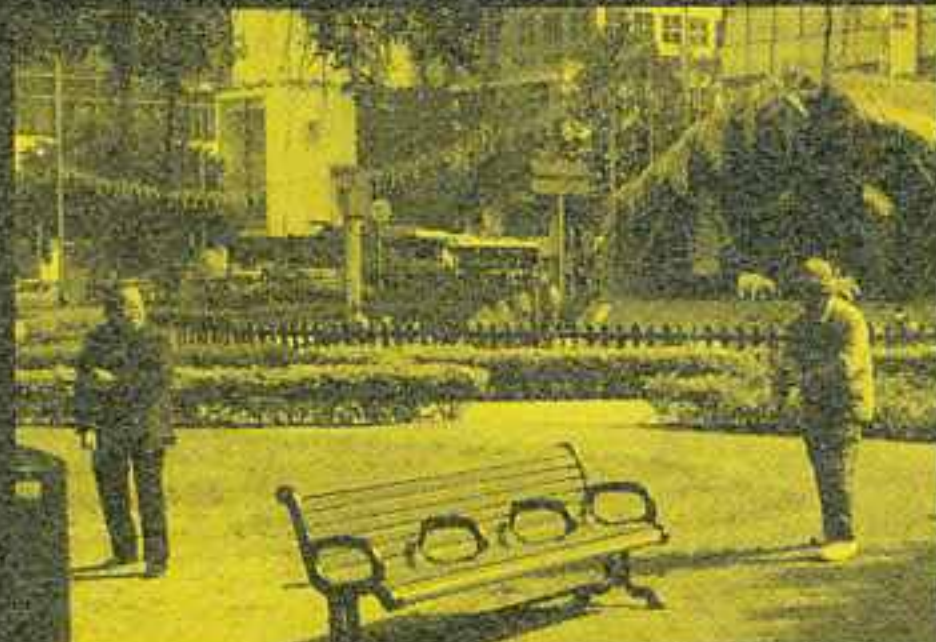
出発&香港到着は5日の夜。とりあえずその日はゆっくり休んで、翌6日はのんびり香港観光。ブルース・リーの銅像見たり、ショーウィンドウの高級時計にヨダレたらしたり、まあ完璧な観光客である。メシもうまいし最高ですよ、実際の話。

夜はツイッターで知り合った『香港総合格闘技観戦会』の皆さんと食事。これは現地在住の格闘技好き日本人の集まりで、日本の実家で録画したPPV映像をみんなで観たり、スポーツバーでUFCを観たり、もちろん香港やマカオで格闘技イベントがあれば観に行って親睦を深めているという。

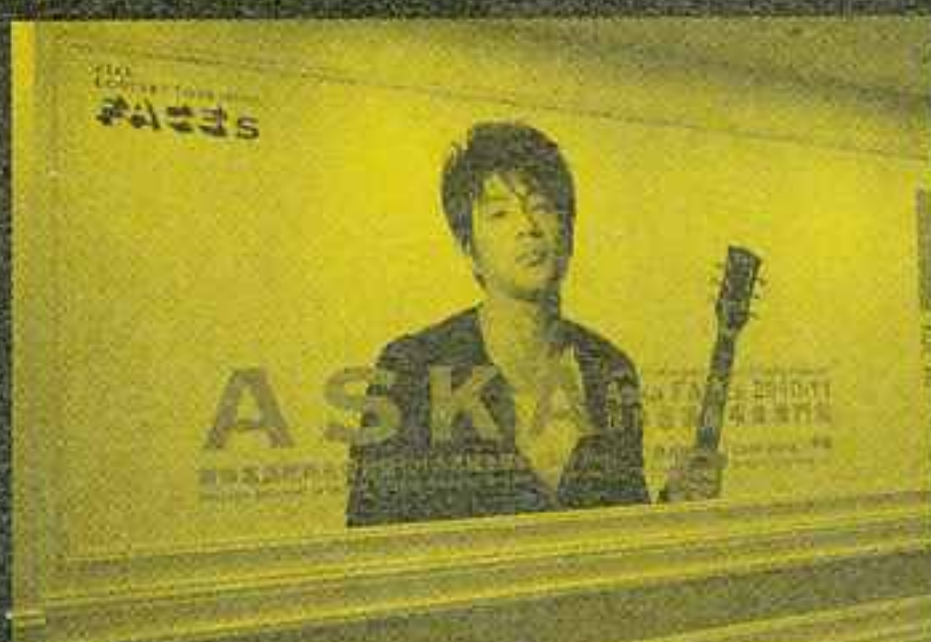
モットーは「金を落とせるところには極力、落とす」。海賊版DVDがはびこる香港ではDREAMやUFCの映像が手に入る店もあるそうなのだが、それには手を出さないそうだ。もちろん帰国した際にはさいたまスーパーアリーナへ出向き、グッズも大量購入。香港にも、こうして日本格闘技界を支えようという気持ちをもった人たちがいるわけである。

もちろん、メジャーなジャンルのファンであれば日本人だけで集まる必要もない。こういう会があるということは、それだけ香港におけるMMAがマイナーだということだ。いわく「香港でMMAが好きっていうのがどれくらいマイナーな存在かというと、日本でカバディが好きとか、そういうレベルですよ」。なかなか大変な思いをしているのである。

それでも、少しずつではあるがMMAは根づいてきているようだ。地元イベント『LEGEND』が年二回ほどのペースながら定期的に開催され、中国人ファイターが成長。生徒は外国人が多いものの柔術道場が

マカオ中心部は小・中規模カジノがひしめく。

朝の公園では太極拳をたしなむ老人の姿も。

優雅に演奏中。しかし場所はカジノであった。

香港の詠春拳本部。MMA対応もしているとか。

翌週はASKAライブ。君が代は歌わない模様。

イベントスケジュールにDEEPの文字はなし！

巨大カジノ群のスケールはラスベガス以上！

『ヴェネチアン』は建物内にプチ運河が！

でき、ブルース・リーが学んだことで知られる詠春拳にもMMAに対応しようという流れが生まれたという。もしかすると、数年後には中国人のUFCトップファイターが誕生しているかもしれない。

ただ逆にいえば、香港やマカオでイベントを成功させるには地元選手の存在が不可欠だということだ。いい試合をすれば国籍を問わず人気が出るのは、日本のように文化として成熟していることが条件。黎明期のジャンルを牽引するのは、K-1における佐竹雅昭、PRIDEにおける桜庭和志のような母国のスターなのだ。それがDEEPマカオ大会には足りなかったし、それでよしとしてGOサインを出してしまったホテル側が甘かったとしかいいようがない。

そして7日、本来であればDEEPの計量があるはずだった日にフェリーでマカオへ移動。適当に入ったレストランのエッグタルトにノックアウトされつつ、とりあえず会場の『ヴェネチアン』へ向かう。が、そこにはDEEPの名残りなど皆無であった。看板もポスターもすっかり撤去され、延期のお知らせもない。あたりまえなのかもしれないが、こういう動きは素早いんですな。

念のため翌日、つまり大会当日（だった日）の夜にもホテルのチケットカウンターに行ってみたのだが、やはりDEEPに関する告知はされていなかった。単なる観光客を装い、係員に適当な英語で「今日のファイトイベントはキャンセルなの？」と聞いてみる。「そうなんです。お客様、チケットお持ちだったんですか？」と係員。「いや、今日買おうと思ってたんだけど、なんでキャンセルに？」。「メインファイトに出る選手がケガをしてしまって、スポンサーが離れてしまったそうです」。ん、川口雄介が欠場になったのはけっこう前の話だが。それに川口がそこまでビッグネームだとは思えないが……。

なんだか釈然としないまま帰ろうとしたところへ、柔術ブランド『KORAL』のウェアを着たブラジル人らしき男が通りかかる。

「あれ、もしかしてファイター？」

「そうだよ。昼間のグラップリング大会で来たんだ」

え……？ じつはDEEPの前には別会場でグラップリング大会も予定されていたのだ。日本からは注目の新鋭・佐々木憂流迦も出るはずだったのだが、佐伯さんが手を引いた以上、この大会もやらないもんだとばかり思っていた。でも実際には佐伯さんルートの選手抜きで開催されていたのだ。暇だったから行けばよかったが、もはや後の祭りである。

タイ、ラスベガス、ナッシュビル、その他、海外に行くのは常に取材だった。試合を観たり選手にインタビューしたりということがないと、なんかこうムズムズして仕方ない。だけどもうどうしようもないので、次週開催のASKAコンサートの看板を眺めながら、『ヴェネチアン』を後にするしかなかった。

まあしかし、ASKAがコンサートやるような場所でDEEPが開催されようとしていたわけで、そのプラン自体が相当に強引な話ではあったんだなぁと思う。ホテル内の別会場ではシルク・ドゥ・ソレイユも公演中。ちなみにこれまで行なわれてきたコンサートを調べてみるとビヨンセにポリスにレディー・ガガ……って、これどう考えてもDEEPやる場所じゃないよ！ 無事に大会が開催されてたらされてたで、それはやっぱり何かの間違いだったんじゃないかと思わざるをえない。ただしそういう間違いを起こせるのも、やっぱりDEEPだからこそだったんじゃないか。

次はもっと間違えて、いっそのことラスベガスに進出してほしい。

第62回

スカッとしんみりな年越し

豆リングの汁

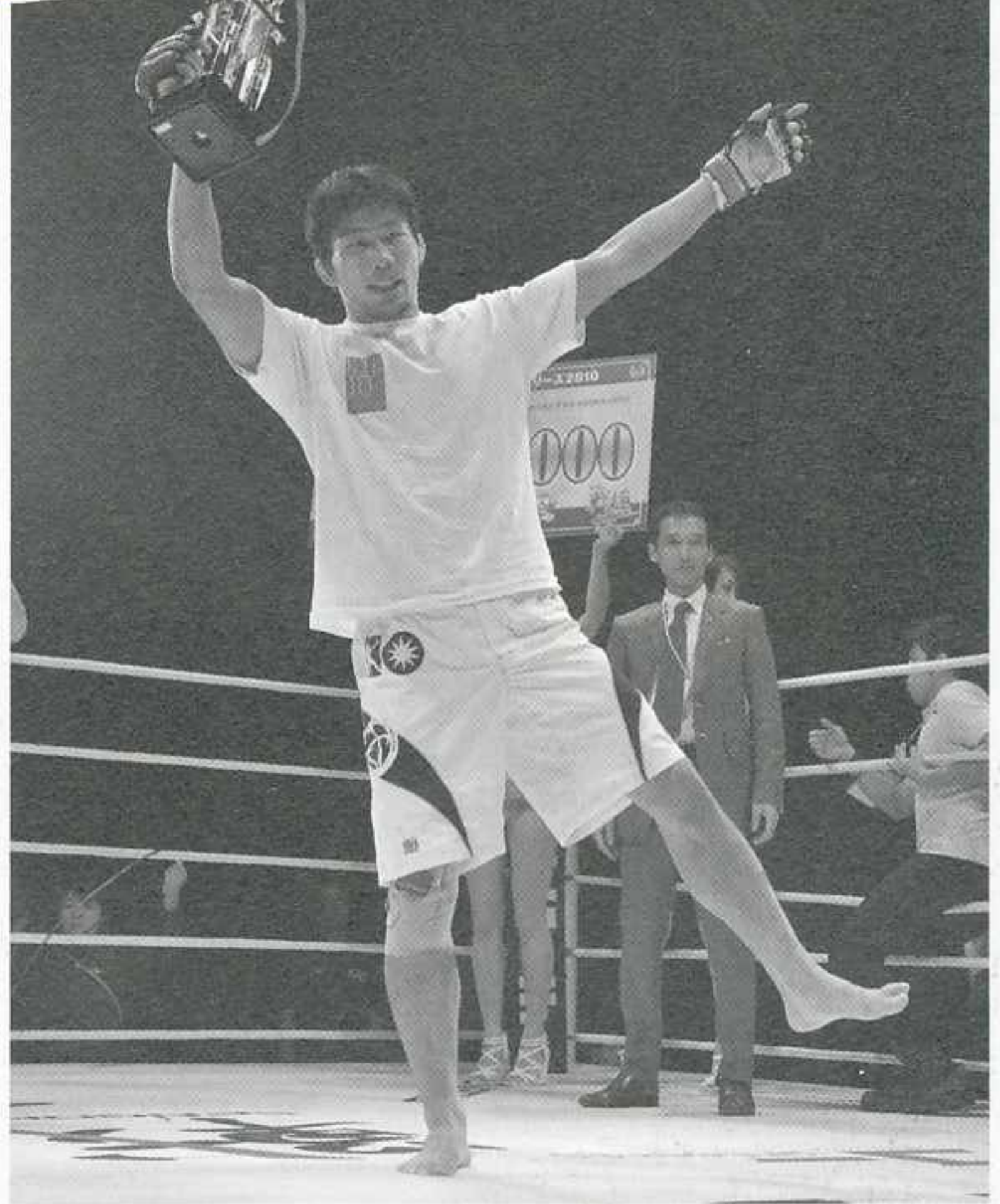
花くまゆうさく

年末年始、まずは30日のSRC。年末のこんな日に全試合観るのは無理でしたが、印象に残ったのはまず中村K太郎vsYasubei榎本戦。寝技強いK太郎に、果敢に下からラバーガードで勝負するYasubeiの姿に感心。

それでも最後は、パスを嫌がり向かってくる相手の首を取るK太郎の必勝パターンで、K太郎選手お見事でした、おめでとう！

メインの日沖もサンドロにああいう勝ち方で凄かった。TBSの手アカがついてない純で素晴らしいMMAの試合を見せてもらいました。日沖選手おめでとう！

そんで大晦日のTBS。いつもより数倍増しで反感買った青木があああいう負け方をしたので、思わず飛び跳ねるほど素直に喜んでしまいました。

マッハ戦のようなスカッとさ。これは気持ちのいい年越しになると思ったが、そのあとビビアーノがかわいそう（放送内容、レフェリング判定）になりしんみり。

渡辺一久はあいかわらず大地康雄版川俣軍司にそっくり（見得の切り方とかまで抜群に似てる）だが、今回の人間力は凄かった。ああいう人は強いよ。震災とかにあっても、たくましいと思う。ネットやケータイなくなった世界でも生き残れる人だ！（と勝手に妄想）。

新年UFCで五味完敗が残念。でも、一番メジャーで輝いていてシビアな場であるUFCで闘うのは断然ノレるので応援してます。

エビしてガードに戻す
バンナが新鮮

Hanakuma Yusaku ◎映画『モンガに散る』男泣きだよ。

金ちゃんのどこまでやるの？

皆さん、あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願いします。

さて俺の年末年始は例年どおり、大晦日に『ガキの使い』を観て蝶野さんのビンタで笑い、録画しておいた『Dynamite!!』を元日に観てすごしました。俺も一度は観るほうじゃなくて、出るほうに回りたいんだけどねえ。

で、『Dynamite!!』はやっぱり青木くんのKO負けにビックリしたね。99パーセント青木くんが勝つと思ってたのに、勝負はこれがあるから怖いよね。この負けは青木くんにとって痛いだろうけど、こういう衝撃的な負けってドラマ性があって、ある意味、プロとしては価値あることなんだよね。一昨年は腕折り&中指で、去年は失神でしょ？　これだけ目立つって凄いことだよ。

同じことは所（英男）と渡辺一久選手の試合にも言えて、あれ観てる人は途中から、知らず知らずのうちに渡辺選手を応援してたと思うんだよね。だから、あの試合の結果は所の一本勝ちだけど、プロとしては所の負けだよね。

やっぱりプロっていうのは、勝敗はもちろん大事だけど、どれだけ観ている人の心に残るかって大事だからね。だから大晦日は青木くんと、渡辺選手が俺はよくも悪くも「凄いな」って思ったよね。

そんな年末年始をすごしたあと、正月にカミさんの実家がある山口に車で行ったんだよ。それで近くの険しい山に精神修行で一人で登山するのが恒例なんだけどさ、そこって野犬が出る危険な山として知られてるんだよね。

だからいつも野犬に襲われたときのために、木の棒を持って登るんだけど、これまで一度も遭遇したことがなかったんだよ。ところが今回、初めて遭遇しちゃってさ、二匹の野犬にホントに襲われたんだよね。棒でぶっ叩いて逃げようとしたんだけど、全然怯まなくてさ。しかも、頭がよくて二匹で前後に俺を囲んできたんだよ。もう怖くてね。「これは下山するしかない」と思って、威嚇しながらうしろ足でゆっくり下山していったんだけど、30分ぐらいしたらお爺さんに会ったんだよ。

そしたら、そのお爺さんが「ウチの猟犬が襲っちゃったか。ごめんごめん」って言うんだよ。俺が襲われたの、そのお爺さんの猟犬だったんだよね。なんだか頭がいいと思ったら、そういうことかって。でもさ、猟犬を放し飼いになんかするな！って思うよね。

まあ、無傷で下山することはできたんだけど、ひどい目に遭ったよ。それで山口のあと、今度は俺の実家の愛知に行く途中で夜中に車のエンジンが動かなくなって、寒いなか、一晩狭いコルベットのなかですごすハメになったりとかさ。新年早々、ロクなことがないんだよ〜。

それもこれも、俺は今年が厄年。しかも本厄っていうのが関係してるような気がするんだよ。これで厄払いできたらいいんだけど、前田（日明）さんも本厄のときはロクなことがなかったっていうから、恐ろしいんだよね。

前田さんなんて本厄の年、正月にリングスの所属選手全員で鹿島神社にお参りに行ったんだけど、おみくじで「大凶」が出たんだよ。前田さんも動揺しちゃってさ、「おまえら全員、ゴミ拾いながら帰れ！」とか言って、みんなで善行して帰ったんだけど、その甲斐なく年末にリングスが解散しちゃったからね。

俺もまだ今年、おみくじ引いてないから怖いよ〜。なんとか厄払いして、いい年にしたいね。今年もよろしくお願いします！

Hiromitsu Kanehara
◎本音炸裂コラムほぼ毎日更新中！
金原弘光オフィシャルHP
http://www.hiromitsu-kanehara.com/

DREAM離脱!?
青木に何が起きたのか?

大晦日衝撃の敗戦以降、青木真也周辺が慌ただしい……。
ツイッター、ブログ等で「DREAM離脱」とも読める発言をしているのだ。
いったいどうした? 本誌編集長がその背景を語ります!(天罰必至!?)。

深夜にもかかわらずツイットキャスティング（ライブ配信サービス）をお聴きの皆さん、こんばんは。『kami-pro』編集部の斉藤です。

深夜にツイキャスをやるのはひさしぶりですね。

今日は青木真也選手のことをいろいろしゃべりたいと思います。お聴きになってる方はご存知でしょうけど、ツイッター等で青木真也本人やその周辺関係者の様子がちょっとへんなんです。まあ、「ちょっとどころじゃない」っていう声もありますが（笑）、それが青木本人によるものなのかは知りませんが、にわかには信じがたい書き込みもされたりして、たいへんな騒ぎになってますよね。誤解を恐れずに言えば「これはDREAM離脱もありえるんじゃないか？」というムードを醸し出していて。いったい裏側で何が起きているのか。ここで勝手に妄想していきます。

いまお酒を飲みながらやってるんでね、言葉がけっこう乱暴になるかもしれません（笑）。そこらへんはご勘弁くださいということで。

まず大晦日の青木真也vs自演乙の見解についてはですね、ツイッターで書いたり、年末年始速報号の座談会で言及してますけど。あらためてどういうスタンスかというと、「青木真也はああいうことはやるだろうな」と思いつつ、「勝負としてあの戦術を取るのはわからんでもないなあ」と。自演乙選手は日本チャンプですし、青木真也はパンチがあるストライカーではない。ただ、この自演乙vs青木がどうして組まれたのかを考えると、要は「テレビのため」という大義名分があったはずなんですよ。そんな動機、多くのファンは納得しませんでしたけど（笑）。

だとしたら、青木真也の戦術はテレビ的には非常にわかりづらい。ヒールとしては格好の的なんでしょうけど（笑）。あとルールがなぜかこっそり発表されて、立ち技のラウンドもオープンフィンガーグローブで闘うことになってしまった。それは青木も試合前に「この期におよんでルール変更かよ……」みたいなツイートしてましたけど、観る側からすればオープンフィンガーだとボクシンググローブのように立ち技の"記号"にはなりにくいですから、視聴者に凄くわかりづらい画になったんですよね。そもそもマッチメイク後にルール変更のドタバタがあるって、運営側は何をやってるんだろうって、

青木真也が全幅の信頼を寄せる公武堂の長谷川社長。青木が入場する際、最後尾に姿を見せる。長谷川社長の存在なくしていまの青木真也はいない。

青木に何が起きたのか

「DREAM離脱もありえるんじゃないか？」というムードを醸し出している

ていう感じなんですが……。

そういう点から、「格闘技を知らない人にも届けるため、お祭りのために試合を組んだ」と主催者が公言しているのに、エンターテインメントとしていかがなものかなあ、と。まあ、結果としておもしろくなっちゃったわけですが（笑）。

話を戻すと、試合後の青木真也のツイッターやブログがいろいろ騒がれてますね。「もうやめた」「解放された」「今後のことはいっさい白紙」だと。これはいったいどういうことなのか。「負けたショックでああいうことを言ってるんじゃないか」という意見もあると思うんですけど、ここで青木真也の過去を振り返って考えたいんですが。

（リスナーの書き込みを見て）……え？「青木真也がツイッターのアカウントを削除しました」!?……青木ってもしかしてツイッターをやめたんですか？ やめちゃったんだ（笑）。へえ～、そうなんだ！でも、青木ってあんまりツイッターに向いてなかったですよね。どちらかといえば、ミクシィのほうが向いてましたよね。仲間内でワイワイやっていく感じが。う～ん、そうなんだ。まあ、いいや。

話を進めますが、まず青木真也は早稲田大学を卒業したあとに警察官になってるんですよね。なぜ就職の道を選んだかといえば、青木真也は在学中に修斗のミドル級チャンピオンになってるわけですけども、その時点で「格闘技では食えないんだ」ってことがわかってしまった。一度、格闘技を見切ってるんですよね。「一部のPRIDEトップファイターが稼いでるって話は聞いてたけども、日本人の中軽量級の選手が稼ぐことはありえない」と。

実際、修斗のチャンピオンになっても食えない。それと当時の青木の後見人だった方が「格闘技でお金を稼ぐことは悪だ」みたいなことを言っていたこともあって、いわゆるプロになることに及び腰だったというか。それが「一生、修斗しか上がりません！」というマイクアピールにつながってるんですけども、青木は「あの当時のボクはいろんな意味で子どもだった」と振り返っていて、いわゆる葛藤があったわけですね。「格闘技はやりたい」が「現実問題、食えない」と。それで警察学校に行ったんですけども、そこで柔道なり格闘技ができると思ってたそうなんですね。ところが修斗王者というプロの経歴が引っかかってですね、柔道の試合すらすることはできなかった。

そんなときにUFCからオファーがあったそうなんですね、ある知り合いの外国人を通じて。UFCの提示したギャラの額は忘れちゃったんですけども、相手はあのBJペンだった。

で、青木真也はその提示額を聞いて、年に3～4回くらい闘えば、普通に食べていけるんじゃないかという判断をしたんです。たぶん一試合100～200万円くらいなのかな。このままだとアマチュアとしても格闘技はできないが、プロとして食っていけるかもしれない。そのオ

「警察官を辞めてPRIDEに来るって凄い決断ですね」って聞いたら……

ファーがきっかけで警察学校を辞めるに至ったんです。

そこで今後のことを相談したのがいま青木のマネージャーを務める公武堂の長谷川（匡紀）社長なんです。青木は「UFCに行こうと思います」って相談したんですけど、そこで長谷川さんは止めたんですよ。UFCに行くのは全然かまわないんだけど、プロとして食っていくためにその決断でいいのか、と。やっぱり先は長いですからね。

長谷川さんが考えたのは、青木は日本人なんだし、引退後も格闘技に携わっていくことを考えたら日本の団体で知名度を上げつつやっていくのがいいんじゃないか、と。そこでPRIDEに話を持ち込んだ。2006年の初夏くらいですね。

ところがですね、青木の元マネージャーから長谷川さんに「おまえは何者だ?」みたいな電話があったそうです。「おまえ、偉そうに首を突っ込んできやがって。おまえは青木真也がプロの世界に行って、もし失敗したり、それこそケガをして選手生命が絶たれたときにケツを持てるのか」という話をしてきたそうなんです。長谷川さんは青木のマネージャーを気どっていたわけではないし、「じゃあアナタが青木の面倒を見ていただけるってことですか?」って聞いたら、「オレはそんな選手の面倒なんか見たりできねえ」と返された。「できないって、そしたら今後、青木はどうするんですか?」「知らねえや、そんなもん。おまえが面倒見ろ」「じゃあ預かります」——。長谷川さんはそこから青木のマネージャーとして「青木の面倒を見なきゃならないという覚悟を持った」と。年明け、長谷川さんがツイッターで「青木をルンペンにさせる気はない」って書いたのはその責任感ですよね。で、青木真也からすれば「長谷川社長に拾ってもらった。PRIDEに拾ってもらった」という意識を持つことになった。

そういう経緯で青木真也はPRIDE武士道に上がることになったんですけど、結局青木の原点には「格闘技で食えるのか」というのがあるんですね。格闘技で食えないがために警察学校に行って、その後UFCからオファーが来て、これだったら食えるんじゃないかと決断した。

警察学校を辞めた青木真也がリュックサック一つで上京して、初めてPRIDEの事務所に挨拶に行ったときに、たしかPRIDEの社員は青木がこれから住むアパートを一緒に探したそうなんです。PRIDEとしても「青木真也というファイターをちゃんと育てていこう」って意識は、相当に強かったんだと思われますね。

ただ、青木真也は「食えるか、食えないか」にこだわりつつも、その前後に何があったかというとフジテレビショックがあったんですよね。多くの関係者は「はたしてPRIDEの今後は大丈夫なのか?」という不安はあったんですけども、青木真也にその危機感はなかったと思いますね。なぜかというと、ボクが初めて青木真也をインタビューしたのがその時期だっ

PRIDE最終イベント『PRIDE.34』に日本人の中軽量級ファイターとして唯一の出場をはたした。本来は同時期のDEEPへの出場が内定していたが榊原代表の鶴の一声で登場が決まったとか。PRIDEがいかに期待していたかがわかる。

たんですけども、たしかパラエストラ東京のジムで取材したんですよ。そのときに「青木さん、この時期に警察官を辞めてPRIDEに来るって凄い決断ですよね」って聞いたんです。

そうしたら青木は何を勘違いしたか、「やっぱりあれですかね、元警察官のボクがPRIDEに来るって、ヘンですかね」と。誤解してるんですよね。「今後のPRIDEはヤバイよ」っていうニュアンスで聞いてるのに、反社会的勢力との問題で騒がれてる格闘技団体に元警察官が来るという質問だと受け取って。

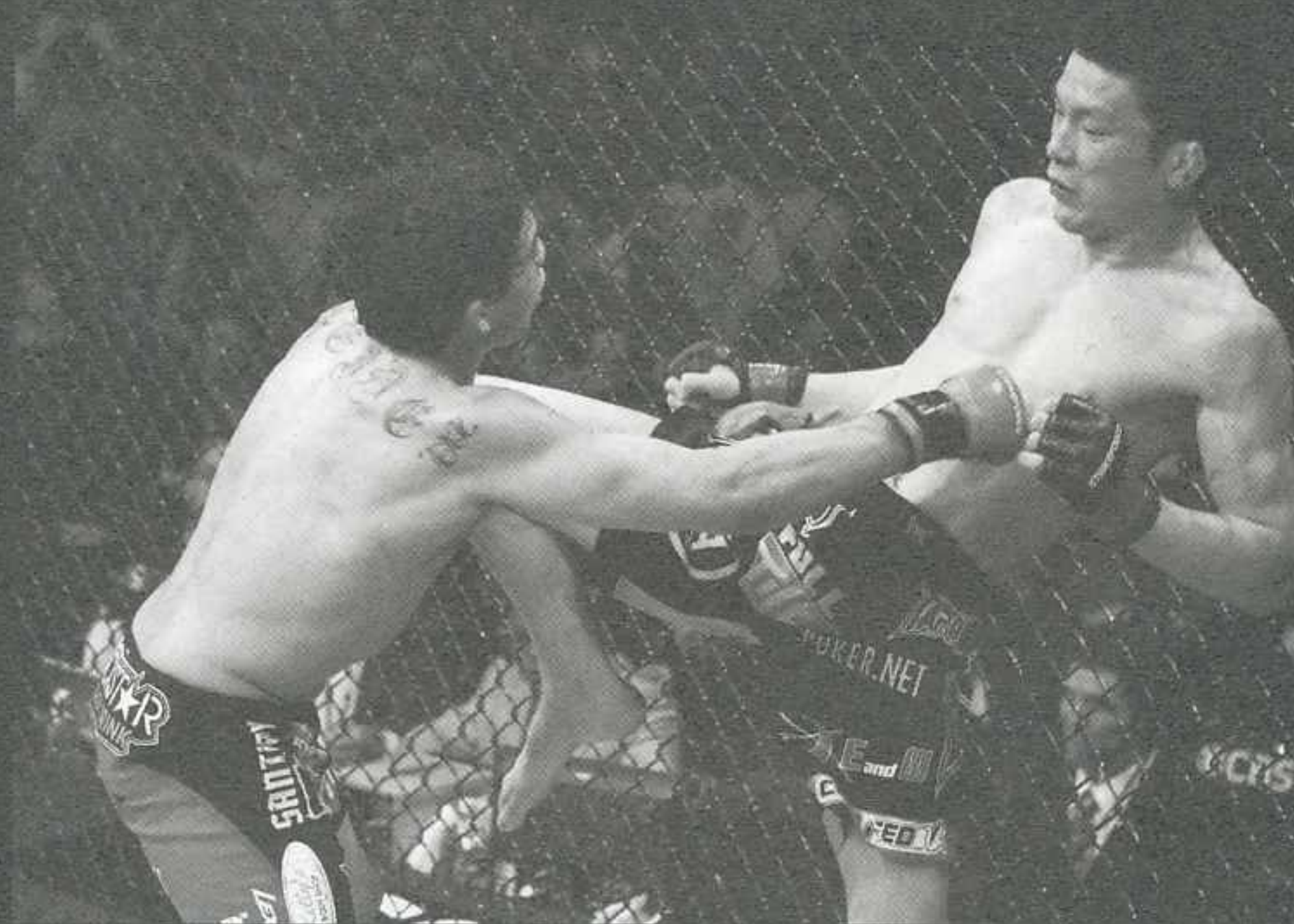
青木真也からすれば、PRIDEに上がることでそれなりのファイトマネーがもらえ、「これからプロとして食っていける」という思いでいっぱいだった。PRIDE自体の暗雲というのは全然気にしてなかったんじゃないかなとボクは思いますね。

PRIDEの控室は水も置いてある、氷も置いてある、ケータリングもある、関係者が気を使ってくれる。修斗の世界しか体験してきてない青木からすれば、アパートも探してくれる、試合だけで食っていける。夢みたいな話でしょう。

しかし、それが崩れ去るのが翌年のことです。PRIDEがズッファに売却されて、新体制でスタートするという声明が4月に出されたんですけども、そこから大晦日の『やれんのか！』まで8ヵ月間の沈黙があったわけですね。試合がない。当然ファイトマネーも入らない。

これは青木真也にとって相当厳しい時期だったと思います。せっかく警察官を辞めてプロとして食っていこうと決めたのに、1年も経たずに破綻してしまった。

そのとき長谷川社長や旧PRIDEスタッフで武士道のプロデューサーだった加藤さんが精神面を含めて支えてたんじゃないのかな。そして『やれんのか！』を経てDREAMがスタートして、旗揚げ戦のJZカルバン戦の悪夢のノーコンテストがあるわけなんですけども。

これも有名な話ですが、「このままノーコンテストではトーナメントの運営にも支障をきたす」としてアイデアに挙がったのが後楽園ホールのワンマッチ計画なんですよね。それは幻に終わって、結局『DREAM・2』で決着戦をやったんですけど。

アメリカ志向が強い青木だが、ストライクフォース出陣もDREAMスタッフの意向を受けてのもの。青木にとっては自演乙戦もメレンデス戦も構造は同じだ。

青木サイドとすれば、ワンマッチ計画も『DREAM・2』での再戦もけっこう消極的なところがあったんですよ。『やれんのか！』では直前でカード消滅、再戦はノーコンテスト。青木は負傷を負ってまもない状況で即再戦はやりにくい。ただ、それでもやらなきゃならないと決断したのは、自分を支えてくれてる加藤さんをはじめとする旧PRIDEスタッフのため、自分がプロとして食ってくために受けたって部分は強かったと思うんですね。

青木にとってDREAMスタッフは「やれと言われたことをやる主従関係」

結局、青木真也という人は「食っていく」プラス「自分を食わせてくれている人に何かを返さなきゃならない」っていう意識が強いんですね。青木はよく「自分のためにやってる！」って言うのはそこなんです。

そこでポイントになるのは一昨年の大晦日、廣田（瑞人）戦ですね。あの腕折り&中指事件。もともと一昨年の大晦日は川尻達也vs青木真也のタイトルマッチが内定してたんですけども、SRCから「廣田vs青木、横田vs川尻にしてくれ」という要求があった。SRCと交渉してるFEGサイドからの要請もあり、まあ谷川さんからすればテレビ的にどうしても吉田秀彦vs石井慧を引っぱり込みたかったんでしょう（笑）。それで青木vs川尻はバラされることになった。青木真也からすれば対戦相手は廣田でも誰でも全然かまわないんだけども、何に対して憤ってたかというと「親の顔に泥を塗られた」と。要は加藤さんやDREAMスタッフがせっかくマッチメイクしてくれたのに、SRCの横やりでそれが崩されてしまったことへの怒りなんですね。あの中指は廣田選手ではなく政治的背景に向けられていたものなんです。

でも、ボクがあのときの青木の動機に否定的だったのは、それって結局、ファンには伝わりにくいからなんですよね。「DREAMのため」ならまだしも「DREAMスタッフのメンツのために暴走した」というのは、物語としてファンには届かないと思った。

青木が背負っているものってファンからすれば、わかるんだけどわからないところもあったりするでしょう。それは「DREAMのため」か「DREAMスタッフのため」かの違いがあるからなんだと思ってます。もちろん「DREAMスタッフのため」にやることが「DREAMのため」につながるわけですが、向けられてるエネルギーが微妙にズレてるときがあるのはそのせいでしょう。

廣田戦に話を戻すと、あの試合は本当に凄かったけれども、プロの表現者としてはちょっとわかりづらいんじゃないのかな、と。

でもまあ、自分を食わせてくれた人が恥をかかされたことに憤ってあの狂気の爆発につながったわけですよね。

今回の自演乙戦、これも誰のために闘ったかといえば、結局、メレンデス戦が消滅してしまってほかにカードが組めないなかで、自分が日本で食っていくためであり、TBSの方針に向き合わざるをえないスタッフのために受けたんですね。

大晦日の直前、青木に取材をしたんで

すけども、「いまの日本の状況で数万ドルかけてマーカス・アウレリオを呼んで闘わせてくれるDREAMスタッフには本当に感謝している」と。「プロモーター、FEGにはそれほど感謝の念はない」らしくて、その理由は勝手に妄想してほしいんですけど（笑）。

青木にとってDREAMスタッフは「やれと言われたことをやる主従関係」であり「最初に担ぐと決めた神輿だから」という気持ちが強い。競技者だけの発想でやっていたら、とうの昔にUFCへ行ってるでしょう。

5年前にプロとなり、食うため、主従関係という点で青木真也はブレてはなかったんですが、どういうわけか、今回の試合後になって非常に雲行きが怪しくなっている。意味深な書き込みをして、あたかもDREAM離脱を匂わせてしまってるという。これはいったい何が起きているのか——？

これは負けたことがショックで言ってるわけじゃなくてですね、ここまで話した青木真也の道程を見てると、ボクにはいままで支えてくれたDREAMスタッフと何か見解の相違があったんじゃないのかなというふうに見えるんですよね。

試合後の青木真也に何が起きたのか。そしてどこへ向かうのか。多くのファンが望む結論は……。

青木にかぎらず、この空白の期間でいろんな物事が動き出す可能性はある

長谷川社長のツイッターを読んでも、そういうふうにしか見えないというか、長谷川社長がなんて書いていたかというと、ちょっとうろ覚えになっちゃうんですけども、「人目にさらされる商売だから何を言われるのもかまわないんだけども、それを言ってはいけない人がいるはずだ」と。これが誰かって考えると、主催者側しかないですよね。

たとえばマッハ戦もメレンデス戦もプロとして食うため、主従関係を貫くためにやったこと。だから負けても悔いはないというか、スタンスに変わりはないんです。それが今回だけは違った。

試合後に何かあったんじゃないのかなっていうふうに読めますよね。普通にそう見えちゃいますよね、長谷川社長と青木のツイートを読むかぎり。

もしお手元に12月発売号の本誌があれば青木真也のインタビューを読んでください。そして年明けのツイッターやブログ等と読み比べてください。この温度差たるや……。

そして青木はたとえ負けても試合後すぐに練習を再開する選手なんですけど、今回は練習を再開したって話が聞こえてこないんですよね。

そういうなかでもう一つ。これは昼間のツイキャスでもしゃべりましたけど、DREAMの興行日程がまだ発表されてないですが、FEGが体制を刷新することもあって、空白の期間が出てくるはずなんです。早くても再開は4月から、もしかしたら半年近く空くんじゃないかっていう声もあります。たとえば青木に「DREAMで復帰戦の舞台を用意します」というオファーをしたとして、DREAMは明確な提示はできないんじゃないのかな。それこそ「食うか、食わないか」の話でいうと、まあ、それは青木真也にかぎ限らずですけど、この空白の期間でいろんな物事が動き出す可能性もあると思います。

じゃあ、ちょっとここで質問等を受け付けます。「青木はUFC行きを決意したと思いますか」。いや、今後のことが白紙なだけでUFC行きは決意してないでしょうね。

「宮田選手も海外移籍を匂わせたのも気になります」。海外移籍というか、日本でいつ闘えるんだという話ですね。

「青木とFEGの契約期間はまだ残ってるんですか」。FEGとは契約してないんじゃないですか。でもあるとしても、主催者側が試合を組まないと契約不履行になってしまいますし……。

「青木も言いたいことがあるでしょうが、DREAM側も言いたいことがあるでしょう」。まあ、どっちの言い分が正しいとか正しくないとかいう話じゃなくて、青木とDREAMというのはずっと信頼関係で結びついてきた。もしかしたら大晦日後に何かすれ違いができてるのかもしれない。青木はこの5年間、「食うため」「スタッフとの信頼関係」をモチベーションにずっと闘ってきましたが、僕は正直、その動機が先走りすぎて、廣田戦くらいからファンには非常にわかりづらかったんじゃないかって思いました。

で、その二つが微妙なバランスになったいま、2011年の青木真也はどう見えてくるのか。いろんな意味で楽しみだったりします。まあ……いままでどおり変わってない可能性もあるわけですが（笑）。

【11年1月6日／ツイットキャスティングで配信したものを再構成】

DREAMの新エースはコイツ!?

んあ〜!!

今年のテーマはヘビー級です!!

去年のことは忘れたいFEG代表

谷川貞治

2010年は日本格闘技界にとって過酷な一年だった! 谷川さんにとっても「非常に苦しい一年だった」らしく、あんまり振り返りたくないみたいだがそんなわけにはいかな〜い! 大晦日を総括してもらったよ!

構成/ジャン斉藤

青木vs自演乙は「神が降りた！」っていう感じがしました

――あけましておめでとうございます！

谷川　おめでとうございま～す。今年もよろしくお願いしま～す。

――とはいっても、今日のインタビューは昨年の『Dynamite!!』のことをおうかがいしたいんですけど。

谷川　えぇ……？　まだしてなかったっけ？　もう忘れちゃったよぉ。

――まだ大晦日から2週間も経ってないですよ（笑）。

谷川　もう今年は今年だから……。

――んあ～！　何を言ってるんですか！

谷川　そうだねぇ。おもしろい大会になったなあと思ってますけど。

――さいですか（笑）。まずは戦意喪失により試合を欠場したボブ・サップのことから。アレはいったい何があったんでしょうか。

谷川　あんまりよくは知らないけど、サップが直前になって「試合に出ない」って言いだしたんでしょ。

――会場には来てたんですよね。

谷川　会場にはいましたよ。

――前日までそんな気配はなかったわけですよね。

谷川　前日まではね。「売店で俺のグッズが売られてるけど、ロイヤリティが払われてない」とか言ってたらしいし（笑）。もちろん払ってるし。

――ファイトマネーの問題ですか？

谷川　お金の問題は前日に解決してるんでまったくないですけど。なんだかよくわからないねぇ、ボクは。

――誰がボブ・サップと交渉してたんですか？

谷川　もともとIGFさんですけど、FEGもいちおうアテンドしてましたよ。だからIGFさんとFEGの両方ですね。

――もしかしたらサップはこの試合はガチンコでやると思ってなかったのかもしれませんね。「IGF特別ルールならプロレスじゃないの？」っていう。

谷川　そういう憶測をみんなしてるよね。ボクらは最初から「大晦日は格闘技のイベントだから、格闘技の試合で」っていうお願いはIGF側にもしてるし、IGFさんもそのつもりでしたけどね。

――じゃあ、サップとIGFのあいだでそこの合意は果たされてなかったということですか？

谷川　そこはボクはわからないです。

――なるほど（笑）。IGFさんの考え方って基本的にプロレスと格闘技の境目がないじゃないですか。

谷川　ないない。

――だからサップに詳しく伝えなかったのかなって。それで現場に来てから「話が違う」っていうふうになった。

谷川　でも、いずれにしてもサップ本人の資質の問題でしょう。ボクはやるべきことはやったし……。

――さわりたくないし、興味もない、と。

谷川　うん。ボブ・サップ自体に興味もないし。「何をしてんだろ？」って感じで。前日会見のときに会って「元気？」って話して、大会翌日にホテルでバッタリと会ったときも「なんで試合に出なかったの？」って聞こうと思ったけど、英語もわかんないし、聞いてもしょうがないから「ハッピー・ニューイヤー、グッドラック！」とだけ言った。

――あと青木真也の試合が物議を醸しましたけど……こっちもさわりたくない感じですか？（笑）。

谷川　んなことないよ。今回の大晦日はカード的にインパクトがあるものがそんなにないなかで、青木くんと自演乙の試合は大晦日らしい賛否両論のあるものになったんですけど、あの試合が一番「神が降りた！」って感じがしましたね。

――神が舞い降りましたか（笑）。

谷川　「こんな展開はない！」っていうくらいの神が降りた内容ですね。あの試合、『YouTube』で視聴数が60万回を超えてるんでしょ。ちょっと凄いよね～。

――あの魔裟斗が解説席で大興奮してましたもんね。

谷川　ああ、それ印象的だった！　魔裟斗くんもおもしろかったねぇ。魔裟斗くんって他流試合になると俄然、燃えるんだよ。

――京太郎選手がK-1ルールでムサシに負けた直後だからよけいに力が入ったですしょうね。

谷川　魔裟斗くん、京太郎とか大和（哲士）に対してメチャクチャ怒ってたからね。「K-1をナメられたら、オレがナメられてる気がするんですよね」っていう。

――まあ、あの興奮ぶりは視聴者にはいいスパイスになったのかもしれないですね（笑）。谷川さんは青木真也の1ラウンドの戦法ってどう思われました？

谷川　逃げるとは思ったけど、あそこまでとは思ってなかったですね。ボク、青木くんってもっと立ち技できると思ってるから。でも青木くんらしいなって。へんな話、ある意味、あの試合を作ったMVPですよね。裏MVPですよね。

――この試合のルールはどういうわけか直前まで決まらなかったですよね。なぜ立ち技のラウンドもオープンフィンガーグローブ着用になったんですか？

谷川　ボクは、ルール問題にあまりタッチしてないんだよ。あの試合にさわってないもん。

――主催者としてどういうふうに聞いてるんですか？

谷川　いや、いろいろあったんじゃないの。ボクは基本的にミックスルール賛成派なんです。だけど、ミックスルール反対派もけっこういて、そのなかで喧々諤々の議論があったみたいですけど。

――誰がどういう理由でこのルールを主張したのかわからないですけど、エンターテインメントとしてあきらかにわかりづらくなりましたよね。

谷川　あの試合が終わったあとも「何をやってるのかよくわからなかった」っていう声はありました。

――しかし、マッチメイクする前にルール問題を解決してほしかったというか……。

谷川　ミックスルールは難しいねぇ。反対派の声としては「どうせやるんだったら自演乙にDREAMルールでやらせたり、あるいは青木にK-1ルールでやらしたほうがいい」と。それがやっぱりDREAMとかK-1の価値を高めるという。

――それに比べるとミックスルール

青木vs自演乙の神がかった内容に大熱狂状態に陥った実況席（速報号で完全再録）。いますぐどこかで地上波放送分をゲットしてチェックしたほうがいいよ！　マーくんがとにかく最高！

「ヘビー級」「非ワンマッチ」「無名の本物の時代」を大晦日に感じたなあ

は曖昧すぎる、と。

谷川 あとはグローブの着け替えに時間がけっこうかかったりするから、でもまあボク、ホントにそこね、関わってないんですわ。

──青木真也は試合後にDREAM陣営といろいろあったらしくて、今後のことはいっさい白紙ということになってるみたいですけど、何があったかご存知ですか？

谷川 いや、なんにも聞いてない。でも、現場の人は大変ですよ。ボクはもう「いい試合でした」で終わりだったけど。大晦日ってファイターの魂がきちんと見せられることが重要だよね。そういう意味では自演乙はMVPだよね。ホントにいい魂が見せられた。ボクはツイッターでも書いたんだけど、よかったのは古木（克明）と渡辺（一久）と自演乙、この3人がずば抜けてよかったですね。あとはアリスターとハリトーノフがよくて、ゲガールとウィッキー、ジェロムも悪くないと思いましたね。逆に石井（慧）選手は根本の姿勢としてはお客さんと闘ってないよね。

──自分をどう見せるかっていうところでですか？

谷川 そうだねぇ。じゃなかったらバンナとは闘わないでしょ。

──ほかにどんな対戦候補がいたんですか？

谷川 ボクが組みたかったのはヒョードルかアリスター。

──石井vsヒョードルの噂はありましたね。

谷川 ヒョードルを呼ぶにもハードルはあったんだけど。あとはまあヴァンダレイ・シウバみたいなタイプですね。メルヴィン・マヌーフみたいな。で、現実的な候補になったのがチェ・ホンマンとジェロム。ホンマンは肉体的にも精神的にもいまは闘えないからバンナしかいなかったですけど。

──だったら石井選手も選びようがないような……（笑）。

谷川 まあそうなんだけどさ。でもヒョードルとアリスターと闘うという選択は石井選手にはないでしょ。

──「まだ自分はそこまでのレベルの選手じゃない」っていう意識が強いんでしょうね。

谷川 だからそこも含めて、お客さんと闘うという意識はないよね。かならずしも勝つことや極めることが大切じゃないから。

──で、今回の平均視聴率が9・8パーセントと大晦日格闘技史上初めて一桁を記録しました。

谷川 10パーが目標で、できたら12パーぐらい取りたかったけどね。微妙な数字ですよね。凄い微妙。こういう数字が出て感じたものは何かっていうと、一つは「これからはヘビー級の時代だ」っていうことだね。

──それは「わかりやすさ」を追求したいということですか？

谷川 うん。今度ストライクフォースがヘビー級のトーナメントをやるみたいだけど、日本でもあういう企画を先に実現しなきゃダメだなって。あとは「ワンマッチの時代じゃない」っていうこと。ワンマッチをやるには、ワンマッチをやるための玉が必要だもん。

──正直「これが観たい！」と思わせるカードがないですよね、いまの日本には。

谷川 なんのために闘っているのかわからない。だからいまは競技性を前面に押し出した無名の本物を作り出す時代ですよね。箱根駅伝を観てもそうじゃないですか。多くの視聴者はランナーの名前を知らないし。でも、知らない学生でも大会の意味がわかって本物なら数字は獲れる。「ヘビー級」「非ワンマッチ」「無名の本物の時代」。大晦日にこの3つを感じたなあ。

──「無名」の必要性はどこから感じたんですか？

谷川 だから「有名」がいないんですよ。それなのに「有名」で視聴率を獲ろうとしたって無理があるよね。

──限界があるでしょうね。

谷川 いまは曙やボビー・オロゴンという「有名」は探してもいないんですよ。

──朝青龍ぐらいですよね。

谷川 そう、朝青龍しかいない。でも、K−1WGPなんか13パーセントっていういい視聴率を獲ったけど、バダ・ハリやアンディ・フグもいない。「ヘビー級」で「非ワンマッチ」で「無名の本物」だから盛り上がったと思うんだよね。

──でも、それはTBSの路線とは相容れないところがあるんじゃないですか？

谷川 TBSさんはどこまで理解してくれるかわからないです。でも、たとえばタレントを出すとか、朝青龍を出すとか、それが実現可能だったらいいですけど、そういうスペシャルなものがないんですよね。

──谷川さんがおっしゃる要素を取り入れると、現実的にはどういった手段になるんですか。ヘビー級はアメリカが中心になっちゃってますし。MMAのトーナメントっていうのは、けっこう厳しい状況じゃないですか。

谷川 とにかくなんとかしなきゃいけないね。まあ、チャンピオンシップでもいいけどね。

──一つのスポーツとして、今回、青木選手や京太郎選手ってかなりの代償を払ってしまったような気がするんですけど。

谷川 払ったね。

──そのへんはどうお考えですか？

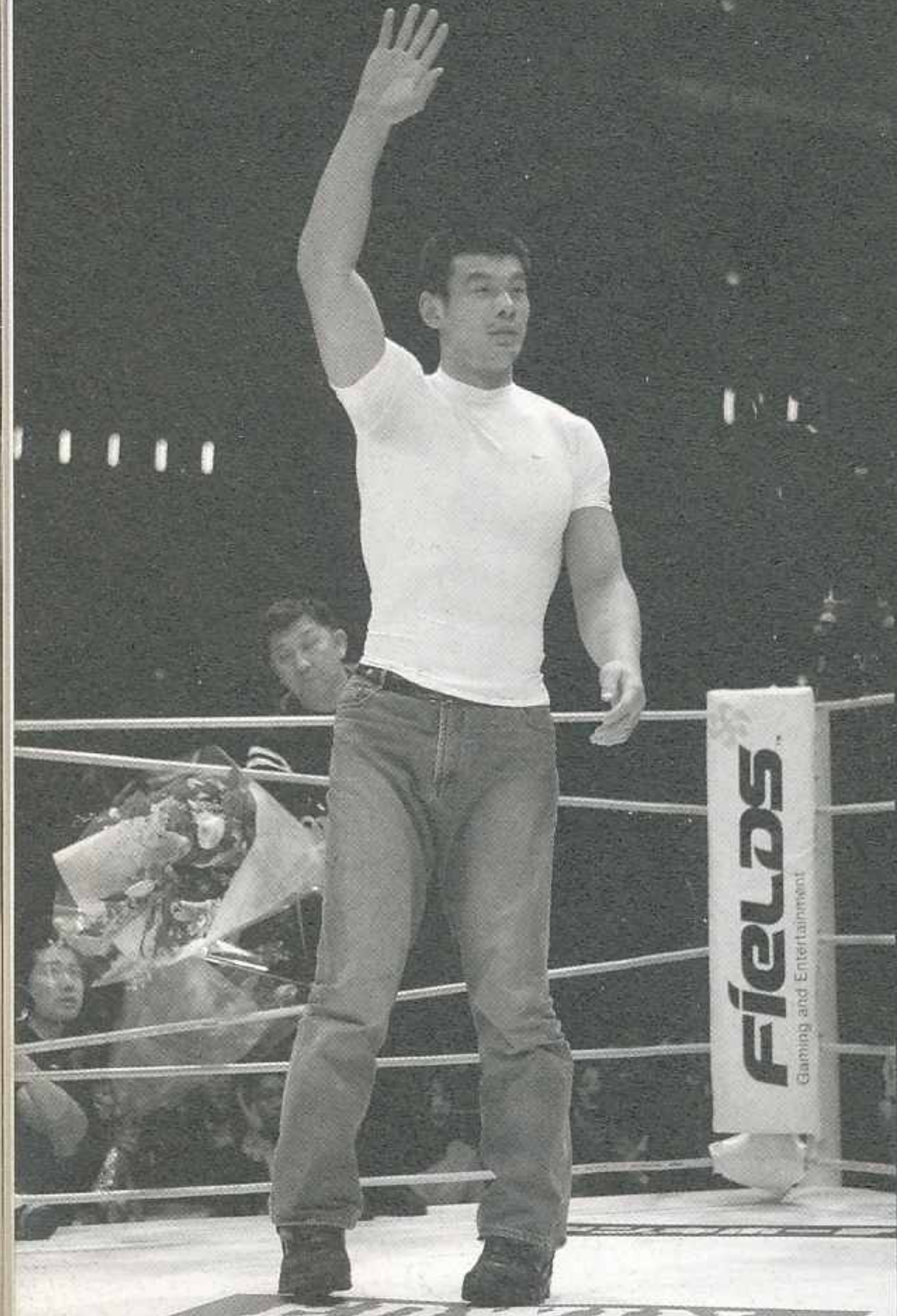
谷川 いや、払ったと思います。だけど、リスクがあるからおもしろいし、大晦日らしいインパクトがあるんで。

──まだ青木は良くも悪くもインパクトを残してみんな話題にしてますけど、京太郎選手は……。

谷川 うん。

──チャンピオンが負けてるのにそんなには話題になってない。

谷川 そこがいまの京太郎の現状の人気とか器ですよね。大和もそうですよ。

──そのリスクがファンに伝わってないような気もするんです。「お祭りだからいいや」ですまされてしまって。

谷川 だからそこが、魔娑斗くんじゃないけど腹が立つところだよね。ジャンルを背負っていけないですよ。

──いま制限が多いK−1ルールが選手を弱くしてるところってないですか？

ストライクフォースのヘビー級GPにエントリーしたアリスター。前年王者としてK-1WGP参戦ははたせるのか……。

谷川　そこはちょっとわかんないけど、反省しなくちゃいけないかもしれないね。K-1という競技の枠のなかで強いだけなんだよね。だからウィッキーみたいな変則系にやたら戸惑うもんね。

ーーK-1ルールっていう枠内での強さを追求しちゃってるっていう。

谷川　そうそう。相手も同じスタイルだったら合うけど。だから逆に言うと、魔裟斗くんは他流試合になるとメチャクチャ神経質になるからね。絶対に負けちゃいけないってことで。でもまあ、今回はちょっと客観的に観ちゃったけど、イベントとしては去年よりはちょっとスッキリしてんだけど。

ーーそ、そうですか……？

谷川　いや、だから50点と予想してたら75点の出来になったというか。一昨年は100点が60点ぐらいになっちゃった感じがしたもん。

ーーああ、なるほど。期待値の問題ですね。

谷川　そう。石井vs吉田（秀彦）を入れて、苦労して対抗戦やったけど、大会中に揉めるわ……。

ーー何を揉めたんですか？

谷川　詳しくは言えないけどさあ。その対応をしてたからそんなに試合も観れていないし。

ーーえ〜っと、今年は気楽に観れたってことでしょうか（笑）。

谷川　そうかもしれないね。気楽ではないんだけど、「あ〜、これ50点ぐらいだな」っていうマッチメイクを組んだときに、でき上がったのが75点ぐらいに見えたから。なんか年々マッチメイクが難しくなってきてるなあ……。やっぱりいまはヘビー級中心のわかりやすいMMAだね。とくに大晦日みたいな大会のときにマニアックなMMAって観ないよね。

ーー観ないんですけども、現在進行形のMMAを考えたら高谷vsビアーノとか川尻vsトムソンってのを組まざるをえないですよね。

谷川　そこが難しい！

ーー谷川さんがおっしゃってるものは現実的に可能なんですか？

谷川　いやいや、やるべきだよね。
「やるべきだよね」って（笑）。

谷川　いまMMAに関してはDREAMのスタッフに任してるから。それを実現できるようにするのがボクの仕事だよね。資金面にしてもなんにしてもそうだけど。

ーー今年の地上波中継の話はどうなってるんですか？

谷川　これからの話。

ーー『Dynamite!!』の契約は……。

谷川　毎年一年ごとの契約ですよ。

ーーこの結果を受けて条件面等を見直すことはあるんですか？

谷川　もちろん、それはあるでしょうね。

ーー『Dynamite!!』、今年の開催はあるんですか？

谷川　テレビの中継がないんだったらやらないですよ。ただ、続くことは続くと思いますよ。厳しい時代にはなるけど、続くことは続くでしょう。それはフジテレビもTBSも一緒だから。これは何年か前から言ってんだけど、テレビ依存型の格闘技はもう難しい時代ですよね。

ーー興行日程の発表はもう少し時間がかかりそうですか？

谷川　あと1カ月ぐらいかかりますね。もうちょっと会社をビシッとしないと。体制を立て直して。ボクはめちゃくちゃ働いてるんだけど、3月までは外見的には冬眠状態にしとこうかなと思って。

ーーなるほど。どういう体制になるんですか？

谷川　いまのFEGではないですね。まったく違う体制ですね。

ーー違う会社になるんですか？

谷川　そうそう。

ーーFEGは解散するんですか？

谷川　解散するかどうかはわからないけど、新しい体制でやります。

ーーそれはPUJIとの絡みもあるわけですか？

谷川　そうですね。近々、発表します。

ーーいままでのFEGのスタイルと変わるわけですか？

谷川　K-1に関しては海外が多くなりますね。

ーー海外主体になる、と。

谷川　うん。WGPの決勝戦はやっぱり東京でやりますけど。

ーーDREAMはどうなりますか？

谷川　DREAMも開催は4月ぐらいからですね。DREAMはホントに凄いテコ入れをしないとダメでしょうね。ボク個人はヘビー級をやるべきだと思いますよ。65キロとかあのへんをもう一回やってもいいかもしれないですけどね。……今年はボクはやるよ！

ーーなんで自分に言い聞かせるように（笑）。

谷川　いやいや、今年は凄いやる。去年は苦しかったなあ。ホントに苦しかった。よく乗り越えられたと思う。だから今年はホントにいい年になると思うなあ。たぶん、メチャメチャいい年になると思う。

ーー不安になってるファンもたくさんいますので、よろしくお願いします！

谷川　そうだね。去年一年間、ファイターとか業者とかファンに迷惑かけたんで。ただ、精一杯頑張ったんで、なんとかなったとは思うんだけど。今年はプロデューサーとしての仕事をバンバンやりますよ。ホントね、無名の本物をいかに出すかだよ。とくにいまは消費されるのが早いから、有名より無名の本物のほうが有利だと思う。たとえばリュウ・トクリみたいなヤツ。

ーーちょっと待ってくださいよ。「無名の本物」がリュウ・トクリですか（笑）。確かにヘビー級だけど。

谷川　イメージ、イメージ。ちょっと例が悪いかもしれないけど、DREAMに出てたブラジルのワニの人……。

ーーホナウド・ジャカレイ。

谷川　ジャカレイとかビアーノみたいない選手じゃないんだよね、いま求めてんのは。もうちょっとスケール感があって、無名だけどメッチャメチャ魂が見せられる選手。

ーーふうむ……。

谷川　それでハートフルなヤツ。

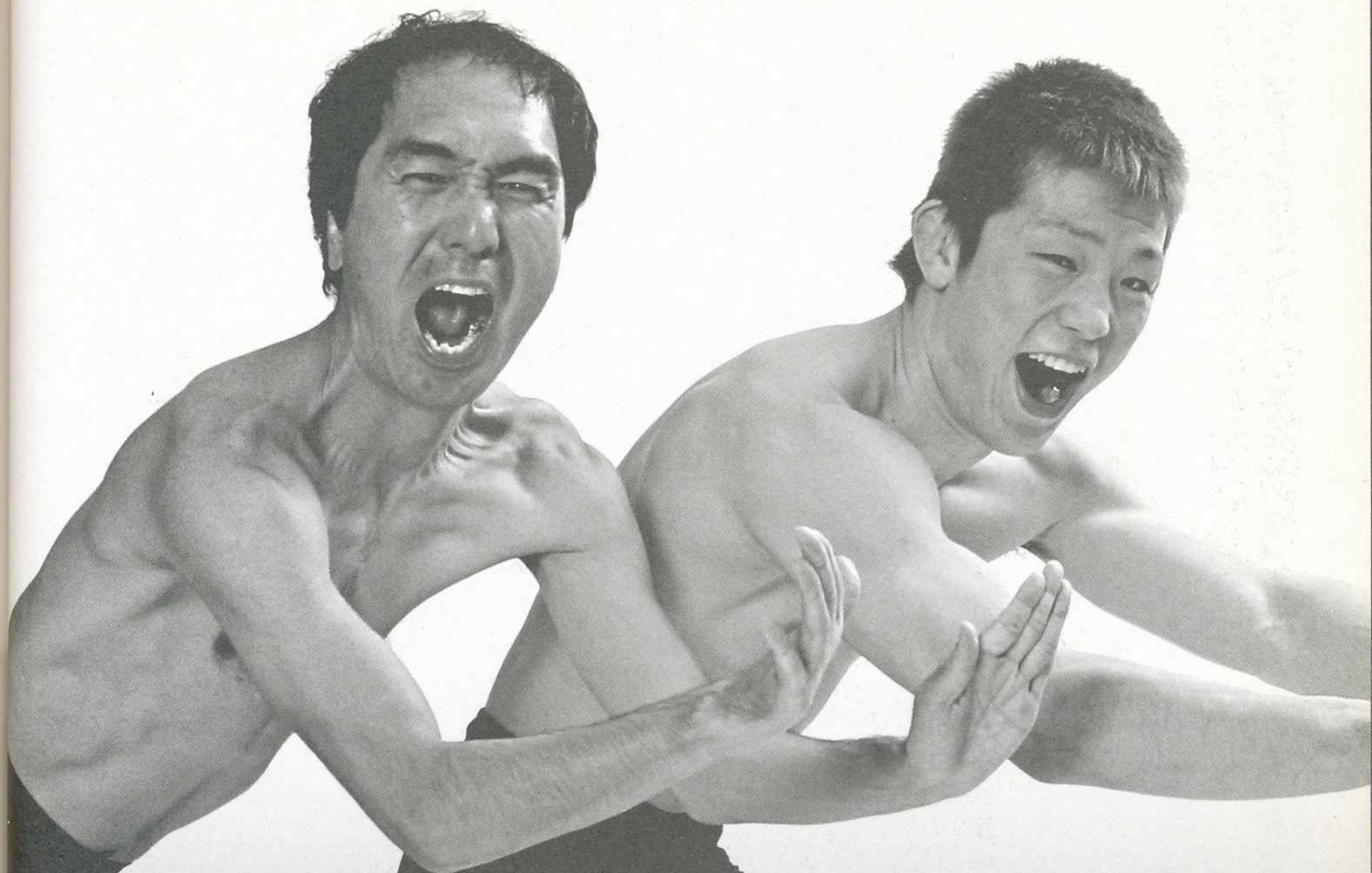
ーー抽象的ですね（笑）。

谷川　そういうヤツを使っていきたいなあ。

ーーとりあえずDREAMの新エース、リュウ・トクリに期待してます！（笑）。

【11年1月7日／都内・某所にて収録】

この男こそがSRCの秘密兵器リュウ・トクリ！　中国レスリング界の大物である。SRCの会場で自分の服を切り裂き「強いヤツと闘わせろ！」と叫んだり、ミノワマンvsソクジュ戦の花束贈呈を務めたりしているが、本誌以外の媒体で注目されている気配はない……。

ワンクールのレギュラーより一回の伝説!

青木真也は格闘技界の江頭2:50だった!
年末年始大総括変態座談会

年が明けてもなかなかおとそ気分が抜けない変態メンバーが、今宵も『加賀屋』中野坂上店に集結!
青木が失神KO負けし、五味は一本負け、変態にとってはまさに前途多難ともいうべき幕開けとなった2011年。
俺たちはどうしたらいいんだ〜! と、酒を飲みながら語り合いました!

構成/堀江ガンツ

放送席の魔裟斗さんから汚い言葉が飛んだりするところが最高だった！

ガンツ　新年一発目の変態座談会ということで、変態新年会として行なわせていただきます！

玉袋　じゃあ乾杯といきてえところなんだけど、俺まだ〝初日の出〟を見てねえんだよ。

椎名　夜遅くまで飲んでて、朝起きれなかったんですか？

玉袋　いや、今年は正月から〝五味の勝利〟という御来光を拝めるかと思ってたんだよ。でもさぁ……雲っちゃったな……。

ガンツ　スカ負けしちゃいましたもんね。

玉袋　格闘技界にとっては暗雲立ちこめる2011年のスタートだよ！

椎名　でも大晦日も含めて、衝撃的なことが続いたよね。

玉袋　とくに青木の試合っつうのはよ、いろいろと波紋を投げかけてるよな。

椎名　でも、青木はさすがだよね。毎年毎年、何かを起こしてくれるもん。

ガンツ　勝っても負けても物議を醸しますよね。

玉袋　醸すなぁ……醸すものがあるんだけどよう。

椎名　そこは凄く偉いな、さすがだなって思う。だって、今回の大晦日、青木が失神しなかったら何もないよ!?

ガンツ　そこまで言う（笑）。

椎名　その前の大晦日だって骨折るまでやってよかったよ。

玉袋　さすが椎名先生、反社会的なこと言ってくれるねえ（笑）。青木も中指立てたり、逃げ回ったり、骨法の浴びせ蹴りみてえのやったり、いろいろやってんだよな。

椎名　放送席の魔裟斗さんから汚い言葉も飛んだしね。ああいうところが最高！（笑）。

ガンツ　魔裟斗解説は最高ですよね（笑）。

椎名　青木が負けて「チョー気持ちいい！」「バチが当たった」だもん。最高でしょ？

玉袋　解説であんなフレーズはないよ。あれ、格闘技実況史上初じゃねえか？

ガンツ　『S1』のキャスターやってる魔裟斗に魅力は感じないけど、あの放送席の魔裟斗は素晴らしいですよね。

椎名　『S1』の魔裟斗って、『プロ野球ニュース』に出てた、一番ダメな頃の高田（延彦）みたいだもん。中途半端に野球の話したりさ、全然ダメだよね。それが一気に好きになった！

ガンツ　『プロ野球ニュース』の高田から、一気に高田総統になったような（笑）。

椎名　「なんだ、やっぱおもしろいやつじゃん」みたいな感じで。

玉袋　魔裟斗もいろいろ溜まってんだろうな。それが爆発したんだろう。

ガンツ　では、そんな魔裟斗の魅力も爆発した『Dynamite!!』を振り返っていこうと思いますけど、玉ちゃんは現地で観戦したんですよね？

玉袋　もちろん「行くしかねえだろ」ってことで行ったよ。でも、椎名先生は……？

椎名　地上波の録画のほうで、早送りまで使って観させていただきました（笑）。CMカットもできて、便利便利。

玉袋　ちょっと椎名先生、「CMカット」なんて言っちゃいけないよ。大事なスポンサー様なんだから。そういうこと言ってると、『トゥナイト2』の乱一世になっちゃうから。

椎名　「CM中にトイレに行け」とか言っちゃいけませんね（笑）。

ガンツ　でも椎名さん、今回地上波は2時間半番組で、放送されない試合もたくさんあるんだから、ちゃんとPPV買ってくださいよ。

椎名　えぇ～っ！　だってPPVって生放送じゃないんだよ。それを俺に買えっていうの？　3000円も出して年が明けて観るのはつらいよ。ハードディスクの残量だって足りないんだから。『ガキの使い』だって6時間も録っちゃったし。

玉袋　そりゃ足りねえよ。『年忘れにっぽんの歌』も録るんだから。

椎名　俺だって『Dynamite!!』観たいんだよ。MMAの大ファンなんだから。川尻もマッハも観たかったよ。でも、年明けてから3000円はないよ～。

玉袋　そこだけはドン・キホーテ価格にしろ、と。

ガンツ　30日のSRCもPPV3000円ですからね。

玉袋　その価格は〝激安の殿堂〟ではねえな。まあ、試合数は28試合とかなりの〝圧縮陳列〟だったみたいだけど。

ガンツ　でも、会場内はけっこうゆったりとしたスペースがありましたけどね（笑）。

玉袋　広々としてて。そりゃ、火事の心配がなくていいや。

ガンツ　それはともかく、玉ちゃんは『Dynamite!!』にはまた息子さんと行ったんですか？

玉袋　いや、毎年セガレと行くのが楽しみだったんだけどよ、今回は熱出しちゃって行けなかったんだよ。でも、一人で観るのも寂しいじゃん。

椎名　そりゃそうですね。

玉袋　だから今年はちょっとキレイどころを誘って、両手にダイナマイッ！みたいな感じで行ったんだよ。

椎名　いいですね～！

椎名基樹
1968年4月11日、静岡県出身の42歳。本誌の好評長寿連載コラム『サムライ三昧』でもおなじみ、変態座談会癒しの重鎮。構成作家、放送作家。血なまぐさい闘いや、衝撃の結末が大好き。

玉袋筋太郎
1967年6月22日、東京都出身の43歳。子どもの頃から蔵前国技館に通った変態プロレスエリート。毎年大晦日はプライベートでさいたまスーパーアリーナへ行き『Dynamite!!』観戦を続けている。

堀江ガンツ
1973年9月14日、栃木県出身の37歳。変態座談会主宰者。子どもの頃から変態的プロレスファン&格闘技ファンとしてならし、UWF研究家を自称。「今年のベストバウトはRENAvs品川に決まり」。

オープニングの猪木さんの鼻たらしは『元気が出るテレビ!!』の島崎俊郎並みだよ！

玉袋 ところが、それがカミさんにバレて、新年早々たいへんよ。

一同 ダハハハ！

玉袋 なんでバレたかっていうと、女がファーのついたコートなんて着てきちゃってよ。俺も服にファーの毛がいっぱいくっついちゃってんだよ。で、カミさんが「ファーがついてる。何かあったの？」だって。

椎名 それでバレたんだ（笑）。

玉袋 でも、こっちはトボけてたんだよ。「なんで毛がついてるか、わかんねえ」とか言って。ところがよ、『Dynamite!!』をビデオであらためて観てたら、青木がKOされた瞬間、客席で立ち上がってる俺の姿がバッチリ映ってたんだよ。それで「おう、映ってるよ」なんて言ってたら、一人で観に行ってるはずなのに、隣に女が座ってるところまで映ってるんだよ。

一同 ダハハハ！

玉袋 それで完璧にバレた。ハイビジョン恐るべしだよ！

ガンツ では、読者もみんな『Dynamite!!』のビデオを見直さないといけないですね（笑）。

玉袋 青木がKOされたとき、画面右上で一人立ち上がって頭を抱えてる変態がいるから。それが俺だよ。でも、ニコニコ動画とかでアップすんなよ。どうせ「玉袋とキャバ嬢キタ――ッ！」とか書かれるんだから。

椎名 でも、キレイなお姉ちゃんと大晦日に格闘技観戦なんてうらやましいですよ。

玉袋 いや、だから楽しかったんだよ。俺、焼酎一本持っていったから、客席で水割り作ってもらっちゃったりね。ただ、会場の雰囲気がなんか昔と違うんだよな〜。変態率がかなり低かったと思うよ。

椎名 招待券とかも多かったんですかね。

ガンツ オープニングの猪木劇場から微妙な空気でしたよね。

玉袋 だってオープニングで猪木が鼻たらしちゃってんだもん（笑）。

椎名 「元気ですか――ッ！」って叫んだ瞬間に大量の鼻水がたれるんだよね（笑）。

玉袋 あの世の百瀬さんが見たら、「このアントンの鼻ったらし！」って言ってるよ。あの人の口癖だったから。

ガンツ あんな見事な鼻たらしは梅図かずおの『まことちゃん』以来ですよね。

玉袋 それか『元気が出るテレビ!!』での島崎（俊郎）さんのバンジージャンプね。

ガンツ 「おかあちゃ〜〜ん!!」って泣き叫びながら飛び降りたやつ（笑）。

玉袋 あのときと同じくらい鼻水が出てたよ。

椎名 でも、大晦日は青木の失神と猪木の鼻水が二大インパクトだよね。

玉袋 ダブルインパクト。それでいいのかって話もあるけど、まともに言ったら大晦日は青木につきるんじゃねえか？

椎名 終わってみれば、青木しか印象に残ってないもんね。

玉袋 だからよ、ミックスルールって発表されたとき、「いまさらなんでミックスなんてやる必要あるんだ？　玉袋筋太郎vs中井りんのミックスドマッチならいいけど」って思ってたんだよ。でも、ああいう大番狂わせもあるから、おもしれえっちゃおもしれえんだよ。

椎名 ましてやMMAのラウンドに入ってすぐそれがくるか〜、っていう。

ガンツ 魔裟斗、須藤元気だけじゃなく、会場全体が大興奮でしたもんね。

椎名 だから、いつも話題を作って「青木は偉い！」って思うんだけど、それが青木だけの爆発でしかないから、あんまり広がりはないよね。

ガンツ 青木が自分で築いてきたものを一気に壊すという、ある意味、〝自爆芸〟を観て盛り上がっているというか。

玉袋 だから青木は江頭（2：50）なんだよな。前はロングタイツだったしよ、なんかエガちゃんっぽいんだよな。「ワンクールのレギュラーよりも一回の伝説」というね。

ガンツ どちらもなかなかテレビじゃ扱えない素材ですよね（笑）。

玉袋 だけどどっちもマニアは観たいんだよ。エガちゃんだって。エガちゃんと青木は昔、『kamipro』で対談もやってたけど、やっぱり何かを呼んじゃうのかな。

椎名 どっちも最高ですよ。

玉袋 でも、江頭はともかく、青木はこの負けで奈落の底まで行っちゃってんじゃねえかって感じがするよ。株価大暴落でメレンデスと再戦する機会もなくなっちまったんじゃねえか？

ガンツ かなり厳しいですよね。

玉袋 これを取り戻すのはたいへんだぜ。PRIDEの頃は隔月興行だったから、負けてもすぐにリカバリーできたんだよ。ミルコだってランデルマンに負けたあと、連勝で這い上がるストーリーがあったわけだからさ。でも、いまのDREAMは大

『Dynamite!!』のオープニングに袴姿で登場したアントンは巨大な筆で「決」の字を書き、「元気ですか――ッ!」と咆哮。その瞬間、見事なまでの鼻水が飛び出す瞬間が、テレビ画面いっぱいに映し出されたのだった。

会がどうなるかも、テレビ放送がどうなるかもわかんねえんだから。青木の負けを中和できる機会がねえんだよな。

ガンツ　自演乙と再戦して勝ったところで、なんの意味もないですしね。

椎名　でも、なんでFEGってそういうことばっかかするわけ？　他流試合みたいなのやっても、なんにもつながってないよね。武田幸三だってかわいそうなまま引退したわけだし。

ガンツ　選手が価値を落とすという犠牲のうえに、一瞬の盛り上がりがある感じがしますよね。

玉袋　大晦日一日のために青木を落としちゃうんだからな。それはあるよ。

ガンツ　また今回の青木vs自演乙戦は、裏の攻防もあったようなんですよね。

玉袋　それをちょっと教えてくれよ。

ガンツ　最初はMMAとK－1の「ミックスルール」っていう話だったじゃないですか。それが「K－1」じゃなくて「キックボクシングルール」っていう呼び名で、「ミックスルール」じゃなくて、「DREAM特別ルール」という呼び方になってたんですよ。

椎名　それ、なんの意味があるの？

ガンツ　要は自演乙が負けたときのために、K－1を傷つけないために、あくまでも「DREAM特別ルール」で負けただけってことにするためと言われてますね。

椎名　そんな小さなことなの!?　でも、キックルールなら首相撲もOKじゃん。

ガンツ　いや、呼び方は「キックボクシングルール」なんですけど、実際はつかみ禁止の「K－1ルール」なんですよ（笑）。

玉袋　それでネットは炎上してるんだよな。「青木のクリンチや首相撲は全部反則だ」って。

椎名　キックルールなのに首相撲禁止であるほうがおかしいじゃん。世の中の連中はホントにバカだね（笑）。

ガンツ　なんでこうなってしまったかというと、今後のDREAMやK－1がどうなるのか、先行き不透明じゃないですか。そんななか、裏の権力闘争が始まっちゃってるって聞きましたけどね。

玉袋　また始まっちゃったか。

椎名　でも「K－1を傷つけちゃいけない」ってどういう意味？　K－1の選手を簡単に負けさせたくないってこと？

ガンツ　自演乙はMAXの顔ですからね。他流試合での勝敗がのちのちまで響くってことをよくわかってるんでしょう。

玉袋　そりゃ知ってるよな。正道会館っていうのは、他流試合で「常勝軍団」って呼ばれてのし上がってきたんだから。「常勝軍団」ってのは、言い方変えれば「勝ち逃げ軍団」のことだからね、あれ。

年末年始大総括
変態座談会

椎名　じゃあ、青木vs自演乙って、代理戦争みたいな感じでやらされちゃったんだ。

ガンツ　で、青木は青木でDREAMというか、旧PRIDEスタッフへの忠誠心があったじゃないですか。

玉袋　でも、それがわかりづれえんだよ。

椎名　何に対する忠誠心かわからないよ。

玉袋　ホントわかりづれえんだよな。これが、ヴォルク・ハンが「俺は前田の兵隊だ」って言うのは乗れるんだよ。

ガンツ　でも、青木に「俺は加藤さんの兵隊だ」って言われても困っちゃいますよね（笑）。

玉袋　ファンにとったら、「それ誰なんだよ」って話だしな。青木のそういう生き方も美しい部分ではあるんだけど、大輪の花を咲かせられない要因になっちゃってるとしたら悲劇でもあるよな。

椎名　日本の格闘技界って、昔からそういうの多いよね。

玉袋　多いよ。ミルコvsサップだってそうだったんだから。代理戦争的なことが試合の緊張感とかアングルにつながるのはいいんだけど、ファン不在になっちゃうと困っちゃうんだよな。

ガンツ　あとはこの青木敗戦がどう転がるか、ですよね。

玉袋　なんか物語がつながってくれねえとな。インパクトはあったんだから。俺も大晦日、青木の試合が終わったら、そのあとの試合を観る気力がなくなったもんな。

ガンツ　だから後半はあんまり盛り上がらなかったんですよね。

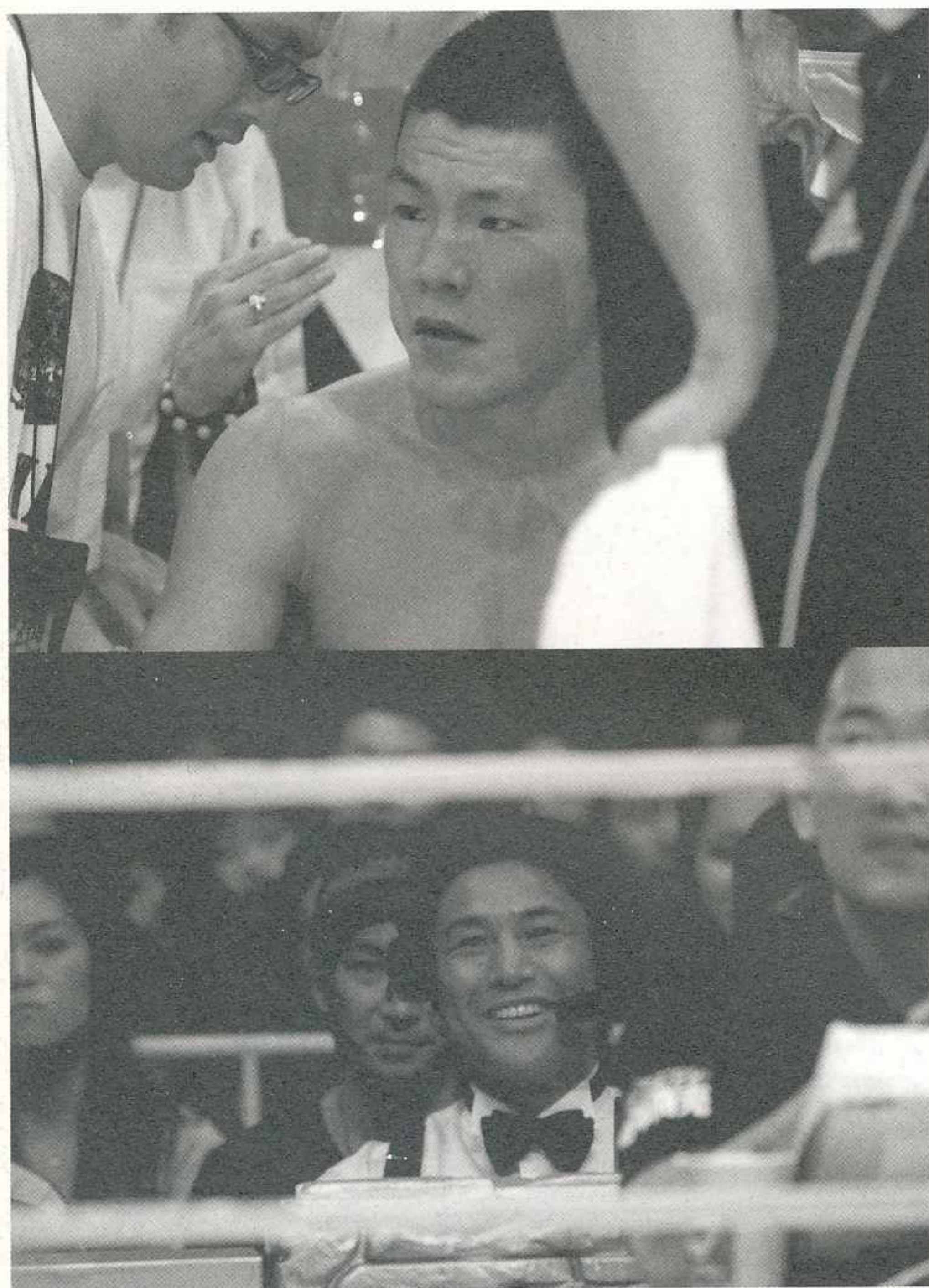
椎名　石井vsバンナも盛り上がらなかった？

ガンツ　会場では全然でしたね。

椎名　テレビで観るとわりとおもしろかったよ。バンナも強かったし、石井だって日本の歴代ヘビー級で一番強くなれるでしょ。

玉袋　だけどよ、石井はあれだけお膳立てしてもらってるのに、そのお膳に乗っかってねえんだもん。俺は期待してるからこそ、ガッカリ度合いも大きいんだよ。

椎名　石井はいまの時代に総合転向したのが不幸だよね。プロ野球の古木にしても、相当頑張って鍛えないと1年間であんなふうにできないよ。でも、頑張って強くなったところで、格闘技界自体が元気がないんだから、活躍のしようがないじゃん。

玉袋　「格闘技界のトップに立つ！」って言っても、UFCはどんどん先に行っちゃってるわけだしな。

まさかの失神KO負けに呆然とする青木真也。そして、青木vs自演乙戦の助演男優賞とも言ってもいい活躍をした魔裟斗の笑顔。格闘技には勝者と敗者以外にもこんなコントラストがあるのだ。

椎名　だって五味の闘いが古くさく見えたもんね。このあいだのメインイベント（エドガーvsメイナード）とか観ると、えらく差をつけられちゃったなと思ってさ。『Dynamite!!』のディレイ放送に3000円払うのはキツいけど、レスナーvsヴェラスケスみたいな試合だったら、その1試合で3000円くらい出しちゃうよ。

ガンツ　WOWOWは月2000円でUFCがだいたい2大会観られて、そのほかに映画もたくさん観れちゃうって、よく考えると超お得ですよね。

椎名　最高です。俺、元旦からWOWOW観まくってるもん。

玉袋　こりゃ、俺たちもWOWOWから金一封もらわねえと気が済まねえな。

椎名　あとストライクフォースもヘビー級のトーナメントやるんでしょ？　そこでヒョードルvsアリスターとかやったらどうする？　チョーヤバくない？

ガンツ　ヤバいですよ。さいたまスーパーアリーナでやってくれって話で。

玉袋　しかも、1回戦からヴェウドゥムvsアリスターをやらせるんだからな。

椎名　マジですか？　チョー観たい！

玉袋　そこにジョシュ・バーネットも出るっていうんだからよ。

椎名　たいへんなことになっちゃうよ！

ガンツ　それこそ日本でPPVやってほしいですよね。

椎名　やれば絶対に3000円払うのに。

ガンツ　もしやったら、浅草キッドがコメンテーターで、椎名さんが構成作家ということで（笑）。

椎名　俺、構成台本の書き方、覚えてるかな？（笑）。

玉袋　そんななかで、今年は『Dynamite!!』開催できるのかなぁ……。

ガンツ　でも、そういう日本格闘技界の先行きが不透明だからこそ、いまのトップ選手は勝負かけてほしいと思いますけどね。川尻だってジョシュ・トムソンに勝ったんだから、打倒メレンデスのために海を渡ってほしいですよ。

玉袋　やっぱり選手にはピークの時期っていうのがあるからね。しかもスポーツ選手のピークなんて短けえんだよ。それがちょっとした人間関係のこじれで「俺はあの人の顔があるから行けねえ」とかなっちまうのは、切ねえよな。

椎名　バカバカしいですよ！

玉袋　だから川尻もやってくれって。メレンデスとやるしかねえよ。

ガンツ　川尻にとって一世一代のチャンスでもありますからね。

玉袋　そうだよ。青木の株があれだけ落ちて、川尻が「俺たちの砦」になってるときなんだから。「川尻、頼む！」っていう、この空気を逃さねえでほしいよな。

五味がKO負けを喫し、エドガーvsメイナードが超ハイレベルな闘いを展開。またしてもUFCの進化を見せつけられた1.1『UFC125』。このままでは日本と世界の差は開く一方か……？

今年のテーマは「変態は世界に羽ばたけ！老け込んで内にこもるな！」ってことだな

椎名　青木も復活するためには、もう海外に出るしかなくない？

玉袋　いや、ホントそうだよ。オクタゴンで五味とやってもいいんだから。

椎名　観たいっすねえ。

玉袋　行ってほしいよ。ファンが観たがってるのは、それなんだから。アメリカで箔つけて戻ってきてくれればいいし。このままくすぶって、日本のファンが格闘技に興味なくなっちゃうのが一番いけねえことだから。

ガンツ　日本の興行が苦戦してるだけで、ワールドワイドの視点にすると観たいカードだらけですもんね。

椎名　UFCなんて毎月楽しみだよ。

ガンツ　2月5日にはKIDと小見川も出るし。

玉袋　観てえ！　最高だよ！

ガンツ　続く2月26日には福田力が『パワーホール』のテーマ曲に乗って登場しますから。

玉袋　そりゃオクタゴンを「またぐなよ！」って言われても、またいじゃうよ。

椎名　UFCって福田力をちゃんとチェックしてるところが凄いよね。俺もDEEPで観てて「いまミドル級で一番強いのは福田力だ！」って思ってたけど、それをDREAMじゃなくてUFCが持っていくんだからね。

玉袋　やっぱ向こうは映画でもゲームでも徹底したマーケティングがあるんだろうな。だから福田力を引っぱってこれるというね。

椎名　あと、いまの日本ってアメリカに負けてるだけじゃなくて、イギリスやオーストラリアにも追い越されてる気がするんだけど？　イギリスのMMA人気って凄いんでしょ？

ガンツ　凄いですよ。UFCは毎回2万人収容のアリーナをソールドアウトにしてますからね。

椎名　強い選手もいっぱい出てきてるもんね。昔は胸に「馬」って書いてある人しかいなかったのに（笑）。

ガンツ　リングスUKのリー・ハスデルですね（笑）。

年末年始大総括
変態座談会

2月12日に開幕するストライクフォース・ワールドGPに参戦が決定している皇帝ヒョードル。アリスター、ファブリシオ、ジョシュも出場するこのトーネメントは、日本のファンも観たくてたまらないことだろう。

玉袋　俺もあの「馬」好きだったよ。

椎名　総合格闘技を学ぶためにイギリスから日本に来て、リングスの前田道場で寝泊まりしてたんだもんね。それでヤマヨシが作るちゃんこが嫌で逃げたんでしょ？

玉袋　ヤマヨシの作るちゃんこ、どんだけマズかったんだろうな。

椎名　日本とイギリスって、あれから10年で逆転されてるわけでしょ？　ガッカリですよ。

ガンツ　オーストラリアもクリストファー・ヘイズマンくらいしかいなかったんですけどね。

椎名　でも、いまはジョージ・ソティロポロウスっていう、メチャクチャ強いのいるよね。

ガンツ　あの選手、若い頃はエンセン井上のPUREBRED大宮にいたんですよね。

椎名　そうなんだよね。「大宮にいたって、何それ！」って感じ。『ゆの郷』で風呂入ってたってことでしょ？　みんな強い選手が日本に留学に来てた時代があるんだもんね。

ガンツ　だからいまは、逆に日本が海外に行って学ぶ時代なのかもしれませんね。

玉袋　そっから、また逆転するしかねえのかな。また「日本最弱」からスタートでもいいよ。

ガンツ　でも、その前に「UFCとか海外の格闘技なんてよくわかんない」って観続けるのをあきらめてる変態も、けっこう多いような気がするんですよ。

玉袋　『Dynamite!!』の変態率の低さを考えると、それはあるな。俺ですら「もう変態卒業かな」とか、ちょっと思ったもん。

ガンツ　変態も世代的に新しいものを受け入れにくい年齢になってきてるというか（笑）。

椎名　でも、ここで観ないのはもったいないよ。いま世界中のMMAが最高におもしろくなってるんだから。地上波じゃなくても、衛星放送とかネットPPVでいいんだもん。

玉袋　じゃあ、今年のテーマは「変態は世界へ羽ばたけ！　内にこもるな」ってとこかな。

ガンツ　変態を世界に広めるくらいの勢いで（笑）。

玉袋　国境を越えた変態にならなきゃいけねえってことだな。わかった。俺もファンとして老け込まねえ。サントリーの『セサミン』飲んで、「生涯現役」だな。

椎名　いま、日本だとPRIDEのときみたいに「会場に行きたい」って気持ちになかなかさせてくれないじゃん。

玉袋　そうだよ。ホントは俺もPRIDEのジャージ羽織って、気合い入れて会場に行きてえんだよ。

椎名　UFCはWOWOWで観てると「この会場に行きて～！」って思うもんね。

玉袋　そうなんだよ。映像に釣られるっていうね。正月にテレビ観てると「お、明治神宮で初詣でやってるよ。行かなきゃ」っていう気になるじゃない。なんでもあると思うんだよね。熱が画面から伝わってくるっていうのがさ。

ガンツ　いても立ってもいられなくなりますよね。

玉袋　俺だって昔は、髙田vsヒクソンが実現したとき、金がねえ時代だったけど「これがブラジルでやったとしても、俺たちブラジルまで観に行かねえか？」ってことで、借金してでも自腹でVIP席のチケット買って観たからね。いまはその熱がなさすぎるよ。

椎名　その熱がいまアメリカにはありますからね。

玉袋　なんでもテレビとかネットで観られる時代になったけど、やっぱり現場で観てえもんな。KIDのUFCデビュー戦だって行って行きてえよ。ヒョードルの試合だって行きてえもん。HISあたりが大々的にツアーを組んでないのがおかしいくらいでさ。

ガンツ　じゃあ、今年は『kamipro』で観戦ツアーでもやりますか。

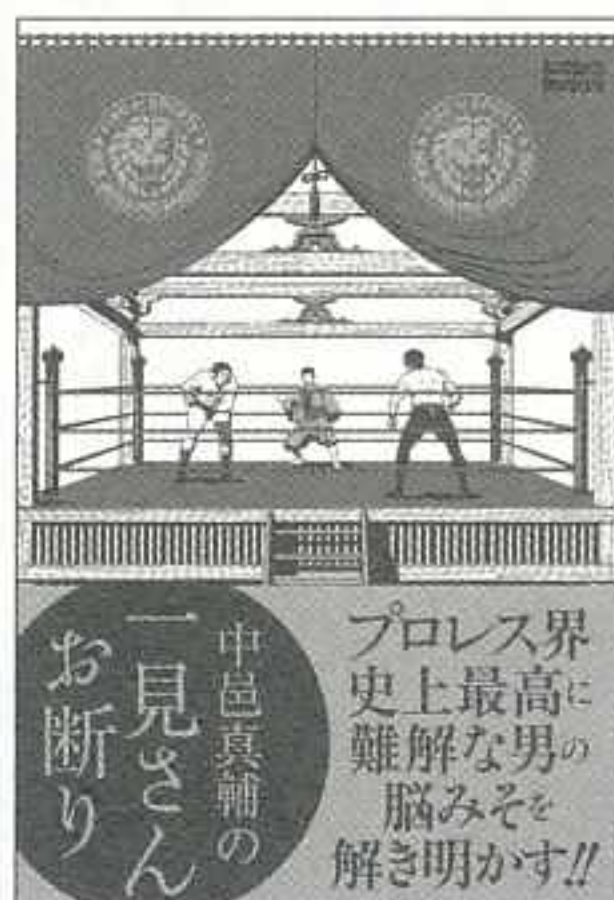
椎名　お願いします！

玉袋　変態ツアーだよ。今年は変態どもも世界に羽ばたけってことだな！

【11年1月6日／都内・『加賀屋』中野坂上店にて収録】

kamipro books

驚ガク! 衝ゲキ!! kamipro booksシリーズ!
死闘インタビューの歴史的目撃者になれ!!

中邑真輔の一見さんお断り

プロレス界史上最高に難解な男の脳みそを解き明かす!!

昨年、唐突にアントニオ猪木への挑戦をリング上でブチ上げて物議をかもすなど、その行動と発言が刺激的な男・中邑真輔。そんな男が初の単行本をリリース。"プロレス界で最も難解な男"がつぶやく10万字!! その名も『中邑真輔の一見さんお断り』。タイトルとは裏腹に一見さんは大歓迎だったりする内容です!

B6変型判 224ページ
定価=1,890円(本体1,800+税)

悪役道 ヒールたちのブルース

悪の道を歩けるのは選ばしれ者のみ!

"悪の道"に精通する豪華16名が珠玉の"ヒール哲学"を激白! 反則攻撃、挑発行為、ラフファイト、モンスター、エゴイスト、アナーキスト、アンチヒーロー……。悪とは何か? 悪役とは何か? 本書は因縁の内藤大助戦に勝利を収めた亀田興毅をはじめ、『kamipro』誌上に掲載されたさまざまな悪役のインタビューを厳選収録。時代に憎まれし、ヒールたちのブルースを聴け!

B6変型 304ページ
定価=1,890円(本体1,800円+税)

新日本プロレス学習帳

"業界の盟主"の魅力を凝縮したインタビュー12連発!

★鈴木みのる&獣神サンダー・ライガー★小林邦昭★平田淳嗣★金本浩二★山本小鉄★新倉史祐★田中秀和★中西学★天山広吉&金原弘光★マサ斎藤★永田裕志★中邑真輔

『kamipro』に掲載された新日育ちのレスラー&関係者のインタビューが一冊に! これを読めば老舗団体の過去・現在・未来がまるわかり!

B6変型判 320ページ
定価=1,680円(本体1,600円+税)

魔王 秋山成勲 二つの祖国を持つ男

秋山成勲なのかチュ・ソンフンなのか——。

2006年12月31日大晦日、秋山成勲vs桜庭和志戦で発生したクリーム塗布事件。この一件以降、秋山は日本では悪質な反則選手、片や韓国では悲劇の元・在日韓国人と、評価が真っ二つに分かれた。本書籍は秋山成勲が、柔道界での挫折ののち、総合格闘技家としてデビューして"魔王"と呼ばれる怪物に至るまでを検証するノンフィクションだ。

B6変型判 264ページ
定価=1,680円(本体1,600円+税)

生前追悼 ターザン山本!

え、ターザンが死んだ!? 90年代プロレスを徹底検証!

★浅草キッド★いしかわじゅん★堀辺正史★更級四郎★松本晴夫★杉山頴男★谷川貞治★山口日昇★金沢克彦★市瀬英俊★小島和宏★菊地成孔★Oka-Chang★原タコヤキ君★椎名基樹 ほか

『週刊プロレス』編集長として辣腕を振るった山本さんの人生を通して、90年代プロレスブーム、はたまたプロレスという生き様を振り返る!

B6変型判 304ページ
定価=1,470円(本体1,400円+税)

PRIDE機密ファイル 封印された30の計画

ついにその秘密のベールを解禁!! PRIDE幻の超極秘プロジェクト!!

★髙田vsヒクソンの前座に前田日明登場!?★長州力、橋本真也、船木誠勝の参戦計画★ホイスvsケアー消滅の計画★PRIDEが小錦獲得に動いた!?★"皇帝"ヒョードルを二度破った男 ほか

その消滅から早2年——世界最高峰のリングに封印された30の計画を発掘! さらに青木真也、三崎和雄ら6大インタビューも同時収録!

B6変型判 296ページ
定価=1,680円(本体1,600円+税)

U.W.F.変態新書

ダメな大人たちへ捧げる"変態"とUWFの晩餐!

★UWF★前田日明★船木誠勝★高田延彦★桜庭和志★ターザン山本!★キン肉マン★PRIDE★プロレス★変態とは何か?(菊地成孔スペシャルインタビュー)★変態解説

プロレス界の一大潮流となったUWF。そのUWFに人生を学び、人生を狂わされた変態的プロレスファンたちが、UWF神話を語り倒す!

B6変型判 296ページ
定価=1,680円(本隊1,600円+税)

八百長★野郎

ミスター高橋本から7年……"呪いなき"時代のプロレス再入門書!!

★マッスル坂井★大槻ケンヂ★菊地成孔★森達也★杉作J太郎★ミスター高橋★菊地孝★高木三四郎★ハチミツ二郎★鶴見亜門★プロレス業界初"台本"全文掲載!

カミングアウト当事者から元ファンの知識人まで総動員してプロレスを再考! "プロレスの向こう側、『マッスル』"の世界に迫る!

B6変型判 296ページ
定価=1,680円(本体1,600円+税)

PRIDEはもう忘れろ!

フジテレビショックから始まった日本マット界激動の歴史を追う!

フジテレビショックは日本格闘技界に何をもたらしたのか? 本誌でおなじみのライター橋本宗洋が送るMMAクロニクル。本書は、本誌携帯サイト『kamipro Move』で好評連載中の週刊コラムを厳選収録したものである。PRIDE凋落の時期からスタートした連載は、あらためてPRIDEの存在意義、役割を見つめ直し、そしてPRIDE消滅後、それでも生き続ける格闘技のおもしろさを綴っている!

B6変型判 336ページ
定価=1,680円(本体1,600円+税)

吉田豪のセメント!! スーパースター列伝 パート1

吉田豪インタビュー11連発!! インタビュー本の最濃傑作!

★ストロング小林★阿修羅原★康芳夫★倉持隆夫★サムソン・クツワダ★猪木快守★イーデス・ハンソン★田中健一★小川宏★鶴見五郎★田代まさし

プロインタビュアーの吉田豪が、『紙のプロレスRADICAL』誌上で聞き手を務めたロングインタビューの一部を完全徹底再録!!

B6変型判 344ページ
定価=1,890円(本体1,800円+税)

発行/株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 TEL.0570-060-555(代表)
発売/株式会社角川グループパブリッシング
[エンターブレイン総合サイト] http://www.enterbrain.co.jp/

ジャパニーズMMA復興のヒントはすべてここにある!
世間を相手にした最強のテレビコンテンツ

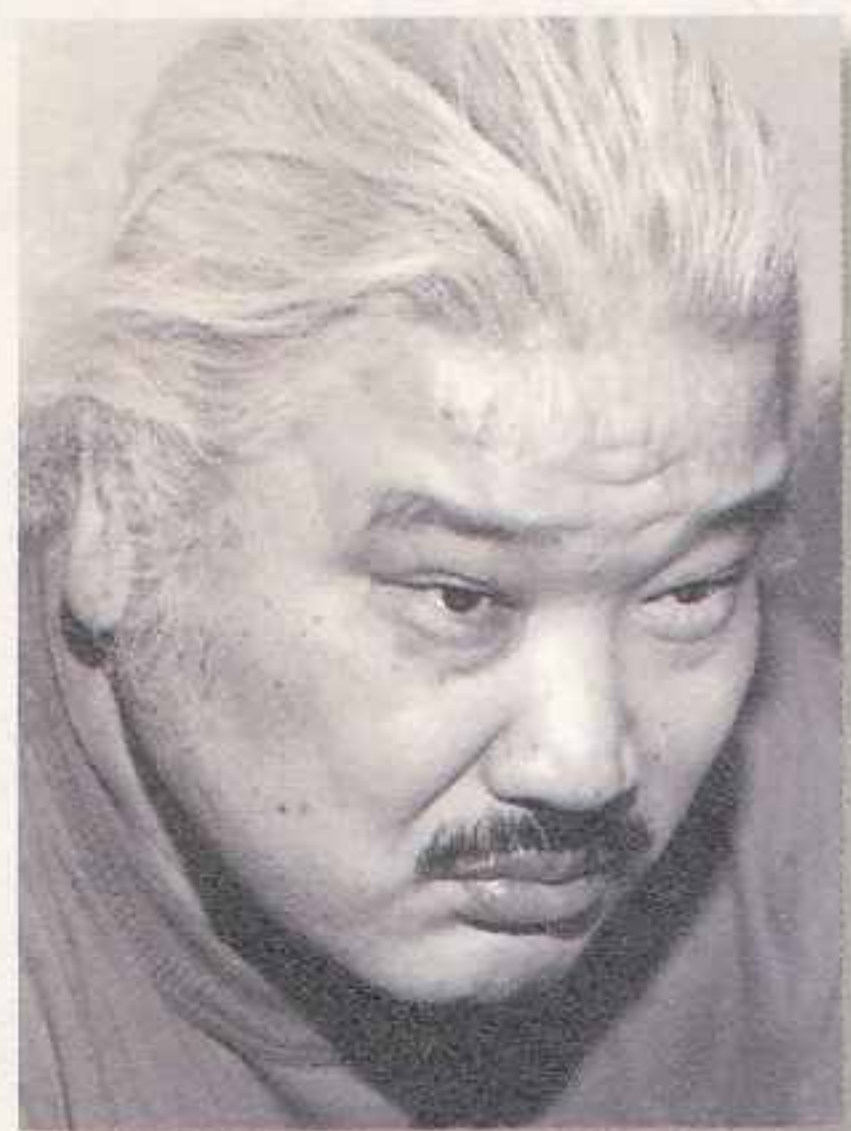
黄金の昭和プロレス特集

混迷する現在の日本格闘技界。"本場"はアメリカに奪われ、地上波テレビ
中継コンテンツとしての地位も危うくなるなど、現状は厳しいままだ。
そんな日本格闘技界復興のヒントがたくさん詰まっているのが、昭和のプロレス。
黎明期からテレビコンテンツの王者として君臨し、黄金時代を築いていたその秘密にいまこそ迫る!

15年前に
交通事故で胸下不随となった
元祖・日本人ヒール
最後の咆哮!

この男こそ〝リアル・プロレスラー〟だ！

上田馬之助 金狼の遺言

120分ロングインタビュー

タイガー・ジェット・シンとのコンビで一世を風靡した日本マット界における〝元祖・日本人ヒールレスラー〟上田馬之助。95年の交通事故により頸椎損傷の重症を負った上田は胸下不随となり、現在はほぼ寝たきり生活になってしまっている。しかし、プロレスラーの誇りと魂は健在。プロフェッショナルの中のプロフェッショナル、上田馬之助の声を聞け！

聞き手&撮影／堀江ガンツ

〝金狼〟上田馬之助。

竹刀を片手に金髪を振り乱した悪党ファイトで、70年代から80年代にかけて一世を風靡した〝元祖・日本人ヒールレスラー〟だ。

今回本誌は、この不世出のヒールの〝最後のロングインタビュー〟を収録すべく、上田の住む大分県臼杵市を訪れた。

上田馬之助といえば、30代後半以上なら、ほとんどの人が知っていると思われる有名レスラーだが、若いプロレスファン、格闘技ファンのなかには、その名を知らない人もいるだろう。

そこでインタビューを掲載する前に、まず上田の経歴を振り返ってみたい。

上田は1940年生まれ。大相撲追手風部屋、間垣部屋を経て、20歳で力道山の日本プロレスに入門。ジャイアント馬場、アントニオ猪木の5カ月後輩だった。

日本プロレス崩壊後、フリーのプロレスラーとして渡米。そこで悪役レスラーとしての技術を身につけると、帰国後も団体には所属せず、日本マット界初の本格的日本人ヒールとして活躍。とくにタイガー・ジェット・シンとのコンビは、悪の名タッグとしてその名を轟かせた。

80年代末よりセミリタイア。現在の妻である恵美子夫人と熊本でスナックを営んでいたが、90年代前半に、NOWやIWAジャパンなど、インディー団体のリングで再びプロレス活動を再開。しかし、そこで悲劇が待っていた。

96年3月、IWAジャパン仙台大会終了後、上田はホテルに泊まらず、入社したばかりの営業部員、大盛一生さんの運転する宣伝カーでそのまま東京へ向かった。ほかのレスラーとは一緒に行動しないというのが〝ヒール〟上田馬之助の哲学だったからだ。

しかし、この東京に向かう途中、高速道路で大手運送会社の10トントラックに追突される事故に遭ってしまう。運転手の大盛さんは、頭蓋骨骨折で間もなく死亡。上田もフロントガラスを突き破り、20メートル近く突き飛ばされ、アスファルトに叩きつけられた。

幸い一命は取りとめたものの、この事故で上田は頸椎損傷の重症を負い、胸から下は不随となり、手のひらは開くことすらできなくなってしまった。

そこからが地獄の日々だった。上田の動かない身体は、風が吹いただけで激痛が走る。食事や排泄も満足にできず、ただひたすら激痛に耐えるだけの生活。上田は何度も自殺を考えたが、動かない身体は自殺することすら許されなかった。

それでも恵美子夫人の昼夜も問わぬ懸命の介護と、上田の不屈の闘志によるリハビリのかいあり、約5年の入院生活を経て退院。現在は恵美子夫人の故郷である大分県臼杵市で、リサイクルショップを経営しながら生活している。

現在、恵美子夫人は自宅で「リサイクルショップ上田屋」を経営している。看板には、いしかわじゅん先生が描いた上田馬之助のイラスト入り。

上田馬之助 金狼の遺言

しかしながら、退院したといっても全身の激烈な痛みは生涯続くもの。現在はほぼ寝たきり状態となっているが、それでもプロレスへの情熱と誇りは消えず、今回、インタビューを了解してくれた。

起きて話すだけでつらいはずなのに、プロレスラー上田馬之助は120分にわたって静かに熱く語り続けた。そしてカメラを向けると、身体に痛みが走るのもいとわず、あの〝悪役の顔〟を作った。〝金狼〟上田馬之助の〝遺言〟。じっくりと読んでいただきたい。

上田 『紙のプロレス』か……、懐かしいな。

――以前、小さい版型の頃、上田さんにはよくインタビュー出演していただいたんですよね。

上田 山口(日昇)くんは元気にしてるの?

――元気……ではありますね。いまは雑誌には関わってないんですけど。

上田 どうしてる?

――いま、ハッスルMAN'Sワールドというプロレス団体にいます。

上田 そうか。私の知らないプロレス団体も増えたな。いま何団体あるの?

――ちょっと数えきれませんね。ホントに小さいのを含めると何十団体もあるようですから。

上田 日本もアメリカ並みになったな。大分にもプロレス団体はあるし、九州だけで4団体ある。

――九州はローカル団体がけっこうありますよね。

上田 でも、いまのプロレスはダメだ。みんな身体が小さいし。やたらとマスクを被ったりするのが多い。あれじゃお客にナメられるよ。お子様ランチだ。

――いまのプロレスは、お子様ランチですか。

上田 私から言わせればね。タイガーマスクが新日本プロレスに出たぐらいからお子様ランチになっていった。それで昔のファンはみんな逃げちゃった。

「上田屋」の店内には恵美子夫人と営んでいたスナックで撮られたものを中心とした、数多くの写真が飾られている。〝ヒール〟上田は私生活でも日本人レスラーとつるまず、ガイジンと行動をともにしたのだ。

ヒールがいるからベビーフェイスがいて〝死に役〟がいるから主役が引き立つ

—初代タイガー以降、良くも悪くもプロレスは変わりましたからね。

上田　98年に熊本で力道山OB会が私の引退記念大会を開いてくれた。橋本（真也）がまだいた頃で、新日本プロレスも協力してくれて、とてもありがたかったが、そのとき初めてプロレスを観た小学生の女の子が「あれは劇だ」と言っていた。

—……。

上田　見破られてるんだよ。

—かつてのプロレスとは変わってしまいましたからね。

上田　だいたいプロレスをダメにした原因は暴露本を出した（ミスター）高橋だ。

—確かに、あれでプロレスから離れたファンもたくさんいましたからね。また、いまのファンはプロレスの見方が変わってしまって、プロレスが「八百長だ」と言われても、何も感じない人が多いみたいです。上田さんなんかは、そういう声と闘ってきたわけですよね？

上田　プロレスは〝八百長〟ではないんだ。八百長というのは、どちらが勝つか負けるか、金を賭けて不正をするのが八百長だろ。プロレスに金賭ける人いる？

—いませんね。

上田　だから八百長じゃない。ただ、筋書き、ストーリーというものはある。でも、それはなんのスポーツでも同じだ。野球なんかは「筋書きのないドラマ」と言うけど、選手は監督が出す指示に従ってバントをしたり、盗塁したりしている。あれは監督が筋書きを作っているんだ。だからおもしろい。野球は監督が指示を出し、あとは選手のアドリブ。プロレスだってそう。プロレスはマッチメイカーが指示を出し、あとはレスラーのアドリブだ。

—なるほど。

上田　筋書きだけがよくても、選手の力量が伴わなければ、決してお客様を満足させることはできない。そしてストーリーがあっても、プロレスというスポーツはライブであり、お客さんに反応によって左右される。だからストーリーどおりにいかないこともある。そのときは、トップのレスラー同士が、お互いに盛り上げ方を考えながら試合を作っていく。そこで「筋書きにはない」ドラマが生まれるんだ。

—「筋書きにはないドラマ」という言葉はいいですね。

上田　選手は〝プロ〟でなくてはならない。アマチュアや素人に負けてはいけないんだ。それはプロレスも野球も同じ。昔、長嶋（茂雄）がデビューしたとき、金田は長嶋を3三振に抑えた。それがプロだ。それがいまや、高校を卒業したばかりのピッチャーにプロのバッターが抑えられたりしている。田中マー君とかね。高校生ルーキーに抑えられるようじゃプロじゃない。野球選手もプロレスラーも、もっと厳しく考えてやらないと。

—上田さんの時代は、どんなスポーツもプロの敷居は高かったわけですよね。

上田　またプロにはそれぞれ役割というものがある。それはどんな仕事も一緒だと思う。たとえば吉村道明。あの人は6人のレスラーを持ち上げてきた。力道山、豊登、ジャイアント馬場、アントニオ猪木、大木金太郎、坂口征二。自分が全部〝死に役〟になっている。

—トップレスラーとタッグを組んだときの〝負け役〟を引き受けていたわけですね。

上田　当時は日本人とガイジンのタッグマッチが中心。吉村さんは力道山、ジャイアント馬場、アントニオ猪木……みんなのタッグパートナーを務めてきた。そのタッグマッチも日本組が勝つときはいい。でも、負けるときもある。でも、その負けるときは、力道山、馬場、猪木が負けるのではなく、あの人が〝死に役〟をやって負ける。でも、そうすると吉村さんの子どもがいじめられるんだ。

HEAVY WEIGHT
LICENSE No. A - 06
NAME Hiroshi UEDA
POSITION WRESTLER
SITUATION J.W.A.
(本籍) 愛知県
上田裕司　(生年月日) 昭和15年6月20日
1971年度用
ADDRESS 東京都渋谷区代官山町9番12号
プロレスラーであることを証明する
昭和46年4月1日　椎名悦

上田がいまも肌身離さず持っているのが、日本プロレス・コミッショナー発行のプロレスラーライセンス。力道山門下の本物のプロレスラーである誇りはいまも健在だ。

—「おまえの親父が弱いから、負けた」と、子どもが言われちゃうわけですね。

上田　「死に役を務めている」なんて思ってもらえないし、思われてもいけないんだ。だからあるとき、私がヒールになる前、吉村さんに「日本人のヒールがいてもいいじゃないですか」と話したことがある。そしたら吉村さんは「上田、それをやると家族がたいへんだぞ」と言っていた。吉村さんはヒールではなかったけど、死に役をやっていたから、それを知っていた。

—負け役を演じるというのは、ヒールと同じくらい家族に犠牲を強いてしまうものだったわけですね。

上田　その後、私はアメリカでヒールとなり、ヒールのまま帰国した。すると吉村さんの言うとおりだった。リング上の私だけでなく、家族も罵声を浴びせられ、うしろ指をさされ、嫌がらせをされるようになった。だから父には「息子がやっているビジネスは、私らには関係ないと言いなさい」と言ったが、その後、女房と子どもはアメリカに住まわせることにした。

—当時はなかば〝犯罪者の家族〟のように見られてしまったんですよね……。

上田　ヒールがいるからベビーフェイスがいる。〝死に役〟がいるから主役が引き立つ。でも、そういう解釈はされないんだな。物を売るとき、いい物と悪い物を用意して、いい物をより良く見せて売るのと同じだ。

—売りたいもののために、悪い物役の物がある、と。

上田　それは〝悪い商品〟なんじゃない。引き立てるのが仕事であり、その仕事をちゃんとした、いい商品なんだ。プロレスも同じだと思う。なんの商売でも同じ。それぞれに役割があり、死に役やヒールが

いてこそ、全体が光るんだ。

――プロレスでいえば、そうやってメインイベンターを光らせて、それによって全体を光らせるということですね。

上田　それと同時に、次につながる仕事をする必要がある。そこがレスラーとマッチメイカーの腕の見せどころ。要するに観客に〝連載物〟を見せる。興行が終わったあと「ああ、また続きも観てみたいな」と思わせなきゃいけない。ビジネスというのは次に続けていかなければならない。それもどんな仕事でも一緒だ。

――そういう意味では、上田さんが上がっていた頃の新日本プロレスはそれができていましたよね。

上田　なんでそれができなくなってしまったのか。それは、みんな「俺が、俺が」ばかりになったからだ。勝手にてめえが目立つことばかり考えている。一人の者をみんなで持ち上げてやろうというのがない。だから、結果的に誰も目立てない。誰も光らない。足の引っぱり合い。

――そういう部分はありますね。

上田　〝死に役〟の大切さもわからないのに、「俺が、俺が」ばかり考えているから、団体ばかりが増えていく。プロレスにおいて、自分の仕事を優位に進めるには、強くなければならない。とくにフリーでやっている私なんかは、潰されたらおしまいだ。だから私がこれまで一匹狼でやってこれたのは、自分で自分を守ってきたからだ。そのためには、セメント、ガチンコができなければならない。いざというときのためにね。

――自分を守ってくれるのは、自分しかいないわけですね。

上田　プロレスは仕事ができて、セメントもできないと生き残れない世界なんだ。

――上田さんはその両方ができたから、生き残れた、と。

上田　私はアメリカでヒールをやっているとき、シャチ横内というパートナーがいた。彼は7カ国語がしゃべれて、仕事ができて、交渉事もうまかった。ただ、セメントができなかった。だから、嫉妬したレスラーによく仕掛けられていた。

――試合中にいいとこを取らせないわけですね。

上田　そう。相手が言うこと聞かなくなる。でも、そのときは私がタッチして代わり、逆に相手をセメントで痛めつける。私は英語や交渉事は得意ではなかったけど、セメントはできた。シャチ横内さんとは逆だ。だからお互いに「先生」と呼び合ってた（笑）。

――ビジネスの先生とセメントの先生ですか（笑）。

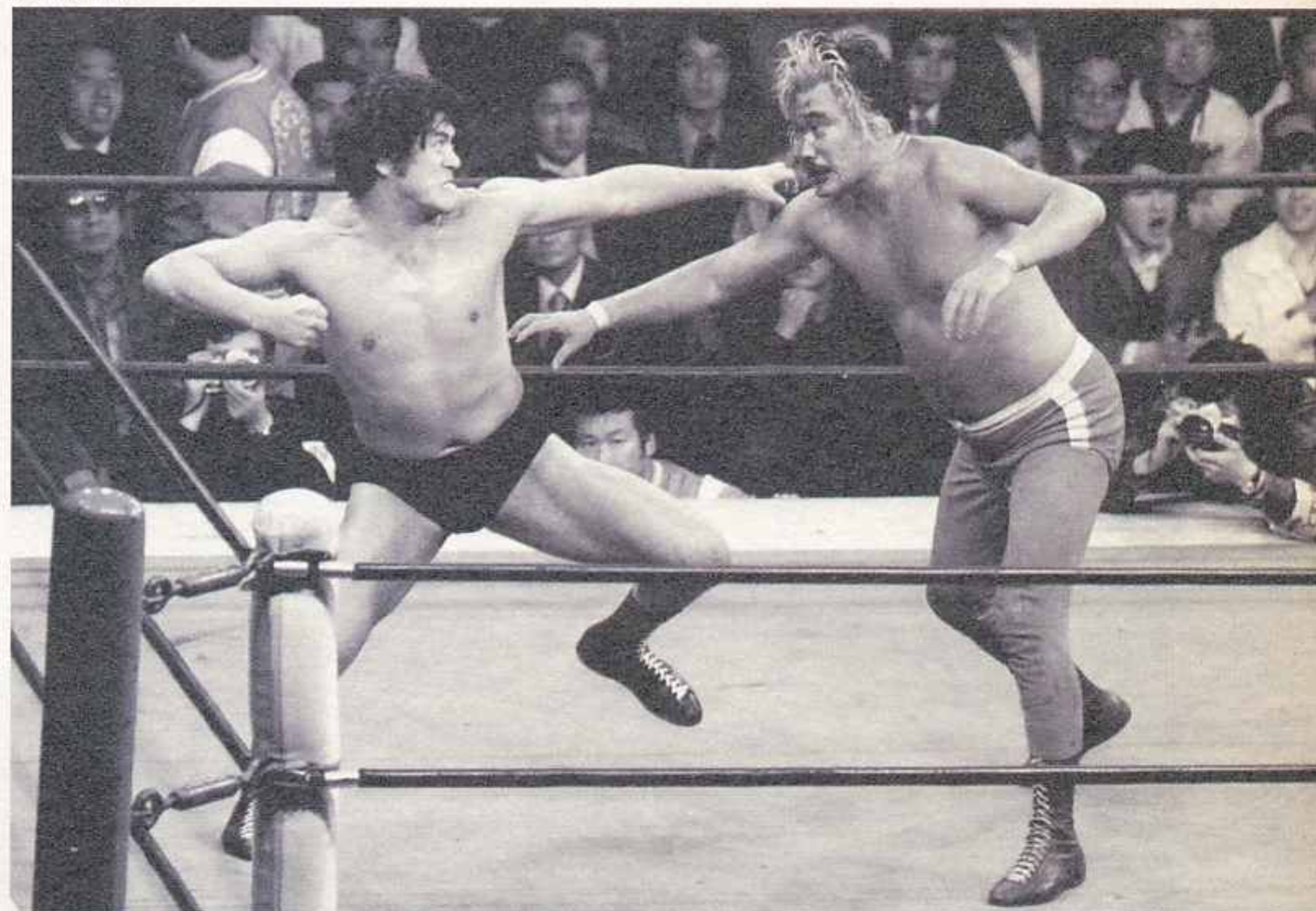
上田　リング外では向こうが私を助け、リング上では私が向こうを助ける。へんなことを仕掛けてくる相手もセメントで痛めつければおとなしくなる。そしたら、そのあと〝先生〟にタッチしても、ちゃんとプロレスができるんだ。

――まさに仕事とセメントができなきゃいけない、というのを分担作業していたんですね。

上田　また、プロレスにはいろんなテクニックがある。それは観客を盛り上げるためのテクニックだ。セックスと同じで、最高に盛り上がったところでプッとやめなきゃいけない。それがモタモタしてると間延びして、また最初から盛り上げなきゃいけない。倍の労力が必要になる。フィニッシュは一発でいいんだ。

――最高に盛り上がったところで、パッとイカせるのがいいってことですね。

上田馬之助　金狼の遺言

© Essei Hara

70年代末、タイガー・ジェット・シンとのコンビで、新日本プロレスのトップヒールだった上田。猪木との釘板デスマッチはあまりにも有名だ。

上田　また、プロレスの試合は毎回決着がつかなくてもいいんだ。我々ヒールだったら、反則負け。またはフォールされても、レフェリーに「カウントが早い」とか難癖つけて、レフェリーや若手を痛めつける。すると一時、控室からベビーフェイスがリングに戻ってきて俺を倒そうとする。でも、ヒールはベビーフェイスがリングに戻ってきたのを合図に、そのまま振り向きもせず控室に消える。すると決着は次回に持ち越しとなるわけだ。

――なるほど。物語は続くわけですね。

上田　そしてヒールが控室に消えたあと、リングに残ったベビーフェイスの手をレフェリーがあらためて挙げると、その場はハッピーエンドとなる。その日の観客の溜飲も下げて、次回もまた観たいという興味をつなぐことが大事なんだ。

――それがベビーフェイスとヒールの抗争なんですね。

上田　これが控室からベビーフェイスがリングに戻ってきたあともヒールがもたもたしてると、もう一度乱闘になり、観客は「いまここで決着をつけろ」というムードになってしまう。でも、再試合をするわけにはいかないから、結局、お客は満足せずに帰ることになる。よけいな乱闘をやったおかげで、試合の盛り上げが台なしになってしまうんだ。

――ヒールは観客の気持ちや快感がわからなきゃいけないわけですね。

上田　だからこれは言い方がアレだけど、要はお客さんと遊んであげればいいのよ。

――「お客さんと遊ぶ」ですか？

上田　たとえば場外乱闘でお客さんを脅かしながら、楽しませる。リングの上を観ているだけじゃなくて、自分がその闘いのなかにいるかのようなスリルを味わわせる。それがホントにできたのは、タイガー・ジェット・シンと上田だけ。タイガーがほかのレスラーが組んでもできない。

――ホントにシン＆上田組はワン＆オンリーだと思いますよ。

上田　ほかのレスラーじゃ、タイガーのコントロールはできないから。タイガーはヤ〇ザ者がリングサイドに座ってても、平気でお客に襲いかかっちゃうからな。

――らしいですね（笑）。

上田　お客にケガさせて、警察まで行って謝ってよ。やられた相手にいくらか包んだこともあったし。でも、タイガーが加減して暴れてたんじゃ、お客はおもしろくない。だからどこまで抑えて、どこまで暴れさせるかを見極めないといけない。

――上田さんの裁量あっての〝狂虎〟だった、と。

上田　それを高橋はよ、自分のことを棚に上げて俺らのことを勝手に暴露本で書いている。

——なんか「シンが売れたのは俺のおかげだ」ぐらいの意味合いのことを書いてましたよね。

上田　馬鹿言ってるじゃないよ。高橋は流血戦で誰がどう頭を切ったなんてことまで書いている。私とヒロ斉藤がやったとき、「上田の切り方がどう」とか。これは俺のビジネスだ。高橋のジビネスじゃないだろ？　それを勝手に自分のものとして金に換えたりしている。だからド素人は怖い、と言うんだよ。

——ミスター高橋はド素人ですか。

上田　ド素人。あれは山本小鉄ちゃんの友だちだからって、新日本に使ってもらえるようになったんだ。ボディビルの仲間だったんだよ。でも、プロレスは知らない。素人が紛れ込むとああいうことになる。

——なるほど。

上田　それにしても、山本小鉄ちゃんにしても、星野勘太郎にしてもみんな亡くなっちゃったな。力道山門下生でいま生きているのは、アントニオ猪木、グレート小鹿、そして私の3人だけになってしまった。

——そうですね。以前『紙のプロレス』で上田さんをインタビューさせていただいたとき、「誰が一番強いですか？」って聞いたとき「長生きした人間が一番強い」って言ってたんですけど、覚えてますか？

86年に行なわれた新日本vsUWFの5vs5イリミネーションマッチで新日軍に入った上田は、前田日明のキックをまともに受け続け、その蹴り足をつかんで場外心中に持ち込んだ。実力者・上田の片鱗を見せた名シーンだった。

フリーのプロレスラーは仕事ができて セメントもできなきゃ生きていけない

上田　言った覚えあるな（笑）。

——そういう意味では、やっぱり上田さんは強いですよね。しかも、あれだけの大きな事故に遭ってるわけですから。

上田　日本プロレスが潰れる最後の年に、カレンダー用に撮った写真があるんだよ。（奥さんに向かって）ちょっと、あの写真持ってきて！（そして持ってきたのが65ページに掲載した写真）。

——うわ～、これはいい写真ですね！

上田　ジャイアント馬場、アントニオ猪木、大木金太郎、吉村道明……。これ山本小鉄ちゃんが背伸びしてるんだよ。

——あ、ホントだ！　背が低いから、背伸びして写ってますね（笑）。

上田　そのなかで残ってるのは、猪木、小鹿と私の3人だけだな。

——上田さんがこれまでで一番印象に残ってる試合ってなんですか？

上田　ないな。

——ないんですか。

上田　やっぱり反省する試合ばっかりだ。テレビを観ても悪いところばっかりが目についちゃう。「あそことあそこを直さなきゃ」というね。

——へえ、あそこまでお客さんをヒートさせながら、出てくるのは反省ばかりですか。「やったぞ！」という気持ちはないんですか。

上田　「やったぞ！」という気持ちよりも、一匹狼で新日本、全日本、国際の3団体を救ってきたというのが私の誇りだね。猪木のところはモハメド・アリとやったあと莫大な借金を抱えてしまった。それを救ったのが私とタイガーだ。

——そうでしたね。猪木vsシンの抗争は何度もビッグマッチを満員にして、上田さんも猪木さんと釘板デスマッチをやったりして。

上田　馬場のところもドリー・ファンクJr.のチャンピオンシップをやってもお客はガラガラ、テレビ放映もゴールデンタイムを外れたあと、私とタイガーが全日本に移籍した。ストロング小林が新日本に行ったあとの国際を救ったのも私だ。

——僕はいま37歳なんですが、僕らの世代だと、上田さんの一番インパクトがあった試合は、UWFとの試合なんですよ。

上田　ああ、5vs5（イリミネーションマッチ）ね。

——あのとき新日本のレスラーがUWFの蹴りにみんな及び腰になっていたなか、総大将である前田日明の蹴りを真正面から受けてもビクともしない上田馬之助っていうのは、かなりの驚きでしたから。

上田　あれは新日本の連中がだらしなかったんだよ。みんな蹴りで縮こまっててよ、ビビッてるのがお客にわかっちゃってた。あれで新日本の「強い」というイメージがなくなっちゃったんだよ。

——そうかもしれませんね。

上田　あんなのは向かっていけばいいんだ。同じレスラーなんだから、怖いことなんて何もない。

——上田さんは、前田日明という選手を

一番大事なことは〝プロ〟であること。「俺が、俺が」じゃダメなんだ！

上田馬之助　金狼の遺言

どう見ていましたか？

上田　あれは融通の利かない男だ。前田は長州力の背後から目を狙って蹴っただろう。あれはプロレスに反しているんだ。

――当時、猪木さんにも「プロレス道にもとる」と言われていましたね。

上田　あんな不意打ちは、セメントでもなんでもない。あれで長州力は終わってしまった。長州は新日本で人気が出たあと、自分だけでも食えると思って全日本に行き、また出戻って人気がなくなった。いまはもうお笑いの小力のほうが人気があるくらいだ。

――では、上田さんが闘ってみて「強い」と思ったレスラーは誰ですか？

上田　う～ん、それは誰かな。星野勘太郎がベースボール・マガジン社から出した本に「上田馬之助に一度も負けたことがない」って書いてあるってホント？

――どうなんでしょう。数年前にたしか『ビッシビシ伝説』というムックを出してるんで、そこに書かれていたのかもしれませんが……。

上田　そんな話を聞いたんだけどね。本当の話をすると、星野勘太郎とは若手のトーナメントの決勝でやったんだよ。セメントマッチで。

――セメントですか。

上田　当時の若手の試合はセメントでやることがよくあったから、決勝もセメントでやることになり、その試合は力道山もガイジンもみんな控室から出てきて観ていたよ。そのとき私が逆腕を固めて、優勝したんだ。

――ダブルリストロック、腕がらみで勝ちましたか。

上田　勘太郎はあのときのことを根に持ってたんだろうね。

――そうなんですか？

上田　あるとき、新日本プロレスでやったとき、こっちはビジネスでやっているのに、いきなりセメントを仕掛けてきたことがあった。タッグマッチだったから、よっぽど試合を壊してしまおうかという気持ちになったけど、やっぱり使われてる身だからね。

――どうしたんですか。

上田　向こうのパートナーである荒川を持ち上げて、荒川の技をたくさん受けた。逆に星野のほうでは観客がうんともすんとも言わない試合をした。それで荒川にパートナーのガイジンを勝たせたんだ。私は傷つかず、勘太郎の相手もせず。

――そんなこともあったんですか。

上田　そういう対処の仕方は、誰も教えてくれないからね。自分で盗まなきゃいけない。

――セメントの強さがあってこその対処法なんでしょうけどね。

上田　でも、私は若い頃から「セメントだけじゃダメだ」と言われてきた。そして、ある人から「顔作りをしろ」というアドバイスを受けた。痛いときの顔、怒ったときの顔、攻撃してるときの顔、そういう顔がなければお客さんに伝わらない。プロレスの技がどれだけ効くかなんて、お客さんはわからない。痛い顔をして、その痛みとダメージがお客さんに伝わって、初めて商売になるんだ。

――それもプロレスの大事なテクニックなんですね。

上田　お客さんとの勝負なんだ。

――では、上田さんの考えるプロレスラーにとって一番大事なことってなんですか？

上田　プロであることだろうな。これはほかのスポーツも、ほかの商売も一緒。野球だってオフのあいだにしっかり身体を作って、春のキャンプに入らなければ活躍できない。そして優勝するチームは、みんながそれぞれの役割をはたして、力を合わせるチームだ。チームがバラバラだったら優勝は無理だ。自分だけ成績がよければいいってもんじゃない。プロレスもそれと同じ。力道山がなぜ、あそこまでの人気になったのか。それは、みんなが力道山を盛り立てたからだ。

――確かに力道山や馬場、猪木が日本人相手に勝ったり負けたりしませんよね。

上田　いまのプロレスはバックドロップが第1試合からメインまで何回出る？　カウントもワン、ツーのあとギリギリで跳ね返すのばかりだ。試合が始まったばかりなら、カウントなんてワンで返さなきゃ。試合開始から終わるまで、ずっとカウントツーだから緊迫感がない。前座がメインイベントと同じような技を使ってるから、メインも引き立たない。あたりまえだよ。前座はある程度、セメントやってればいいんだよ。我々が力道山時代にやってきたようにね。

――わかりました。今日は長い時間ありがとうございました。

上田　あとはうまく書いておいてください。

――そういえば、このあいだ編集部を片づけていたときに、まだ上田さんが事故に遭われる前に書いていただいた色紙が見つかったんですよ。

上田　なんて書いてありますか？

――「俺のライバルはリングの中で戦う相手ではない。お客様だ！　上田馬之助」と書いてありますね。

上田　ああ、それは私がずっと思っていたことですよ。それと「長生きしたヤツが一番強い」。それももう一度書いておいてください。これが私の遺言かな。

――いえいえ。これからも本物のプロレスを伝えてください。今日はありがとうございました！

【10年12月7日／大分県・上田馬之助の自宅にて収録】

うえだ・うまのすけ■1940年6月20日、愛知県出身。大相撲を経て、60年に日本プロレス入門。日本プロレス崩壊後、フリーレスラーとして渡米。帰国後は日本初の本格日本人悪役レスラーとして活躍。96年3月、交通事故に遭い、頸椎損傷の第1級身体障害者の身となる。98年に引退式を行なった。

好評連載
捉ポルシェの
突撃！俺の晩ごはん

6杯目
キラー・カン『ちゃんこ居酒屋カンちゃん』

CHANKO IZAKAYA KAN-CHAN

以前仕事でモンゴルに行ったとき、一人も弁髪の人を見かけなくてかなりショック！　けっこうなんでも鵜呑みにするタイプの男・捉ポルシェの『突撃！ 俺の晩ごはん』。今回のゲストは、「アンドレ・ザ・ジャイアントの脚をヘシ折った男」ことキラー・カンさん！　『ちゃんこ居酒屋カンちゃん』を新宿歌舞伎町で長年にわたって営み続ける経営の秘訣から、あの尾崎豊との親交まで！　営業時間中に聞いてきちゃいました！　アーッ!!

構成 & 撮影／堀江ガンツ

掟　ここ新宿歌舞伎町に店を出されてから長いですよね。

カン　もう10年以上になりますよ。（新宿区）中井でスナックやってた頃から歌舞伎町に出たい気持ちがあったんですよね。

掟　そして去年はこのちゃんこ居酒屋に続き、立ち飲み屋もオープンされて。

カン　立ち飲み屋は去年の2月にオープンして。あと綾瀬にも9月に居酒屋をオープンしたんで、いまは3店舗ですね。

掟　カンさんは以前、チェーン展開を持ちかけられたとき、「本人が店に出てないんじゃダメだから」って断ってるんですよね。

カン　そう。だから料理もお酒もオール350円でやってる立ち飲み屋は毎日顔出せないけど、歌舞伎町と綾瀬の店は毎日店に立ってますよ。綾瀬なんて時間制限なしで焼酎飲み放題0円ですよ。

掟　飲み放題0円⁉

カン　2時間飲もうが3時間飲もうが、一銭ももらいません。100パーセント無料です。

掟　それはお客さんにとってはうれしいですけど、お店にとってはかなりたいへんじゃないですか？

カン　氷とか焼酎を割るウーロン茶なんかは別料金でいただいてますけどね。ウチの料理はホントにおいしくて、量が多くて、安く提供してるんですけど、綾瀬店は隣が養老乃瀧さんで、もう一個隣がサイゼリアさんなんですよ。

掟　すぐ隣が激安店なわけですね。

カン　そこに挟まれてやるって決めたから。情報調べて値段もガッチリ落として、一流の板さんのおいしい料理を提供させてもらってるですけどね。でもキラー・カンの店だから高いと思ってる人もいるみたいなんですよね。一度入ってもらえれば「うわ、うまいね、安いね」ってわかるから、そのために焼酎無料でやってるんです。

掟　でも、お客さんのなかには無料の焼酎だけで、有料の氷もウーロン茶もいらないって人もいるんじゃないですか？

カン　まれにいますね。でも、料理がおいしいから、けっこうみんな食べてくれるんですよ。ウチのホルモン鍋はギャル曽根が来て「日本一おいしい」って言ってくれて。

掟　じゃあ、歌舞伎町と綾瀬で、寝る間も惜しんで働いてる感じですね。

カン　去年2月に立ち飲み屋を開いてから去年は一日も休みがなかったんですよ。

掟　身体は大丈夫なんですか？

カン　ただ自分は演歌歌手もやってるから。歌う仕事で地方に行ったり、テレビの収録に行ったりするときは、店には出れませんけどね。それ以外だと正月の三日以外は休みはないですね。まあ、自分は働くのが好きだし、お客さんが喜んでくれればうれしいから、苦にならないんですけどね。

閉店間際の営業時間中にインタビューを受けてくれたカンちゃん。お店に行けば気さくに話せて、一緒に写真も撮ってもらえるので、昭和のプロレス者はいますぐGO！

掟　歌では老人ホームの慰問なんかもやってるんですよね。

カン　老人ホーム慰問は今年で7年目です。この年末にも埼玉県の老人ホームで歌いましたよ。おじいちゃんおばあちゃんが70人ぐらいいてね、俺が歌ったら90いくつのおばあちゃんが「サイコー！」って言ってくれて。うれしかったですよ。こちらはボランティアだからギャラも一銭ももらいませんし。

掟　完全な慰問なんですね。

カン　そうです。こないだは電車代にって5000円いただきましたけどね。老人ホーム慰問はバップレコードの歌手、ばんどうくにやすさんと二人でやってるんです。カンちゃん・ばんちゃんで「二枚カンバン・ショー！」ってやるんですよ。自分が昔お世話になった角田八郎さんとか三波春夫さんとか、そういう歌を歌ってね。帰るときでも入口まで送ってくれて。「また来てね」って涙流しながら喜んでくれますよ。そういう姿を見たらね「あぁ、お金じゃないな」って思いますよ。いま演歌がちょっと下火だけど、私は哀愁のある演歌が好きだからね。そういう演歌をこれからも歌っていこうと思ってますね。いまさら氷川きよしさんみたいな今風の演歌にするのも無理だし。

掟　今風を求められることもあるんですか？

カン　尾崎豊さんは好きだったから「I LOVE YOU」はよく歌いますよ。歌うときは年齢層を見てね。そのときによっていろんな歌を歌うんです。でも、老人ホームに行ったら村田英雄さんとか、昭和の演歌ばかりですけどね。

掟　いま尾崎豊さんの名前が出ましたけど、中井のスナック時代によくいらしてたんですよね。

カン　来てましたね。

掟　亡くなる10日ぐらい前までカンさんの店にいらしてたっていう。

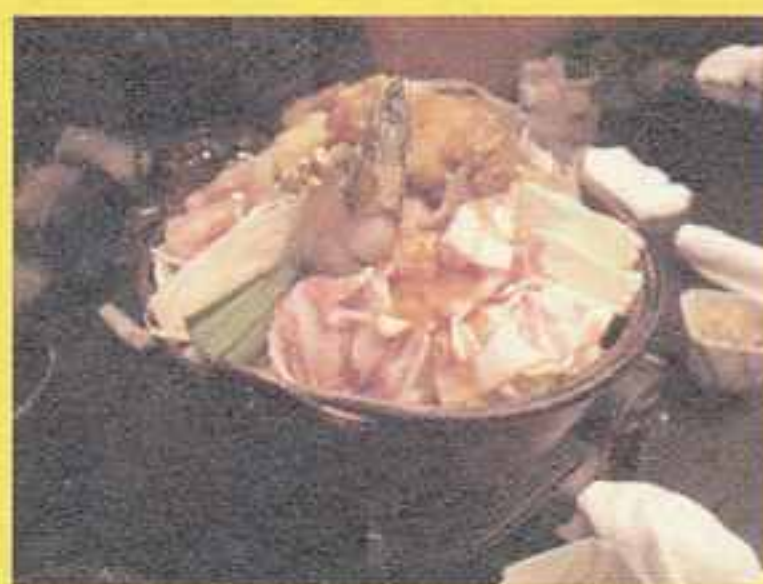
カン　よく一緒に飲みましたよ。一人で来たり、お母さんと来たり、仲間と来たり。最初、尾崎さんが外車を買ってるお店の社長さんが連れてきたんですよね。で、自分はお恥ずかしいことに、尾崎さんのことを知らなかったんですよ。

掟　確かに若者のカリスマでしたけど、それ以外の年齢層にはまだそれほどなじみがなかった気はしますね。

カン　ウチで働いてた女の子とかお客さんが「尾崎豊！　マスター知らないんで

カンちゃんオススメメニュー

カンちゃんカレー

尾崎豊さんも愛したカンちゃんカレーは、サラダがついて800円。隠し味に野菜ジュースなどが使われたおふくろの味だ。

カンちゃん鍋

春日野部屋の力士だったカンちゃん特製のカンちゃん鍋。3人くらいで行っても充分食べられる超ボリュームだが、これで一人前だ。

尾崎豊さんは優しい人だった。お客さんとデュエットまでしてくれたんですよ

すか？」って言ってましたけどね。自分は9年ぐらいアメリカに行ってたこともあって、若い歌手って全然知らなくて。でも、尾崎さんは人間性が素晴らしかったですね。お客さんで「サインがほしい」って言う人がたくさんいたんですけど、俺は「プライベートで来てるから、ごめんなさい」って言ってたんですよ。そしたら「カンさん、いいですよ。サインしますよ」ってサインしてくれてね。

掟 気さくな方だったんですね。

カン ホントに気さくで優しい人です。本物の尾崎さんの目の前で、遠慮なく尾崎さんの曲をカラオケで歌うお客さんもいたんですけど、そしたらマイクを持って一緒に歌ってくれたこともあるし。

掟 尾崎豊さんとデュエットって、メチャクチャ贅沢ですねぇ。

カン ホンットにいい人だった。だから俺ね、亡くなったときは信じられなかったですよ。亡くなる10日前にも一緒に朝まで飲んでたからね。お葬式にも行ったんですけど、涙が止まらなかったですよ。「I LOVE YOU」って、いい歌ですよね。あれは演歌だ。どう考えても演歌ですよ。

掟 尾崎の歌には演歌の心がある、と。お店には「オザキが愛したカンちゃんカレー」というメニューがありますけど、尾崎さんはカレーがお好きだったんですか？

カン いろんなものを食べてましたよ。中井の店は俺が料理を作って出してたスナックなんですけど、あるとき「お腹がすいた」って言うんで「カレーならありますよ」って出したら「おいしい、おいしい」って食べてくれたんですね。でも、自分は洋食を勉強したわけじゃないから、田舎風おふくろの味のカレーですけどね。ジャガイモとかニンジンを入れて、タマネギは炒めてね。いまも「おいしい、おいしい」ってみんな言ってくれます。

掟 尾崎さんは中井時代にボトルも入れていて、亡くなったあともファンの方がそのボトルを見に来ていたらしいですね。

カン ファンの方はよく来ましたね。それで尾崎さんのボトルを目の前において、みんなで同じ酒を飲みながら泣いてたんですよ。凄い人だったね。

掟 そもそも最初に中井にお店を出したきっかけはなんだったんですか？

カン やっぱりプロレスを引退したのがきっかけですね。

掟 急な引退でしたよね。

カン 自分がお世話になってたプロレス界を悪く言いたくないんですけど、もうホント「お金お金お金お金」でね。ジャパンプロレスが崩壊したとき、その崩壊した理由がわかったら、もうプロレス界に戻りたくなくなったんですよ。それをアメリカにいるときに聞いたんですけど、一晩考えて「辞めよう」ってサッと決めちゃいましたね。

掟 一晩で決めちゃったんですか。

カン ビンス・マクマホンやハルク・ホーガンまでが「なんで辞めるんだ、辞めるな！」って引き止めてくれましたけどね。でも、気力がなくなった人間がいつまでもリングに上がってるのは、お客さんに失礼ですからね。

掟 そこまで気力を失なうほどの内紛だったわけですか。

カン もうすぎたことだから、言っててもしょうがないけどね。あまりにも「金金金金」で嫌気がさして。急に「プロレスを辞める」って決めちゃったんで、当時の女房がビックリしちゃってね。プロレスやらなかったら、アメリカにいても仕事にならないから日本に帰ってきて。少し貯えもあったからボーッとしてたら、たまたま知り合いが長野の上山田温泉でスナックをやってて、「手伝いに来てくれよ」って言われたんですよ。俺も温泉にも入れるし、軽い気持ちで「いいよ」って手伝いに行って、給料をもらってたんですよ。そしたら、あの頃はバブルだから「キラー・カンがいる」ってことで、芸者さんがたくさんお客さんを連れてきてくれてね。

「スナック カンちゃん」時代の常連客だった故・尾崎豊さんと満面の笑みを浮かべてのツーショット。この写真は、いまも『ちゃんこ居酒屋カンちゃん』の店内に飾られている。

掟 温泉地に知名度のあるカンさんがいるわけですもんね。

カン それで「こんなにお客さんが入るんだったら自分でやってみたい」ってことで物件を探して、中井の駅前があいてたからそこでやったんです。

掟 当時、テレビのバラエティ番組にもたくさん出られてましたよね。

カン そうですね。お店を出したあと、渋谷の「ジャンジャン」という小劇場である舞台に出たら、某プロダクションの社長が観てて、「芸能の仕事もやってみないか」と誘われたんですね。それでスナックと二足のわらじを履き始めたんですよ。ビートたけしさんの『お笑いウルトラクイズ』とか、いろんなものに出させていただきました。

掟 プロレスをやりながら、芸人がカンさんのお尻に書いてある文字を読む「プロレスラー字読みクイズ」ですよね。

カン うん、出てましたね。

掟 ずっとちゃんこ屋の形態でやられてたわけですけど、モンゴリアンといえば「ジンギスカン屋をやりませんか」って誘われたりとかは？

カン ないです。俺がモンゴリアンと言ったのはあくまでも自分のキャラクターであって、100パーセントの日本人です。

掟 それはよく存じ上げております（笑）。

カン 俺がモンゴリアンとか言い始めてから、相撲界にもいっぱい入ってきてね。でもとにかくあれですよ、いまは頭のなかは歌とボランティアと店だけです。

掟 ちょっと話を戻すと、そもそもなぜジャパンプロレスに参加したんですか？

カン ジャパンプロレスができたのが84年だったと思うけど、あの頃ほら、猪木さんが野望を燃やしていろんな商売に手を出してたでしょ。で、会社のお金がことご

とくそっちに流れてたんですよ。
掟　アントン・ハイセルでできた借金の返済に充ててたんですよね。
カン　当時は新日本vs維新軍の抗争で、ガイジンもあまり呼ばないでね。それでも会場はいつも満員。かなり儲かってるはずなのに、ギャラがまったく上がらないから、みんな不満を持ってたんですよ。自分はアメリカが主戦場だったから、そんなこと関係なかったんですけどね。長州力から電話が入って「猪木さんのやり方にはついていけないから自分らで会社をやるんだけど、手伝ってくれないか」って言われたんですよ。俺は「勘弁してくれ」って言ったんです。アメリカでやっていればトップでしたからね。「俺は俺でやっていくから」って言ったんですよ。
掟　アメリカに残っていたほうが、ずっと稼げたわけですか。
カン　でも結局、大塚（直樹＝元ジャパンプロレス副社長）さんや永源さんとかみんなに頼まれてね。「そこまで言うならわかった」って了解してね。みんなで「このジャパンプロレスがおかしくなったら、みんなでこの世界から足を洗おう」って、そこまで約束してスタートしたんですよ。それなのに長州力は3年後に新日本プロレスから役員手当とギャラアップを提示されたら、戻っちゃったんですよ。
掟　まさに金で動いた、と。
カン　それで長州力と一緒に新日本に戻る人間、あと谷津みたいに全日本に残る人間に分かれて、（アニマル）浜口さんは引退してね。俺は「猪木さんの顔にうしろ足で砂をかけて出ていったのに新日本に戻るなんて、男として絶対にできない」って気持ちがあったんですよ。そしたら、いまも仲がいい天龍が骨を折ってくれて「馬場さんが『ウチに来い』って言ってるよ」って、話をつけてくれたんですよ。でも、やっぱり馬場さんのところにも行けないなって。
掟　それはなぜですか？
カン　馬場さんには日本プロレスの新弟子時代からホントにお世話になったんですよ。生まれが同郷で隣町だから。
掟　同じ新潟出身ですよね。
カン　だから馬場さんからネクタイピンもらったり、カフスボタンもらったり、小遣いもらったりしてたんですよ。でも、新日本プロレスができたとき、坂口（征二）さんに無理矢理連れていかれちゃったんですよ。俺は逆らうことができなくてね。だからずっと、馬場さんには「申し訳ない」って気持ちがあったから、いまさら馬場さんに世話になるわけにはいかないと思ったんですね。それで猪木さんのところに戻るのも男じゃないし。それで「人生、プロレスだけじゃない。辞めよう」と。年齢もちょうど40歳だったんで「40歳だったら、ほかの仕事もまだできるな」って思ったから。
掟　40歳で引退は早いですね。レスラーとして一番脂が乗ってる時期ですよね？
カン　だから辞めるときはたいへんでしたよ。ビンスに引き止められたとき「スケジュール見せてくれ」って言ったら、メインイベントばっかりなんです。それで子どもがいたから計算したんですよ。「これなら週2万ドルもらえるかな」とか。でも、気力がなくなった人間がリングに上がることは、高いチケットを買って観に来てくれるお客さんに失礼なんですよ。だから自分はサッと辞めたんです。

（写真・上）全日本とジャパンとの業務提携時、キラー・カンはジャパン軍の中心選手として活躍。（写真・下）新日本ではタイガー戸口とのコンビで82年のMSGタッグリーグ戦で準優勝。

掟　いや、なかなかできないですよ。
カン　お金に執着心があまりないのかな。アメリカにいる子どもも、ちゃんと一人前にして、親としての役目も終わったしね。
掟　お子さんはいま何をしてらっしゃるんですか？
カン　アメリカでコンピュータ会社に勤めています。女房とは別れちゃったからいま一人ですけど、一人もんもけっこう楽しいですよ。気が楽っていうかね。まあ、「彼女がほしいな」って気持ちはありますけど、この歳だからね（笑）。
掟　どんな女性がお好みなんですか？
カン　う～ん、どっちかというと気の強い女とばっかり付き合ってきたんだよね。だから気の強い女が好きなのかな。あと、ぽっちゃりしてるほうが好きですね。
掟　気が強くてぽちゃっとしてるっていったら、女子プロレスラーを思い浮かべますけど（笑）。
カン　まあ、いい女性と知り合えて、機会があればまた結婚したいですね（笑）。
掟　この連載では、いろんなプロレスラーのお店を回ってるんですけど、いま景気の悪い時代じゃないですか。その影響ってやっぱりありますか？
カン　景気は悪いですよ。歌舞伎町も昔ほど賑わってないしね。それは石原都知事がへんな規制ばかりするから、歌舞伎町に元気がなくなっちゃったんです。世の中には彼女のいない男性もたくさんいるわけですよ。そういう人たちが歌舞伎町に来て、お金を出して満たすような店も全部ダメにしちゃったでしょ？
掟　風俗店の規制は厳しいですよね。
カン　だからおもしろくなくなったんですよね。「きれいな街にする」って言うんなら徹底的にやってほしいんだけど、い

石原都知事がへんな規制ばかりするから歌舞伎町に元気がなくなっちゃったんです

まもキャッチはあるし、ぼったくりもあるしね。やるなら徹底的にファミリーで来れるような街にしなかったら、意味がないですよ。「接客業は午前1時まで」とか、中途半端な規制ばかりして。それで逆に昼間はオッケーなんですよ。だからこの前、昼間に歌舞伎町で自転車に乗ってたら、ドレス着てオッパイ半分出した女の子が酔っぱらって、お客さんにチューしてるんですよ。昼間っから表で「また来てね～」とか言ってチューしてる。夜中にやるより、よっぽどひどいですよ。

掟　不健全ですよね。

カン　だから石原都知事には、もうちょっとそういうことを考えてほしい。石原都知事は石原裕次郎さんのお兄さんだからね、昔はモテたと思いますよ。女の人には不自由しなかったでしょう。でも、世の中には不自由する男がいっぱいいるわけですよ。それで、そういう男を相手して生活してる女性もちゃんといるんですよ。で、バランスがとれてるんですよ。自分も昔、西ドイツに行ったとき、飾り窓があるっていうんで連れていってもらって、やっぱり話のタネに買ったんですよ。それはいまでも懐かしい思い出です。女性は皆国家公務員ですからね。国営だから病気なんかもない。だから結局ね、あんまり「あれはダメ、これはダメ」って言ってたら、国に活力がなくなりますよ。歌舞伎町は特殊なんだから、眠らない街でいいんですよ。いまだったら眠っちゃいますよ。昔はここも朝4時までやってたんですよ。でもいまは24時で閉めちゃう。それ以上やってもお客さん来ないもん。

掟　以前、荒勢さんが選挙に出たとき、選挙公約「暴対法撤廃」を訴えてたんですよ。「新宿にヤ○ザがいなくなってからよけいに危ない街になった」と。

カン　そのとおりですよ。

掟　だから「新宿にヤ○ザを戻そう」っていうことを選挙公約で掲げて。

カン　だって、ヤ○ザがいるといっても、ヤ○ザ屋さんはシロウトに手をかけたら終わりだってわかってるから、一般の人には絶対に手をかけないですよ。あと新宿がもっと栄えるにはコマ劇場をなんとかするべき。俺はハッキリ言うけど、コマ劇場跡地はカジノ場を作るべきですよ。

きらー・かん■1947年3月6日、新潟県出身。大相撲を経て、71年に日本プロレスでデビュー。73年に新日本へ移籍し、70年代半ばにメキシコでモンゴル人ギミックのキラー・カンに変身。80年からWWFのトップヒールとなる。日本では長州力率いる維新軍を経て、85年にジャパンプロレスにも参加するが、87年のジャパン分裂を機に引退した。

掟　石原都知事は当初お台場にカジノを作ろうとしたんですよね。

カン　石原都知事は辞める前に新宿にカジノ作りなさいって。ちゃんと身分証明書を見せてカードを作って、未成年は入れないようにすればいいんです。俺もたまに場外馬券を買いに行くけど、帽子被ったどう見ても中学生が買ってたりするんです。そっちのほうがよっぽどおかしいですよ。いまの時代はね、朝から晩まで残業して働いても食っていけなくて、電車に飛び込む人もいるんですよ。でも、ギャンブルに負けて飛び込む人なんかいない時代です。仕事の憂さ晴らしにギャンブルやるくらいいいじゃないですか。それにカジノっていうのは、だいたい取るか取られるか、二つに一つなんですよ。でも、パチンコなんかいつ出るかわからない。だから何万も突っ込んで、自分がどいたあとほかの人に出されるのがシャクだから、どんどん突っ込んじゃうんですよ。

掟　パチンコのほうがやめられない、と。

カン　だからパチンコを認めるなら、歌舞伎町にカジノを作りなさいって。そしたら東京都の赤字とか、みんなよくなりますよ。ホントに石原都知事に会ったら言ってやりたいね。

掟　都政以外へ、何か言いたいことは？

カン　いまのレスラーに言っておきたいね。ステロイドなんか使わず一生懸命練習して、リングでは飛んだり跳ねたりしないで、ストロングスタイルをやりなさいって。そうすればお客は戻ってくるから。笑って観てられるプロレスはプロレスじゃないんですよ。俺らの頃はお客さん、笑って観てなかったもん。みんな手に汗がにじんでたもん。いまK－1とかPRIDEみたいなのが大晦日にやってるでしょ？　あれに対抗できるように頑張れって言いたいですよ。

掟　プロレスは格闘技化するべきだと思いますか？

カン　格闘技にならなくてもいいけど、K－1の選手と試合したりするときは、負けちゃいかんですよ。

掟　出ていくからには負けるな、と。

カン　昔、藤田（和之）がPRIDEで勝ったときは気持ちよかったからね。それに続けるようにガンガン練習しなきゃ。俺ら、血反吐を吐くまで練習したもん。新日本プロレスの練習は厳しかったから。厳しいなりにも愛情があったけどね。

掟　練習中に何キロも痩せて、その痩せたぶんをメシで戻してたらしいですね。

カン　ホントに凄かったですよ。だから練習して「やっぱりプロレスラーが一番強いわ」って言われるようになってほしい。それだけは言っておきたいですね。

【11年1月8日／都内・新宿『ちゃんこ居酒屋カンちゃん』にて収録】

『ちゃんこ居酒屋カンちゃん』

新宿店
営業時間　18:00～24:00
定休日　月曜日
（火曜日が祭日の場合は営業）
TEL　03-3207-3217
住所　東京都新宿区歌舞伎町2-27-12新宿リービルⅡ5F

西武新宿駅
クイーンズタウンH
新宿区役所通り
ローソン
ampm

綾瀬店
営業時間　AM11:00～15:00（ランチ）15:00～23:00
定休日　火曜日
TEL　03-5697-1407
住所　東京都足立区綾瀬3-4-9 SUNPOPビルB1F

イトーヨーカドー
綾瀬駅

日本プロレスリング株式会社（仮称）設立構想

日本プロレス界統一を目指す男に新団体設立のウワサ!? その真相を直撃!

「そしてやっぱり今年も猪木を殺すまで私は死ねない」

当年とって80歳、オヘソの下は40歳

ユセフ・トルコ

またまたプロレス界統一を目指してあの男が動きだした!?　『日本プロレス』復活に向けてトルちゃんが活動中という情報をキャッチした本誌は、当の本人を緊急キャッチ!　驚きの『日本プロレスリング株式会社設立構想』とはいったい何か?　燃え盛るオスマントルコ魂の叫びを聞け～!!

聞き手／鈴木佑

――トルコさん！　なんでも『日本プロレス』復活に向けて動いてるというウワサを聞いたんですが？

トルコ　はいはい、さすが『紙の新聞』だ。ほらユー、寿司食いねえ。

――いや、ミーは『紙のプロレス』です（笑）。そもそも今回のお話はどういうきっかけなんですか？　まぁ、以前からトルコさんはプロレス界統一を訴えてますけど。

トルコ　そう、もうこれはず～っと考えてることなんだよ！　とくにタイガーマスクのところ（リアルジャパンプロレス）でレフェリーをやってた頃からな。ほら、後楽園の興行の予定表を見ると、もういろんな団体がやってるだろ？　あんなに大会があったらお客がヤんなっちゃうよ、そりゃ逃げるさ。だから、とにかくいまはババ～ンっと統一しなきゃダメなんだよ！

――こんなこと言うのもアレですけど、もちろんそれはお金目的とかではなく？

トルコ　違う違う！　いま頑張ってる若者たちの面倒を見なくちゃいけないし、これまでに苦労してきた人間たちもたたえないといけないだろ？　だから、どこの道場にもちゃんと力道山の顔写真を飾らないとダメだっていうんだよ。こないだ、高田からも連絡があったからその話をしたんだけどさ。

――え、高田延彦さんですか？

トルコ　そうそう。いまアイツはテレビでピャ～っといろいろやってるだろ？

――マット界とは少し距離を置いてピャ～っとやってますね（笑）。

トルコ　アイツなんかは俺の話をわかってたよ。これからは一つにしなきゃいかん、と。でも、問題はコレ（お金のジャスチャー）だよな。

――昔はトルコさんも「俺が動けば1億、2億ぐらいは集まる」って発言してましたけど。

トルコ　まぁ、いまはなかなかな。みんな不景気だかなんだか知らないけどさ。だけど、何人かアテはあるんだよ。

――さすが人脈が広いですね～。

トルコ　でも、みんな俺を信用してない！（キッパリ）。

――あ、信用されてない（笑）。

トルコ　いまはプロレスって難しいだろ？　みんな、いろんな噂を耳にしてるから、選手たちがまとまらないって気持ちがあるわけだよ。

――なんでも、今回はトルコさんの片腕としてベテランレスラーのS氏が動いてるって聞いたんですけど？

トルコ　あぁ、あれだよ。大仁田とモメてたヤツいただろ？　そのことは俺も最近知ったんだけどさ。

――モメてたヤツ……？

トルコ　ほら、ルー・テーズに習ってたヤツよ。

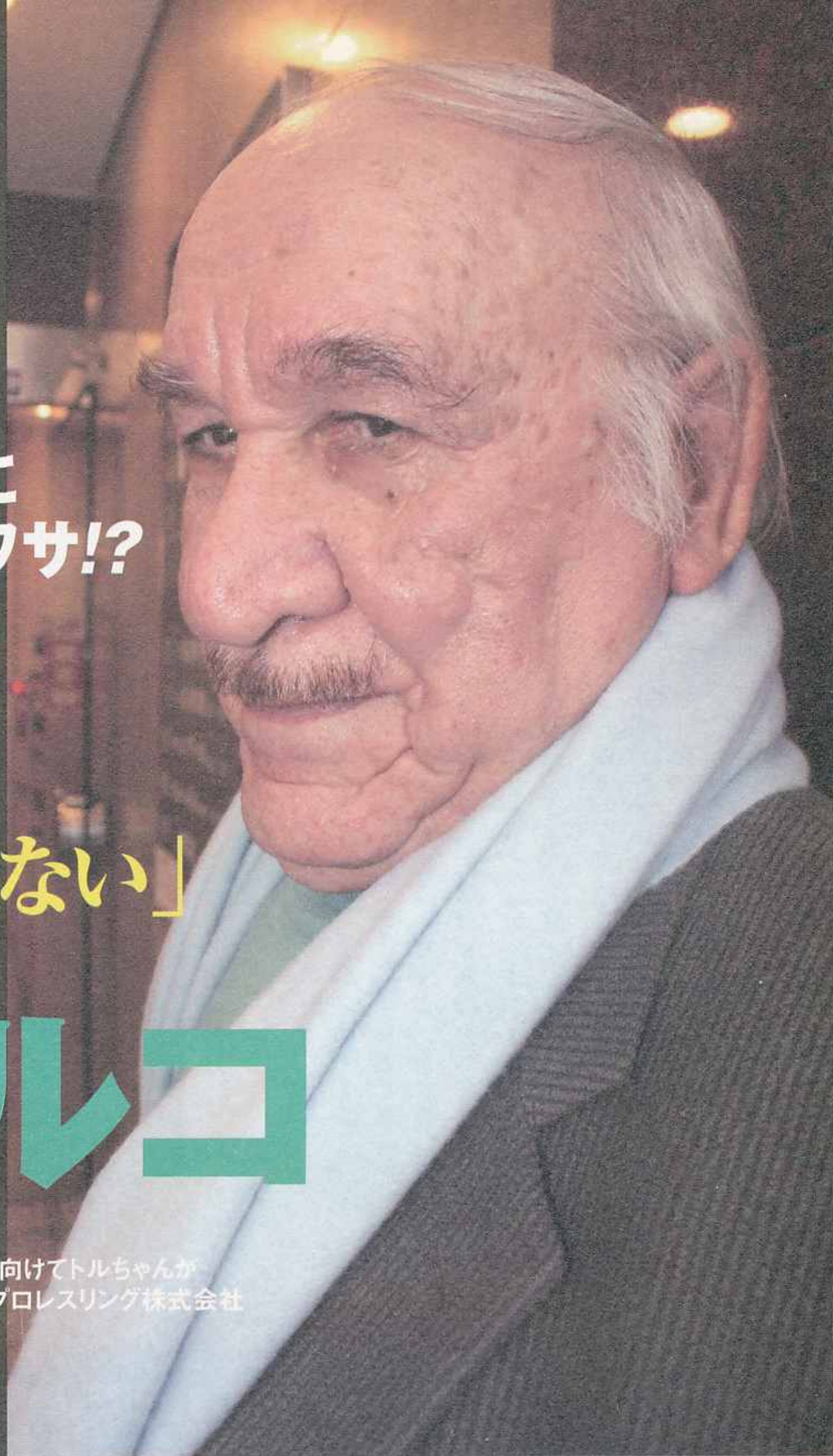
――あ～、●●●●●●さんですか？

トルコ　そうそう、それよ。ジュニアよ、ジュニア。

――ちょっと名前が惜しいですね（笑）。その●●●さんがトルコさんのサポートを？

トルコ　いや、もう手を切ったよ。あのな、アイツは猪木みたいにウソつきなんだよ、ジュニアの野郎は！

――トルコさんが命を狙ってる猪木

ジュニアの野郎は猪木みたいにウソツキなんだよ！

さんと一緒！　え、いったい何があったんですか？

トルコ　アイツ、俺の知らないうちにインターネットにあることないこと書きやがってさ。こっちはえらい迷惑受けたから、「勝手なことしてんじゃない！」って怒ったんだよ。

――そもそもどういうかたちでお知り合いに？

トルコ　秋頃にジュニアが「自分はルー・テーズの弟子です。トルコさんのお手伝いがしたいです」って言ってきたんだよ。それで「じゃあおまえ、企画書作ってみろ」って言ったら、これを持ってきたんだけどさ（カバンから企画書を取り出す）。

――は〜、表紙に『日本プロレスリング株式会社（仮称）設立構想』って書いてありますね。これは誌面に出しても問題ないんですか？

トルコ　大丈夫大丈夫！　もう弁護士にも話してあるし、アイツは俺に何も言えないから。

――うわ〜、選手候補として錚々たるメンツが並んでますね！　ただ、フリーの選手はともかく、団体の長たる人の名前まで書いてありますけど……。あ、その候補の一番上にちゃっかり●●●●さんの名前が（笑）。

トルコ　え、アイツの名前も書いてあるの？

――ちゃんと読んでないんですか？（笑）。で、「この参加候補者を主軸にして、資金5億円を集め、契約金として週候補選手に2000万円を出し、準候補選手に適額を出して組織を確立する。これら選手を集めれば、各団体は上記選手を使えないため自然消滅となり、日本プロレスに擦り寄ってくる。つまり日本プロレスリング株式会社が事実上、日本プロレス界を統一したということになる」って書いてありますね……。これ、実際に読んでみてどうです？

トルコ　まあ、よく勉強したとは思ったよな。

――あ、一応納得はした、と（笑）。

トルコ　でも、俺の名前使って勝手なことしてたからアタマきたんだよ。それでいろんなところに話を聞いたら、とにかくアイツは適当なことを言うクセがある、と。それで俺がブワーっと怒ってからは、こっちが電話してもアイツは一切出なくなったけどな。

――ちなみにトルコさんは金銭支援とかしてたんですか？

トルコ　ないない、冗談じゃないよ！　アイツ、俺に「200万ください」って抜かしやがったんだよ。で、「何に使うんだ？」って聞いても具体的に言わないしな。ホント、小さな猪木みたいなもんだよ。

――ハハハハ！　とりあえずこの『日本プロレス』復興計画は一旦ストップって感じなんですかね？

トルコ　いや、俺はもう動いてるよ！（キッパリ）。ただ、まだ細かいことは話せないな。まぁ、一番のカギはスポンサー集めだよな。あとはテレビな。もう実際に局の上の人間と話もしてるんだよ。それでまずは会社を作って選手を集めよう、と。

――具体的にどういう選手に声をかけるんですか？

トルコ　そんなのいまいる全部だよ。

――全部！

トルコ　そりゃ統一するんだからな。トップは武藤とか高田、新日本だったら長州とか天龍とかな。

――トルコさん、長州さんも天龍さんも新日本ではないです（笑）。それにもうお二人とも60歳前後なんですけど……。

トルコ　（無視して）スタートの時点でトップどころを集めて、「長州道場」とか「天龍道場」とか名前をつけて競い合えばいいだろ？　それで若いのを囲って、長州たちは会社の役員になったらいいんだよ。まぁ、なんにしろまずはコレ（お金のジェスチャー）がないと、いくらしゃべっても意味ないからな。現ナマ見せればレスラーはついてくるんだから。いま、みんな苦しいわけだろ？

――まぁ、このご時世ですしね。

トルコ　そんなの団体が一つになれば、もう一発でピャ〜っとプロレスも元気になるよ！　いまはお相撲クラブだってピャッピャ〜とおかしくなっちゃってんだから。

――相撲協会のことですね（笑）。

トルコ　もう、お相撲クラブ辞めてみんなこっち来ますよ。これは自信もって言える！（キッパリ）。朝青龍なんか真っ先に飛んでくるよ。

――ちなみにその『日本プロレス』復活構想の中に、もちろん猪木さんは入ってないんですよね？

トルコ　まぁ、もし猪木が俺に「お願いします」と頭下げてくれれば話は別だけどな。アイツの道場を作ってもいい。だから今度、猪木にそう伝えてくれよ。

――トルコさんは猪木さんと連絡はとれないんですか？

トルコ　とれないよ、逃げ回ってるんだもん。事務所に聞いても居場所を言わないよ。そもそも、アイツは腰が悪いから俺に蹴られたらおしまいなんだから。アイツは俺がどんな男か知ってるわけだよ。俺は一対一で会ったら、ババーンのバーンといっちゃうからな。

――ババーンのバーン（笑）。しかし、トルコさんはホントにお元気ですよね〜。その源はなんなんですか？

トルコ　やっぱり人をだまさない。人を苦しめない。きれいな心でいること！（キッパリ）。

――は〜、オスマントルコ魂はきれいな心なんですね！

トルコ　そういうことです！　あとは日本の食べ物を食べることな。焼き魚、もずく、納豆、きんぴらごぼう、チーズ。

――チーズは日本の食べ物じゃないですね（笑）。

トルコ　（無視して）そういう日本の塩分の少ないもの、あとは毎日ヨーグルトな。それでたまにデザートに女性。

――さすがオヘソの下は40歳（笑）。

トルコ　俺はそのへんのジジイみたいに植木鉢なんかいじってられないよ、女性がいじられたがってんだから。

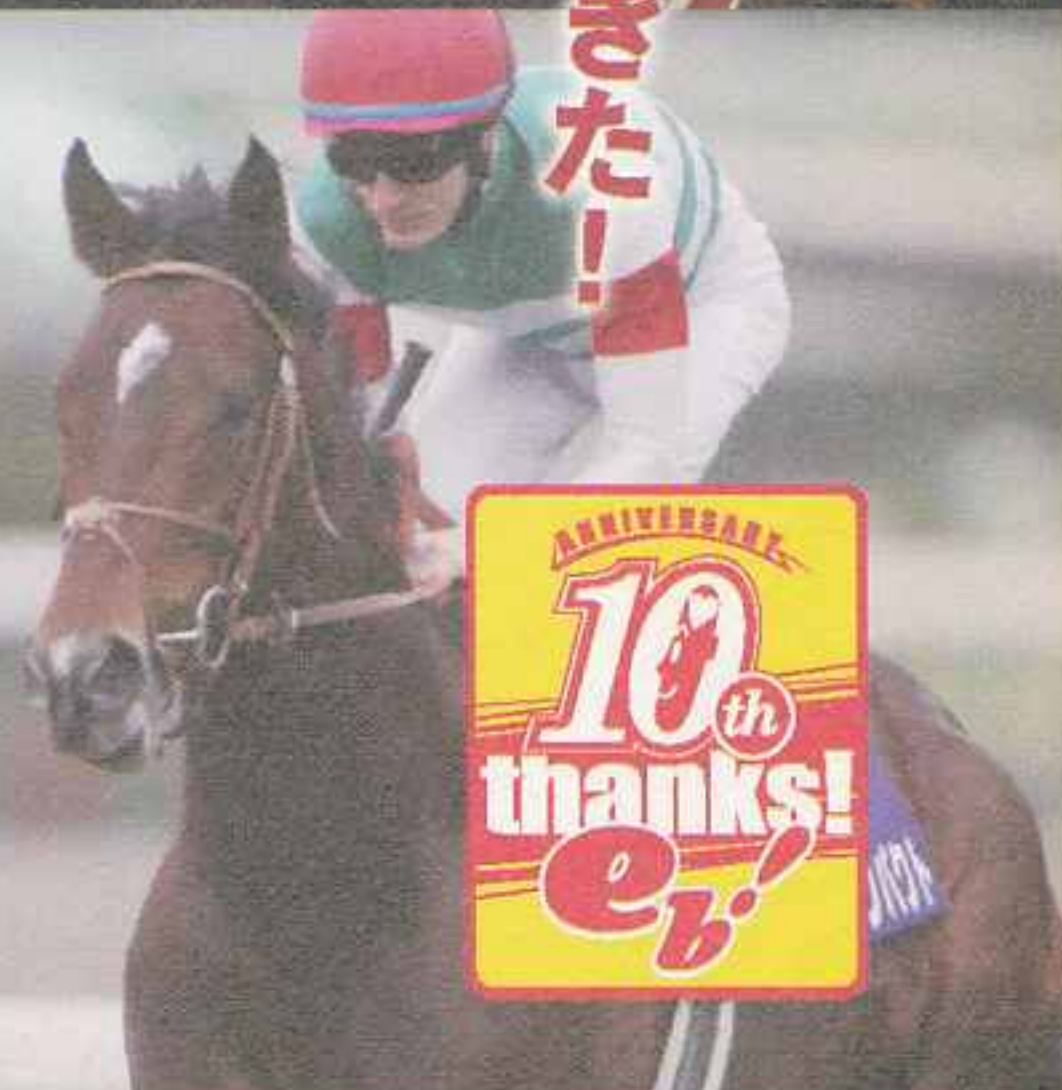
――ハハハ！　ここのところ歴代のレスラーの訃報が続きましたが、トルコさんは長生きしそうですね〜。

トルコ　俺は日本のプロレスを一つにするまでは死なないよ。あとは猪木！　猪木の野郎を殺すまではホント死なない！　だから猪木に会ったら伝えとけよ、「トルコさんが『殺すからよろしく』って言ってました」ってな！

【10年12月某日／都内・某所にて収録】

新日本プロレス旗揚げでの一コマ。当時、資金難の猪木のためにトルコは東奔西走したという。「なのにアイツは恩を仇で返しやがって」と息巻くトルコがIGFに乗り込む日も近い？

ゆせふ・とるこ■1930年5月23日、樺太出身。本名ユセフ・オマー。日本プロレス旗揚げ前から柔拳などで活躍したプロレス創成期の数少ない生き証人。日本プロレスを裏切って国際プロレスのブッカーになったグレート東郷を鉄拳制裁するなど武闘派でもある。

サラブレ
2011年3歳戦展望
新時代の3歳戦の考え方
やっぱり来た、ディープインパクト時代
ディープインパクト産駒の傾向が見えてきた！
3歳戦の馬券に役立つ2歳戦レベル判定表
レーヴディソール他、有力3歳馬たちの実力と将来性
特別付録
馬券シート
冬のダート戦コース別馬券のポイント早見表
絶賛発売中
2月号
2011 February
特別定価 740円
有馬記念で何が起こったのか!?
採決に聞く、ジャパンC降着
100年に1頭の名牝ゼニヤッタ引退特集
全国女性騎手・名&珍エピソード
10th thanks! eb!
enterbrain 株式会社 エンターブレイン 電話0570-060-555（代表） URL:http://www.enterbrain.co.jp/ 発売元：株式会社角川グループパブリッシング

全世界のお父さん号泣!?
娘が語る天龍源一郎の素顔!

「身体一つで食べさせてくれた父は本当に偉大です」

愛娘にして天龍プロジェクト代表
嶋田紋奈

昨年4月に旗揚げされた新イベント「天龍プロジェクト」。その代表は、なんと天龍源一郎の娘である嶋田紋奈さんなのである。今回のインタビューでは代表になった経緯はもちろん、娘という立場から見た、父でありプロレスラーである天龍源一郎を語ってもらった。こんなできた娘、なかなかいませんよ!

聞き手／堀江ガンツ

——今日は、天龍プロジェクトの代表である嶋田紋奈さんにお越しいただいておりますが、紋奈さんは代表のなかでも業界最年少ですよね？

紋奈　ええ。『週プロ』さんでインタビューを受けたことがあるんですけど、そのときに「最年少」って書いてありました（笑）。

——なので、今日は紋奈さんが代表になるまでのことや、天龍プロジェクトのこれからなど、いろいろお聞かせいただきたいと思います。やっぱりプロレスはお父さんの影響で好きだったんですか？

紋奈　そうですね。力士時代はさすがに知らないんですけど、プロレスは私が生まれる前からやっていて、生まれたときも巡業中だったんですよ。だから天龍源一郎という人が父親でプロレスラーというのがあたりまえにあったんです。

——それは物心ついたときからですか？

紋奈　いえ、小さいときの認識はなかったと思います。当時は年間２００試合以上やっているときで、ほとんど家にいないですし、たまに家に帰ってきても飲みに行ったり練習しに行ったりするじゃないですか。だから、プロレスラーというよりは、「たまに家に帰ってくる大きい人」みたいな。だからプロレスラーだって意識したり、ちょっと違うなと思ったのは小学校ぐらいのときだと思うんですよね。

——やっぱり普通の家とはちょっと違うでしょうね。

紋奈　それまではほかの家族と比べる機会もなかったんで気づかなかったと思うんですけど、小学校では友だちから「どうして紋奈のお父さんは平日におうちにいるの？」って言われたりして。だから「そういえば……」というところからですよ。

全日本プロレスで絶大な人気を博した天龍源一郎と阿修羅・原のタッグ「龍原砲」。そんな天龍が娘の運動会に姿を現わしていたというから、周囲の親御さんたちは非常にドキドキしていたに違いない！

プロレスラーの悪口を言ったりしたら上級生でも土下座させてましたから

——自分がプロレスラーの娘というのはどんな気持ちでした？　もちろん周りにも天龍源一郎の娘だというのは知られてたんですよね。

紋奈　ええ。だって運動会とか来ちゃいますから（笑）。

——ダハハハハ！　それは目立つでしょうね。

紋奈　もう、同級生というよりも親御さんたちが「あ、天龍だ！」みたいになってました。身体も存在もデカイですから、どっからでも見えますしね（笑）。

——全日本プロレスの頃は周りがもっとデカかったからそこまで思わなかったですけど、天龍さんってデカイですもんねえ。

紋奈　全日本の頃は馬場さん、鶴田さん、それから相手はハンセン、ブロディでしたからね（笑）。そんな方々と闘っていたので小学校の頃から私にとっては自慢の父親だったんですけど、プロレスラーってやっぱり普通のスポーツ選手とは違う感じで見られていたと思うので、うしろ指さされている感じも幼心にあったんですよ。でも、そんなときはランドセルとか振り回してましたからね。プロレスラーの悪口言ったりしたら、上級生でも土下座させてましたから。「言い直せ」って。

——小学校内で天龍革命を起こしていた、と（笑）。

紋奈　ハハハハ！　そうです（笑）。だって父親が痛い思いをして帰ってきてる姿を見ていて、それを馬鹿にされることは凄く嫌だったんです。いまでもそうですけど、わけわからないことを言ってきたら、わかるまで話しますから（ドスを効かせて）。

——さ、さすがです！

紋奈　でないと誤解されたままだし、それだとあまりにも悔しいじゃないですか。だから強気な感じでやっていましたけど、家に帰ってきて泣いてましたよ。

——要するに、天龍さんが外でやっていることを、小学校でやっていたってことですよね？

紋奈　そんな規模は大きくないですけどね（笑）。でも、「あんな商売……」って言われているかもしれないけど、私はプロレスラーという商売を選んだ人間たちが「凄いね」って言われるようにしたいんです。胸を張れる仕事なんだと。

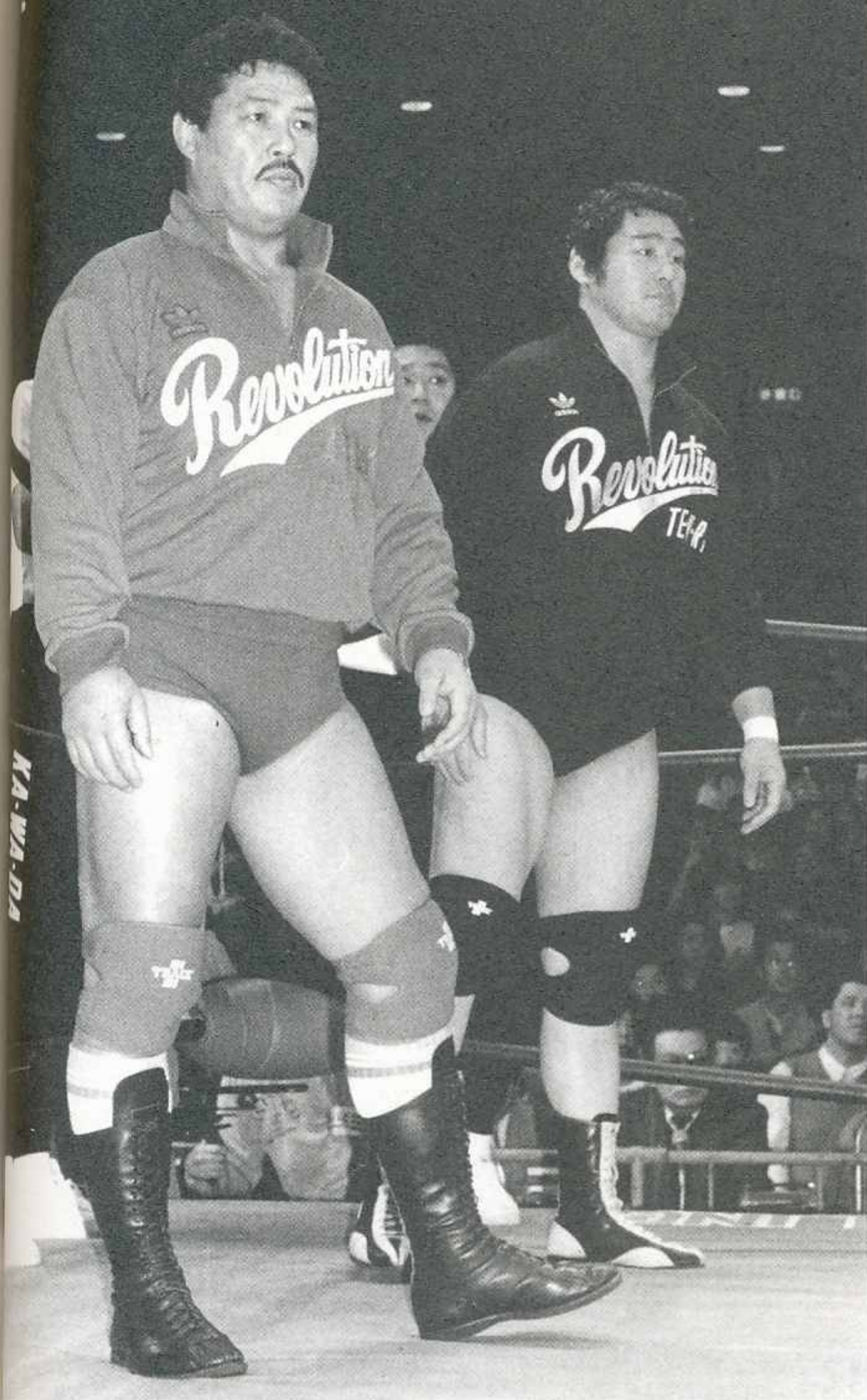
——天龍イズムを知らず知らずのうちに受け継いでいるんですね。

紋奈　もう、なんで女に生まれたんだろうって感じなんですけどね（笑）。

——じゃあ、プロレスというのは子どもの頃から自分にとって守るべきものだったんですか？

紋奈　好きでしたし、嫌いな時期っていうのはなかったと思います。

——いつ頃から熱心に観られていたんですか？

紋奈　大きい大会のときはいつも必ず母と一緒に行っていたので、東京ドームとか、横浜アリーナとか。全日本も行った

し、SWSも行ったし、WARは東京の大会は全部行ってて、パンフレットとか売ったりしてました。巡業もけっこうついていったりしていたし。ただ、ファン目線で"熱心"という意味ではケンドー・カシンの追っかけをしてた頃が一番熱心でしたねえ。

――そんなことをしてたんですか(笑)。

紋奈　もう、高校生のときにケンドー・カシンが大好きになったんです!

――でも、カシンさんは追っかけしてる子が天龍さんの娘さんだって知っていたんですか?

紋奈　知ってましたね。お父さんがそのとき新日本に出ていたので。だから「うちの娘が凄く好きなんだよ」「あー、そうですか」みたいなのもあって、私自身も使えるコネは全部使え方式で、当時寿司屋をやってたので長州さんと一緒にカシンさんにも来てもらったりとか、写真を一緒に撮ってもらったりとか。

――お父さんが偉大な人でよかったですね(笑)。ちょっと話は戻りますが、全日本の頃はまだ小学生だったんですか?

紋奈　幼稚園ですね。私が小学校に上がるときに、全日本を辞めたんですよ。幼かったですが、ブロディが亡くなったときのことも凄く覚えていて、お父さんが家に帰ってきて、その話をしていたのを覚えてますね。

――じゃあ、子どもながらに全日本を辞めたときのこともけっこう覚えてるんじゃないですか?

紋奈　ええ。だから何もわからないくせに、学校の朝の会のときに手を挙げて、「お父さんが馬場さんと喧嘩して、全日本プロレスを辞めました」って発表したんですよ。

――ダハハハハ!

紋奈　凄いでしょ? だからうちの学校だけで誤解が生じちゃって、「天龍さん、馬場さんと喧嘩して辞めたの?」って凄い言われたんですよ。親が担任の先生に「そうなんですか?」って聞かれて、「えっ、違いますよ」って話になって。だから家で「違うよ、あーちゃん、喧嘩してないんだよ」って話になったりもしましたね。お父さんもお母さんもめっちゃ笑ってましたけど(笑)。

SWSの解散を受けて、1992年に天龍源一郎が旗揚げしたWAR。1994年に行なわれた阿修羅・原の感動的な引退試合の舞台裏では、まだ学生だった紋奈さんが必死に働いていたのだ。

――なるほど(笑)。その後、SWSの頃はやっぱりピリピリしてました?

紋奈　うーん、どうなんですかね。まだ幼かったんで、あくまでも印象ですけど、強そうになったっていう。

――強そう、ですか。

紋奈　ザックリなんですけどね。父親が何を考えて仕事をしているとかは聞けないし、聞く気もないじゃないですか。だけど、やっぱり身体にしても強く感じたし、やっぱり違いましたね。それがピリピリなのかギラギラなのかはわからないけど、背中に決意を感じるみたいな気がしました、いま振り返ってみると。でも当時ってだいぶ叩かれてましたよね。なんとなくターザン山本っていう人の単語とかはその当時から知っていたんですよ。その人がいけない人なんだっていう(笑)。

――嶋田家のなかでも悪名はとどろいてましたか(笑)。

紋奈　「ほう」とは思いました。「なるほどね」みたいな。だけど、具体的に何をした人かはわからなかったですからね。いまはもちろんわかりますけど。

――ふざけた野郎だというのがちゃんと刷り込まれましたか。

紋奈　どうなんですかね、それぞれいろいろありますから……。

――いや、ふざけた野郎なんですよ(笑)。

紋奈　そうなんですか(笑)。

――その後、WARとして完全に独立されましたよね。

紋奈　ええ。WARも凄くおもしろいことやってたなって思いますね。で、じつは本格的にプロレスに関わるようになったのって、WARからなんですよね。

――あ、もうその当時から。

紋奈　そうなんです。当時、中学生だったんですけど、その日はバレンタインデーだったんで、所属の選手にチョコを渡したいなと思って木更津の体育館に一緒に行ったんですよね。それで会場でチヨコを配っていたら、叔父にあたる武井元社長に「おまえヒマだろ? 音響やれ」って言われて。

――また、ムチャぶりですねえ。

紋奈　当時はテープでスタートを押すだけなんですけどね。でも、バトレンジャーさんの入場のときに、バトさんだけA面じゃなくてB面に曲が入っていて、流せど流せど鳴らないんですよ。「これ、来たな……」と思って、で「もしかしてB面?」と思って裏返して流してみたら、超中途半端なところからバーンって流れて大失敗したんですよ。

――バトレンジャーも出るに出られないという(笑)。

紋奈　いや、結局その入場で出てきてくださってパラパラ拍手みたいな(苦笑)。でも入場って凄く大事じゃないですか。そこでやらかしてしまったんで、「これはちゃんと自分でやり直したい」と思ったんです。そこから、ちょこちょこ会場に行くたびに音響やらせてもらってたんですよね。そこから巡業にも全部ついていってました。

――しかし、学校はどうしたんですか?

紋奈　義務教育をいいことに、休みまくってましたね。義務教育はダブらないですから。

――ホントは受けなきゃいけない「義務」があるという意味なんですけどね(笑)。

紋奈　でも、そのときは親にも究極の選択をさせて「WARの巡業に中途半端に

出たくないからきちんと行かせて」と。「行くなら全部行きたい、それを許してくれないなら学校に行かない」って。これ、どっちも学校には行かないってことなんですけどね（笑）。

——ダハハハ！　中途半端に行かないか、完全に行かないかっていう。

紋奈　そしたら「わかった。しっかりやりなさい」って言ってくれたんですよ。当時の先生たちも凄く理解があって「紋奈がやりたいことを見つけたんだったら」って凄くバックアップしてくれたんですよね。

——高校時代はどうしたんですか？

紋奈　高校も同じようにやろうとしてて、頑張る気満々だったんですけどWARが解散になっちゃったんですよね……。もう、ポツーンみたいな。だから高校はWARのせいではないです。

——あ、高校もちゃんと中途半端に行ってた、と。

紋奈　それなりに青春しました（笑）。

——さすがです！（笑）。

紋奈　でも、悪いことはしてないですよ。親が怖いですし。それに、友だちからも「紋奈が悪いことしたら、『東スポ』の一面に載るぞ」みたいな脅され方をされてたんですよ。

——それはビッグニュースになりますよ（笑）。じゃあ、青春を打ち込んだのは中学時代のWARなわけですね。

紋奈　プロレスが私の青春ですね。自分がすべてを捧げたいと思ったものがWARの裏方の仕事なんで。やってみてホントによかったって思ってます。

——具体的にはどこまでお手伝いをしてたんですか？

紋奈　朝の陽が昇る前にリングが積んであるトラックで移動して、着いたら会場にグリーンのシートを張って、イスを並べて、リングを作って、グッズの物販スペースを作って、音響の全部頭出しとかをしてとか……。

——完全にリング屋さんじゃないですか（笑）。

紋奈　そうです。終わったら片づけて、そのまま次の会場にはねるみたいな。でも、車の中でもあまり寝れないんですよ。運転しているのが海野さんで、居眠り運転防止として。だから「寝ないためにどうするべきか」というのを編み出したりして、毎日楽しかったですね。

じつはハッスルのスキットにも登場したことがある紋奈さん。スランプぎみの天龍に向かって、容赦なく檄を飛ばすシーンが映し出されていた。インタビューの受け応えしかり、この気っぷのよさはまさしく親譲りなのだろう。

天龍の娘という壁を越えて お父さんを支えたいと思ったんです

——本格的な巡業ですねえ。

紋奈　いまの団体は天龍プロジェクトもそうですけど、単発で東京だけとかですよね。でも当時は、ガッツリ東京から大阪に行くまでに何個か興行があるみたいな。夏なんて最悪ですよ。汗だくどころじゃなくて、働きすぎて拒食症寸前ですからね！

——でも、天龍さんもよく許しましたね。娘が巡業ついて、裏方で泥だらけになっているという。

紋奈　あそこまで反抗したのは初めてだったからだと思います。「絶対行きたい」って譲らなかったのは初めてだったので。お父さんも意志が固いんだなって思ってくれたんだと思います。だって、何かを「お願い」って言って許可をもらうのに、天龍源一郎に挑まなきゃいけないんですから。だからある程度お願いしても、ダメって言われたら「わかった……」ってなるじゃないですか。でも、それだけは譲らなかったですから。

——それはプロレスが好きだったからですか？　それとも天龍さんの仕事を手伝いたいという思いが強かったんですか？

紋奈　後者だと思います。だって、マスコミも会場設営の人も、この業界の人たちが食べていけるのって、プロレスラーがいるからじゃないですか。たとえば、私もそうだし、記者さんもそうですよ。全部が連結している一番トップにお父さんがいるんだなって。そう思って試合を観たときに、「これで家族を食わせてるって凄いことなんだ」と思ったんです。そう気づいたときに、天龍の娘という壁を越えて、いちアルバイトとしてでもお父さんを支えたいと思ったんです。お父さんが頑張っているから、それを支えられる人になりたいって。それは試合を観たりしてもそうですし、たとえば巡業を回っているときもそうですけど、ほかの選手やスタッフに凄く配慮のある人で、そういうところに魅せられて、さらにはまっていったんですよね。

——じゃあ、WARがクローズしたときは残念だったでしょうね。その後はそこまで密接に関わっていたわけではないんですよね？

紋奈　全然です。それこそ選手みんなでごはん食べているところにちょっと顔をちょっと出すとか、その程度です。

——となると、ここ10年ぐらい離れていたことになりますね。

紋奈　学業に専念しながらカシンの追っかけをやってたくらいですかねえ。そのあとは全然ですね。ハッスルとかも何回かしか観に行ったことがないし。それにお寿司屋さんの手伝いがあったので。

——ああ、「しま田」のお手伝いを。

紋奈　プロレスが始まる時間とお寿司屋さんの営業時間ってかぶるんですよ。だからなかなか休みが取れなかったり、お寿司屋のほうもけっこう力を入れてや

ってたので。なので、選手とかの名前とかも15年以上前じゃないと完璧にはわからないんですよ。

——しかも、この10年って一番プロレスが変わった10年かもしれませんからね。

紋奈　そうなんです。ただ、最近はお父さんが若いレスラーの方と対談させてもらう機会が凄く多いんですけど、「時代違うから考え方も違うのかな」とかって思ってたら、そうでもないんですよね。要するに、天龍源一郎の世代を見てきた人たちがプロレスラーになってるんで、気持ちとかは一緒なんですよ。

——ほう。おもしろいですね。

紋奈　それが凄くうれしいんですよ。「頭でっかちで硬いことばっか言ってるな」とか「頑固おやじがうるせーな」じゃないんですよね。それに、私にとっては「プロレス＝天龍源一郎」でしかないので、お父さんと違うことしていると「うーん」って思っちゃうんですよ。でも、ちゃんと若い人も考えが同じでいるということは、お父さんたち世代が凄いものは凄いものとして、いまの時代にきちんとかたちを残しているんだなって思いますね。

——イズムが受け継がれているということですね。

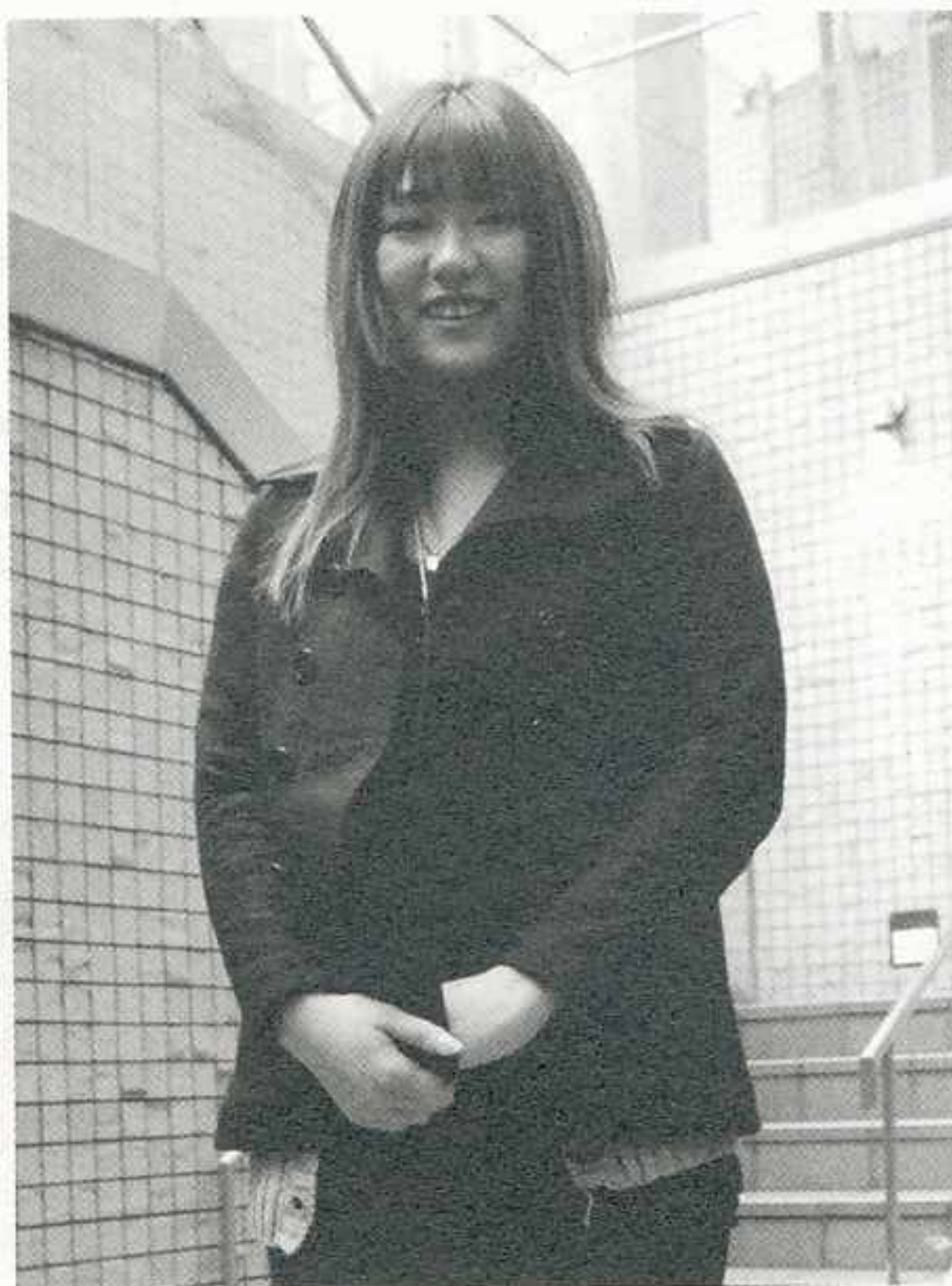
紋奈　凄くそう思います。どのレスラーの人たちもきちんと揺らがないものを持っているから人の前に出られるんだなとか。対談の話を聞きながら一人で感心してるんですけどね。

——いい話ですね。それで、もともと天龍プロジェクトの代表になるというのはどういった経緯だったんですか？

紋奈　ある日、突然言われたんです。ファンイベントのときに、お父さんから「最後に代表から一言」って振られて、「えっ、あたし？」みたいな。そんな話、いま聞いたよみたいな感じでした。

——それは凄いムチャぶりですね。

紋奈　キラーパスですよ。でも、その日から私のことを「代表」って呼ぶようになって。だから「洗脳かな？」みたいな（笑）。そんな感じで代表になったんです。だから、やっと私もそのぐらいの歳になったんだって思ったのと、たぶん「天龍源一郎の娘なんだから胸張れよ」っていう意味もあったんじゃないかなって勝手に思ってますけどね。いまは受けとめて「ちゃんとやらなきゃいけないな」と

「天龍源一郎の娘なんだから胸張れよ」って意味もあったんじゃないかなって

しまだ・あやな■1983年7月8日、東京都出身。父親である天龍源一郎を支えたいという一心で、中学生時代からプロレス興行の裏方として巡業に同行。WAR解散以降は「鮨處 しま田」で働き、天龍プロジェクト創設以降、現在は天龍プロジェクトの代表として日夜忙しく活動している。

思っているので、今回の取材もお受けしたんですけどね。

——そんな代表にお聞きしますが、今後は天龍プロジェクトをどうしていきたいですか？

紋奈　ザックリですけど、もっと盛り上げたいですよね。あとは、天龍源一郎という選手があと10年も15年もやるとはとても思えないので、かぎられた時間のなかで一人でも多くの人にプロレスの素晴らしさを感じさせてほしいです。選手も含めてですね。若くてもいいので、いろんな選手に気持ちを伝承していきたいというのがありますね。

——DNAを継承したい、と。

紋奈　あとは、レジェンドというくくりもあると思うんですけど、私はあの人の心の中はまったくレジェンドじゃないと思っているので。懐かしさにふけるのはとてもいいことだと思いますし、私も大事にしてます。でもいま見せるのはそれじゃない。いつまでも若手にガンガンやったりやられたり、「こんな大人げない60歳、見たことがない」って言わせたいですね。

——いや、いい意味で大人げないです。天龍さんって本当の意味で〝現役〟ですもんね。

紋奈　やっぱり楽しいですよ。天龍源一郎という人と一緒にいると、毎日がワクワクドキドキします。おもしろいことがガンガン浮かんでくる人なので。

——やっぱりそれだけ一緒にいると、一緒にお酒を飲まれる機会もあるんじゃないですか？

紋奈　そうなんですよ。というか、寿司屋で働いているときって当時は20代前半だったんですけど、その貴重な休みをすべて父親と飲みに行くことに費やしたんですよね。

——全部！　それはまた珍しい20代女子ですね。

紋奈　だって、お父さんと飲むよさってあるじゃないですか。私、息子になれなかった娘みたいな感じなので、やっぱり20歳を越えたからには一緒に行きたいなって。

——全国のお父さんはうらやましいでしょうねえ。

紋奈　でも、本気で楽しいんですよ。普段より高いお店に行けるってのもあるんですけどね（笑）。

——そういう目論みもありましたか。

紋奈　でも、ホントに友だちとかとワイワイガヤガヤやるよりも、二人で「あーでもない、こーでもない」ってしゃべるのって凄く栄養になってたんですよね。たとえばお店の愚痴であっても、答えをその場で教えてくれたり、考える発想とか気持ちを膨らませてくれるんですよ。「なんでそう思うの？」とか。だからその時期は本気で助けられてたんですよね。

——天龍さんって父親としてもいいお父さんなんですね。

紋奈　本当にそうなんです。いいプロレスラーだし、いいお父さんなんですよ。いい旦那かどうかちょっと私はわからないですけどね（笑）。それは母に聞いてもらわないと。

——ハハハ。でも今日は天龍さんのすてきな父親像が垣間見られておもしろかったです。

紋奈　もう、いつでも聞きに来てください。私、天龍源一郎のことならいくらでもしゃべれますから（笑）。

【11年1月6日／都内・某所にて収録】

“破壊王の血”は
息子にも流れていた!?

「父の遺志は僕が受け継ぎます」

3月6日『ZERO1』両国大会
蝶野正洋戦でデビュー!

橋本大地

破壊王の息子・橋本大地がついにプロレスデビュー! これまでリングに登場するたびにプロレスラーになることを宣言してきた橋本大地だが、ついに3月6日、両国国技館でプロとしてリングに上がることが決定した。その意気込みを聞くとともに、学校生活など破壊王が亡くなって以降の様子も直撃。恥ずかしがらずに読め!

聞き手&撮影／松下ミワ

――昨日は新日本のドーム大会に行かれてたみたいですね。

大地 行きました。昨日はDDTさんとかノアさんの選手も来ていたので、皆さんに挨拶して。そのときにライガーさんにもご挨拶したんですけど……、じつは僕を見てなぜか泣かれてたんですよ。

――ほう、そんなことが。

大地 もともと、昔からライガーさんには凄くたくさん遊んでもらったんです。父親に新日の道場に連れていってもらったときに、いつもライガーさんの部屋で遊んでて。で、ライガーさんの部屋でマスクを触って遊んでたら、ライガーさんのマスクってうしろに小さい角が生えてるんですよ。だから「これは何に使うの？」って聞いたら、「試合でやられそうになったら、こうやって刺すんだ！」って、うしろに頭突きして（笑）。それ見て喜んでましたね。

――ライガーさん、やさしいですね。じゃあ、ひさびさの再会だったんですか？

大地 すっごいひさしぶりです。だから「涙出ちゃうな」なんて言って少し泣いてくださって……。で、「足はいいな」とか「胸はもうちょっとだ」とか「体重は何キロだ？」とか聞かれて。「80キロです」とお答えしたら「筋肉であと5キロほしいな」って。なんか僕も泣きそうになりました。

――いい話です！『kamipro』でも大地さんは07年にインタビューして以来、ちょっと時間が開いてしまったんで、これまでのことも含めていろいろおうかがいしたいんですが、大地さんはいまは高校生なんですよね？

大地 今年度で卒業ですけどね。

――学校ではどんな存在なんですか？

大地 どうなんですかねえ。でも凄い騒がしい学校なんですよ。

――大地さんも騒いでるんですか？

大地 騒いでますね。でも、僕ともう一人中学から一緒に来たヤツがいるんですけど、二人で仕切ってるじゃないけど、引っぱってるような感じかもしれないです。

――リーダー的な存在なんですか？

大地 クラスがうるさくなったりして先生が「静かにしろ！」って言ってもみんな聞かないですけど、僕たちが「静かにしろ！」って言うとみんな黙るんですよ。なんか気持ち悪いですよねえ。

――おお、かなり存在感があるということですね。

大地 たぶん僕が1年生のときに一回クラスでブチギレたことがあるからだと思うんですけど。家庭科の先生がいて、けっこう年配で考え方が古風な先生だったんですけど、みんながその先生の授業についていけなくて騒いでたんですよ。そしたら、「みんながうるさいんだったら、私も帰ります！」ってなったんですけど、「じゃあ帰れよ！」って。そしたらホントに帰ってしまったんです。

「ハッスル」破壊王追悼イベントなど、デビュー前からたびたびリングに上がる機会があった橋本大地。そんなときはいつもプロレスラーデビューをほのめかしていたが、本当に決心したのは破壊王が亡くなってしばらく経ってからだという。

クラスで僕たちが「静かにしろ！」って言うとみんな黙るんですよ

――学校で一度は見たことあるような光景ですね。

大地 そしたら違う先生が来て、「何があったんだ」って聞かれて。で、「誰が『帰れ！』なんて言ったの？」って聞かれたときに、クラス全体が言ってたのに誰も手を挙げないんですよ。それに俺も腹立ったから、机をバーンって蹴ってブチ切れたことがあって。

――凄く正義感が強いんですね。

大地 だって、授業を受けたい人もいるだろうから、その自由を奪うのは間違ってますよね。そういうの、キライなんですよ。

――カッコいいです！ やっぱり学生生活は楽しいですか？

大地 楽しいといえば楽しいんじゃないですか。あんまり行ってないんでわかんないです。1、2年生のときは行ってたんですけど、いまはプロレスがあるんで。とりあえず先生には話してあるんで休んでも大丈夫なんですけど。

――同級生たちも大地さんがプロレスラーを目指すということは知ってるんですよね？

大地 最初は知らなかったと思うんですけど、この時期からバレたなっていうのは『週プロ』の表紙になってからぐらいですね（笑）。

――そりゃそうですよね。みんなビックリでしょうね。

大地 逆にこっちがビックリしたのは、『週プロ』の表紙になるもっと前の話なんですけど、一回『スッキリ!!』（日テレ系）に出たことがあって。でもその時間は学校があるから誰も観ないと思うじゃないですか。でも、違うクラスの女の子で、僕と同じく遅刻の常習犯がいたんですけど、一回も話したことないのにいきなり「あー、出てたよね！」とか言われて。遅刻してきてるから、観てきてるんですよ。全然話したことないのに、ビックリしました。

――ワハハハハ！ 学校はいつ頃から行ってないんですか？

大地 今年の夏ぐらいからあまり行ってないですかね。「練習するんで」ってことで月、火、水は休んで、木、金は学校に行くという。でも、金曜日って授業は午前だけだから、週に一日半しか行ってなくて、2月なんて3日しか学校に行く日がないんですよ。卒業式は3月10日ですし。

――それはちょっと寂しいですね。もっと学生生活を楽しみたいんじゃないですか？

大地 すっごい思います。僕なんかは大学も専門学校も行かないんで、ラスト学生ですからね。でも、レスラーになるって決めたんで。

――そのレスラーになるキッカケというのは、以前のうちのインタビューで「元PRIDE代表の榊原さんから言われたから」って書いてあったんですけど、これ、ホントですか？（笑）。

大地　あ、それは言われただけだと思います（笑）。決めたのは僕ですから。それに、理由はやっぱり父親が亡くなったからというか……。僕、父親が亡くなって、お通夜があって式が終わっても絶対に泣かないように決めてたんです。顔を見たときもそうだし、実際、そこまで全然泣かなかったんですよね。でも、ガーって閉まって燃やす瞬間になったら、なんか知らないけどグワーって涙が流れてきて……。

――……。

大地　もう、あの日は何してたか覚えてないぐらいです。燃やしてるあいだにみんなで食事するじゃないですか。あそこまで行けなくて、誰かに連れていかれたんですけど、そこまでの道も覚えてないし、気づいたらまた燃やしたところにいたりして……。たぶんあの扉を閉めた瞬間ぐらいから、感覚的には「僕がやんなきゃ」って思ってたんでしょうけど。で、何日か経って、どこかの会場で父親の追悼式みたいなのがあったのかな。そのときにたぶん確実に決めたんだと思います。

――『ハッスル』とか『ZERO1』とかですか？

大地　それが覚えてないんですよ。でも、そこで決断したのは覚えてます。それまでも「やらなきゃ、やらなきゃ」とは言ってたんですけど、自分の中で決心できてはなかったんですよ。あんな痛いのできないって不安でしたし。でも、高校入ってから本格的にやらせてくださいって『ZERO1』に坊主にしてお願いしたんですけど。

――それ以前から「うちで練習しない？」みたいなお話はあったんですか？

大地　『ハッスル』のときから一、二回は行きました。でもそのときから手伝いは始めていたので。そのときに寮に泊まったんですけど、ちょっと練習して帰りましたね。

――いまはどんな練習をされてるんですか？

大地　受け身は夏前からやってて……、あれ？　どっかで先輩に「ロープワークを教えてやる」って言われてロープワークを教えてもらいまして、そのあとに受け身の練習を、たしか大谷さんに一番初めに教わりました。

――お父さんがプロレスラーだったから、

1月12日の会見で、橋本大地のデビュー戦の相手が、なんと父・橋本真也とも縁の深い蝶野正洋と発表された。本文では「ケンカキックをどう受ければいいのか……」と不安がっているが、はたしてどうなる!?

燃やす瞬間になったら、なんかグワーッと涙が流れてきて……

ある程度理解は早いんじゃないですか？

大地　いや〜、たぶんプロレスって見てるだけじゃわかんないんですよ。やったらやったでまた違いますから。受け身のやり方とかも、次は何をするかとか考えておかないといけないですし。次はこの技をどう返そうかとかを一瞬にして考えるというか、身体に覚えさせておくというか。

――なるほど。いつも誰が指導してくださってるんですか？

大地　いっぱいいますよ。技術であれば日高さん、大谷さん、蝶野さん……。日によって違うんですけどね。だから一番練習した数が多いのは横山さんか、柿沼さんだと思います。でも……大谷さんは厳しいです（笑）。スクワットでも、一番初めのスクワットの時点で「やっと終わったー！」って感じになるんですけど、「はい、次！」って。凄く長いんですよ。

――キツそうですねえ。でも、小さい頃から知ってるでしょうから、皆さんかわいがってくれるんじゃないですか？

大地　夏ぐらいのときは、自分でも甘やかされてるってわかるぐらいでした。でも、僕の中ではもっとちゃんとプロレスをやりたかったので、厳しい目で見てほしい部分があったんですよ。でも、そしたら夏から練習生になって変わりましたね。すんごいキツくなりました。だからもう、練習しないでデビューしたい！

――ワハハハハ！

大地　このまま学校に行き続けて、いきなりバーンってデビューしたい。でもそんなの無理だし、大谷さんもやる気になってくださってるし、やるしかないですよね。今日だって、横山さんとリング練習したばっかりですよ。でも、そういうのをやってたら、気づいたら体重も増えてたんです。夏のときはまだ70キロだったんですけど、いまは80キロですから。

――あっという間に10キロ増ですか。

大地　ただ、いまは壁なんですけどね。もう80キロから上がんないです（苦笑）。

――じゃあ、ライガーさんに「あと5キロ増やせ」って言われたのもけっこう難関なんですね。

大地　難関です。もの凄い食ってますもん。でも全然、体重が増えないっていう。

――あれ、でもお父さんはかなり身体が大きかったですよね。

大地　父は食べる量がバケモノなんですよ！　だって、たまに朝早く起きて朝飯を作ってくれるときがあったんですけど、味噌汁があって、ごはんがあって、魚があるって感じなんですけど、当時小学生だった僕が食える量じゃないんですよ（笑）。そのときは妹がまだ一人で、妹と二人並んで「食え」って言われたけど、食えない。もう遅刻しちゃうから母親が「行かせるよ！」って言って助けてくれたんですけど、すんごい苦しかったですもん。

――いったいなんの目的があったんですかね（笑）。でも、そういう意味でもお父さんの偉大さというのを感じてしまいますね。

大地　飯食ったあとにラーメン食いに行ってましたから。でも、父親の作るごはん

橋本大地

はおいしかったんですよ。とくにちゃんこが凄いうまかったんです！　なんか自分でいろいろ混ぜて作ってたんですよ。

——さすが、本格派！

大地　母親が「習っとけばよかった」って言うくらい。もう、何入れてるかさっぱりわかんないんですけど、自分で配合しておいしく作ってくれてたんですよねえ。

——お料理には凄く凝られる方だったみたいですからね。

大地　急にラーメン作ったり、豆腐作ったり、パン作ってましたもん。家で。かなり高い機械を買ってきてましたから。

——謎の機械が（笑）。それはまだあるんですか？

大地　ないですよお。あんなん作るの父親しかいないですもん。まあ、『橋本真也博物館』とか作っていただけるならそこに置きたいところですけどね。

——ちなみに、自分がお父さんに似てるなって思うこともあります？

大地　どうですかねえ。母親からは「だんだん、似てきたね」って言われることは多々あるんですけど。僕が一番下のひかるを連れて虫を捕りにいってた姿が凄く似てたって言われたこともありますし。あとは、やることが同じだって言われます。

——も、もしかして空気銃で人を撃ったりしてるんですか？

大地　さすがにそこまでは（笑）。

——もしくは、将来的にも台風の日に漁に出るかもしれない、と。

大地　いや、父はあの体重があったから川に流されないで大丈夫だったんですよ。

——そうなんですね（笑）。しかし、3月6日のデビューというわけですが、じつはあと2ヵ月しかないんですね。

大地　そうですよ。しかも、両国ってデカイですよねえ。

——でも、もうリングに上がるのは慣れたんじゃないですか？　去年の9月には小林聡さんともエキシビションマッチをやってますしね。

大地　そのおかげで人前でもしゃべれるようになってるのかなとは思います。

——デビューに向けていまどんな気持ちですか？

大地　まず、相手が誰になるんだろうって感じですよね（のちに、蝶野正洋に決定）。普通、デビュー戦って一番キャリアの近い人とやるじゃないですか。でも、僕の周りにはそんな人はいないですし……。大谷さんとかだと、死ぬというか潰されるんじゃないかなあ。

——厳しい試合になりますよね。

大地　たとえば、僕が個人的に「こうなったらおもしろいんじゃないかな」というレスラーの方を挙げるとすると、やっぱり蝶野さんとかライガーさんだとかって妄想したりするんですけど、「あのケンカキックはどうやって受けるんだろう……」とか「ライガーさんの浴びせ蹴りは危ないよなあ」とか、そんなことばっかり考えちゃうんですよね。

——まあ、誰と当たってもたいへんでしょうねえ。

大地　あとは武藤さんっていう声も上がりましたけど、それでもキャリアは25年以上とかじゃないですか。大谷さんも18年くらいですか？　そんな人たちと闘えないですよね、普通。

——まあ、どちらかというと皆さん、お父さんとキャリアが同じぐらいの方たちですからね（笑）。

大地　でも、もう決めたことなんで、覚えたことを全部出すぐらいの気持ちでいきます。

——ちなみに、デビュー戦に関してお母さんのかずみさんはどんなふうに言われてるんですか？

大地　知らないです！（照れながら）。

——ハハハハ！　いろいろあるんですか。

大地　……というか、「デビューできるの？」みたいなことは言ってましたけど。

——でも、やっぱり泣いてしまったりするんじゃないですか？

大地　絶対に泣かないですよ。だって、小林さんとエキシビションマッチをやってたときとか、ここで公開練習やってたときもなんて言ってたか知ってます？　「いけー！　前に出ろー‼」とかですよ（苦笑）。公開練習の前だと、「どうしよう。大谷くんのこと、殴っちゃうかもしんない……」とか、エキシビションの前だと「（大地がやられてたら）殴りにいっちゃうかもしんない……」とか言ってたくせに、「いけーー！　負けんなーー‼」とかですからね。

——やっぱりそのへんはお母さんのほうが免疫があるんでしょうか（笑）。

大地　あ、免疫で思い出した！　うちの母親って父親とかが周りにいた環境じゃないですか。で、うちの父親って入院しないといけないぐらいの傷でも「入院したくねえ」って言って、母親に消毒させてたんですよね。

——そんなことをしてたんですか……。

大地　それを母親も「気持ち悪い……」とか思いながらやってたらしいんですけど、この前、うちで飼ってる犬のドッグフード入れるガラスのお皿を僕が落っことして割ってしまったんですよ。そこに母親が来て、足で踏んだら切れちゃったんです。それを見て、冷静に「あ、切れちゃった」ですからねえ（笑）。

——凄い……。

大地　普通の人だったら、凄い血が出てるからパニくって「ワー！」ってなると思うんですけど、「これはキズパワーパッドを買ったほうがいいのかな？」とか言うから、「……うん、買ったほうがいいよ」って（笑）。

——お母さんがプロレスラーなわけじゃないですもんね。なんでそんなに痛みに強いんだって話になっちゃいますけど。

大地　「痛い」とは言ってましたけど、それを見慣れてるから切れても冷静なんですよ。

——じゃあデビュー戦は会場周りも非常に楽しみということですか。

大地　セコンドに入れても大丈夫かもしれないですね。ククク。

——いいですねえ。いろんな意味で楽しみな3月6日両国大会になりそうです。

大地　確かに（笑）。もう、お母さんに闘ってもらおうかな。

——ハハハハ！　せめて大地さんと親子タッグでお願いします（笑）。

【11年1月5日／都内・ZERO1道場にて収録】

はしもと・だいち■故・橋本真也の長男であり、現在高校3年生。09年、橋本真也デビュー25周年記念大会で小林聡とキックボクシングのエキシビションマッチでプレデビュー。その後、10年夏からアルバイトで学費を稼ぎつつ、ZERO1の練習生に。3月6日『ZERO1』両国大会の蝶野正洋戦でデビューする。180cm、80kg。

菊地毅

かつては超世代軍として三沢光晴や小橋建太とともに人気を博した菊地毅も早46歳。09年12月に、なかばクビのようなかたちでノアを退団した"火の玉小僧"だったが、なんと現在はインディーマットを中心にブレイク中、フリーとして引く手あまたの状態なのだ！ そんな狂い咲き状態の菊地に、23年にわたるキャリアを振り返ってもらいました！

聞き手／小松伸太郎（THE PHELWANS）　試合写真／平工幸雄　構成／鈴木佑

——今日は菊地さんのレスラー人生を振り返りたいと思ってまして。

菊地　そんな、レスラー人生ったって、まだ俺は現役バリバリですよ。

——まぁ、ここにきて巷でブレイク中といいますか（笑）。

菊地　ブレイク？　なんかトゲがあるなぁ（笑）。まぁ、なんでも聞いてください。

——では、まずレスラーになったきっかけから教えてもらえますか？

菊地　スタートはプロレスじゃないんですよ。マンガなんですよ。

——なんていうマンガなんですか？

菊地　『１・２の三四郎』っていうマンガを同級生に教えられて見始めてね。東三四郎ってのが主人公なんだけど、ラグビーから入って、そのうちプロレスラーになるんですよ。それで、「プロレスっておもしれえじゃねえか！」と思って、プロレスを見始めたんですよ。それがスタート。

——プロレスへの入り口は『１・２の三四郎』だったんですね。

菊地　だから、「マンガチックじゃねえか」って言われるけどさ（笑）。で、当時は新日本のほうが観る機会が多くてね、タイガーマスクもいたし。でも、俺の目に映っていたのは対戦相手のダイナマイト・キッド。水色のタイツに白いラインが入っていて、「こいつカッケーなぁ……」と。

——菊地さんはキッドに憧れてたんですよね。

デビューのきっかけは大学の監督に鶴田さんを紹介してもらったから

菊地　うん。だから、『１・２の三四郎』とキッドの同時進行で熱くなってさ、高校卒業したらプロレスに行こうと思ったんですよ。でも、高校の先生に「大学である程度成績を残してからプロレスに入っても遅くないんじゃないか？」って言われて。まあ、へんなかたちで口説かれちゃったんだけど、大学に行くはめになりましたね。

——じゃあ、『１・２の三四郎』とキッドに出会ったのは高校生ぐらいですか？

菊地　タイガーマスクとキッドの試合を観たのは高校３年生ぐらいですね。それから大学に行って、１年か２年のときに『１・２の三四郎』だったかな？

——え？　さっき、『１・２の三四郎』の影響でプロレスを見始めたと言われたような気が……。

菊地　ああ、ごめんなさい。頭打ちすぎて、記憶がゴッチャになってるんですよ（笑）。最初にキッドでそれから『１・２の三四郎』でしたね。

——はあ（笑）。アマレスはべつにプロレスラーになりたくて始めたわけじゃなかったんですか？

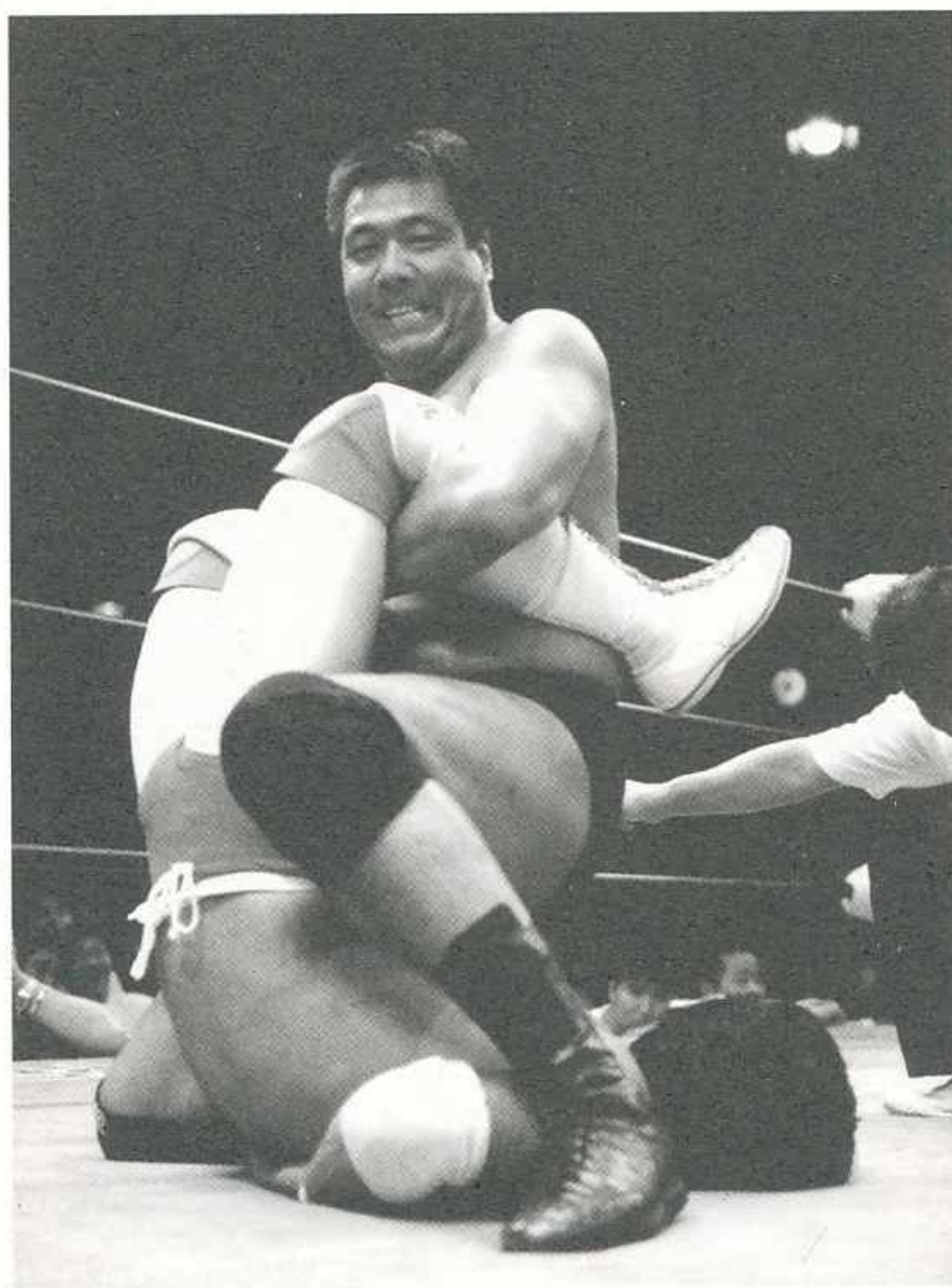
菊地　違いますね。

——そういえば小学生の頃は水泳をやられてたとか？

菊地　そうです。仙台でスイミングスクールに通ってたんですけど、齋藤彰俊選手と一緒だったんですよ。

——ファンのあいだでは有名なエピソードですね。

菊地　話を聞いてみると俺のほうが同じスイミングスクールで古いんだよね。だから、俺は彼の先輩だったの。

——当時から面識があったんですか？

90年代前半、超世代軍の前にあまりにも高い壁としてそびえ立った故ジャンボ鶴田。菊地は強烈なシャチホコ固めや拷問コブラツイスト、そして完全無欠のバックドロップで幾度となく“かわいがり”を受けたものだ。

菊地　いや、その当時はないですね。ノア時代に知ったんですよ。それから、泉田純至っているじゃないですか？　俺、高校のときにレスリングで国体の代表になったんだけど、宮城県庁の前で団結式をやったんだよね。そのとき、泉田選手も同じ敷地内にいたっていう。

——へえ！　泉田選手は相撲の代表ですか？

菊地　相撲で。だから、接点がいろいろあるっていう。石森太二も高校の後輩だし。

——石森さんもそうでしたか。あと志賀賢太郎さんも仙台出身ですよね？

菊地　彼は仙台一高っていう頭のいい学校で、接点を見いだそうと思ってもちょっと……（笑）。

——接点の持ちようがない、と（笑）。

菊地　そうですね。あ、あとミスター・デンジャー……。

——松永光弘さん！

菊地　あの人も仙台にいて、話を聞くと同じ幼稚園に通ってたの。

——えぇ!?　本当ですか？

菊地　うん、齋藤選手から聞いたんだけど、俺の一つ下で、1年間だけ通っていたみたいですけどね。

——凄い幼稚園だなぁ（笑）。

菊地　だから、不思議な縁があるんですよ。いま住んでいるところの近くには新崎人生選手のラーメン屋があるし。

——『徳島ラーメン人生』ですか！

菊地　そうそう。食いに行ったんだけどさ、「絶対に縁があるよな」って。デンジャーさんのステーキ屋さんにも食いに行ったしね。自分から行かないと、縁ってできないからさ。

——仙台つながりでいうと、いま菊地さんが上がってる全日本プロレスの武藤敬司社長も、かつて仙台の東北柔道専門学校に通っていましたからね。

菊地　俺が通っている整体の先生は、武藤さんの専門学校の先輩だか先生なんですよ。

——仙台に縁のある人はみんな菊地さんに絡んでいるじゃないですか（笑）。で、話は戻りますけど、大東文化大学に進まれて、学生選手権の100キロ級で優勝されたんですよね？

菊地　そうですね。俺の前は本田多聞選手がチャンピオンなんですけど、100キロ級は彼のために作られた階級で、第1回のチャンピオンなんですよ。確か3回か4回連覇して、その次に俺がチャンピオンになったっていう。その次が中西学選手だから、おもしろい階級というかな。

——錚々たる面々じゃないですか！　まあ、そんな実績を引っ提げて全日本に入られたわけですけど、これはジャンボ鶴田さんのご紹介なんですよね？

菊地　うん、全日本を選んだのはキッドを追いかけていて、彼の最終的な行き先が全日本だったからなんですけどね。それで大学の監督が鶴田さんを知っていたので、紹介してもらったんですよ。たしか、大学4年生の秋口の頃だったと思うんですよね。「きみも頑張っていい成績を残してきなよ」って言われて、頑張って獲ったのが学生選手権でしたから。

菊地毅

——おお、鶴田さんの励ましに奮起したんですね！

菊地　そうそう。鶴田さんが全日本に入るときに、「就職します」って言ったでしょ？

——有名なセリフですよね。

菊地　俺もね、やっぱりプロレスに就職するっていう感覚だったんですよ。それで俺が全日本の門を叩いたその日って、じつはジャパンプロレスが離脱した日だったんですね。

——ええ、そうだったんですか!?

菊地　俺は履歴書を全日本に送っていたんだけど、一向に連絡が来ないんですよ。こっちとしては就職したいわけですから、「どうなってんだろう……?」って、不安になって後楽園（ホール）に顔を出しに行ったんですよ。そのときがジャパンプロレスが離脱した日だったです。

——それもまた、凄い日に行きましたね（笑）。

菊地　だから、俺は普通に入りたかったんですけど、要するに人手が足りなくなって、雑用として入れてもらったんですよ。

——ジャパン勢がいなくなったからですか？

菊地　そうですね。俺の学生選手権を獲ったという経歴もまったく意味なかったですね（笑）。で、会場に行ったらジャイアント馬場さんの前に連れていかれて、「おまえ脱いでみろ」と。

——いきなり脱がされましたか（笑）。

菊地　それでシャツを脱いだら、「おまえ、オッケー！」って。

——それだけですか？

菊地　それだけ。入門テストだとか、俺が不安になっていたのはなんだったんだって（笑）。

——心配するだけ損でしたね（笑）。同期には小橋建太選手がいたんですよね？

菊地　俺が入ってその1カ月後にジャパンに北原光騎選手が来たんですよ。その1カ月後に小橋選手が来て、そのあとに田上明。そういう順番だよね。まあ、自分はアマレスやってて、北原選手はタイガージムでシュート的な格闘技をやっていて、小橋選手に関してはボディビルもやって、ラグビーもやってたし、常に練習ではぶつかり合っていましたね。

——私生活では仲よかったんですか？

菊地　私生活ではお互いに「頑張ろう」って思ってましたね。やっぱし、練習生は商品じゃないから人間扱いされないし、不満があったわけだから。

——励まし合って。当時の合宿所生活はそんなに厳しかったんですか？

菊地　………。

——長い沈黙がありますね（笑）。たしか当時の寮長は小川良成さんですよね？　相当厳しかったという噂を聞くんですけど。

菊地　いや、それはね……まあ、いろいろあるわけですよ（笑）。

——いろいろありましたか（笑）。

菊地　とにかくこの3人は石にかじりついてでも頑張るって感じでやってたからね。どんな仕打ちにも耐えてね。

——デビューされてからの話になるんですけど、全日本では90年になるとSWSの大量離脱騒動がありましたけど、そのときはどんな感じだったんですか？

菊地　う〜ん、北原選手は天龍源一郎さんの付き人だったから、一緒にSWSに行くんじゃないかって噂されてたんですよね。あと、小橋選手も若手の中でも頭角を現わしていたから、誘われた。でも、俺は鶴田さんに付いていたから、なんの声もかからなかったですね。逆に悔しい（笑）。

——悔しいですか（笑）。

菊地　いま思うとね（笑）。ハクがつくってわけじゃないけど、声をかけられたんだけど断ったんだっていうほうがよかったよね。まあ、実際、断る話なんですけどね。やっぱし鶴田さんは裏切れないし。

——鶴田さんはどんな感じの人でした？

菊地　お兄さん的な存在でしたね。後楽園で試合が終わると、一緒に車に乗せていってくれるわけですよ、合宿所まで。途中で、「お腹空いたね。マックでも買ってくか?」って、マックでお土産を買ってくれてね。俺にとってはそのマックを食べるのがうれしかったというかね。常に俺の話も聞いてくれたし、居心地がよかったですよ。

——その鶴田さんとは超世代軍時代に闘いましたよね？

菊地　超世代軍はね、知らないあいだに入っていましたね（笑）。

——あ、そうなんですか（笑）。誰かに言われたわけでもなく？

菊地　なんだかいつの間にか入っていて、無我夢中になって、走り抜けたというか。だから、超世代軍にいたという感覚すらなかったですね。毎日ヘトヘトになりながら頭を打ちながらやってましたよ。

——ひどいやられようでしたよね。とくに鶴田さんから（笑）。

菊地　毎日毎日ね（笑）。まあ、俺のなかでは親しみがあったうえでのことだから、やられていても愛情を感じましたね。「菊地、頑張れよ！」っていう応援の意味でおもいっきり背中を叩かれたり、おもいっきり蹴られた、と。だから、「今日も頑張らなきゃ」って、必死だったッスね。

——その甲斐あってか、小橋さんとはアジアタッグも獲られましたしね。

菊地　はい。カンナム・エキスプレスから獲っているんですけど、俺はやっぱし気持ちに余裕がなかったから、小橋選手のサポートがあって、知らず知らずのうちにチャンピオンベルトがあったって感じでしたね。

——ホントに無我夢中だったんですね。小橋さんに対してはどう思われてたんですか？

菊地　俺のなかでは「うらやましいな。ごっつい身体とタッパがあって、扱いもいいし、凄いな」っていう憧れみたいな気持ちはありましたけどね。まあ、小橋建太がいたからどうにかやれたですね、当時は。小橋選手の存在はでかかったですよ。

——ほかの三沢光晴さんや川田利明さんとはどうだったんですか？

菊地　三沢さんは天才というか。何やってもスムーズにこなしていましたよね。川田さんはどちらかというと俺に近いかもしれない。器用でもなくガムシャラにやっていたなかでトップをつかみ取ったというか。

——ちなみに田上さんは？

菊地　田上さんは俺のなかでは感覚がなかったですね。

——感覚がなかった？（笑）。

菊地　うん、相撲界からポーンと入ってきたからね。俺のなかでは別物

92年5月には小橋との同期タッグで、地元仙台の宮城県スポーツセンターでカンナム・エキスプレスを破りアジアタッグ戴冠。93年6月にパトリオット&ジ・イーグル組に破れるまで三度の防衛に成功している。

〝明るく楽しいプロレス〟に移ったのは俺の逃げだから！

っていう感じでしたね。

——あと、普段から仲のよかった選手は誰なんですか？　超世代軍で試合後に飲み会とかされなかったんですかね？

菊地　俺自体、酒を飲んだわけじゃないからね。ただ、SWSに行った折原昌夫。彼は関東学園っていう高校のレスリング部にいたんだけど、俺の大東文化大学に練習に来ていたんですよ。だから、その頃からかわいがってましたね。彼も俺のことを慕ってくれたし。SWSに行くときも、「行くな」っていうのもあったしね。

——止めたんですか？

菊地　うん。でも、天龍さんの付き人だったから、「折原はSWSに行くだろう」っていう扱いを全日本がしてたんですよ。彼はそれが悲しくて、俺んところに来て泣いてたもんね。「俺は悔しいです」って。だから、彼とは親身になってお互いの話をしましたよ。

——いいお話ですね。個人的なことだと、渕正信さんの世界ジュニアに挑戦し続けて、7度目の挑戦で念願のチャンピオンになられましたよね？　そのときはどんなお気持ちでした？

菊地　「三度目の正直」っていう言葉はあるけど、7度目っていうのはね（笑）。やっぱし、三度目で決めたかったっていうのはありましたね。俺のなかでは計算ミスでした。

——計算ミス（笑）。

菊地　計算ミスっていうか俺の努力が足りなかったですね。7度目で獲ったっていっても、その機運も低くなってたから、みんなは「え？」って感じでしたからね。みんなに言われましたもん、「その時点でおまえはダメだ」って。

——ひどいですね（笑）。

菊地　だから、なおさら悔しかったですよね〜（しみじみと）。

——でも、そのあとは悪役商会に入られて、いわゆる〝明るく楽しいプロレス〟のほうに移行されて。

菊地　それは俺の逃げですね！（キッパリ）。

——逃げ！　え、それは四天王プロレスについていけなくなったということですか？

菊地　うん。「俺、このままじゃ死んじゃうだろう」って。肩鎖関節脱臼をやって手術もしたし、睾丸が破裂したりもしたしね。

——睾丸はトミー・ロジャースのパワースラムの勢いで潰れちゃったんですよね？

菊地　うん。だから、もう逃げなんですよ。その当時、小橋選手もファミリー軍団の試合に出たことがあったんだけど、俺も一回入るチャンスがあったんですよ。俺はそのチャンスを逃さなかったね（笑）。

——食いついた、と（笑）。

菊地　ガバーッとね。そのときにいまやっているようなことを出したんですよ。そうしたら、「菊地、おもしろいんじゃない」っていう感じになって、ファミリー軍団から知らないうちに悪役商会になりましたけど、そこで自分の場所を確保しましたよね。でも、よかったですよ。あのままいったら、どうなるかわからなかったからね、本当に。もうリングに上がるのが怖かったし……。

——そんな状態にまで追い詰められていたんですか……。

菊地　やっているときはよかったけど、試合が終わって我に返ったときが一番怖かったね。でも、どんなに怖くても俺はプロレスが好きだったし、やりたかったし。どっかないかなっていうときに悪役商会とファミリー軍団があったんですよ。

——格好の場所があったわけですね。ヘッドバットの音をマイクで拾うというムーブはなんで考えついたんですか？

菊地　大きい会場だと周りに音が聞こえないわけじゃないですか？　だったら、マイクで拾って、「こういう音がするんだよ」って、お客さんに教えてやる。鈍い音がすれば痛いんだって、お客さんもわかるでしょ？

——なるほど。試合スタイルの話ですけど、90年代の後半になると全日本にインディー団体の選手も参戦するようになったじゃないですか？　菊地さんは王道スタイルでやってきたわけですし、違和感とか感じませんでした？

菊地　いや、違和感も何も馬場さん自身が彼らのスタイルが好きだったし、もの凄く買ってましたからね。新崎選手に関してはあのロープ渡り。「菊地、おまえもできねえのか？」って言われましたから。

——へえ！　やったんですか？

菊地　いや、俺にも確固たるプロレスのスタイルっていうのができあっていたからね。「ごめんなさい。俺にはできません」って言いましたよ。ただ、馬場さんはアメリカのプロレスでバンバンやってた人だから、魅せるっていう意味ではハヤブサ選手にしろ人生選手にしろ凄く評価してましたね。

——逆に馬場さんは菊地さんにとって、どんな存在だったんですか？

菊地　馬場さんは俺のなかでは存在自体が計り知れないというか……。俺にはあの身体はないし、カリスマ的な部分もね。猪木さんと違って、馬場さんには安心がありましたよね。

——安心ですか。

菊地　猪木さんの場合は当たりハズレがあって、いい試合をしたと思っ

00年6月、三沢光晴を中心に総勢約50名強での旗揚げとなったノア。しかし『日本テレビ』での中継打ち切りによる大幅な収入源もたたってか、菊地をはじめとする6名の選手が09年末日で契約解除の憂き目に遭った。

菊地毅年表

1987年12月16日　『ハル薗田選手夫妻を偲ぶメモリアル・セレモニー』（後楽園ホール）のバトルロイヤルにてプレデビュー。菊地は小橋とともに薗田氏の最後の愛弟子だった。

1988年2月26日　百田光雄戦でデビュー。

1990年5月　三沢派（のちの超世代軍）に加入。人気が急上昇。

1992年5月25日　小橋と組んで第59代アジアタッグ王者となる。

1996年7月24日　渕正信を破り、第16代世界ジュニアヘビー級王者となる。

2000年6月　全日本プロレスからプロレスリング・ノアに移籍。

2002年8月29日　新日本プロレスのIWGPジュニアタッグ王座を獣神サンダー・ライガー&田中稔組から奪取（パートナーは金丸義信）。

2009年9月26日　『ハッスル』に参戦し、RGからピンフォール勝ち。

12月31日　ノアから年間報酬保証契約を解除され、フリーに。

2010年2月25日　グレートプロレスリングに参戦、佐野直に勝利。

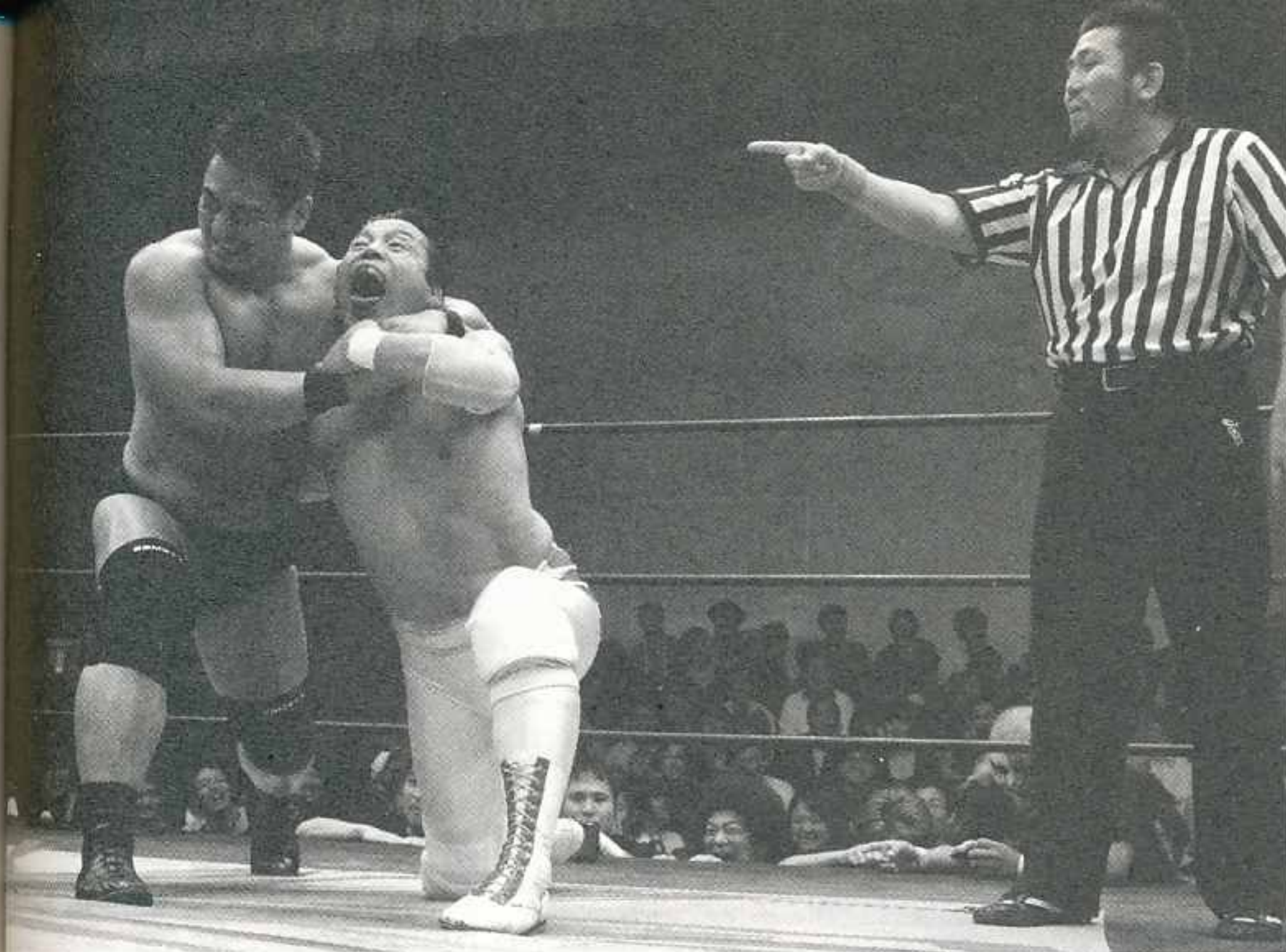
3月21日　MAPのプレ旗揚げ戦に参加。KAMIKAZEと組み、モンゴリアン矢野からフォール勝ち。

7月13日　新宿二丁目プロレスに参戦。

8月24日　ドラゴンゲート後楽園ホール大会で、休憩時間終了の曲を入場テーマと勘違いして入場する。

9月20日　全日本プロレスの世界ジュニア王座に13年ぶりに挑戦したが、王者カズ・ハヤシに敗退。

10月6日　『マッスルハウス10』に参戦。高木三四郎と無効試合。ほか、究極Mrマジックなどを演じる。

2011年1月3日　ユニオンプロレスで大家健に「パン食いデスマッチ」で勝利。

菊地はマッスル坂井の引退興行となった昨年10月の『マッスルハウス10～絶対に笑ってはいけない最終興行～』でも大活躍！ その奇妙奇天烈な"菊地ムーブ"を前にして、みんな笑いをこらえるのに必死！

たら、お客さんが「ふざけんな！」ってなるときもある。

——暴動を起こしたり（笑）。

菊地 そこに魅力があったんだろうけど、馬場さんのスタイルは平均的に60で、そこからさらに上がある。猪木さんの場合は100か0でしょ？

——馬場さんは常に高い平均点を出すことができていた、と。

菊地 そうですね。

——そんな馬場さんが亡くなられたときはどんな思いでした？

菊地 全日本の芯であるモノがなくなったんだから、何も考えられなかったね。「どうしたらいいんだ……」って、路頭に迷うというか、絶望感がありましたね。

——そこまで……。さらに相次いで、付き人をされてた鶴田さんも亡くなられて。

菊地 鶴田さんは順番を経て亡くなられたから。

——もともと病気をされてましたもんね。

菊地 病気になって、大学院に行って、大学の先生になって、アメリカに渡航っていうかたちになって。徐々にだったし、馬場さんみたいに突然じゃなかったから。

——多少、心の準備はできていた、と。

菊地 そうですね。まあ、もちろんショックはありましたけどね。

——その後、全日本からノアに移籍されました。

菊地 俺のなかでは「連れていってください」っていう感覚でしたよね。迷いもなかったですし。

——ノアも一時期は東京ドーム大会をやるなど、業界の盟主的存在にもなりましたけど、最近はちょっと落ち気味というか。

菊地 やっぱし、いい時期もあれば悪い時期もあるっていうことですよね。俺も動ける範囲で動いていたし、ベストなかたちでやっていたと思いますよ。

——そうやって落ちている時期に、雇用形態が所属選手からフリーみたいになったじゃないですか、2年ぐらい前に。

菊地 そうですね。1年後に解雇するっていう前提だったと思うんですけど、それはまたややこしいんですよね……。そこはめちゃくちゃデリケートなんで、頭を打ちすぎて忘れたということにしてもらってもいいですか？（笑）。

——ガッハハハ！

菊地 いや、俺と同じ境遇の選手に迷惑かけちゃうかもしれないしね。

——わかりました。そんななかで一昨年は三沢さんが亡くなられたわけですけど、どんなお気持ちでしたか？

菊地 いや、それはショックでしたよ。でも、俺は俺のやっているポジションで頑張ろうっていうのはあったですね。三沢さんのポジションは誰かが穴埋めするにしても、俺は俺のポジションしかできないわけだから。

——ただ、その年の暮れに契約を解除されてしまったんですよね？

菊地 まあ、アメリカの社会ではあたりまえのことだと思うんですよ、解雇されてまた違う団体に上がってっていうのは。ただ、自分のなかではまったく予想してなかったので、途方に暮れましたね。フリー扱いの1年間も、必ずいい時期が来るって信じて頑張ってきたわけですから。そんな気持ちで切られてね。それから半年間はプロレスのオファーも来なかったし……。

——半年間もなかったんですか！

菊地 なかったですね。で、一番最初にお話があったのはドラゴンゲートさんだったんですよ。たまたま知り合いが営業をやってってね。まあ、そこから火がついた感はありますね。

俺のずっこけを評価してくれたのがDDTの高木三四郎さんだったの

——ドラゲーといえば、菊地さんのキャラクターを一躍世に知らしめた事件ですね。同団体の休憩明けのテーマ曲が鳴ったときに、自分のテーマ曲だと思って間違えて入場しちゃったっていう（笑）。

菊地 うん（笑）。たまたま俺と橋誠選手と泉田選手の3人で、初めてドラゴンゲートさんの試合に出たときだったんですよ。俺たちの試合は休憩明けの試合だったから、休憩中から待ってたの。で、テーマ曲が鳴ったときに聞き覚えのない曲だったんだけど、あちらが用意してくれた3人のための曲だと思ったんですよ。それで、「さあ、いくか！」って入場したんだけど、場内は暗いまんまで。

——暗転してましたか（笑）。

菊地 リングに上がったその瞬間に音楽が止まって、それから照明がパッとついて（笑）。

——ガッハハハ！ 休憩時間は終わりです、と（笑）。

菊地 いや、笑っているけど、ホントは笑えない話なんですよ。でも、これを評価してくれた人がいたの。それが高木三四郎さん。

——DDTの大社長のアンテナに引っかかった、と。

菊地 うん。高木さんが俺のずっこけを逆に評価してくれてね。なんかそういうのが続いたですね。ユニオンプロレス、佐野直さんとかからも声をかけてもらったし。あと、イーグルプロレスとか。

——イーグルプロレス？

菊地 栃木県の小山にあるプロレス団体。そこにGENTAROさんが出てたんですよ。なんかね、俺の出る団体に必ずっていっていいほど、GENTAROさんがいるんですよ。

——それはよほどご縁があるんですかね（笑）。

菊地 なんだろうね？ でも、GENTAROさんも俺のことを評価してくれたの。だから、俺のなかでキーマンを挙げるとするなら、高木さんであったり、GENTAROさんですね。まあ、なんにしろラッキーですよ。だって、あんな失敗をしなかったから、なんの評価もなかったわけだからね。で、明日対戦する大家健選手の復帰戦はパン食い競争なんですよ。

——パン食い競争までやっちゃいますか（笑）。でも、『マッスル』にも出られてましたし、今回はパン食い競争だとか、いろんなスタイルのプロレスに挑戦されますね。

菊地 なんだろうな？ 俺のなかにこだわりがないから。とにかくプロレスがしたいっていうだけですからね。だから、俺のなかではまだチャレンジしてないミックスドマッチもやりたいね。

——まだ女子とは絡んだことがありませんでしたか！

菊地 ないねえ（ニヤリ）。やりたいねえ。あと、有刺鉄線。

菊地毅

——ええ〜、有刺鉄線も!?

菊地　いやだねえ（笑）。でも、まだやってないことはいっぱいあるからね。

——デスマッチにも興味はあるんですか？

菊地　デスマッチって、要は死の一歩手前の試合をするわけでしょ？　俺にはそんな根性ないからねえ（笑）。だって、俺、痛いのが嫌なんだから。痛いのが一番嫌なヤツがプロレスやってんだから。

——とてもそうは思えません（笑）。

菊地　いや、嫌いなんだよ。だって、背中叩かれたら痛いじゃん？

——痛いですけど（笑）。

菊地　まあ、それをずっとやってるんだけどね。

——昨年の全日本の『ファン感謝デー』でも、自分からゴングに頭突きして大流血してましたよね？

菊地　俺もやっちゃったなって思って。お客さんもおもいっきり引いてましたね（笑）。

——全日本の『ファン感謝デー』ではF－1タッグとか楽しい試合ばかりなのに、まさかあんな大流血する人がいるとは思いませんでしたよ（笑）。

菊地　この世界に入ってから、「菊地さんってMでしょう?」って聞かれるんだけど、Mも嫌だし、Sも嫌だしね。ノ俺は普通、ノーマルでいいんだよ。ノーマルが一番なんだけど、知らないうちにMになっちゃってる。まあ、サービス精神なんだろうね。サービスだからSかもしれないけど。

——ああ、サービスのSですか（笑）。

菊地　でも、じつはMなんだね。

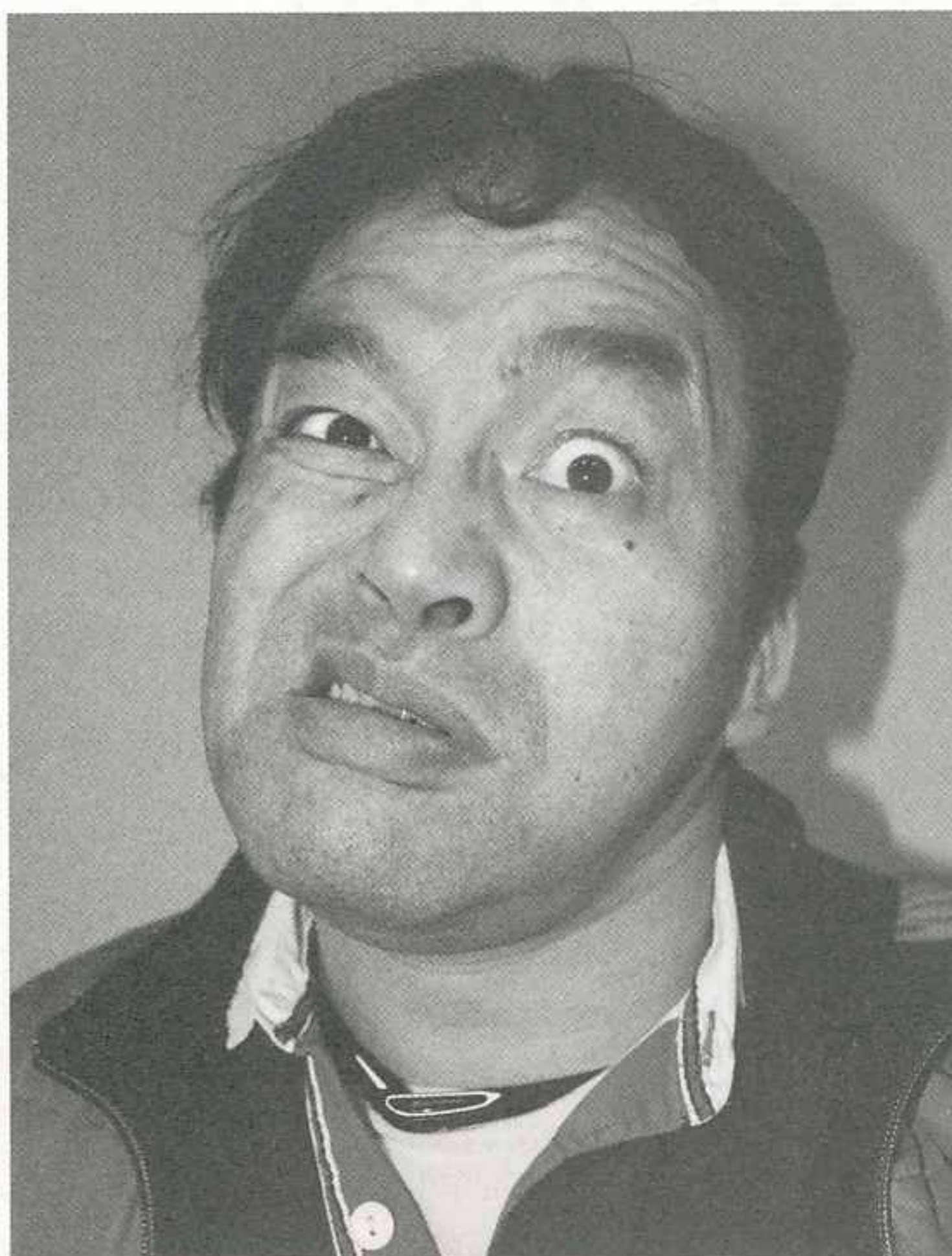
——複雑ですね（笑）。やっぱり、いつまでもプロレスは続けていたいですか？

菊地　女性のアレは灰になるまでとかって言うじゃないですか？　それと同じですよ（笑）。俺は生きている以上は現役でいたいっていうのはあるね。自分は好きでやってんだし、馬場さんだって、プロレスの生涯現役を通したじゃないですか？　俺も生涯現役があるならば、しんどいですけども、好きなプロレスはずっとやっていきたいなっていう気持ちはありますね。

——でも、身体のことは心配ですよね。一説によると、ヘッドバットのやりすぎでパンチドランカーになってしまったとか言われてますけど？

菊地　いや、これに関してはマイティ井上さんが解説で「菊地はパンチドランカーの症状が出てる」みたいなことを言ったのが発端で、それがファンのあいだでも浸透しちゃってね（笑）。確かに俺も表現するうえで「菊地って変わってるな」って思われるようなことをやってるし、ぶっちゃけ呂律も回らないですからね。だから、「菊地はパンチドランカーじゃねえか?」っていう感じにしてますけど。

——あえて、そう思わせているわけですか？

菊地　でも、パンチドランカーじゃないけど、パンチドランカーに近いかもしんないねえ（笑）。

きくち・つよし■1964年11月21日、宮城県出身。88年2月、全日本プロレスでの百田光雄戦でデビュー。00年の全日本選手大量離脱騒動でノアに移籍。現在はフリーとして、その奇怪なキャラを売りにさまざまなリングで活躍中。177cm、99kg。ブログ『ファイヤーボーイ』→http://ameblo.jp/tk-fireblog/

——近い（笑）。

菊地　まあ、プロレスラーにはギミックっていうのがあって、野生人があるのと一緒でパンチドランカーもありかなっていう。

——ありですか（笑）。まぁ、そのギミックでいまこうして狂い咲いてるといいますか。

菊地　狂い咲き?　俺は狂ってないよ！（笑）。

——ガッハハハ！　ところで、現在は仙台を拠点とされているんですよね？

菊地　そうですね。全日本で馬場さんが亡くなったあと、「仙台もいいな」って思って、一家で仙台に行ったッスね。

——じゃあ、ノアに行く前から仙台を拠点にされていたんですか。それでブログによく書かれていますけど、いまはアシスト物流という会社でも働かれているんですよね？

菊地　うん、仕事しなきゃ食っていけないですからね。

——どういった関係でそこで働き始めたんですか？

菊地　高校のアマレスの一個上の先輩なんですよ。その先輩が、こんな境遇なんで俺を応援してくれているんですよ。その人もともとプロレスが好きですしね。で、社長だから、いろいろ優遇してくれてますよね。プロレスの試合があるときは仕事を休ませてくれるし。そんなことは普通の会社じゃ考えられないですよ。

——考えられないですよね。

菊地　だから、自分にまたいい時期が来て、どっかの団体に所属したとしても、合間合間を見てそこのアシスト物流で仕事したいなって思ってるんですよ。いい思いをさせてもらっているっていう感謝の気持ちもありますからね。

——それから、菊地さんは試合会場で募金活動をされてますけど、あれはどういったご関係なんですか？

菊地　あれは日本移植支援協会っていって、鶴田さんの関係なんですよ。

——ああ、鶴田さんの！

菊地　うん。いまでこそ認められて日本でも臓器の移植はできるようになりましたけど、以前は海外じゃなきゃできなかったんですよ。だから、海外渡航しなきゃいけなくて、それを支援するための組織ですよね。三沢さんが、ジャンボさんの遺志を継ぐように前の会社で支援していたんだけど、俺もできるかぎり協力しようと。それで募金活動をやっているんですよ。まあ、三沢さんも俺も鶴田さんの付き人をやっていたわけだし、やっぱしつながりなのかなって思いますよね。

——それだけ特別な人だったんですね、鶴田さんは。

菊地　俺のなかでは特別な人ですね。だって、鶴田さんが俺をプロレスとつなげてくれたわけだから。でも、なんか、いろんなモノがつながっているような気がするんだよね。齋藤選手にしろ、泉田選手にしろ、デンジャーさんにしろ、石森太二にしろね。俺のなかでは勝手につながってんですよ。

——そう考えると、人の縁は大事ですね。

菊地　まあ、そういういろんなことを勝手に自己評価して、自分に酔っている……やっぱね、ドランカーだね、俺は（笑）。

——自己陶酔のドランカー（笑）。

菊地　パンチドランカーじゃないけど、ドランカーだね。いまはこのスタイルに酔ってるしね。やっぱ、常に酔ってんだよ（笑）。

——わかりました（笑）。では、今後も酔いっぱなしでファンを楽しませてください！

【11年1月2日／都内・某所にて収録】

あの日、あの号のインタビューもまだまだハッスルしてます!

kamipro & kamipro Special
バックナンバー絶賛通販中!

kamipro Special 2011 FEBRUARY

**12.30『戦極』
12.31『Dynamite!!』
1.1『UFC125』徹底詳報!!**

■青木真也、自演乙に衝撃の失神KO負け ■話題沸騰! 声に出して読みたい魔裟斗&須藤元気 解説完全再録 ■五味隆典、クレイ・グイダに一本負け!「最高峰UFCに見た、次元の違う頂点」■川尻達也インタビュー「まだ暗闇から抜け出してないですよ」■長島☆自演乙☆雄一郎「あそこまでのことはボクにはできないですね」■日沖発 インタビュー「ボクはMMAをスポーツにする」■中井りんインタビュー&特写「今年も私が女子格闘技を盛り上げます」ほか

kamipro No.154

**日本格闘技界の
存続を懸けた
年末大会大特集!!**

■山本“KID”徳郁、小見川道大UFC参戦の真実 ■ジョシュ・トムソン戦へ不退転の決意! 川尻達也インタビュー ■物議を醸す“ミックスルール”で闘う理由 青木真也インタビュー ■練マザファッカー「大晦日は300人で乗り込むぜメ〜ン!」■大晦日格闘技興行10年間をイッキに振り返る! 大晦日興行史2001−2009 ■ザ・グレート・サスケ×須藤元気「UFOに会う方法教えます」■さらば突貫小僧、再録インタビュー 追悼・星野勘太郎 ほか

kamipro No.153

**マット界を彩る
ご夫人方が登場!
「すてきな奥さん2010」**

■本誌認定「すてきな奥さん」ナンバーワン! しなしさとこのしなやかで華麗なる生活 ■専門誌初登場! “マッドネス”の妻! 船木誠勝夫人 ■ルバート・メレンデスのフィアンセはストライクフォースのキックボクサーだった! ■元気ミセスの発掘再録インタビュー ザ・グレート・サスケ夫人 ■独身大物格闘家、北岡悟の結婚観 ■DEEP50回大会大成功&10年目の奇跡を特集 ■この男はなぜ嫌われてしまうのか? 考察! 石井慧座談会 ほか

kamipro No.152

**世界最強のバンド、
衝撃デビュー!?
「特集・闘う音楽」**

■狂乱のボーカル&ギター ジェイソン・“メイヘム”・ミラー■バンドマン時代を赤裸裸トーク!! 髙阪剛■亀田大毅の「俺がリングで歌うわけ」■スペシャルメタル対談! ヨアキム・ハンセン×マーティ・ フリードマン■伝説の『めちゃイケ!』歌へた王座決定戦の真実! 藤波辰爾■マット界一のビートルズマニアが熱く語る! 越中詩郎 ■ザ・グレート・サスケ「私はボン・ジョヴィを超えた」■菊地成孔、音楽とツイッターを語る! ほか

kamipro Special 2010 NOVEMBER

**日本の救世主か?
理解不能の怪物か!?
石井慧は必要なのか?**

■未完の怪物、“放言”の中に“本音”は見えるか? 石井慧 独占インタビュー■桜庭和志から初の一本勝ちを勝ち取った男ジェイソン・“メイヘム”・ミラー■くそったれ! を超えたイライラが爆発!! 小見川道大インタビュー■DEEP現役王者がついにUFC出陣! 福田力インタビュー■女子プロレス界のキーパーソン・さくらえみが語る奇妙奇天烈なレスラー半生! ■佐伯繁の『男はつらいよ』DEEP50回達成特集! ■立ち技再編成! 各団体の思惑を探れ!! ほか

kamipro No.151

**デビュー50周年記念
「猪木とは何か?
クレイジー編」**

■小川直也が猪木、ZERO1、ハッスル、石井慧を語る! ■出会いから巌流島まで、獄門鬼・マサ斎藤が生涯のライバルを語る! ■ユセフ・トルコ「それでも私は猪木を殺すまで死ねない!」■仙波久幸、政治家・猪木を“愛で殺した”葛藤を語る!! ■言うちゃ悪いけど、井上節がここに復活!! 編集長の喫茶店トークラウド再録■この兄にしてこの弟あり! 猪木快守登場! ■アントンの姪・ファニー猪木が語る猪木事務所とジャングルファイトの真実 ほか

kamipro No.150

**ゲームで燃えろ!
ゲームを通じてプロレス&格闘技に昇竜拳!!**

■ゲーム界最強最後の“プロレスラー”の極意 高橋名人インタビュー ■ゲームで萌えろ!! “ツヨカワガール”RENAが、あの春麗に変身!「コスプレは今回が最初で最後ですよ(笑)」■マット界一難解な男・中邑真輔が語る『ファイプロ』の変態的楽しみ方 ■『ファイプロ』開発者・須田剛一が語るプロレスゲーム黄金期■ファイヤー原田が語る「魅惑の恋愛シミュレーションゲーム」■元ひきこもり女子レスラー真琴が語るゲーム更生録 ほか

kamipro No.149

**格闘技のロマンは
映画として昇華した!
特集・闘う映画**

■ブルース・リーは強かったのか? ■ショー・コスギ「撮影で何度死にかけたか、わからない」■宇梶剛士が語る映画『お父さんのバックドロップ』壮絶舞台裏! ■いま最もエッジが効いた映画評論家RHYMESTER 宇多丸が「闘う映画」を熱弁! ■上映中止騒動とはなんだったのか?「一水会」最高顧問・鈴木邦男が語る『ザ・コーヴ』■最強の映画&アクションスターを大槻ケンヂが分析!?「スティーブン・セガール格闘映画最狂列伝」ほか

kamipro Special 2010 AUGUST

**ヒョードル敗れる!
世界規模のヘビー級
戦国時代に突入!!**

■ブロック・レスナー「最強幻想強奪」■ダナ・ホワイト UFC代表 独占インタビュー「よくわかっただろう? これが現実だ」■エメリヤーエンコ・ヒョードル「ファブリシオとのリマッチを実現させてほしい」■ファブリシオ・ヴェウドゥム「いまでも、まだヒョードルが世界最強だ」■スコット・コーカー ストライクフォースCEO「契約更新するかどうかはヒョードル次第」■浅草キッドの玉ちゃんと語る俺たちの皇帝ヒョードル変態座談会、ほか

kamipro No.148

**マンガみたいな
ホントがほしい!
「闘うマンガ!!」大特集**

■ハロルド作石「やっぱり『何が一番強いのか』に興味があるんです」■車田正美「創作の疲労度は肉体的にも精神的にもプロ格闘家と変わらない」■ゆでたまご嶋田隆司「マンガも格闘技も一番大事なのは“闘う理由・動機づけ”です」■宮下あきら「マンガの醍醐味とは荒唐無稽にあり!!」■みのもけんじ『MMAスターウォーズ』■浅草キッドの玉ちゃんと語る「『あしたのジョー』変態座談会」■つの丸「“ファン気質”と作品の関係性」ほか

発行/株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 TEL.0570-060-555(代表)
発売/株式会社角川グループパブリッシング
[エンターブレイン総合サイト] http://www.enterbrain.co.jp/

1993年の女子プロレス

最狂団体で誰からも愛された“ピーターパン”の軌跡

「自分のなかの全女イズムはブルさんとアジャさんの試合にあるかもしれない」

第51、53代WWWA世界シングル王者

伊藤薫

長与千種に憧れ全女に入門。平成元年組としてデビューをはたし、ブルvsアジャの死闘を間近でながめ、激動の団体対抗戦時代を経て、ついには赤いベルトを獲得。そして女子プロ不況のなか、昨年12月まで伊藤道場を構えていた伊藤薫。いまなお女子プロ復興を願って活動を続ける伊藤が、ピーターパンと呼ばれた時代から20年以上にわたるキャリア、そして今後について語ってくれた。

聞き手／柳澤健　構成／鈴木佑　写真協力／島村健

――女子プロレスはいつ頃から観てたんですか?

伊藤 覚えてないんです。でも、親が言うには、「あんたは小学校3年生の頃からプロレスやるって言ってたよ」って。中学に入ったときにはもうレスラーになりたかった。

――小学校3年生ということは、ビューティ・ペアが解散してジャッキー佐藤が一人でやってた頃ですね。

伊藤 はまったのは、小6か中学1年だと思います。

――クラッシュ人気が爆発した頃ですね。長与千種さんが好きだった?

伊藤 はい。一人だけ全然違う。とにかくカッコよくて、「もう、これしかない」と思いました。当時は女子のプロスポーツがほとんどない時代でしたし。

――柔道をやってたんですよね。中学からですか?

伊藤 中学のときはバレー部に入ったんです。

――バレーボール部?

伊藤 ホントはソフトボールがやりたかったんですけど、中学に部がなくて。で、友だちの付き合いでバレー部を観に行ったら、そのままバレー部に入れられちゃって。でも、しばらくして顧問の先生と大ゲンカして陸上部に移り、ずっとグラウンドを走ってたら、新任の先生に「女子の大会が1カ月後にあるから、おまえちょっと柔道部に入れ」って誘われたんです。

――80年代。まだ女子柔道の黎明期ですよね。柔道部に女子の部員は少なかったでしょう。

伊藤 女子はいません。男子だけ。たまたま一緒に入る子がいて、二人で柔道をやらされたんです。

――入部1カ月後に出場した大会ではどうだったんですか?

伊藤 女子選手は少なかったんですけど、2位になりました。

――1ヵ月で、凄いなあ(笑)。

伊藤 決勝で負けた人は小学校からやってる子で、のちに京都府警に入って全日本クラスの選手になりました。

――ロサンゼルスオリンピックの正式種目にもなって、女子柔道選手を増やそうという時期ですね。

伊藤 はい。中学で柔道をやったのは1年間くらいですけどね。中学卒業のときに全女のオーディションを受けたんですけど、受からなかったんです。結局、高校(成安女子)も柔道で行ったんですけど、もうその頃は、全部プロレスラーになるため、という感覚でした。だから、高校は休んでも部活は休まない。成安女子はバレーボールで有名ですけど、柔道も強いんです。自分の2個上の先輩は全国優勝していますし。関西では、天理大学に女子の強豪高校集めて強化合宿するんですけど、成安女子は毎年参加しています。だから練習は休む間もなくて、一日3部練とか、ホントに凄かった。でも、高2の3月に全女のオーディションに合格したので高校を中退したんです。

伊藤は92年11月と94年5月の二度にわたり、若手レスラーがトップになるための登竜門的な王座である全日本シングル王者に(対戦相手は渡辺智子)。対抗戦時代の伊藤は、まだ頭角を現わす前の有望な若手の一人として見られていた。

北斗さんはやったことに対してちゃんと気づいてくれる人でした

――柔道には未練はなかったんですか?

伊藤 大学で柔道をやらないか、という話はすでにいくつかもらっていたんですけど、とにかくプロレスしか頭になかったんで。じつは自分は、ジャパン女子も受けているんです。というのは、「今年のオーディションはない」という話だったから。全女の人数が多くなりすぎていて。とにかくプロレスラーになりたかったからジャパン女子を受けたんですけど、最後の面接で落ちたんです。基礎体力みたいなヤツは余裕だったんですけどね。

――そりゃあそうでしょう。

伊藤 だけどオーディションはジャパンのほうがキツかった。筋肉痛になりましたもん。スクワット200回のあと、すぐ反復横跳びをさせられて、みんなバタバタ倒れてましたもん。足がワナワナして。

――やらせたのは山本小鉄さん?

伊藤 かな? ジャッキーさんとかですよね。結局面接で落ちて、帰ってから泣いて泣いて。もう1週間くらい学校休んだんじゃないかな? でも結局そのあと、2月頃に全女のオーディションに合格して、翌日に退学届けを持って学校に行ったんです。でも「2年修了までは学校に来なさい」と説得されて、4月に東京に出てきました。

――89年4月。長与千種引退の直前ですね。

伊藤 長与さんが引退したのは5月6日の横浜アリーナです。自分は1個上の(井上)京子さんとか(井上)貴子さんとか吉田(万里子)さんとかと一緒に前の日にリング作りをして、当日はずっと売店でパンフレットを売ったり、表で何かを配ったりしていました。控室なんかもちろん入れない。先輩も怖いし。

――京子さんとか、貴子さんが?

伊藤 いえいえ。まだ17歳で縦社会が怖くて。会長とかには「観ていいよ」って言われたんですけど、セレモニーのときも、泣きながら売店でずっと立ってました。

――長与さんが引退したあとは、観客は減ったでしょう?

伊藤 自分のときはあんまり覚えてないですけど、長谷川咲恵が地方の会場でデビューしたときのお客さんは7人(笑)。試合数だけはいっぱいあったんですけど、地方に行けばどこもガラガラ。お客さんより選手のほうが多い。

――もの凄い倍率を勝ち抜いて、プライドを持って全女に入ってきたのに、いざ入ってみると客席はガラガラ。この落差はデカかったでしょ?

伊藤 デカかったですよね。

――「どうなっちゃうんだろう?」とは思わなかったですか?

伊藤 4月20日に寮に入って、9月2日にトモさん(ライオネス飛鳥)が引退するときにプロテストがあったんです。自分は一回目で受かったんですけど、そのあいだ、自分はほとんど山に送られてたんです。

——山というのは、秩父のリングスターフィールドですか?

伊藤　はい。半年先に入った渡辺智子と京子さんが山にいて、入った次の日かなんかに、自分とバット（吉永）だけ秩父の山奥に連れていかれて、そのまま置いていかれたんです。だから練習は京子さんが見てくれました。あとで聞いたら、身体が最初からできている人が山に連れていかれたんですよ。あとはジャガー（横田）さんにしごかれるんです。最初の練習では貧血で倒れたりした人が続出したみたいですけどね。

——じゃあ、京子さんにとっては特別にかわいい3人なんだ?

伊藤　凄くかわいがってもらいましたね。自分たち3人はプロテストの日に山から行ったんですよね。秩父の（リングスターフィールドの）管理を現地の山の途中にある家の人に頼んでたので、そのおじさんに車に乗っけてもらって、京子さんと一緒にみんなで駅まで送ってもらって。京子さんがジュースとお菓子を持たせてくれて、「頑張ってくるんだよ」って言ってくれて。

——京子さんはリングスターフィールドに残っていた、と。一人で何してたんですか?

伊藤　要は管理人ですよね。草刈ったりしてました。リングもあったし、朝は山を下りて走って、それから山上がってきたりとか。基礎体やって、ごはん食べて練習やって、一日が終わるみたいな。それ以外は草刈ったり、そういう掃除したりみたいな。そういう日々でした。だから最初にプロレスを教えてもらったのは京子さん。

——京子さんにインタビューしたとき、「ある時期、私は世界一練習したと思う」って言ってましたけど、やっぱり凄い練習する人なんですか?

伊藤　京子さんは「天才」って言われてましたけど、ホントはプロレスのことしか考えてなくて、凄く努力してる方だと思います。

——なるほど。

伊藤　結局、そのときのプロテストには、秩父にいた3人だけが受かったんですけど、すぐに一日だけの旅があったんです。自分とバットだけが連れていかれて。遠征に連れていってもらえない選手は、バスが出発するときには必ず全員で見送って、帰ってきたときにも必ず全員で出迎えるんです。帰りのバスが帰ってくるのは真夜中になったり、朝の7時になったりしますけど、必ず何時間も前から待機して、帰ってきたら出迎えないといけない。初めて遠征に連れていかれた私とバットはとにかく緊張していて、バスが夜中に目黒の事務所に着いて、京子さんの顔を見たとき、二人で号泣したことを覚えています。

団体内で孤立していた豊田真奈美を中心に、伊藤薫、吉田万里子、長谷川咲恵で95年に結成されたフリーダム・フォース。このほかにも伊藤は堀田由美子のU★TOPSなどのユニットに参加したことがある。

伊藤薫

——安心したわけですね。

伊藤　はい。旅から帰ってきた私たちは、翌日の練習を免除されていたので、寮の部屋で死んだように寝ていたんですけれど、起きたら枕元に鶏の唐揚げが置いてあった。

——京子さんが差し入れてくれた?

伊藤　ええ。中華屋さんの唐揚げなんですけど、高いんですよ。京子さんたちも寮を出たばっかりで、家賃とか払ったらお金なんか全然ないはずなのに。京子さんは全然覚えてないって言うんですけど。そのすぐあとに、自分は宇野さん（北斗晶）の付き人になりました。三田（英津子）さんのあとの宇野さんの付き人は吉田（万里子）さんだったんですけど、吉田さんがヒジを骨折して巡業にも同行していなかったから。北斗さんがヒールになる前までのあいだは、ずっと付き人をやらせてもらいました。

——海狼組（マリンウルフ）の頃ですね。

伊藤　そうです。衣装を毎日洗って、乾かして、毎日サラシ巻いて。北斗さん、よくケガされてたんで。サラシでいつもガッチガチに巻いとかないと、巻きにくいんで巻いて。バスのなかで酔いながら巻いてました。

——北斗さんは厳しい人ですか? それとも温かい人なんですか?

伊藤　試合だとか仕事の面では怖いし厳しいと思います、怒ったら。でも、やったことにはちゃんと気づいてくれる人でしたね。

——敏感な方なんですね。

伊藤　全女が遠征に使うバスは、席がもう部屋みたいになっていたんで、席の整理や棚の整理とか、あと、犬がいつもいたんで、その世話とか全部やっていました。北斗さんは担当の人にしか用事を頼まないんです。「あれ、ある?」って言われたときに、「はい」ってすぐに出せれば、何をどう整理しても、何も言わない人でしたね。あとはちょっとやったことに対しても、「これやってくれたんだ、ありがとね」って感謝してくれるんです。それから仲間がグアム旅行に行くときに、北斗さんはサイパンでイベントがあって行けなかったんですけど「私がお金出してあげるから、一緒にイトちゃんも連れていってもらいな」って北斗さんにお金を出していただいたこともありました。

——優しい人ですね。でも、京子さんは「宇野さんはひどい。あんなに私のことを殴った人はいない」って言ってましたよ（笑）。

伊藤　怖かったですけどね。

——アジャ・コングとバイソン木村のジャングル・ジャックが台頭してきて自分の地位を脅かされた北斗さんが、無茶苦茶危ない技をかけて負傷者が続出した、という話も聞きました。

伊藤　禁止技になった技もありましたからね。ブル中野さんと北斗さんが組んで、アジャ・コング&バイソン木村とやった試合があったんです。マジ抗争のピークの時代ですよね。その試合では、1本目に木村さんが取られたんですよ。

——誰に取られたんですか?

伊藤　北斗さんに。すぐに2本目が始まって木村さんはアジャさんにチェンジしたんです。セコンドにいた私は木村さんの汗を拭きながら「大丈夫ですか、大丈夫

ですか？」って声をかけたんですけど、「うーっ」って言うだけだから「おかしいな」と思った。ロープに寄りかかりながらなんとか立ち上がった木村さんの背骨を見ると、一カ所だけがドンって落ちてる。背骨が中に入っちゃってるんです。

――陥没していたんですね。

伊藤　これはヤバイと思って。私はそのとき3年目で、ジャングル・ジャックに入ったばっかりだったんですけど、すぐ放送席のところに飛んでいって、マネージャー（松永国松）に「木村さんダメです。もうやめさせてください。背中がへんです。落ちてます」と言いに行ったんですよ。ペーペーの分際だったのに。そうしたら国松さんに「じゃあ、代わりにおまえがやれ」って言われて。急いでジャージとTシャツ、運動靴のままで、心の準備もないまま、ブルさんと北斗さん相手にいきなり試合をさせられたんですよ。

――アハハハ（笑）。

伊藤　結局、木村さんと同じ技を食らって負けましたけど、自分は全然大丈夫でした。もちろんダメージはありますけど、ケガとかは全然なかった。体重もいまより全然なくて、身体も軽かったし。控室に帰ったら、木村さんがイスの上に四つんばいになっていました。「これが一番楽だから」って。歩けなかったから肩を貸して病院に連れていったんですけど、結局折れてましたね。

――背骨が？

伊藤　背骨か腰のどっちかが折れてたんです。

――無茶しますね。

伊藤　その技はそのあと、たぶん禁止になったと思います。京子さんも肩甲骨が折れたのかな。京子さんはまだ自分の1個上の若手だったんで、試合を休めなかったんですよ。休む勇気がなかったんですね。

97年の全女大量離脱後はマスクを被ってZAP-Iに変身。ZAP-Tこと渡辺智子とともに全女を活性化させるため、ヒールに転向したこともある伊藤。若手時代の高橋奈苗や中西百恵（引退）の前に壁として立ちはだかった。

アジャさんと中野さんの試合を続けて観たときに、気づいたら泣いてました

いまの人たちはすぐ休んじゃいますけど。

――無茶ですねえ。

伊藤　ボブ矢沢にテーピングしてもらって、ずっと痛みを我慢しながら試合出てたんですけど、あとで肩甲骨が折れてることがわかった。そういう事件もありましたよ。

――肩甲骨自体が折れてた？

伊藤　肩甲骨か、うしろのほうの骨が折れてたんです。

――手術は？

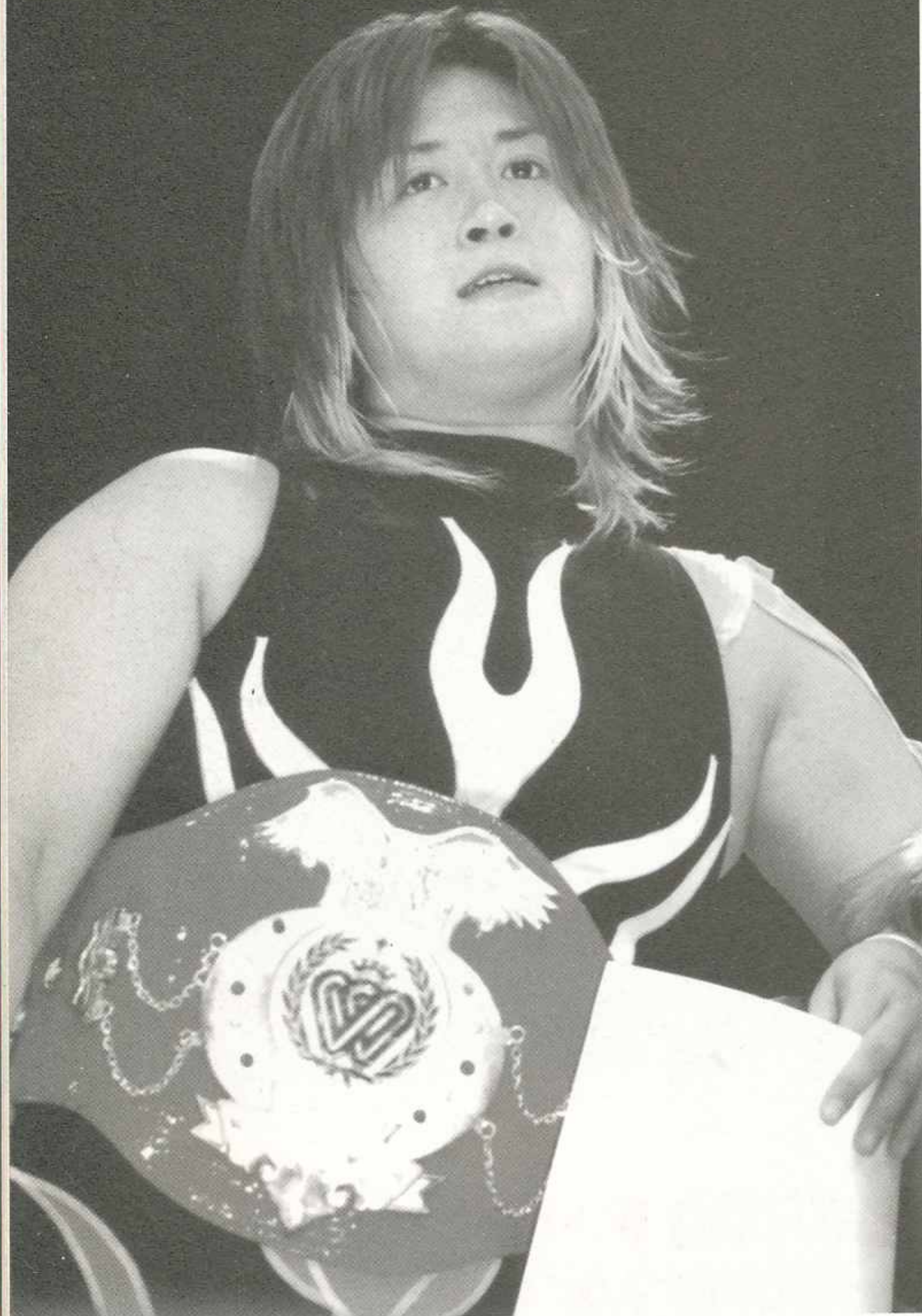
伊藤　してないです。

――はあ……（ため息）。全女というのは恐ろしい団体ですね、ホントに。伊藤さんのダイビングフットスタンプが、長与選手に言われて使い始めたというのはホントですか？

伊藤　ホントです。長与さんが覚えてるかどうかわからないですけどね。練習台になってくれたのが山田（敏代）さん。映画の『リング・リング・リング』のときだったかなあ、ちょうど全女の道場に長与さんが来ていたことがあったんです。その頃、自分はいまと違って痩せていて、長与さんに「ニョロニョロ」って呼ばれてたんです。ムーミンに出てくるキャラなんですけどね。「ニョロニョロ、おまえはちっちゃいから全身使う技がいいんじゃない？」って長与さんが言って「山田、寝てみ」と練習台にさせた（笑）。道場のリングの2段目からだったんですけど。

――セカンドロープから飛び降りたんですか？

伊藤　はい。チコさん（長与）には「お腹の上にドンと飛び降りてみ」みたいな感じで言われて。山田さんも下から「いいよ、いいよ」って言ってくれて。山田さんはチコさんに頭が上がらないから（笑）。でも、人のお腹の上に飛ぶのは怖くて、どうやっていいかわからなかったんです。

――それはそうでしょうね。フットスタンプを受ける人はこうやって（腹の上で腕をクロスして）守りますよね。内臓破裂の

伊藤といえばフットスタンプ。伊藤はこの技の使い手として知られるケビン・サリバンから、直接指導を受けたことも。「単純な技こそ危険度が高い」を地でいく伊藤の代名詞であり、豊田真奈美をはじめとする数多くのレスラーが苦しめられた。

伊藤薫

危険があるから。
伊藤　カバーする人としない人がいます。
——カバーしない人というのは、自分の腹筋にもの凄く自信があるということなんですか？
伊藤　うん。じゃないですかね。
——だってヤバイじゃないですか。
伊藤　まあ、はい。プロレスラーですから（笑）。
——大きな事故はなし？
伊藤　ないですね。
——金網でラスカチョとやったじゃないですか（97年9月）。川崎でやった凄い試合です。あのとき、金網の上から三田英津子さんにフットスタンプしたでしょ。たとえばギロチンドロップだったらまだ「うまくやれば人にはケガさせないかな」って思うじゃないですか。素人考えですけど。でも、フットスタンプは伊藤さんの全体重が相手の腹にかかる。「これヤバイでしょ」っていうふうに伊藤さんも、受ける三田さんも思わなかったんですか？
伊藤　そこはホント「プロなんで」と言うしかないですね。
——だって、物理的に落ちてくるじゃない、自分のお腹の上に。
伊藤　まあでも、いろいろあるんですよ。
——要するにダメージを与えないコツがある、と。
伊藤　それは言えないですけどね。ハハハ（笑）。言えないですけど、あるんです。だから、それは「プロなんで」と言うしかない。
——そういうものなんですか？
伊藤　はい。これはもう言えないですけど、絶対的な自信はあるんで。だから、自分も三田さんを信頼してますし。三田さんはたしか二回受けてますからね。二回目にやった6人タッグのときも、三田さんが食らってます、たぶん。
——それはホントに覚悟決めなきゃできないですよね。
伊藤　だから三田さんが一番凄いんじゃないですか。金網の上からは計3回やったんですけど、三田さんが二回で堀田さんが一回。
——二回目を受ける気持ちというのも、相当なものだと思いますけど。
伊藤　三田さんがどう言うかわからないですけど、信頼関係があったんじゃないですか？　じゃないと、できないですよね。だから私、いまの子にはしないです、ほとんど。
——全女イズムですねえ。
伊藤　はい。自分が思う全女イズム、自分が残しておきたいと思う全女イズムは、もしかしたらブルさんとアジャさんの闘いから始まってるかもしれないです。
——なるほど。
伊藤　セコンドにもついていたし、私は誰よりも近くで二人の闘いを目の当たりにしてきた。アジャvsブルの試合で、少なかったお客さんがやがて満員になっていく。でも、何度やってもアジャさんが中野さんを超えられない。同じ試合なんか何回も観たくないと思うかもしれないけど、あの二人の試合は何か違うんですよね。観ていると、気持ちがどんどん深く入ってしまう。本当に凄い闘いでした。二人の試合のDVDを何枚も続けて観たことがあったんですけど、映像を観ているうちに夢中になっちゃって、気がついたら泣いているんですよ。「凄いなあ」と思って。
——かつて「闘う宝塚」であった女子プロレスがブルとアジャの闘いによって変質していく過程を誰よりも近いところで見守ってこられたわけですけど、クラッシュに、長与千種に憧れて女子プロレスに入ってきた伊藤さんには「これじゃあ危なすぎるよ」という危機感はなかったんですか？
伊藤　フットスタンプもそうですけど、危険な技が増えて、実際危険な技もあるのかもしれないけど、お客さんから観て危険だと思ったとしても、自分たちのなかではプロとしての基準を超えてないものもある。そもそも普通の人にできたら困るわけじゃないですか。ハハハ（笑）。
——そりゃそうですけど（笑）。
伊藤　さっきの信頼関係じゃないですけど、そのなかでしかできない。どっちかの信頼関係が失なわれたときにケガにつながるんじゃないですかね。ブル様とアジャ様は死闘をしてボロボロだけど、命に関わるようなケガをしたわけではないし。私がジャングル・ジャックに入れられたのも、凄まじい抗争を続けていたブル様とアジャ様のあいだに入っても私なら壊れそうにないから、ということだったんですよね。
——なるほど。わかります。
伊藤　二人の試合には誰も入れない。木村さんはもちろん、北斗さんでさえ入れなかった。木村さんが引退を決めたのはジャパングランプリのアジャ様との一戦だったんですけど、頭突きやって自分の額が割れて、最後にジャーマンやってアゴが外れて「もうプロレスが怖くなった」って。その言葉が私のなかに凄く残っていて、「技を受けるのが怖くなったら自分も終わりだな、退きどきだな」とはずっと思っています。
——ジャングル・ジャックに入る少し前、伊藤さんたち平成元年組が全員で脱走し

97年の事実上の全女倒産後は、めまぐるしく王者が入れ替わった赤いベルト。伊藤はこの女子プロレス最高峰のベルトを00年9月と02年7月の二度獲得。獲得時の相手はともに豊田であり、二度目にベルトを手放したときの相手は若手の中西百恵だった。

09年10月、伊藤は新宿FACEでデビュー20周年興行を開催。セレモニーには同期である渡辺智子や長谷川咲恵をはじめ、ゆかりのあるレスラーが集まり、あのブル中野も姿を見せた。この日、伊藤はメインで師匠であるアジャに初のフォール勝ちを収めている。

フリーの時代は確実にあったけど いまは“集まる時代”だと思うんです

ましたよね。

伊藤　私たちの同期は異常に仲がよくて、逃げるときも、一人が残るって言えばみんなで残る、みんなが逃げるって言えばみんなで逃げる、っていう感じだったんです。で、どうしても逃げたい、どうしても辞めたい、最後まで頑張れないという同期がいて、自分たちのなかでつらい気持ちがどんどん膨れ上がってしまって、脱走を実行に移しちゃったんですけど。仕事がイヤだとか、先輩が怖いとか、何かをされたとかではまったくなく、自分たちのやってることが認めてもらえず、わかってもらえなかった。自分たちの1個下の代の子が巡業に一人だけ来たことがあったんですよ。私たちはその子と一緒に仕事を回してたんです。全女の巡業には、笑える仕事がいっぱいあるんですけどね（笑）。

——たとえば？

伊藤　お風呂回しとか。

——なんですかそれ？

伊藤　お風呂には一番上の先輩から入るんですけど、先輩が出たら次の先輩を呼びに行くために、お風呂の前でずっと待ってないといけないんです。ハハハ（笑）。

——へえーっ。

伊藤　たまたま下の代の子の順番になったときに、「この子ばっかりに押しつけて」みたいに言われて私たちが怒られた。先輩が黒いものを白と言えば白、黒と言えば黒、みたいなところが自分たちの頃の女子プロレス界にはまだあったんです。「違います」「ありません」とか「わかりません」とかは言えない世界。先輩が矛盾したことを言ったり、誤解して怒っていても、誤解された自分たちが悪い、というふうに全部処理してきていたものが、些細なきっかけで爆発してしまった。そんなこともあって脱走して、でも結局戻って、ジャングル・ジャックに入れられたんです。

——井上京子さんは怒ったでしょう。あんなにかわいがったのに、伊藤さんも渡辺さんもバットさんもみんな一緒に逃げちゃったんですから。

伊藤　そうですね。口もきいてもらえないし、何もかも、それまでとはまったく違うように冷たくされて。突き放されました。だけど、自分たちが悪いんでどうしようもないですよね。

——認めてもらうには何年もかかったんですか？

伊藤　フリーダム・フォースに入ったときも凄かったですからね。

——フリーダム・フォースもガチな人間関係だと聞きましたけど。

伊藤　あれは、同期のケンカから始まってるんですよ。

——会社が豊田を上げようとして、山田、三田、下田（美馬）の3人が嫉妬したということですか？

伊藤　直接の原因が何かは全然わからないんですけど、豊田さんが一人になっちゃったんですよ。泣いてましたからね。あの豊田真奈美が。エレベーターの中で。

——えーっ？　ホント？

伊藤　うん。自分たちはホテルで鍵を渡したりしてたんです。三田さんと下田さんとが豊田さんに何かを言って、二人で先にエレベーターで上がったんですよ。豊田さんは自分たちが乗るエレベーターに一緒に乗って、泣いてましたね。たしか名古屋のクラウンホテルだったかな。

——へえーっ。考えられないですね。

伊藤　考えられないです。

——聞いてみなきゃわかんないですね。それで「やっぱり私たちがフォローしてあ

伊藤薫

げないと」という感じ？

伊藤　いやいや、会社から呼ばれたんですよ。マネージャーから居酒屋みたいなところに吉田さんと自分と長谷川（咲恵）が呼び出されて「いま豊田が一人だから」って。

―国松マネージャーから「豊田が一人になってるからおまえらが助けてやれ」と。

伊藤　「いまの状況を知っているよな。豊田が一人になってるから、豊田軍団をやってくれないか？」みたいな。それがフリーダム・フォースになった途端に、それまでは全然何もなかった人たちから、もう凄かったですよ。W井上（京子&貴子）vs吉田万里子&伊藤薫という試合があったんですけど、一回も自分がチェンジ権をもらわないまま試合が終わったことありますよ。

―ひゃー。吉田さんはなぶり殺しという感じ？

伊藤　うん。じゃないですか。静岡産業館だったかなあ。

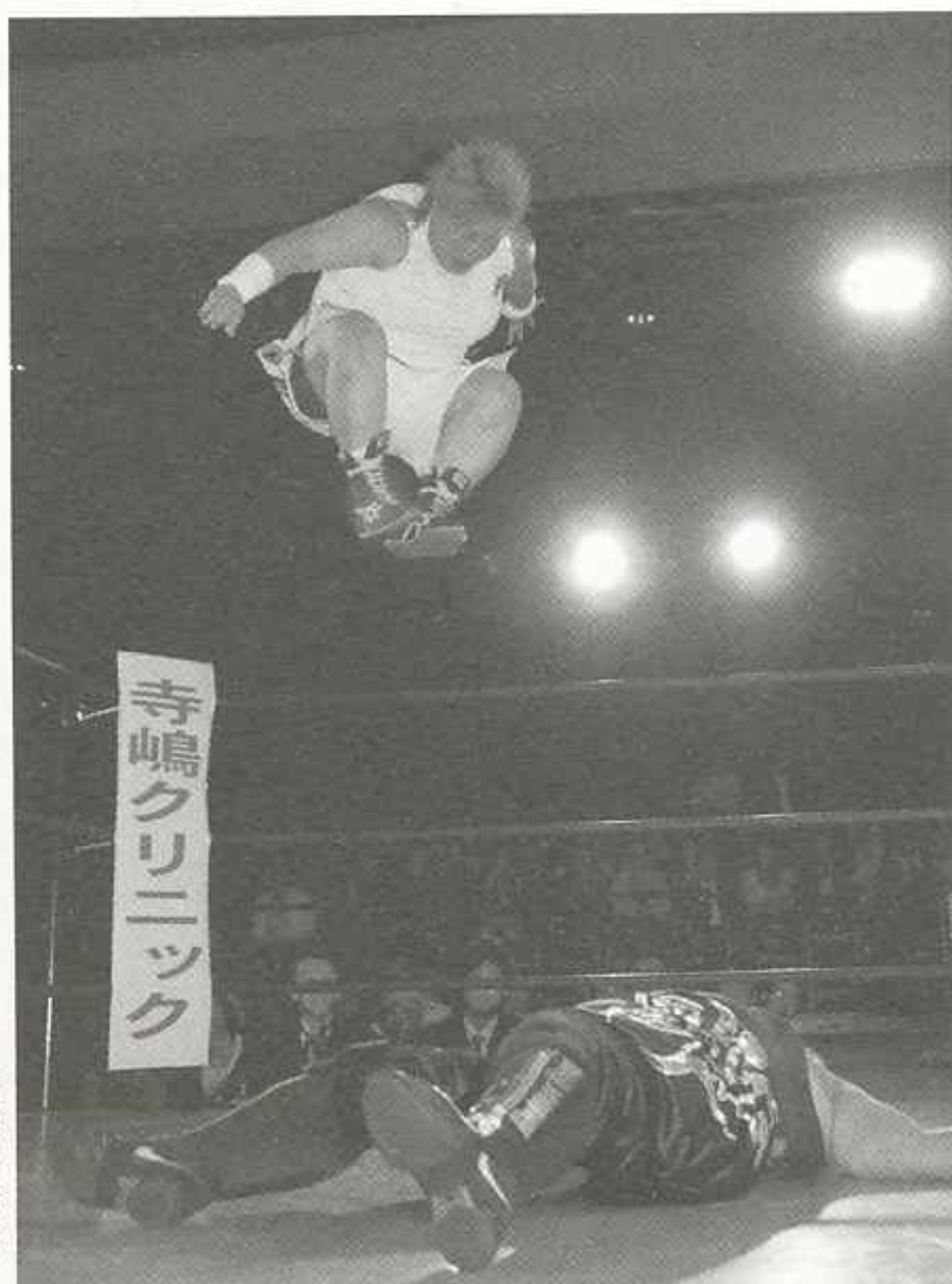
―やっぱり全女って恐ろしい団体ですね。伊藤さんは堀田祐美子さんと凄く危ない試合を何度もやっていますよね。堀田さんは凄く危ないことをするレスラー、という印象が僕にはあります。堀田さんがチャパリータASARIの顔面を蹴って、ASARIの顎の骨がパックリと割れたことがあったでしょう？

伊藤　ああ、後楽園ね。下田さんもやったね。堀田さんは腕も2本は折ってますよね。吉田さんと高橋奈苗。

―全女の常識としては、受けがヘタっていうことになるんですか？

伊藤　受けですよね。蹴るほうも悪いかもしれないですけど、見てないといけないよね。人間って反射的にこうやって見てるときに、パッと手を出されたらパッて思うし。ピッて反射的に避けたり、手が入ったり反射的に危ないって思うじゃないですか？　キックミットを持つみたいにこうやって（相手に掌を向けて）ガードすれば受けられるんだけど。

―だけど、ピラミッドドライバーとかカリビアンスプラッシュなんてどう考えたって無茶でしょう？

伊藤　まあ、無茶ですけど、私は無事だった（笑）。私は堀田さんと一番やってますからね。観てる人たち、セコンドについてる後輩の子たちが、私が「殺されちゃう、死んじゃう」と思って泣いてたというのも聞いたし。丈夫に生まれてきて本当によかった（笑）。

―だって、無傷なはずがはないし。

伊藤　鼻は折れるしアゴも折れるし、ズタズタでしたよ。でも、結局、堀田さんも必死だし、私も必死。アゴが折れたとか、腕折れたとかは実際あるけど、それはアクシデントだし、堀田さんもいけなかったかもしれないですけど、片方が悪いということではないとは思いますね。ただ、堀田さんには相手の力量を見極められなかった、というところはなきにしもあらず、ですね。

いとう・かおる■1971年10月20日、京都府出身。89年10月、吉永恵理子戦でデビュー。全女大量離脱後の00年9月にはWWWA世界シングル王者となる。03年11月に全女退団、05年5月に伊藤道場を旗揚げ。10年12月に伊藤道場解散、現在は「新たな動きに向けて充電中」（伊藤談）。160cm、83kg。

ぶっちゃけ、首から上を攻めちゃいけないのに、アゴ折られた人は完璧に顔を蹴られているわけだから。まぁ、あの頃はもうK―1とかがあったから、格闘技色が強く求められていたんです。女子プロ界でもL―1とか、格闘技の大会とか増えてますから。そっち路線に行っちゃったんですね。私も会社から格闘技をやらされましたけど。

―イヤだった？

伊藤　だって私、「柔道家なのにグローブ着けられて何できんの？」っていう話じゃないですか。まあでも、強い伊藤薫というのは、総合の試合でイメージがついたから。

―出た意味はあった、と。イメージをつけるというのはとても大事なことですから。

伊藤　ええ。「伊藤には表情がない、声も出ない、ポーカーフェイスだ」ってずっと言われてきて、プロレスラーとしてはネックの部分がいっぱいあったけど、総合格闘技で格闘技戦をやることで、それを自分のキャラクターにしていけたかなって。

―昨年末、伊藤道場が解散しました。そのことについて、そしてこれからの活動について教えてください。

伊藤　約5年続けたんですけど、最初は『伊藤薫プロレス教室』だったんです。若い子にしっかりとした基礎を教えて、プロテストをいろんな人に見てもらって、合格したら、狭い業界だから行きたいところにどこでも紹介もできるし。そんなかたちでプロレス教室を始めた。ところが、そのうちに選手のほうから「自分たちで行業をやっていきたい」という話が出てきたので「伊藤道場」として行業をするようになったんです。

―なるほど。

伊藤　でも、選手の意識が低かった。働いているから週4回の練習はキツイという。プロなのに。あと、いまは黙っていてもチケットが売れる時代じゃない。だったら自分たちでチケットを売るしかない。観に来てもらってナンボじゃないですか？　だったら「自分の試合だから観に来て」って、一人でも多く引っぱってくる努力をすべきじゃないですか。だけど、選手たちが売ってくるのは2枚とか4枚とか。最低でも20枚を売る努力をしてほしかった。20枚なんて本当に少ないけど、5人が売れば100枚になるでしょう。

―ええ。

伊藤　自分も選手だし、チケットを売れとは言いたくない。だけど、言わないといけない状況だった。興行も打てなくなるから。ただ、選手たちと私のあいだに意識の差があったのは、私はプロレスだけでメシが食いたいと思っている。だけどいまの子たちは働きながらやるのがあたりまえで、バイト感覚なんです。このままこの子たちと一緒に頑張っていても、なんか目標が違うのかな、と。私はプロレス一本でいきたいってことをいまでも思ってるし、そういうふうな時代になるように、現役でいられる何年かをそっちの方向でおもいっきり力を出したい。フリーの時代は確実にあったけれど、いまは"集まる時代"だと私は思っているんです。

―大きい団体を作るべきだ、と。

伊藤　ええ。いまはまだ言えないんですけど、水面下ではいろいろな動きがあるので、もうすぐ発表できると思います。楽しいのもプロレスだし、お笑いもプロレスだし、いろんなプロレスがあると思うんですけど、だけど私は王道を行きたい。いまはもうどこにもないから。

【11年1月5日／都内・某所にて収録】

東プロ、国際、新日本、ジャパン、全日本、そしてインディー
日本マット界を渡り歩いた伝説の名バイプレイヤーが登場!

いぶし銀一代記 前編

"和製カーペンティア"
寺西勇

"いぶし銀"の異名を持つレスラーは数多けれど、まさに"いぶし銀の中のいぶし銀"とでも呼びたくなる名レスラー、寺西勇。そんな寺西のプロレス人生を二回にわたって掲載。今回はデビューから、はぐれ国際軍団として新日本に殴り込んだ時期までを語ってもらった。

聞き手／地伏丈　構成／鈴木佑

――昭和を知るプロレスファンのあいだで"忘れえぬ存在"として人気の高い寺西さんに、ご自身のプロレス人生を振り返っていただきたく、今日はインタビューにおうかがいしました。

寺西　えっ⁉　俺のこと？　知りたい人いるのかなぁ？（笑）。

――そんなそんな、ご謙遜を。寺西さんのインタビューを待ち望む声は根強いですから。約10年ほど前にリングを降りてから、ほとんどメディアにも登場しなかったので、なおさらなんでしょうけど。

寺西　へぇ、そうなの？　そう言われて、悪い気はしないけどさ（笑）。それじゃあ、なんでも聞いてよ。

――では、まずはプロレス入りの経緯を。大相撲からプロレスに転向したのは、東京プロレスの旗揚げのときですよね？

寺西　そう。昭和41年（1966年）のことだね。

――もともと、プロレスに興味はあったんですか？

寺西　うん、プロレスは好きだったよ。よくテレビで観ていたね。でも、自分がプロレスラーになろうとは思ってなかったね。だって、なれると思わないもん、身体が小さいから。

――いや、しかし大相撲だって、身体が大きい人たちの世界じゃないですか？

寺西　相撲は（入門規定が）75キロだから。17歳のときに新弟子検査を受けたんだけど、ちょっと目方が足んなかったから、どんぶり飯3杯食って、一升瓶に水を入れて飲んで、それでちょうど75キロ。大相撲へ行ったのは、あっちこっちの町や村の相撲大会に出ては賞金を獲ってたら、地元の富山にいた立浪部屋のスカウトみたいな人から「来ないか」って声がかかって、それに飛びついたの。相撲には3年ぐらいいたね。

――プロレス転向に踏みきったきっかけというのは？

寺西　立浪部屋で一緒だった大磯（武）から「一緒にプロレスへ行こう」って誘われたんだよ。俺は小さいときから頭の真ん中にイボのようなものができてて、髪をとかすのにクシを通しても引っかかったんだけど、そこが傷になってたんだよね。毎日、稽古で頭からぶつかると、血が滲んじゃって。それで親方に一度「辞めさせてください」と言ったら、「手術させてやる」ってことで手術して、よくはなったんだけど。

――なるほど。

寺西　で、大磯に誘われて、同じ部屋の永源（遥）さんも「じゃあ、行こう」ってなって、3人で打ち合わせて、大磯が朝、俺が昼間、永源さんが夜って、同じ日に部屋を抜けたんだよ（笑）。でも、じつはそれより前にリキパレスへ大磯と二人で行ったことがあるんだよね。北沢（幹之）さんに会って「プロレスに入りたいんです」って言って、（日プロの社長だった）豊登さんに会わせてもらって、「部屋はどこだ？」「立浪部屋です」「なんだ、俺と同じじゃないか。じゃあ、あと1年ぐらいしたら来いよ」って。それが昭和39年の暮れだったね。もう、その時点で豊登さんは、いずれ自分は日本プロレスを出ていくことになると思ってたんじゃないかな、いまにして思えば。それで北沢さんから大磯あてに、部屋に電話がかかってきたんだよ。

寺西が東プロ時代に付き人を務めた豊登は、力道山とともに日本のプロレスシーン創成記に活躍。日本プロレスの2代目社長も務めたが、生来のギャンブル好きもたたり、なかば逃げ出すように65年に同社を退社。そして66年、猪木を口説き落として東京プロレスを旗揚げした。

初めて猪木さんを見かけたときは「カッコいいなぁ～」って思ったね

――えっ⁉　「今度、新しいプロレス団体ができるから……」という誘いの電話が相撲部屋にかかってきたんですか？（笑）。

寺西　うん。だって、部屋の人間は誰もそんな経緯を知らないから、「北沢という人から大磯に電話だ」って言ったって、なんの用だかわからないもん（笑）。で、誘われるままに新宿の事務所へ行って、その足で伊東市の瓶山の合宿へ行ったんだよね。

――その年の春に設立された東京プロレスですが、旗揚げ戦までは時間がかかっていますよね？

寺西　うん、7カ月ぐらいかな。もう毎日、練習、練習で、ほかにやることがなくて（笑）。そこの合宿所は豊登さんの知り合いの人の旅館で、旦那さんにも奥さんにも世話になったよ。「お金のことなんか気にせず、興行が打てるようになるまで、いつまでもいていい」って言ってくれて。練習はキツかった。コーチは田中忠治さん（初代IWAミッドヘビー級王者）。足の運動（スクワット）なんて、1000回やらされたからね。最初は500から、だんだん増やされて。階段を転げ落ちていたよ。

――猛稽古を積んでいた、と。

寺西　で、東京へ戻ってきてから、一時期、やっぱり豊登さんの知り合いで銀座のクラブを経営していた人の家で寝泊まりしていたんだけど、その人を猪木さんが訪ねてきたことがあって、そのときに初めてアントニオ猪木さんを見かけたんだよ。当時、猪木さんは23（歳）ぐらいでしょ。いやぁ～、「カッコいいなぁ～」と思ってね。「これがプロレスラーかぁ」って、鳥肌が立つ思いだったね。とても挨拶にいくなんて雰囲気じゃなかった。俺ら試合に出るまでは、猪木さんと口もきいたことなかったよ。

――東京プロレスの旗揚げ興行（66年10月12日、蔵前国技館）で迎えたデビュー戦にまつわる思い出は？

寺西　俺は竹下さん（岩夫＝のちに国際プロレスでリングアナウンサー）とやったのか。呼吸がわかんなくてさ、息を吐いちゃってるときに胸の真ん中を蹴られて痛くて痛くて（苦笑）。2カ月ぐらい痛かったよ。血ぃ吐いたことあるもん。あれだけ練習したと思ってたのに、練習で上がったリングよりマットが柔らかくて、かえって足首を痛めて疲れちゃってね（6分30秒でフ

いぶし銀一代記

ォール負け）。あと、その日の思い出としては、興行の途中でリングが壊れちゃって（笑）、お客さんを長々待たせて修理したんだよね。お客さんは入ってたんだよ。俺ら新人や、（ラッシャー）木村さんたちも新宿とか大きな街でチラシを配ったりしてね。で、メインの猪木さんとジョニー・バレンタインを観たときは、「これは後々が楽しみだぞ」と思ったよ。まだあまりプロレスのことはわかってなかったけど、ああいう凄い試合を目の前で見せられたら、猪木さんて人はもう、明日から日本のプロレス界を背負ってく存在になるだろう、と。お客さんはみんな言ってたからね、「今日は凄かった。次の試合が楽しみだ」ってね。

——しかし、東京プロレスは2シリーズで空中分解してしまうわけですが、当時、会社内で何が起きているのかわかってはいましたか？

寺西　全っ然、わからなかった。ただ、「もう興行が打てないから」と北沢さんに言われて……。だけど、その前から俺は豊登さんの付き人をやっていて、「俺とマサ（田中忠治＝本名・田中政克）は国際プロレスに行くから。おまえも行くことになってる」って言われてたから、べつに驚くことはなかった。でも、東プロは退職金5万円くれたよ。

——へぇ～、それは意外です。よく当時で5万円も出ましたね！　いったい、どうやって出したのか……。

寺西　わかんないんだけど、その5万円は全部、食うのに使っちゃった（笑）。

——ところで豊登さんの印象は？　お金遣いが荒いとよく言われますが……（笑）。

寺西　それがわかったのはねぇ、東京プロレスが潰れてから。それで、田中さんと俺は大森でマンションを借りて住んで、豊登さんの身の回りの世話をしてたんだよ。「豊登さんはお金をどこから持ってくるんだろう？」と思ってたんだけど、あるとき、豊登さんが「（部屋に置いてある）尺八を持ってこい」って言うんだよ。「何かな？」と思ったら、尺八の中に1万円札が何枚も隠してあって、結局50万円ぐらい出てきてさ（笑）。「マサに使われちまうから、隠し場所をわからないようにしてるんだ」って豊登さんは言ってたけど。「まさか尺八の中に入ってるとは思わないだろう」って（笑）。豊登さんには、ちょくちょく競輪場にも連れていかれて、一回に30万ぐらい賭けるんだけど「これを買ってこい」って番号を書いた紙を渡されてさ。

——当時の30万で、一点買いですか？

寺西が“恩人”と語る国際プロレス社長、吉原功（左端）。81年の国際プロレス崩壊後は新日本で顧問を務めていたが、85年に胃ガンのため死去。写真は79年の『プロレス夢のオールスター戦』の発表会見。ちなみに寺西は同大会で藤原喜明、永源遙と組んで、木村健吾&佐藤昭夫&阿修羅・原組と対戦した。

寺西　そう。よく当たってたんだよ。凄いお金になってたけど、また次も30万ぐらい賭けるから……。渡されて手が震えちゃったよね、30万なんて持ったことなかったから。

——豊登さんは厳しい人だったんですか？

寺西　いや、そんなことはなかったよ。練習さえちゃんとしていれば、細かいことを言う人じゃなかった。俺は練習が好きで、田中さんと一緒によく練習してたから。そのかわり、よく「食え」って言われたね。毎日、餃子5人前食わされてた。（住んでいた部屋の）下に中華料理屋があるんだもん。上から顔出してさ、「おいっ、餃子15人前持ってこい」ってさ（笑）。

——競輪がお好きだったという豊登さんは、もっぱら自転車トレーニングが練習方法だったと聞きますが……。

寺西　豊登さんは力道山の形見の赤い自転車に乗ってたんだけど、俺にも下北沢で7万円もする自転車を買ってくれて、二人して半年ぐらい毎日、自転車で大森から鎌倉まで往復してた。片道40キロぐらいはあるかな。

——それは凄いトレーニングですね！

寺西　豊登さんが速くて追いつけなくて。1週間ぐらい続けてたら股が擦り切れちゃって痛くてさぁ。そうやっているうちに、「おまえ、凄い脚になったなぁ。競輪選手になるか!?」って豊登さんに言われたもんだよ（笑）。

——寺西さんは、東プロから移籍して国際の旗揚げ2シリーズ目（67年夏）から所属選手として加わりましたが、東プロと合同興行のかたちで開催された国際の旗揚げシリーズ（67年1月『パイオニア・シリーズ』）にも出場していますよね。じつは寺西さんは唯一、国際の旗揚げから解散まで15年間の全シリーズに参加していることが、事前の調べで判明しました。長期の海外遠征にも出ず、また大きなケガもなかったからできたわけですが、このことをご存知でしたか？

寺西　いやぁ、それは知らなかったね。へぇ、光栄な記録だけど、俺は海外へ行かなかったからねぇ。でも、海外遠征の話は何回かあって、一度は国際と全日本の提携時代に「オーストラリアへ行ってくれ」と言われて……、そのときは高千穂さん（明久＝ザ・グレート・カブキ）が行かれなくなったから代わりに行ってくれということだったけど、すべて断り続けたね、行きたくなかったから。

——行きたくなかったというのは、なぜですか？

寺西　心細いよ、だってさぁ（笑）。海外なんて行きたくないと思ってた。

——でも、昭和の時代のメインイベンターは、みんな海外へ出てハクをつけて、エース候補として帰ってくるという流れがあったじゃないですか？

寺西　そうだね。それはよくわかってたよ。だけど、エースになるとか、俺なんて身体が小さくて……。そんなもう、木村さんとかさ、サンダー杉山とか大きい人がいるでしょ。だから、軽量級でやるしかないなと思ってたよ。それに、みんな海外へ行って（レスラーとして）変わったとか言うけど、そんなに変わったと思わなかったしさ（笑）。べつに日本にいても、いろんな技を研究できるよって。

——実際、寺西さんが若手だった頃の国際マットには、ヨーロッパ系のテクニシャンをはじめ、さまざまなタイプの外国人選手が来ていますよね。

ヨーロッパの選手たちが初めて来たときは衝撃を受けたね

寺西　ヨーロッパの選手たちが初めて来たときは衝撃を受けたね。一番印象的だったのは、ビル・ロビンソンだね。「ロビンソンってのは凄いレスラーだな、ヨーロッパにはこんな人がいたのか！」ってね。アメリカのレスラーが使っていない技を出してくるから、「こういう技もあるのか!?」って。

――アルバート・ウォール、パット・ローチ、ジョージ・ゴーディエンコ、ホースト・ホフマン……、アメリカからはバーン・ガニアやエドワード・カーペンティアも国際に来ていますね。

寺西　ガニアはねぇ、もちろん名前は知っていたんだけど、ちょっと地味でパッとしない印象だったね（笑）。それよりも、ずっとあと……、昭和54年頃になってからだけど、ルー・テーズとシングルで対戦できたのには感動で泣けたねぇ。バックドロップも速くて、いつ投げられたかわからなかったもん。

――（グレート）草津さんがバックドロップでKOされたときは、セコンドで観ていていかがでしたか？

寺西　そのときは、「これが力道山もやられたテーズのバックドロップか。いやぁ、速いなぁ〜」って思ってたけど、いざ自分がやられてみて、本当、一瞬だもん。

寺西は国際時代、そのテクニックを武器に軽量級戦線を中心に活躍。写真は81年4月18日（ビッグチャレンジ・シリーズ）、マッハ隼人とのタッグでカルロス・プラタ＆ホセ・ルイス・メンディエタ組と対戦したときのもの。

――多彩な外国人選手を見てきたなかで、寺西さんが手本にしたレスラーはいますか？

寺西　う〜ん、「ロビンソンみたいになりたい」って言ったって、体格も違うしね。トニー・チャールスは軽量級だったから何回もやったね。「あ、俺なんか小さいんだから、こういうふうにやればいいのかな」って思わされたっていうかさ。ドロップキックが半端じゃないんだわ。蹴りだけで身体がワッと持ってかれちゃう。あと、エルマンソー兄弟（シーク＆エミール）。あれは凄く業師だったね。大きなレスラーでは、ジョン・ダ・シルバも地味だけどいいレスラーだった。

――誰を手本にしたというより、さまざまなレスラーのいい面を参考にして、どんどん吸収していったということでしょうか。

寺西　そうだね。他人が使った技をアレンジして、こういうふうに使ったらいいんじゃないかと考えてやってたね。夜、眠れなかったもん。いっつも、「こういうふうに変えてやろうかな」って布団の中で考えてた。

――技といえば、寺西さんのスリーパーホールドは独特なフォームだったことが印象に残っています。通常は片腕を相手の首筋に回し、もう一方の手を添えるかたちですが、寺西さんは右腕を相手の肩の上でV字に曲げ、相手の顔の前で自分の右腕を左腕で締めるようにして圧迫するスタイルでしたね。

寺西　ああ、それはとくに意識してたわけじゃないんだけど、相撲をやっていたときに左四つが得意で、「左の力が強いな」と言われたんだよね。実際、左右どちらの力も変わらなかったんだけど、その左の強さを活かそうとして自然にそうなってたんだろうね。

――日本人の先輩レスラーでは、たとえば、やはりテクニシャンだった田中忠治さんを参考にしたというようなことは？　寺西さんは、白いタイツとシューズを田中さんから受け継いでいますよね。

寺西　いや、受け継いだという意識はなかったよ（笑）。単に黒より白を穿いたほうが大きく見えるから。「少しでも大きく見せよう、身体も張ってなきゃいかん」と思って、いつも（会場で）ギリギリの時間まで練習してた。

――若手時代からテクニシャンとして専門誌などでも取り上げられていますよね。

寺西　いや、やっぱりヨーロッパの選手たちの影響だけど、動き回るような試合をする選手が日本にあまりいなかったから。

――とくに寺西さんとマイティ井上さんのカードは、国際の名物と言われて評価が高かったです。

寺西　井上とは、お互いに気心がわかって手が合ったから。全日本の新宿区体育館でやったとき（73年2月10日、『ジャイアント・シリーズ結集戦』開幕戦）には、（マシオ）駒さんとか先輩たちに「いやぁ、凄い試合だなぁ」って言われてねぇ。もう、国際プロレスを代表して出たんだから。

――吉原社長は「全日本のファンに見せつけてやれ！」というつもりで、カードごと貸したんだと言われていますね。

寺西　そうだと思うね。それだけ吉原さんも俺と井上も自信あったよ。あのときは、ほんとに1時間試合やっても疲れなかったから。実際、井上とは62分やった試合もあったしね（同年3月16日、町田市体育館。45分3本勝負で1−1からタイムアッ

プ。10分間の延長戦も時間切れ。再延長の末に井上が勝利)。

――井上さんも、アニマル浜口さんも、「寺西さんは口で言うのではなく、試合の中で闘いながらプロレスの組み立てを教えてくれた」と異口同音に言っています。それと、寺西さん自身は海外に出ませんでしたが、海外修行から帰ってきた選手の成長度合を確かめるために、いつも寺西さんが相手をしてましたよね。

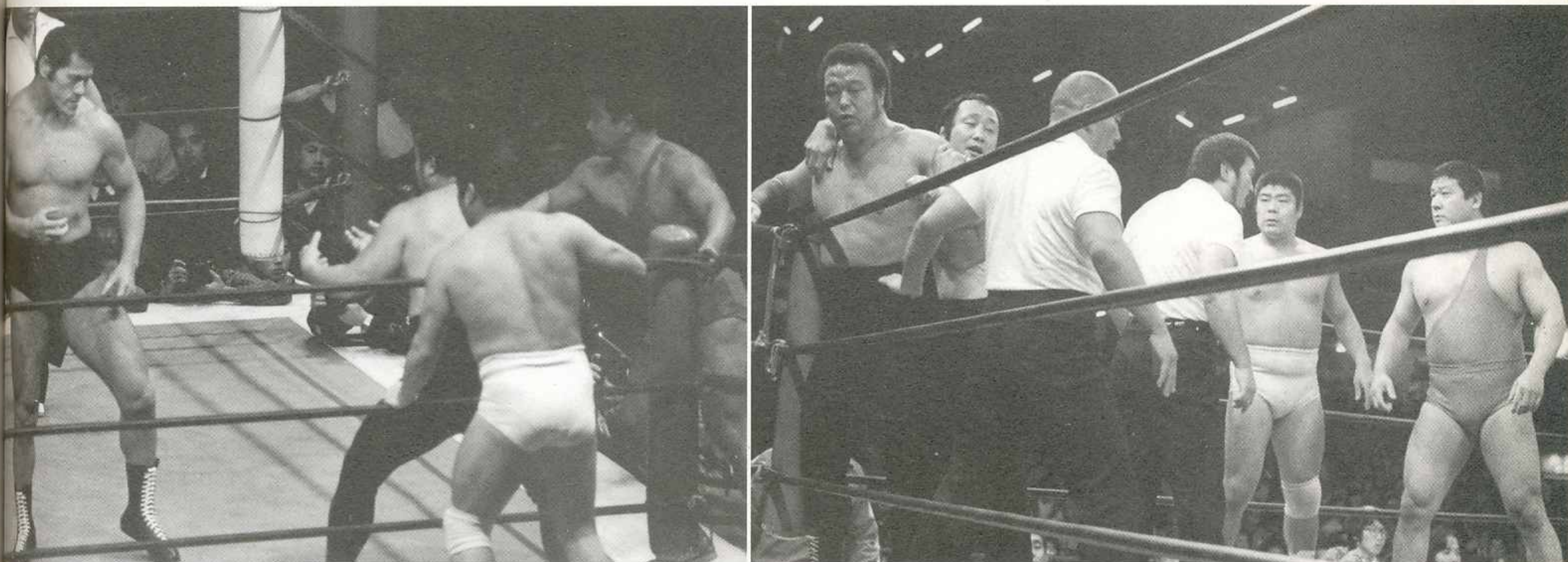
寺西 そうだね。外国から帰ってきたヤツとは必ず当たったね。

――そういった部分で、吉原社長から信頼を得ていると実感していましたか?

寺西 どうかわからないけど、阿修羅(・原)が入ってきたときなんかもつきっきりで教えたね。何人も見てきたけど、レスリングを覚えるのが阿修羅は早かったよね。阿修羅が一番、飲み込みが早かったかな。こっちがなんべん教えてもダメなヤツはいるけど(笑)。

――では、国際プロレスの面々の横顔を振り返っていただきましょう。まずは、吉原社長から。

寺西 吉原さんは、とにかく練習が好きなレスラーをかわいがる人だったね。俺なんか、与野に(道場兼)合宿所があった頃は、必ずシリーズの2週間前に入ってたからね。社長の家(北浦和)は車で10分ぐらいのところだったから、道場から社長に電話を入れるんだよ。社長が来れば飲みに連れ出してくれるから(笑)。「お疲れさまです」「おお、どうした?」「今日、合宿に入りました」「じゃあ、2~3日したら行くよ」って。「よし、これで飲めるな」って、いっそう練習に気が入ったよ。そんなんばっかり(笑)。

――豪快ですね(笑)。

国際プロレス解散後の81年9月23日、有名な「こんばんは事件」をきっかけに新日マットに殴り込みをかけたはぐれ国際軍団。82年11月と83年2月7日の蔵前国技館大会で、猪木と屈辱的ともいえる1対3のハンディキャップマッチで対戦した。なお、寺西は新日本参戦時代に初代タイガーマスクと通算5度対戦し、初代タイガーの新日時代最後の相手も務めている。

寺西 あるとき、高田馬場の事務所に顔を出したら、社長に「おお、テラちゃん。今日、待ってるよ」って言われてさ、近くに「浜力」ってちゃんこ屋があったの。そこへ「今日は大鵬が来るから」って社長が言うんだけど、「えええ~!?」ってかしこまってさ、大鵬さんは雲の上の人だったから。相撲時代に、たまたま俺が立ってた前を大鵬さんが通りかかったことがあって、「おはようございます!」って挨拶したら「はい、おはようさん」って返されて、「おおっ、挨拶してもらえた!」って。それがどれだけうれしかったかって、吉原さんと飲んだときに、大鵬さんに言ったよ。まぁ、吉原社長には気さくに接してもらえたかな。練習をやってたからね。社長と飲みに行くと一軒じゃないんだから、5~6軒はハシゴしてたね(笑)。俺も嫌いじゃないから、あの頃は飲んだ飲んだ。朝まで飲んでも、練習だけは絶対に欠かさなかったね。それでまた夜に、いい酒が飲めるんだよ(笑)。

――うまくできてたわけですね(笑)。

寺西 これは三島に住んでいた頃の話だけど、12日間連続で朝帰りしたことがある。草津さんと、鈴木峰謡先生という1200人ぐらい弟子を持ってる民謡の家元が沼津にいて、しょっちゅう3人で飲んだ。そもそも草津さんに峰謡先生を紹介されて、先生も俺を気に入ってくれたんだけど、二人だけで飲んでいても必ず草津さんに見つかるんだよ(笑)。

――草津さんはスピード狂でもあって、後楽園ホールから車を飛ばして45分で三島まで戻ったことがあったとか?(笑)。

寺西 あるある。速いんだよ。それも缶ビールを次々空けながら(笑)。つまみにはチキンを買って、「これがアメリカのサーキット方式だ」って言ってたね。運転はうまかったよ。だけど、お通夜に行ったとき(08年6月)、草津さんの顔を見たら、いろんなことを思い出して涙出ちゃったね。

――昨年、木村さんも亡くなりましたが、木村さんについては?

寺西 木村さんは相撲時代からの先輩だし、プロレスに俺が入っても、東プロから一緒だったからねぇ。相撲のときに稽古したことがあってね。上の人に「今日は誰と稽古した?」って聞かれて、「宮城野部屋の木村さんと稽古しました」って言ったら驚かれたよ。それだけ周囲が一目置く存在だったから。そのことを木村さんも覚えてたね。俺は木村さんが大好きだったよ。あの人は、凄く他人を思いやる人でね……。俺は付き人をしていたこともあったけど、よく面倒を見てくれたよ。

――木村さんといえば、やはり金網デスマッチが切っても切り離せませんが、国際の地方興行にはしばしば金網戦が組み入れられるようになっていって、寺西さんも何度となく金網の闘いを経験していますよね。テクニシャンの本領を発揮できる試合形式ではなかったと思いますが?

寺西 金網のリングに入るのは緊張したな。口の中がカラカラに乾いちゃってさぁ。ただ、俺はね、テクニックを使ってきれいにやれって言われればできるし、金網の中に入ったら金網の中のレスリングをしなきゃいかんと思ってたから。その点はどうってことなかったよ。だから、新日本へ行って、国際軍団として憎まれるんだったら、それはそれでやってやるし、タイガーマスクとやるとなったら、また別の闘い方があると思ってやってたよ。

――国際の解散が決まる前から、新日本と全面対抗戦が予定されていましたが、結局、新日本のマットへ乗り込んだのは木村

いぶし銀一代記

さん、寺西さん、アニマル浜口さんの3人だけでしたよね。井上さんや原さんは全日本を選び、鶴見五郎さんやマッハ隼人さんのように海外に出る選手もいて……。

寺西　うん。井上たちが全日本に行くってのは聞いてたんだよ。そのときに、浜口が「テラさん、一緒に新日本へ殴り込みに行こう」って言ってきて、「おう、いいよ」って。「木村さんと行こうや」って。

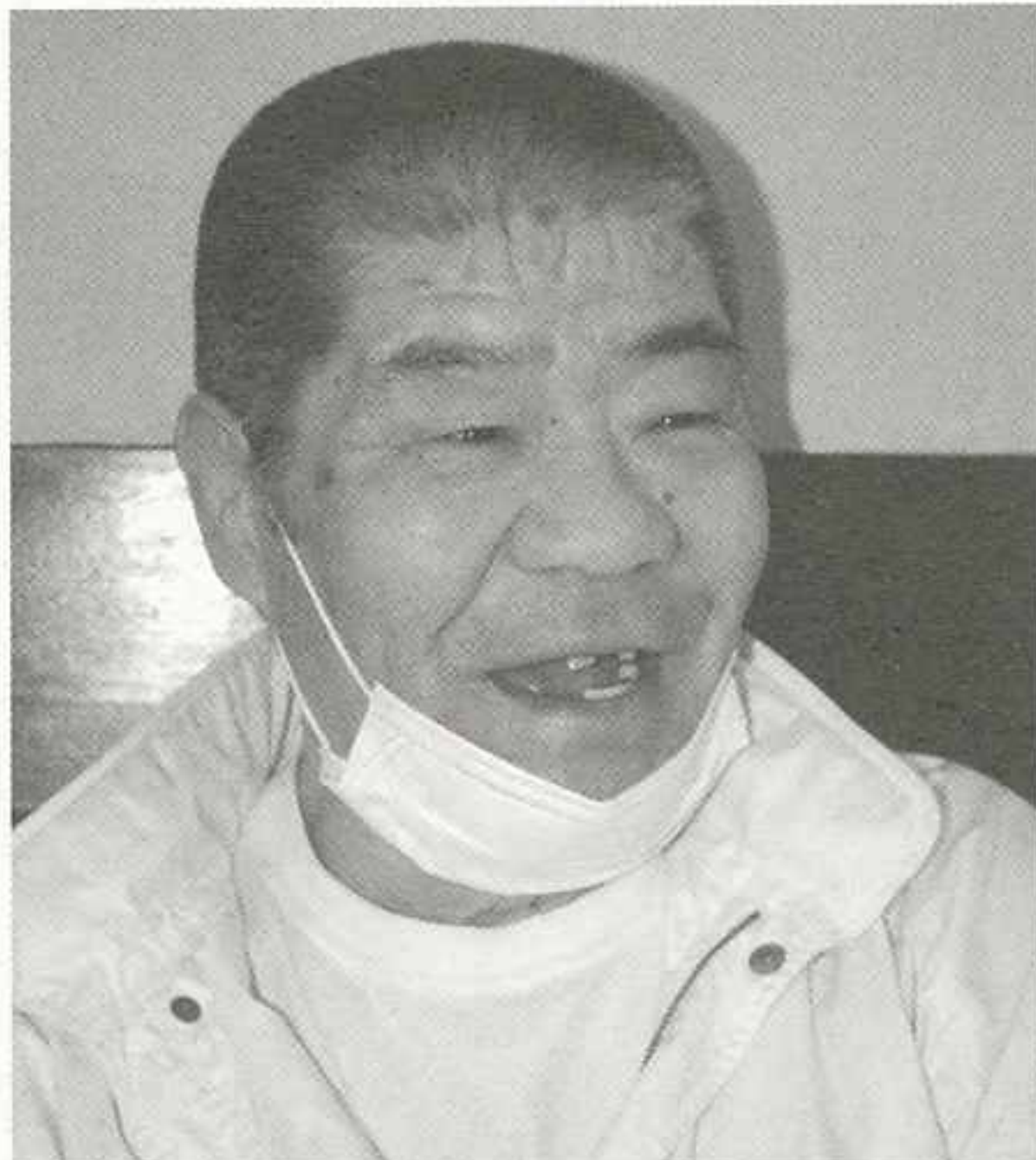
——国際最後の羅臼大会（81年8月9日、『ビッグサマー・シリーズ』最終戦）の頃には、もう団体が続かないということは、皆さん知っていたわけですよね？

寺西　その前からダメだっていうのは聞いてたからね。それでも、ほかの団体があるからって気持ちだったよね。「これでプロレスラー人生が終わるわけじゃない、次のリングで俺たちの意地を見せてやる」って。ただ、吉原さんと別れたくなかったから、それだけは寂しかったね……。俺は吉原さんを尊敬してたから。

——国際が存続していた頃に、新日本と全日本、どちらの選手とも対抗戦やオールスター戦で当たっていますよね。寺西さんとしては、どちらがやりやすかったですか？　よく、新日本は〝カタい〟とか攻め一辺倒のスタイルで身勝手だとか言われますけど。

寺西　俺は新日本がやりやすいと思った。全日本のレスリングは、決められた範囲のなかでやっているような感じで、ハッとするところがなかったからね。その点、新日本のほうが気が抜けないけど、俺も負けず嫌いだから「来るなら来い」と思ってたね。いつも、木村さん、浜口と3人で、新日本の連中より先に体育館へ行っていたよ。「これだけやってんだぞ」って、わざと練習を見せつけるように。負けたくなかったから。

——国際軍団時代、心ない新日本ファンが木村さんの家に石を投げたといったエピソードが知られていますけど、そのような目に寺西さんは遭いませんでしたか？

寺西　あったよ。大阪で猪木さんの髪の毛を切ったときね（82年9月21日、猪木vs木村の髪切りマッチの試合中、場外で国際軍団が猪木の髪を切った）。花道を引き上げるとき、観客に棒で殴られたんだよ。

——なんだってまた、ファンも棒を持って観てたんですかね!?

寺西　そりゃわかんないけどさ（苦笑）。体育館の裏に出て、浜口と二人でタクシーに乗って、さっさと逃げたんだよ。そしたら木村さんは反対側に出ちゃって（笑）。

——あの頃は、本当にたった3人で会場中を敵に回していましたよね。

寺西　でもね、凄い楽しかった。最高だったね。これだけお客さんをヒートさせてんだから「こりゃ最高だ」と思った。俺たち3人が憎まれて、それでお客が入ってくれればいいと思ってた。やりがいがあったよね。いつも満員だったしね。国際時代は、一生懸命やっていても入らなかったからねぇ。

——猪木vs新国際軍団の1対3が組まれたときは、屈辱的とは感じなかったですか？

寺西　いや。「よし、じゃあ猪木さんを倒してやるぞ！」って。まぁ、俺自身は二度とも取られちゃったんだけど（苦笑）。

——東プロの門を叩いたとき、団体のトップだったアントニオ猪木と抗争するということには、感慨深いものがあったのではないですか？

寺西　そうなんだけど、俺たちは殴り込みに来たわけだから、とにかく叩き潰してやるんだという気持ちで闘っていたよ。俺たち3人が逆に新日本を潰してやるって。浜口はちょっと、木村さんのことを言っていたけどね。「殴り込みに行って、いきなりコンバンハと言われたんじゃ参ったよ」って（笑）。もうちょっと徹してほしいって。あのときも、浜口がうまくフォローしてたけどね。あの田園コロシアムの日、俺は合宿を張っていた秩父で二人を待ってたんだったな。

——二度の1対3を経て、浜口さんが国際軍団を抜けたあと、寺西さんはジュニアのシングルプレイヤーとして初代タイガーマスクと闘うわけですけど。

寺西　うん、俺は彼のレスリングが大好きだったからね。自分の試合の前にタイガーマスクの試合があるときは、必ず会場のうしろから観ていたから。「うわー、凄い試合するなぁ」って。またカッコいいんだよね～（笑）。俺は、あのマンガ（原作の『タイガーマスク』）が大好きだったから。練習を見てても、運動能力が飛び抜けていて、走っても速いしさ、「天才だなぁ」と思ってた。こういうことをいまさら言うのはよくないんだけど、タイガーマスクと二度目に蔵前で試合したとき（83年8月4日、初代タイガーの新日本時代ラストマッチ）は、左ヒザのサポーターの下にゴムの包帯を巻いててね。ヒザが包帯で締まってパンパンになって、試合の途中で痛くなっちゃってさ。ホント失敗したなって、そのことをいまでも思い出すよ。

——では、あの名勝負として語り継がれる試合では、寺西さんとって会心の動きではなかった、と？

寺西　う～ん。あれがなかったら、もうちょっと動けたっていうのはあるね。その前の大阪（同年7月7日）でも同じことになったから、今度は軽く巻いていったんだけど、包帯が汗を吸って締まっちゃってね……。痛かったなぁ～。

——タイガーマスク戦というと、それが一番に思い出されますか？

寺西　そう！　あんな経験はしたことなかったから（苦笑）。

次号では、寺西が長州率いる維新軍団に加入し、ジャパンプロレスとして全日本に乗り込んでから現在に至るまでを振り返ってもらいます。92年の引退時に生じたジャイアント馬場との確執とは……？　『いぶし銀一代記』後編もお楽しみに！

【11年1月8日／都内・某所にて収録】

てらにし・いさむ■1946年1月30日、富山県出身。大相撲を経て、66年に東京プロレス旗揚げ戦でデビュー。同団体の崩壊後は国際プロレスに移籍。そのテクニシャンぶりから“和製カーペンティア”と呼ばれる。その後はジャパン、全日本SPWFとさまざまな団体で活躍した。175㎝、100kg。

いつも木村さんと浜口と新日本の連中に見せつけるように練習してたよ

お いおい、ボヤボヤしてたらあっという間に年が明けちゃったみたいじゃないか。まったく、今年もおめでたいオレだぜ。クックックック。ユーたちはもちろんへべれけになりながら格闘技を観てたんだろうが、今年もそんな調子で頼むぜい。そして、今年はオレにもやさしくしてくれよな!! アッハッハッハ!

154号へのお便り紹介

川尻達也のインタビューがおもしろかった。川尻が「俺以外のヤツ、みんな死ね!」なんてことを言うとは、よっぽど納得いかないことがあったんだろうなと思う。でも、ストライクフォースNo.2のジョシュ・トムソンには絶対に勝ってほしい。
【神奈川県・山口梓さん・会社員・40歳】

D おいおい、タツヤのヤツはそのとおりに一発やってくれたよな! アッハッハッハ! しかも、去年のうちにベイビーまで産まれてたというじゃないかい。ホントに、何から何までコングラチュレーションだぜ。ヒャッホ〜!

練マザファッカーのインタビューがおもしろかった。じつは鈴川真一よりも、練マザファッカーのほうがおもしろいんじゃないかと思っている。これからも常にリングサイドで緊張感ある天然の演出をしてほしい。
【千葉県・O.D.さん・会社員・35歳】

D まったく、ネリマザのヤツらは同じミュージシャンとして恥ずかしいやら、うらやましいやら。……え? 知り合いなのかって? いや、オレは違うけどよお、知り合いといえば、編集部員のスズキィはすっかりヤツらとフレンズらしいじゃないか。アッハッハッハ!

曙さんのインタビューがおもしろかった。そんなに慌てて相撲界に話を通していたなんて……。でもそれだけ格闘技界にもサダハルンバにもパワーがあったんだなあと思う。今年は朝青龍を参戦させられるような元気をつけてほしい。
【大阪府・小泉陽太さん・自営業・40歳】

D 元気といえば、会見で見るサダハルンバは相当スリムになってないかい? 年末は顔色も悪かったようだし、マット界のことももちろんだけど、自分の健康にも気をつけてくれよな! え? 妙にやさしいって? おいおい、オレをどんなドライハートだと思ってるんだい?

語録で振り返るマット界がひさびさに読めておもしろかった。やっぱり自分的には「恥ずかしいけど頑張りました」がグッときたかなと思う。2010年もいろいろあったんですねえ。
【埼玉県・上居駅長さん・駅長・41歳】

D オレとしてはクマクマンボがらみの語録が二つもピックアップされていたことに〝物言い〟だぜ。まったく、いつもおいしいところを持っていきやがって(怒)。編集さんよお、だったらオレのログセの「ボーイズ&ガールズ」が入ってても いいんじゃないのかい? え? そんなの語録でもなんでもない!?

北岡悟の記事がおもしろかった。弘中戦後の自分への評価、そして決まらない試合への追い込み。思っていた以上に噛み合わない現実が厳しいですね。アメリカも口にしていましたが、とにかく北岡選手の試合が観たいです。
【福島県・紺野春樹さん・会社員・31歳】

D シンヤ・アオキのセコンドについてたサトルが一連の大晦日を経て何を思ったかは興味深いぜ。え? 今号でインタビューが載ってるって? ほう。なかなかやるじゃないか、編集さんよお。

武蔵の穴子さんの話はほとんどノリでオファーを受けたところも含めて素晴らしいです。しかも、悩んでいたのが引退のイベントとのバッティングそのものではなく、もみあげ剃り位置とは……。いろいろおもしろいなあ。歌のうまさで芸能界を生き抜こうとする某最高師範とは違い、ナチュラルで好感が持てます。
【福島県・毒柴さん・ボンクラ社員・39歳】

kamipro154号
おもしろかった記事
RANKING

- NO.1 大晦日興行史
- NO.2 星野勘太郎
- NO.3 中井りん
- NO.4 武蔵
- NO.5 ザ・グレート・サスケ / 須藤元気

まったく、ユーたちはホントに大晦日が好きだよな。確かに、いろんな利権と政治が絡み合う大晦日ってのは非常にインタレスティングだぜ。え? 難しいこと言うじゃないかって? クックックック。やっとオレのインテリジェンスさに気づいたのかい? 今年、『kamipro』読者のボーイズ&ガールズはオレを見直す年にしてくれよな!

が、おもしろいです。武勇伝もいっぱいありますしね。まだ生きてたらいろい

玉袋筋太郎さま/さすがタマちゃんってヤツだ。メッセージには「みんな、ありがとう!」のセリフ。まったくどこまで粋なジェントルマンなんだい? リスペクト

入江秀忠さま/おいおい、イリエってボーイは何をすまし顔で写真に写ってるんだい? しかし、わざわざ年賀状をくれるなんて、まったくリチギなヤツだぜ!

高田道場さま/これは本部長とアキ夫人じゃないか。まったくうれしすぎるぜ! 新年から本部長はテレビでも大活躍だからな。いつか格闘技界でもガツンと頼むぜい!!

RENAさま/OH! これは『kamipro』でも表紙になったRENAの写真じゃないか。これでみんなに年賀状を送ってくれたんだな。レナおじも大喜びだぜ!!

ファンキーでクレイジーなアイツが
読者のメッセージを
Check it out!!

"読者ペイジ" ジャクソン

Dおい、ユーたちはアナゴさんを熱演するムサシを観たか？　オレは衝撃を受けすぎて、しばらくテレビの前から動けなかったぜ。もう、ムサシこそ2011年のワンダフルボーイだぜ!!　しかし、"もち肌"であんなに激怒りする北斗も素晴らしい！

中井りんの記事がおもしろかった。こういう写真がないと『kamipro』じゃない。

【高知県・津野祐一さん・会社員・40歳】

Dリン・ナカイは新年からブッ飛ばしてるらしいじゃないか。え？　ファーストキスはまだだってえ!?　むむむっ、まったくあいかわらず昭和のアイドルのようだな。クックックック。

永田裕志インタビューがおもしろかった。よく大晦日に出たなと思う。エース顔ではないが、男気ある永田はサイコーです。

【東京都・穂積智彦さん・会社員・43歳】

Dハッキリ言って、ユウジ・ナガタのヒョードル戦、ミルコ戦の話は『kamipro』では何百回も聞いてるんじゃないのかい？　しかし、毎度やたらと評判がいいのがナガタさんの不思議なところなんだよな。ドームでも一番人気だって聞いたけど、今年も白目作戦で頑張ってくれよな！

ザ・グレート・サスケと須藤元気のUFO対談がサイコーだった。二人にしかわからない（？）ことを、あたりまえのように語っているのがおもしろかったです。

【愛媛県・宮河栄一さん・製造業・28歳】

Dサスケとゲンキの話を鵜呑みにしていたら、地球はたいへんなことになってしまうみたいだな。しかし、UFOを地球に着陸させるために北海道に移住したゲンキは度胸がありすぎるぜ。サスケと一緒に交信してほしいよな！

大晦日興行史がとてもよかった。数々の大晦日の思い出がよみがえり、少し淡い気持ちになったりもした。大晦日格闘技は私の人生で大切なものです。

【山口県・松江巧さん・自衛官・32歳】

Dもし、同じように去年の大晦日を振り返るとしたら、トピックスは絶対にサップの敵前逃亡だな！　アッハッハッハ！

所英男とバナナマン日村のオモバカ対談がおもしろかった。私は格闘家とお笑いの人との対談は、おもしろくなることが多いので好きですね。テレビで二人が凄く仲がいいのを観てたので、なおさら楽しく読めました。

【埼玉県・稲葉耕三さん・会社員・35歳】

Dしかし、オクタゴンの中でお笑いをやるなんて、フジテレビもへんなところにお金をかけるよなあ。そんなに格闘技が恋しいなら、もう一回普通に格闘技番組をやってくれって思ってるのはオレだけかい？

星野さんのインタビューページが、いろいろな雑誌で読んだことがあるのですが、おもしろいです。武勇伝もいっぱいありますしね。まだ生きてたらいろいろ話してくれてたと思ったら残念ですね。インタビュー記事を、とにかく読みたかったです。

【青森県・菅原豪浩さん・29歳】

Dカンタロウってヤツはコテツさんとタッグを組んでいたんだろ？　じゃあ、コテツが呼んでたのかもしれないよなあ。しかし、リアルストロングスタイル志向のレスラーがこうも次々といなくなると、ホントに寂しいぜ。

大晦日座談会がおもしろかった。ヒョードルを蹴るなんて……。TBSのセンスのなさに絶句しました。穴子さん役に武蔵を起用したフジテレビを見習ってほしい。

【埼玉県・岡田圭介さん・学生・15歳】

Dユーは学生なのに、テレビ局に厳しいじゃないか。しかし、ユーの世代になると、テレビへの比重はそんなに重くないんだろうなあ。時代を感じるぜ……。

大晦日は『Dynamite!!』にいきました。おもしろかったですが、ちょっと……なんか。サップのズンドコはアレですが（笑）、小見川道大のような無骨な男の試合を観たかったですね。

【神奈川県・大内和彦さん・会社員・31歳】

Dハッキリ言って、ヒオキもタカヤもミッチーに負けてるボーイがチャンピオンってわけだからな。これはよっぽど頑張らないと、ミッチーの影は消えないぜ。しかし、いまがピークのミッチーがUFCでどれだけ活躍できるかは、非常に注目だぜ。KIDも頑張れよ！

玉袋筋太郎さま／さすがタマちゃんってヤツだ。メッセージには「みんな、ありがとう！」のセリフ。まったくどこまで粋なジェントルマンなんだい？　リスペクトだぜ。

高橋ターヤンさま／おっと、これは何かメッセージの入れ忘れかい？　それとも、いつも急なオファーしかしない『kamipro』への無言の抵抗か？　クックックック……。しかし、編集部さんたちはユーを頼りにしてるみたいだから、今年もよろしくな！

おハガキ募集!!

おハガキ、どんどん送ってくれよ！
ケータイからでもOKだぜ!!
どんな意見、感想、苦情、抗議、
お悩み、ダメだしでも、ぜーんぜんキャッチするから安心しろって！　待ってるぜ！

こんな情報も24時間どんとこい！
ってヤツだ。

- 譲ってほしいもの
- タレコミ情報
- 選手に対するコメント、試合の感想
- その他、オールOKだ!!

以上、すべてのお便り・
イラストのあて先は

〒162-0805
東京都新宿区矢来町41-1
ザ・フタガミハウスNo.1
kamipro編集部「菓子パン」
係まで。

携帯サイト『kamipro Move』
からの投稿もできます。

団体オフィシャルおよび関係者のツイッターアカウント

※オフィシャルや代表者のアカウントを集めたんだが、載ってないものがあったらぜひ教えてくれよな！

谷川貞治 FEG代表「K1_Tany」
FEG宣伝熊「K1_Kuma」
DREAM「dreamPR」
笹原圭一 DREAM EP「sasaharakeiichi」
SRC「SRC_mobile」
DEEP「deep_official」
佐伯繁 DEEP代表「sigeru_saeki」
ダナ・ホワイト「danawhite」

WWE「WWE」
新日本プロレス「njpw1972」
菅林直樹 新日本プロレス代表「NJPWSUGABAYASHI」
武藤敬司「muto_keiji」
DDT「ddtpro」
高木三四郎「t346fire」
天龍プロジェクト「tenryuproject」
ゼロワン「Zero1_Fos」

山口日昇「noboru_yama」
SMASH「SMASH_2010」
酒井正和 SMASH代表「SMASH_Sakai」
アイスリボン「ice_ribbon」
さくらえみ「sakuraemi」
19時女子プロレス「19pro」
アントニオ猪木「Inoki_Kanji」

衝撃の告白が次々と!!

ファーストキス!? し、したことありません……

中井りんへの50の質問

去年の夏から『kamipro』にほぼレギュラー登場している中井りんだが、
この50の質問を読めば、まだまだ中井りんのすべてを知った気になんかなっていられないと気づくだろう。
とくに恋愛がらみの回答は、もうドキドキものだ。さっそく中井りんの“真の姿”を読み解け!

聞き手／松下ミワ　撮影／吉場正和　写真協力／中井りん

中井りんへの50の質問

1 子どもの頃のあだ名は？
「りんりん」でした。ちなみに、館長のあだ名も何個も知ってますよ。「日体大のミスター基礎体力」とか「ストレッチing宇佐美」とか。ほかにもいろいろあったと思います（笑）。

2 子どもの頃の夢は？
獣医さんです。動物が凄く好きなんです。だから子どもの頃はずっと獣医さんになりたかったですね。

3 好きな動物は？
好きな動物はパグなんです。犬のパグですね。犬は好きなんですけど、嫌いな犬もあるので……。基本的にダックスフンドとかみたいに鼻が出てるのはあまり好きじゃないんです。鼻ペチャのほうがいいですね。ジュゴンとかもカワイイですよね！

4 初恋はいつ？　どんな人？
そういうのは……どこにも話したことないですね。なので、非公開です。エへへへへ。

5 ファーストキスはいつ？
え!?　そんなの……。したことないです……（照）。

6 バレンタインデーの思い出は？
チョコをあげたこと、ないんですよ。チョコを作るとか何かを作るとかけっこうダメなんですね（笑）。情けないですが。え？　もらったことですか？（笑）。買ったものを女同士で交換はありますよね。でも、告白されてもらったことは男女問わずないですね。逆告白みたいなのは、ないです。エへへへへ。

7 これまでの最大の失恋は？
失恋？　……失恋したことはないと思います。柔道や格闘技に没頭していて恋愛にウトイんですね！　すいません、ちょっとわからなくて……。

8 初めて行ったコンサートは？
ライブ自体にホントに行ったことないんですけど。19（ジューク）のライブに一回だけ行ったことあります。中3くらいのときに女友だちと二人でお母さんに連れていってもらったんです。誘われて行ったぐらいのノリでなんですけど、楽しかったですよ。

初恋？　私、そういうのはどこにも話したことないですね。エへへへ

9 好きなミュージシャンは？
好きなのはMetisという女性のアーティストの方で、入場曲にもMetisの曲を使ってるんですよ。最近は年上の人に薦められてマイケル・ジャクソンとか尾崎豊とかも聴くようになったんですけどね。あ、倖田來未も最近聴いてますよ！

10 好きな曲は？
私が入場曲にしている『Mistrong woman』やシャキーラの曲です。シャドーや練習のときにかけるノリのイイ、ダンスミュージックです。そして、いま一番好きなのは倖田來未の『キューティーハニー』です！

11 愛読書は？
愛読書って小説ですか？　雑誌ですか？　雑誌でもいいなら……『kami pro』です!!　ホントに凄く読んでるんですよ。アハハハハ！　なんか私の似顔絵とか送られてきてないかなと。けっこう隅から隅まで見てるんですよ。だってビックリするようなところに写真が出てたりするじゃないですか。「恥ずかしいけど頑張りました」って言葉が違う人のページに入ってたりするし。そういうのを発見すると楽しいです！

12 好きな漫画は？
えーっ、漫画？　あのー……わりと恋愛漫画とかいろいろ読むんですけど、最近はオヤジ系も好きなんですよ。ウフフフ。

13 好きな食べ物は？
最近はフルーツが好きですね。とくに、みかん！　もう、一日何十個も食べるんですよ。今回、東京に来てからも愛媛産のみかんを八百屋で買って食べました。やっぱり愛媛のみかんじゃないとダメなんですよ。信頼のブランドなので。身体にいいですよ。一日2個から健康になります。

14 好きな芸能人は？

芸能界や芸能人にウトイんですね。全然知らないんです。

15 好きなテレビ番組は？

『世界の果てまでイッテQ!』です。私もアマゾンとかガラパゴス諸島とか行ってみたいです。それと『はなまるマーケット』は好きで観てます。あの『はなまるカフェ』のおめざのコーナーがいつも気になってて、誰が何を紹介するのか凄く気になるんですよね。それに、『とくまる』がスイーツの特集だったら、「おめざも甘いものだったら、みんな甘いものばっかり食べてるなあ」とか思ったり（笑）。凄いマニアックな話ですねえ。アハハハハ！

16 かわいいと思う芸能人は？

かわいいと思う人はいっぱいいるんですけど、私より年下の（10代とかの）グラビアアイドルがかわいいですね、オヤジみたいですが（笑）。

17 芸能人の知り合いはいますか？

いないですね。ただ、このあいだドラマ『SP』を書いてる作家の方が私のファンだっていうことでサインを書かせていただいたんですけど。でも、お会いしたことはないんですよ。それに昨日も超大物の方が私のこと好きだっていうんで、シャツにサインしたんですけど、「誰かは言えない」って（笑）。いま、誰にサインを書かせていただいたのか、凄く気になってるんですよねえ。

超大物の方が私のこと好きだっていうんでシャツにサインしたんですけど……

18 似ていると言われたことがある芸能人は誰？

ペコちゃん！ え？ じゃあ……相澤仁美さんとかですかねえ。あとはMEGUMI系かなあ。相澤仁美系って言われたことはありますよ。

19 最近のニュースでいま一番憤っていることは？

世の中に？ そうですねえ、やっぱり海老蔵さんの事件や通り魔やデモとか、そういう暴力と自由に関わるような事件についてはちょっとどうかと思う部分はありますね。

20 一番好きな映画は？

これはいっぱいあるんですけど、最近は古い映画をよく観てるんですよ。だから『バック・トゥ・ザ・フューチャー』も好きだし、『ロッキー』とか『トップガン』とかおもしろい。あとは『ランボー』とか。ランボー、強い!! そういうシリーズものを引っぱり出して観てます。あのー、ジムでは私、若いほうで、30～40代の人が「これがいいよ」「あれがいいよ」って教えてくれるので、けっこう古い作品にハマっちゃうんですけどね（笑）。

21 格闘技以外で好きなスポーツは？

柔道や器械体操はやってたんですけど、観るのは女子フィギュアスケート！ 安藤美姫さんが好きだから、やっぱり観ちゃいますね。

22 格闘家以外で好きなスポーツ選手は？

これもやっぱり安藤美姫さんです！

23 格闘技以外で好きなものは？

ショッピングですね。

24 中井選手のベストバウト3試合は？

本当はベストバウトというような試合は一試合もないんですね。そうですねえ。どうしても3つと言われれば……まあ、アシャ・ザ・バシャ戦（07年9月6日、スマックガール）が一つでしょ。それからWINDY戦（08年12月7日、パンクラス）。あと一つですか？ じゃあ、やっぱり試合内容じゃないんですけど、チャンピオンになったということで、佐藤瑞穂戦（10年11月28日、ヴァルキリー）です。でも、振り返ってみてもやっぱりまだまだ完璧な試合って一つもないですねえ。まだまだ頑張ります！

25 これだけは人に負けないと思うことは？

なんだろう……。うーん、わからないですね。そういうの、発見したいです！

26 自分以外で好きな格闘家は？

じつはこれはいないんです。逆に自分が好かれたいといいますか、中井りんを好きだと思ってもらえるようにやってきてるので、憧れの格闘家はいないという感じなんです。

27 人生のライバルはいますか？

館長かなあ。でも、敵対心があるわけじゃないですし……。すみません、いないで

すかね。つまらない人間でスミマセン。アハハハハ！

28 いつかプロレスもやってみたい？

これはないですねえ。ごめんなさい。チラッと観たことはあるんですけど。

29 引退後にやってみたいことは？

それはけっこうありますよ。引退したらパグを飼いたいです。パグ王国を作りたい！　いまは飼ってないんですよ。だから、パグ家族みたいなのを作ります!!

30 これまでで一番高価な買い物は？

高価な買い物なんて、あんまり自分ではしたことないんですけど、やっぱり車でしょうか。

31 休日の楽しみは？

ああ、めったにお休みはないんですよ。2ヵ月に一回か1ヵ月に一回か。丸一日休みというのはそのくらいですね。そのときはショッピングとか、外食をします。

32 自分の身体で自信がある部分は？

それ、よく聞かれるんですけど、やっぱり腕ですかね。上腕二頭筋もあるし、三頭筋の下の丸みもあるんですよ。脚もけっこう強いんですけど、腕でいいです。

33 得意な料理は？

うーん、ハヤシライスですかねえ。たまにへんなものを入れて失敗するんですけどね。エヘヘヘヘ。けっこう極端な味が好きなんで、なんでも入れてみちゃうんですよ。ニンニクとかショウガとか入れてみたり。焼きそばソースを入れたら、おいしくなかったなあ。アハハハハ！

好きな男性のタイプですか？　やっぱり格闘技やスポーツをやってる人ですね

34 家事全般で得意なものと苦手なものは？

家事はなんでも全部自分でやるので、好きでも嫌いでもないんですけどね。料理もするし、洗濯もちゃんとするし。なので、普通にやります。

35 男性のファッションの好みは？

だいたい運動選手が好きなんで、スポーティな運動するような格好がいいですかね。まあ、強いて言うなら、あんまりB系なのはちょっと好きじゃないですかねえ。でも、そういうのはあまりこだわらないです。

36 女子同士で出かけるところは？

松山市の大街道という商店街があるんですけど、そこに行きます。ほとんどショッピングですね。あとはジョイフルとかでずーっと話してます（笑）。

37 デートはどこに行くことが多いですか？

うーん、普段格闘技しかしてないから、急に聞かれても思いつかないですよお。……あ！　でも、USJとかですかね。一回、友だちと行ったことがあるんですけど、けっこう楽しかったんで。また「デロリアン」に乗りたいです！

38 好きな男性のタイプは？

格闘技やスポーツやってる人ですね。エヘヘヘ。スポーツ選手とかじゃなくていいので、スポーツやってる人がいいですね。

39 嫌いな男性のタイプは？

うーん、強いて言うならしつこい人ですかねえ。ちょっと苦手です。ごめんなさい……。

った、倖田來未さんの『キューティーハニ

中井りんへの50の質問

マイブームは『You Tube』でライブを観るのが好きです。だから……

40 男性ファンのことをどう思ってますか？

どう思う？　それは感謝してますよお。けっこう皆さん、おもしろい方が多いんですよね（笑）。エヘヘヘヘ。

41 人生で最も落ち込んだ時期は？

最も……ですか？　時期とかじゃないんですけど、ケガとか病気で練習できないときは、やっぱり落ち込みますね。もちろん練習はつらいんですけど、格闘技できないときはもっとつらいです……。

42 自由に使えるお金があったら何に使いますか？

（即答で）館長に興行をしてもらいます！　愛媛でできたらいいなあと思いますし、そのときは私がメインイベントで試合をしたいと思います。あと、誰でも無料で使える格闘レジャーランドを作ります。あらゆる格闘技やスポーツの練習場や試合会場、温泉やサウナもあるけどホテルや栄養管理のできるレストラン、ショッピングもできて、病院も設備されてて、ディズニーランドやUSJみたいに格闘技やスポーツをモチーフにしたレジャーランドを作りたいです。

43 どんなときに涙腺が緩みますか？

けっこう感動ものは全部泣いちゃうんですけど。やっぱり動物の死とか、泣いちゃいます（笑）。クワガタの死とかでも泣きますねえ。

44 勝負コスチュームは何着ありますか？

勝負衣装のことですか？　もう、たくさんありますよ。10着ぐらい？　いや、10着以上はありますし、まだまだ増えると思います。

なかい・りん■1986年10月22日、愛媛県出身。06年10月にパンクラスでプロデビュー。その後スマックガール→ヴァルキリーに参戦、WINDY智美や藪下めぐみを下し、11月28日のヴァルキリーでは初代無差別級王者に君臨。『戦極 Soul of Fight』ではHARIに完勝。このページで衝撃を受けた人は、ぜひブログもご覧ください（http://d.hatena.ne.jp/nakarin89/）。156cm、65.0kg。

45 一番信頼してる人は誰ですか？

館長です。エヘヘヘヘ。やっぱり館長は一番信頼していますよ。

46 生まれ変わるなら何になりたい？

パグ！　パグになったら、もう食っちゃ寝、食っちゃ寝します。パグは家の中で飼うものなので、いい生活ができそうですよね（笑）。だから、パグになっていい飼い主さんにめぐり合いたいです！

47 マイブームは？

最近は『You Tube』でライブを観るのが好きです。だから、さっき言った、倖田來未さんの『キューティーハニー』観たり、古いアーティストの方もたくさん観ます。なんか横にオススメの映像が出てくるから、そこも押しちゃって。ずっと観ちゃうんですよ。

48 好きな色は？

原色が好きですかね。オレンジかな。あとはピンクも好きです。

49 旅行に行くとしたらどこに行きたい？

うーんとね……。世界一周！　え？　宇宙ですか？　あんまり宇宙は行きたくないです。真っ暗で寂しそうだし、遠そうだから……。だから世界一周です。夢はでっかくいきたいですね。

50 将来の夢は？

もうけっこう〝将来〟ですけどね（笑）。でもやっぱり館長が言う「30億分の1」です。あとは、誰でも無料で使える格闘技ジムというんですか？　そういうスポーツクラブを作って、格闘技を普及させたいというか。そういうのをやっていきたいですね。

SRC新イベントプロデューサーが「シャキーン！」と所信表明！

目指すは『SRC』と『戦極』の二大ブランド化⁉

そして中井りんに興味津々？

松本天心

SRCの新たな顔役は、ちょい悪オヤジ（死語）ふうのダンディなこの男だ！ 昨年の12・30『戦極 Soul of Fight』から陣頭指揮を執り、SKアブソリュート総帥の顔も持つ松本氏にEP就任の経緯、そして今後のSRCについて直撃！

聞き手／鈴木佑　試合写真／小林靖

――『戦極 Soul of Fight』が終わって2週間近く経ちますが、あらためて大会を振り返っていかがですか？

松本　さすがに疲れましたね（笑）。一日を通して試合を観つつ、さまざまなトラブルに対応していたので。たとえば、ロクサン・モダフェリ選手の体調不良の件も急な対応でしたし。まあ、そのほかにも何かしら走り回っていた感じですけど、とくに大きなトラブルもなかったのでよかったですね。

――大会総括では「今日のイベントは100点」とおっしゃってましたね。向井さんなら「手前味噌ながら85点」と採点しそうですけど（笑）。

松本　ハハハ。まぁ、リング上で行なわれたことに関しては100点でいいと思います。28試合もあったわけですけど、テンポよく進んで最後もビシっと締まりましたし、おかげさまで周りの評判も『Dynamite!!』より楽しめたというものが多かったので。あとは「寒かった」っていう意見も少なくなかったですけど（笑）。

――さて、松本さんは今回、大会直前の28日にイベントプロデューサー（以下、EP）就任が発表されたわけですけど、これまたかなり急な話のように感じたんですが？

松本　ちゃんとした話があったのは12月に入ってからですね。私もSRCにまつわる仕事をお手伝いしていくなかで、向井（徹オーナー代行）さんから「ドン・キホーテ（以下、ドンキ）本体も含めて組織変更をしていくなかで、自分は立場的にSRCの代表の座を退かないといけない」という相談を受けまして。

――それは向井さんのドンキのお仕事との兼ね合いという意味で？

松本　そういうことですね。

――以前、向井さんは「一般社会と格闘技業界のギャップに違和感がある」とおっしゃってたんですけど、格闘技業界に疲れたというわけではなく？（笑）。

松本　ハハハハ。まぁ、そういうことは常に感じてるかもしれませんが、本人は格闘技に対してやる気充分ですからね。次の顔役の人選をしなきゃいけないというなかで、向井さんから「EPとしてやってもらいたい」とお話をいただいたかたちですね。

――なるほど。

松本　でも、最初は「年末の大会が終わったら次まで何カ月か空くから、そこでシフトチェンジしよう」と話をしていたんですよ。それが急にスライドして「もう年末から交代しよう」ってなったんで、そこは私も含めて周りも少しあわてたというか（笑）。でも、私もやりがいのある役目ですし、「わかりました」とお返事をさせていただきました。

――ちなみに向井さんはオーナー代行になるということですが、SRCの代表の枠はどういうかたちに？

松本　それは別のドンキの方が務めて、イベントを管理するかたちになります。

――要は松本さん自身は代表ではなく、あくまでもEPである、と？

松本　そうですね。

――でも、いままではドンキの役員である向井さんが顔役として表に立ってきたわけですが、これからはドンキの方ではない松本さんがその代わりを務めるということなんですよね。

松本　まぁ、新しく代表になられる方もドンキの子会社であるワールドビクトリーロードの人間なんですが、誰もが向井さんのように格闘技に深い造詣があるわけではないでしょうし、やっぱり顔役として格闘技業界の人間を据えなきゃいけなかったっていうことだと思いますよ。

――そこで松本さんが指名された、と。

松本　向井さん自身が競技出身の人なんで、競技者にそういうことをやらせたかったというのはあるんじゃないですかね。「軍隊のことは軍人に」みたいな感じで。

――ここで気になるのがEPの具体的な仕事内容なんですが？

松本　まずはマッチメイクや大会の年間計画の取り決めですね。SRCの大会は実行委員会方式をとっていますが、もちろんそこにはオーナーであるドンキサイドからも向井さんを含めて数人入ってもらい、話し合いで決めるかたちです。そのなかで私は委員長として取りまとめる、と。それ以外の仕事だと、単純にいえば〝モメごと〟の解決ですよね。

――モメごと（笑）。

松本　要は選手の契約の話とかです。あとは広報活動ですね。ほかにも向井さんは格闘競技連盟のお仕事もされていたので、それを私がどこまで引き継ぐかということですね。SRCは格闘競技連盟と連動して合同合宿など行なっていますし、そういうのはSRCの本質的なことでもあるんで継続していきたいですね。

――そもそもEPになる前、松本さんはSRCとどのような関わり方を？

松本　まずはジャッジですね。あとは今回の大会ではジャケットルールのディレクションをやりました。もちろん、SRC

昨年12月28日のSRCフェザー級調印式終了後、向井徹氏から発表された松本天心氏のEP就任。松本氏は「格闘技界のために、何十年も続くイベントを作っていきたい」と、ダンディズムあふれる（?）、頼もしいコメント！

「軍隊のことは軍人に」ということで自分が選ばれたんだと思います

に参戦するSK（アブソリュート）の選手のマネージメントもやっていましたし。

―これからはSKの総帥を兼任しながらEPを務める、と？

松本　そうですね。あと、SK本部がある新宿スポーツ会館は財団法人なんですが、そこの理事もやっています。まあ、SKに関しては私がやらないといけないことはやりますが、基本的には選手育成などは和田（拓也）たちに任せるかたちにシフトしていこうと思います。なので、仕事の比重としてはEPの役割が大きくなっていくでしょうね。

―これからはDREAMの笹原さんのようにスポークスマン的な立場になりますが、戸惑いはあったりしますか？

松本　戸惑いというか、私はポジション的にはジムの会長じゃないですか？　それがこれからはイベンターになるわけで、選手を出す側から思考を切り替えなきゃいけないな、と。たとえば、いままでウチの選手には「興行的なことは考えなくていい」という指導をしてきたので（笑）。

―ハハハハ！　SKの選手の“地味強”な理由がわかった気がします（笑）。要は「勝つことが何より大事だ」と。

松本　やっぱりメジャーのリングになるとまた話は別ですけど、パンクラスや修斗の場合は負けちゃうと終わりなんで、指導者としてはそういう指導せざるをえなかったというか。

―それがイベントを盛り上げることを考える立場になって、葛藤がある、と？

松本　そこは葛藤ですよね、うん。SRCをDREAMと比較したときに、競技性が高いのが一つの特徴ですけど、そこばかり目立ちすぎちゃうのもどうかと思いますし。ただ、SRCで青木真也vs長島☆自演乙☆雄一郎みたいなマッチメイクはしない。まぁ、理想的には「競技性がありつつおもしろい」っていうところなんですけど。

―そこは難しい部分ですよね、競技と興行の両立というか。

松本　非常に難しいですね。やっぱり求めるところは三崎和雄vsジョルジ・サンチアゴや日沖発vsマルロン・サンドロみたいな試合が多く生まれることですよね。誰が観てもいい試合じゃないですか？　それも選手のモチベーションによるところも大きいと思いますけど、そういう試合が行なわれる場所にしたいですね。

―今後のSRCで改善したいところは？

前代未聞の“朝から晩まで格闘技”をテーマに、約10時間にわたって開催された『戦極 Soul of Fight』。ちなみに当日は会場の暖房装置が故障するハプニングがあり、会場側が急きょ電気ストーブを用意して対応したとか。

松本　いまはルール改正に取り組もうと考えています。ドント・ムーブが多いので、それをなくすように。やっぱり試合の流れを止めないレフェリングやロープの配置、そういうのを改善しようと思っていますけどね。あとはサッカーボールキックについても見直しが必要かな、と。

―なるほど。以前、向井さんが「SRCは収支的にはトントンになればいい」とおっしゃってましたけど、そのへんはいかがですか？

松本　それはオーナーの立場で「トントンが目標」というのはありですけど、私は外部から来た身なんで、そういう人間が「トントンが目標」では怒られちゃいますよね（笑）。まあ、このご時世ですからたいへんな部分はありますけど。

―ちなみにドンキの安田隆夫会長とお話はされました？

松本　EP着任のときにお時間を作っていただいて、安田会長の格闘技論みたいなお話をお聞きしました。

―具体的にはどういった？　なんでも安田会長は、観客が数えるほどしかいなかった初期修斗の時代から見続けてるほど、格闘技に愛情がある方とお聞きしますが。

松本　そうです。いまだにずーっといろんな団体をご覧になっていますからね。やっぱり安田会長のなかには「格闘技というのは本当に素晴らしいものなんだ」っていうのが根底にあるんですよ。それをなんとかたくさんの人に観てもらいたい、と。ただ、競技性を追求するとどうしても試合がポイントゲームになっちゃうじゃないですか？　その部分では「選手がどうしてもそうなっちゃうなら、極端な話、日本の格闘技全部をアマチュア競技にしちゃってもいいんじゃないか。その競技化を応援するのもありなんじゃないか」というご意見をお持ちでしたね。

―は～、イベント主催ではなく、ジャンル全体の後方支援というか？

松本　そうそう。その一方で「でも、やっぱりプロには素晴らしい試合もあるし、それを多くの人に観てほしいから、そうもいかないだろうな」というお考えもあって。やはりスケールが大きいというか、深いことをお考えですよね。たとえばアメリカならば、UFCが親会社を金銭面で補助しているという凄い話がある。それは置き換えてみれば、SRCがドンキを補助しているようなもんじゃないですか？　でも、それはいまのUFCだからできることであって、そこを目指しても違うんじゃないかというのもある。そういうことも踏まえて安田会長は、「日本独自の格闘技文化を作ってくれよ」とおっしゃっていましたね。

―なるほど。あの、先ほど選手のモメごとの整理というお話がありましたけど、北岡悟さんの脱退騒動に関して松本さんはどういうふうに受け止めてますか？

松本　そのときは直接関わってなかったんですけど、イベント側と選手側の行き違いですよね。もちろんコミュニケーション不足というのもあると思いますけど、単

『東京中日スポーツ』で“2011年の乳ヒロイン”として取り上げられた我らが中井りん。ぜひともまたSRCのリングでそのエロッヨぶりを発揮していただきたいものだ。ボヨヨン、ボヨヨン。

天心

中井りんの取り上げられ方は興行を考えるうえで新鮮でしたね

純に向井さんは何も言わずに突然出ていった北岡選手の不義理に怒っているんじゃないですかね。私自身も「何かしらあってもよかったんじゃないの?」とは思いますし。ただ、実際いまの北岡選手の試合ってもっと観たいじゃないですか? もちろん本人もやりたいだろうし……だからもったいないとは思いますね。

――その件を踏まえて、EPとしては個々の選手と活発にコミュニケーションをとろうと思います?

松本 そうですね、それが仕事だと思いますし。合宿や合同練習の機会を増やしたいですね。

――やっぱり松本さんご自身がやる側ですし、選手の気持ちが汲めるという部分はあるんですかね?

松本 それはあるんじゃないですかね。ただ、逆にイベンターとしては選手の気持ちがわかりすぎるのはマイナスの部分もあるんですよ。選手の気持ちになっちゃうと、プロモーターとして言えないこともありますし。まぁ、そのへんは委員会で役割分担して対処していきたいですね。

――いままでSKを取りまとめてる立場でも、そういったゴタゴタ関係を整理してきた経験はあるわけですよね。

松本 そうですね。日本人はそんなにトラブルはないんですけど、外国人とか多いですからね。とくにロシア関係とか。

――言える範囲でありますか?

松本 言える範囲では……ないですね(笑)。

――ハハハハ。

松本 あと、ゴタゴタでいうと、イベントと選手のあいだにメンドくさい人物が入ってきたりするじゃないですか?(笑)。

――メンドくさい人物(笑)。

松本 プロモーターと選手が話をすれば済むことなのに、そうじゃない第三者が入ってくるというか。まぁ、マネージャーとしての話をしてくれればいいんですけど、「あなたはこの選手のなんなんですか?」っていう、よくわかんない人が出てきたりするんですよ。それがトラブルの元になって選手が試合をしたくても話がまとまらなかったり。それはイベントにとっても選手にとっても残念な話ですよね。そういうことがないようにしたいですね。

まつもと・てんしん■1968年5月29日、熊本県出身。長谷川秀彦や和田拓也などを擁するサンボ集団、SKアブソリュート総帥。昨年12月にSRCのEPに就任。自身もZSTやパンクラスで試合経験があり、リングスに来日したヴォルク・ハンらのスパーリングパートナーも務めていた。ちなみに得意技はコピィロフ式ヒザ十字固め!

――気苦労が増えそうな役職ですね~。

松本 ホント、そうですよ(笑)。

――さて、年末の大会ではDREAMとの交流戦がありましたけど、今年も継続するかたちでお考えですか?

松本 はい、もっと選手の行き来はしたほうがいいと考えています。我々の一方的な意見を言うと、たとえば長南亮選手なんかウェルター級でいい存在感を持った選手だと思うので、継続して参戦してもらえればおもしろいでしょうし、金原正徳選手も敗れはしましたがおおいに会場を盛り上げてくれたので、SRCの代表として逆に向こうのリングをかき回してもらうとかね。年末だけじゃなくて、そういうやりとりをしてったほうがファンにも喜んでもらえると思いますし。

――望む声があれば対応していく、と。

松本 もちろん。まぁ、向こうのお考えもありますけど、常にやりとりはさせてもらっていますし。やっぱりいまのマッチメイクはウチだけじゃなく、もうどこも出し惜しみはできないんですよ。そのぶん選手は厳しいですけど、そういうなかで三崎vsサンチアゴや日沖vsサンドロ戦みたいな試合が増えて、「あれがSRCの色だな」って思ってもらえるようにしたいんですよね。「5ラウンドやってもおもしろい試合がSRCにはあるんだ」っていうようなマッチメイクをしていきたいです。

――今年の興行予定というのは?

松本 次は3月か4月に有明コロシアム規模の大きい会場でやる予定です。

――正直、両国とか大きい会場でやっても、なかなか観客動員に結びついてないのが現状かなと思うんですよ。三崎vsサンチアゴとか、世界的に評価される試合があるのにもったいないなって。

松本 会場でいうと、今年はもっと中規模の大会も織り交ぜていく予定です。大きな大会につなげるようなかたちのものを増やしたいと思っていますね。

――それは全部SRCになるんですか? それともPRIDEでいうナンバーシリーズと武士道に分けるような?

松本 まだそこまで話してないんですけど、たとえば会場規模に合わせて『SRC』と『戦極』の両ブランドに分けるのも一つの案だと思いますし。やっぱり選手数に対して興行数が少ないっていうのはあるんですよ。せっかく年末に盛り上がったものをプツっと途切れさせちゃもったいないですしね。あとは年末の女子格やキックの試合も評判がよかったので、有明クラスの会場なら特別枠としてマッチメイクしていきたいと思っています。

――中井りんさんなんか次の日のスポーツ新聞で一面を飾ってましたね。

松本 ねえ、びっくりしましたよ! やっぱり訴求力があるんだなぁ、と。女子格闘技、中井りん……、取り上げやすいんですかねえ? 興行を考えるうえでちょっと新鮮でしたね。

――それだけインパクトがあった、と(笑)。

松本 まぁなんにしろ、今年は年末の大会を踏まえて、新しい流れをかたちにしていきたいですね。あとはライト級も真騎士を中心にメンツが揃ってきているので、それを核にして今年の大会をスタートしたいと考えています。

――今年のSRCはバラエティに富んだかたちになりそうですね。どうですか、松本さんも09年にパンクラスで試合をされてますし、SRCで〝闘うEP〟としてリングに上がっては?(笑)。

松本 いやいや、それはない、それはないです(笑)。とてもそんなヒマはないので、私の試合なんかよりもイベント自体を期待してください!

【11年1月11日/都内・ワールドビクトリーロード本社にて収録】

ckDown vs. Raw 2011』の
わいやがれ!

毎年新作がリリースされる
『WWE SmackDown vs. Raw』シリーズの
最新作が2月3日に発売!
世界最大のプロレス団体「WWE」の世界観を
見事にゲームに落とし込んだことで
発売前から話題を呼ぶ今作の見どころを
ユークスの広報担当の方に聞いてきました!

―WWEのプロレスゲームといえば長年続く人気シリーズですが、今回もかなり気合いが入ってるとお聞きしました!

広報　はい!　もともとユークスでは『エキサイティングプロレス』をはじめとするWWEのゲームを長らく開発していますし、今回もファンの方に満足いただけるような作品に仕上がったと思います。

―ちなみにユークスさん開発のWWEのゲームは、いままでに何作出てるんですか?

広報　今回で12作目になりますね。シリーズの累計出荷数も全世界で5000万本を突破しまして。

―5000万本!　世界的に「プロレスゲームといえばユークス」なんですね〜。

広報　ありがとうございます(笑)。とくに弊社はWWEに関しては昔からつながりがありまして、かつて『テレビ東京』で放映していた番組や、02年の横浜アリーナ公演にも深く関わってますし。そういう意味では一番造詣と愛情があると自負してます。

―なんでも、今回は豪華特典もついてるとか?

広報　はい!　お買い求めいただくと特典として、WWEの4大PPVの一つである『サバイバー・シリーズ2010』オフィシャルTシャツがついてくるんです。

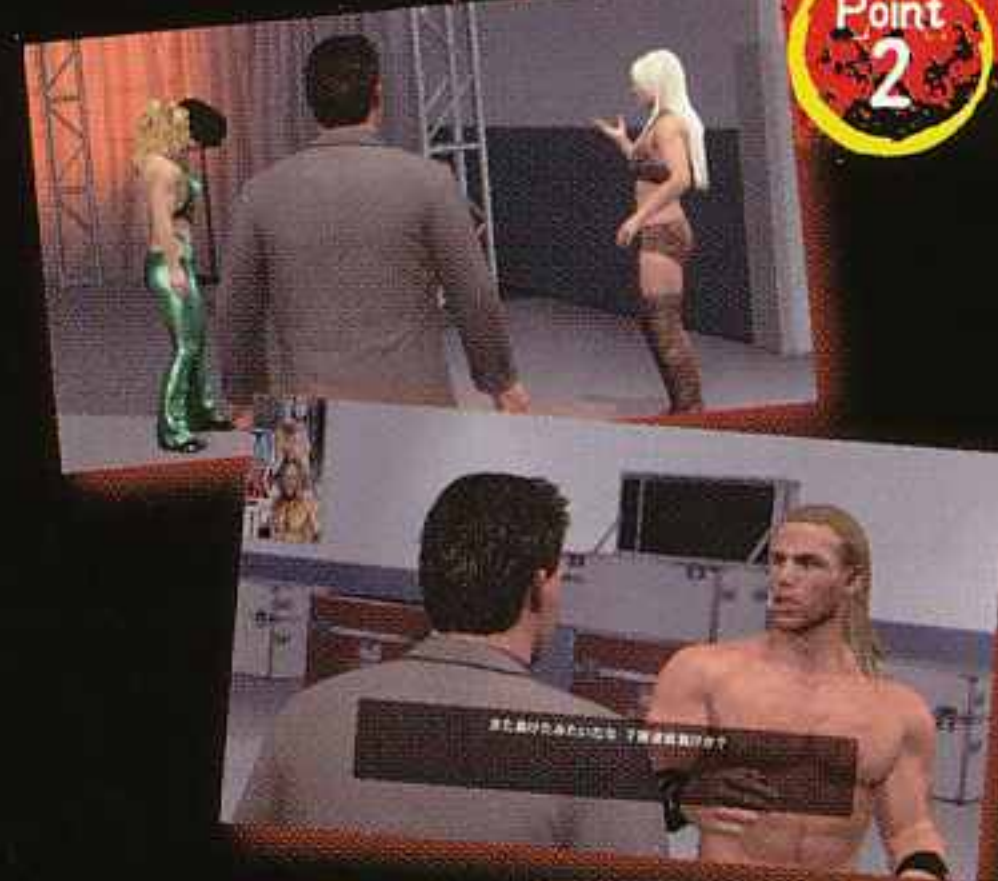
―お〜、凄い!　なんか通販番組みたいですね、高枝切りハサミを買うと工具セットがついてくる的な(笑)。

広報　ハハハハ。これはアメリカの会場でしか売ってない貴重なグッズなんです。購入してくださる方への

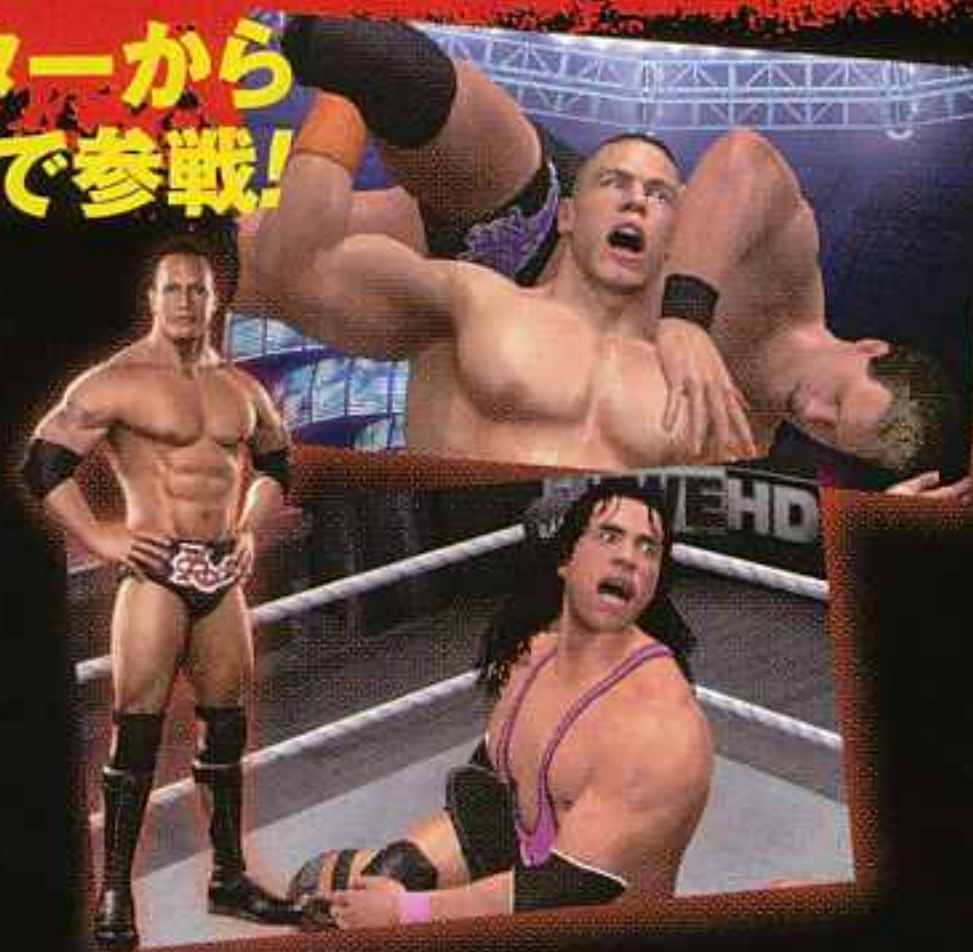
これがWWEワールドを無限に広げる4大ポイントだ!!

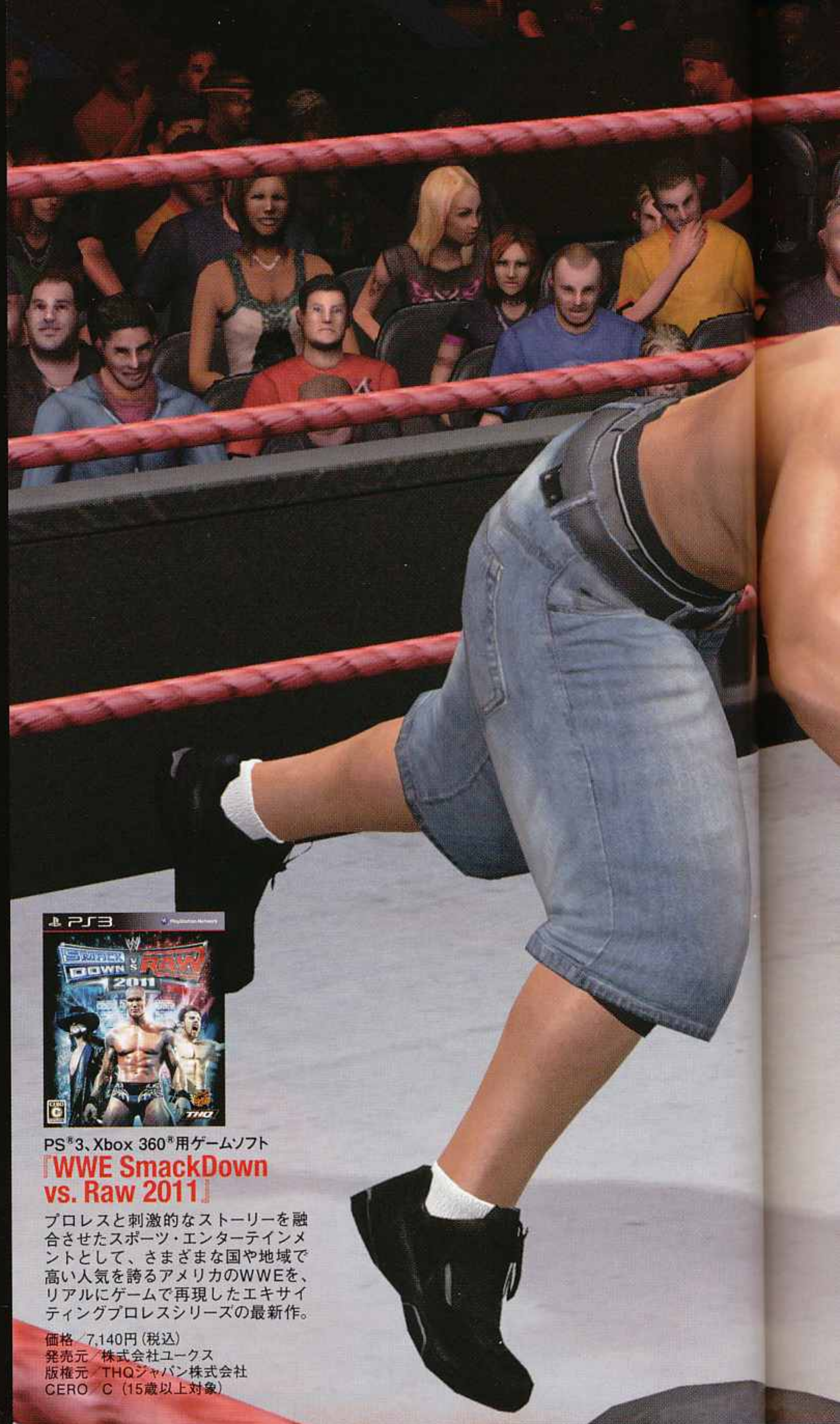
Point 1 プレイ内容で世界が変わる“WWEユニバース”搭載!

今回の目玉ともいえる新機能がこの“WWEユニバース”! プレイヤーの試合の勝敗、試合相手、闘い方などによって、スーパースター同士の友好関係や、敵対関係が刻々と変化。プレイ中にほかのスーパースターが突然乱入してきたり、いきなりタイトルマッチが実現するなど、プレイヤーをドッキリさせるシステムだ。ケインで勝利したのもつかの間、気づいたらアンダーテイカーがキミの背後に……!?

Point 2 “フリーローミング”で試合以外の世界を体感!

これまた新機能のフリーローミングシステム。WWEといえばリング外の出来事も大きな魅力だが、プレイヤーはスーパースターとなって、まるでバックステージ内を自由に歩き回っているかような感覚で、試合以外のWWEの世界も体感できちゃうのだ。たとえばディーバの話を盗み聞きしたり、スーパースターに突っかけて試合を勃発させたりと、自分で歩き回ることでストーリーを展開させることが可能に!

Point 3 現役スーパースターからあのレジェンドまで参戦!

観るものを引きつけてやまないキャラの宝庫であるWWE。なんと今作ではシリーズ最多の70名以上が参戦! 団体を代表するジョン・シナ、ランディ・オートン、HHH、クリス・ジェリコといったスーパースターはもちろん、シェイマスやジャック・スワガーといった新勢力も多数ラインナップ。さらにはザ・ロックやブレット・ハート、そしてジェイク・ロバーツにテリー・ファンクと、オールドファンにはたまらないレジェンドの姿も!

Point 4 新物理演算システムによりリアリティがさらにアップ!

新たな物理演算システムでゲームプレイがさらにリアルに進化! 凶器などアイテム類の自然な表現によって、WWEらしさをとことん体感できるのだ。とくにこのシステムを用いて生まれ変わった試合形式が、テーブル(Table)、ラダー(Ladder)、イス(Chair)を使用したTLCマッチ。突然のテーブル破壊による決着や、ロープに立てかけたラダーを駆け上がるなど予測不能のシチュエーションが続出。常に気の抜けない展開を堪能せよ!

PS®3、Xbox 360®用ゲームソフト
『WWE SmackDown vs. Raw 2011』

プロレスと刺激的なストーリーを融合させたスポーツ・エンターテインメントとして、さまざまな国や地域で高い人気を誇るアメリカのWWEを、リアルにゲームで再現したエキサイティングプロレスシリーズの最新作。

価格／7,140円(税込)
発売元／株式会社ユークス
版権元／THQジャパン株式会社
CERO／C(15歳以上対象)

『WWE Smack
妙技を味わ

感謝の気持ちと思っていただければ。

――もちろん、WWE日本公演の会場付近で露店販売しているようなものとは違う、と?

広報 完全に公式商品です!(キッパリ)。ほら、タグもついてますから。

――失礼しました(笑)。これはファンにとってはかなりおトクですね!

広報 はい! おかげさまで非常に話題になってまして、かなりの予約をいただいてます。ただ、Tシャツも数にかぎりがあるので、お早めにお買い求めいただければ、と。また、オフィシャルサイトでは無料体験版もご用意しているので、「ゲームの雰囲気が知りたいな」という方は、PS3かXbox360をお持ちであればダウンロードしていただければと思います。

――いたれりつくせりなところからも、今作への意気込みがうかがえますね。ぜひ読者の皆さんも楽しんでください!

噂の〝ホームレス格闘家〟はやっぱりトンデモファイターだった!?

デイブ・ハーマン

erman

――まずはハーマンさん、昨日の中尾〝KISS〟芳広戦での勝利おめでとうございます。もう今年も残すところ1時間を切りましたが、格闘技漬けですごす日本の年末はいかがですか？

ハーマン　今日の『Dynamite!!』もよかったよ。知ってる有名選手がいっぱい出ていたし、そういう選手を生で観ることができたから。自分がヘビー級だからやっぱりヘビー級の試合を観るのが好きなんだけど、まぁアリスターはちょっと大きすぎるかな（苦笑）。

――なるほど（笑）。では、さっそく中尾戦を振り返ってほしいのですが、いかがでしたか？

ハーマン　基本的には勝ったからよかったんだけど、ハッピーなこととアンハッピーなことが一つずつある。アンハッピーなのは一本、KOで決められなくて判定に持ち込まれてしまったこと。ハッピーなことは3ラウンドまで試合をしたことがなかったから、それができて自信がついたしプラスになったと思う。

――ハーマン選手がテイクダウンを許さず完全に持ち味を殺したかたちになりましたが、中尾選手の印象は？

ハーマン　自分よりかなり背が低いのと、やっぱりレスリングの選手だから、それに注意して身長差を活かして試合をしようと思っていたんだ。だから戦略として考えていたのは、グラウンドへ持ち込まれず打撃、立ち技でアプローチするということ。作戦はうまく実行できたんじゃないかな。

――相手が中尾選手ということで、やはりキスを警戒していたんじゃないですか？（笑）。

ハーマン　もうアメリカでも試合前に何度も「キスされたらどうする？」って聞かれたよ（笑）。

――中尾選手のキス攻撃はアメリカでも浸透していましたか

ハーマン　だから聞かれたときは「もしキスしてきたら舌を突っ込んでやる！」って答えていたよ（笑）。

――そういうふうにならなくてよかったです（苦笑）。では、試合中に中尾選手から愛の言葉をささやかれたりは？

ハーマン　いや、大丈夫だったよ。でも、本当に舌を使ってやろうと思っていたんだけどね。

――もうけっこうです（笑）。中尾選手の入場パフォーマンスに関してはどう思いました？

ハーマン　大会前のリングチェックのとき、ほかのみんなはまじめにリングを確認していたんだけど、ナカオだけはダンサーを連れてきて入場のリハーサルをやっていたんだよ。だからその本番が確認できておもしろかったね。

――あれは歌舞伎アクターの市川海老蔵が暴行された事件のパロディだったのですが、当然意味はわからなかったですよね？

ハーマン　あぁ、そうだったのか。一番初めに出てきた歌舞伎の格好をしているのがナカオだと思ったんだけど、あとからナカオ本人が出てきたから意表を突かれたよ（笑）。

――さて、今回はハーマン選手が現役ホームレスの〝出張格闘家〟であることも一部で話題になったんですが、これについて詳しく教えてもらえますか？

ハーマン　いや、俺はちゃんと家を持っているよ！　まぁ、家っていっても車のことなんだけどね（笑）。その車でいろんなジ

「ボクはストリップクラブのオーナーになりたいんだ」

一部で話題を呼んだホームレス格闘家、デイブ・ハーマンが本誌初登場！
定住の地を持たないさすらいの格闘家に話を聞いてみると、おかしなエピソードが出るわ出るわ！
ズバリ言ってこのへんなガイジン、要チェックですよ！

聞き手／長谷川亮　試合写真／小林靖　構成／鈴木佑

[10.12.30 戦極 Soul of Fight]
東京・有明コロシアム
○デイブ・ハーマン vs 中尾“KISS”芳広×
（3R終了 判定3-0）

ただでさえ寒い会場を、海老蔵パフォーマンスでさらに寒々しくさせた中尾に対して、ハーマンは全ラウンドにわたって完封！ 中尾にキスはおろか、テイクダウンさせる隙も与えず勝利を収めた。

『戦極 Soul of Fight』で中尾KISSに完勝！

Dave H

ムへ出張して練習パートナーを務めたり、だいたい1週間ごとに移動していく、っていう感じだね。

シュウ・ヒラタ（マネージャー） 彼は前回来日したときはナッシュビルMMAの所属だったんですけど、ちょっとある事情でそこを追い出されてしまったんですね。で、彼はナッシュビルMMAのオーナーの家に居候していたんですけど、そこもいられなくなったので、それから出張格闘家として活動するようになったんです。

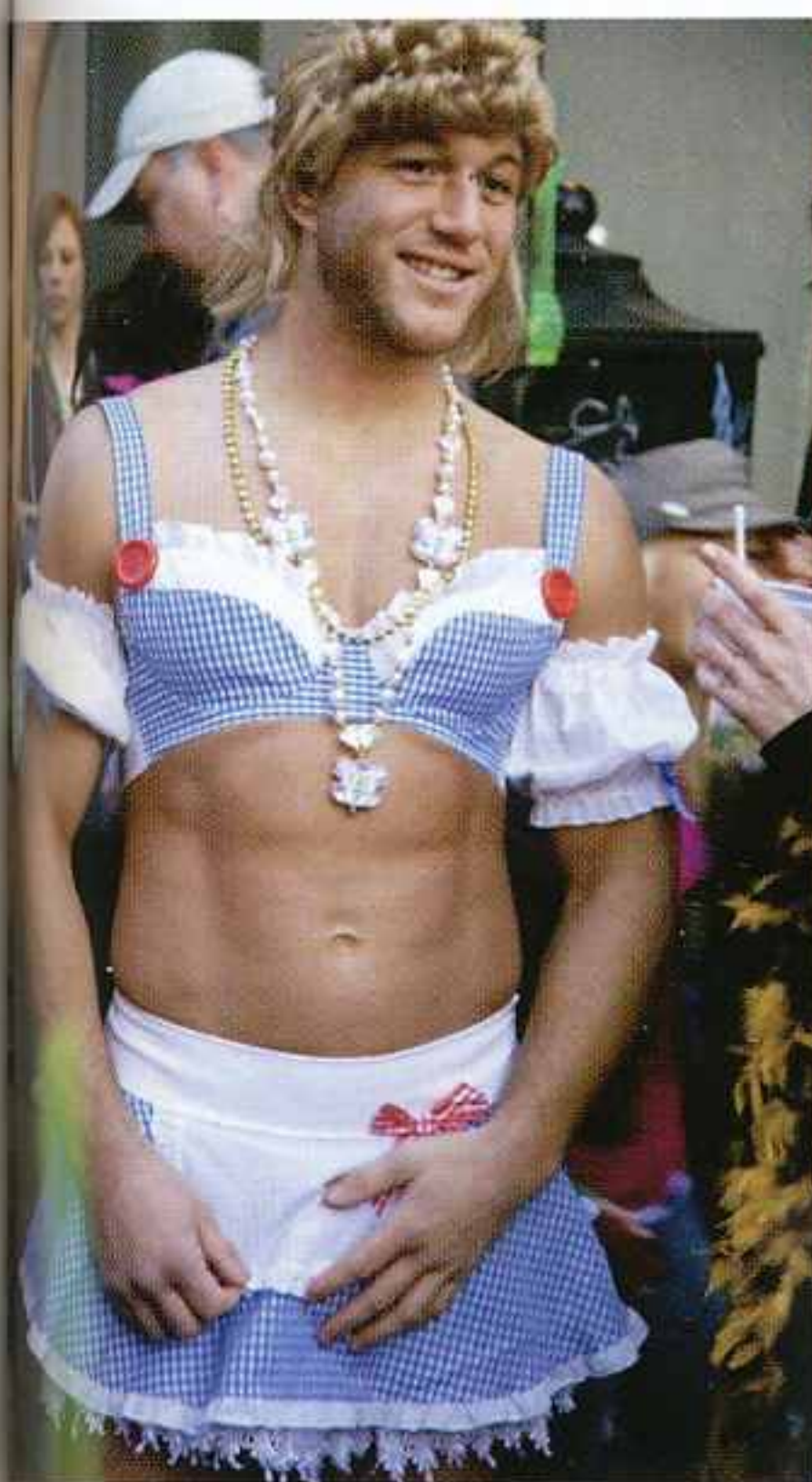
——では、いつからこういった出張格闘家生活に？

ハーマン ナカオ戦の前の試合が9月だったんだけど、その2週間前に追い出されて、それからずっとホームレスさ（苦笑）。最初はダン・ヘンダーソンのチーム・クエストへ行って、そのあとにデューク・ルーファスっていうリック・ルーファス（K-1にも参戦していた選手）の弟がやってるジムがあるんだけど、そこで練習して。それから母校のカレッジでアマレスの練習をして、またデューク・ルーファスのところへ2〜3日行ってから、クリスマスに実家へ帰ってスノーボードで最終調整して日本へ来たんだ。ジャンプしたり、ボードが壊れるぐらい激しくやったよ（笑）。

——そんな危ない調整法はないですよ（笑）。でも、そもそも家がない状態で格闘技をやっていこうと思ったのはどうしてなんですか？

ハーマン いや、俺にとっては家があろうがなかろうが、MMAが仕事だからそれは関係ないんだ。

——でも、実際にはヘビー級のファイターですし、身体を維持するための食事だったりたいへんじゃないですか？

ハーマン そこはフードスタンプさ（笑）。

これがハーマンの住み家であるワンボックスカー。この中で生活しながら、ミネソタ、ウィスコンシンと練習場所を転々としているのだ。ランペイジと違い、ホンモノのリアル・ホームレス格闘家がここにいた！ ちなみに左端の写真はハロウィンのときのもの。じつは中尾KISSとはソッチ系対決でもあった？

Dave Herman

——フードスタンプ、ですか？

シュウ アメリカでは一定の額より年収が低い人に政府から支給されるフードスタンプというのがあって、1ヵ月に200ドルまでスーパーマーケットなんかで食料を買うことができるんです。あと彼は質素な暮らしで、いままでのファイトマネーも全部貯めてあるらしいんですよね。だから切り詰めて生活をして、あとは貯金を切り崩して生活していたらしいです。

——そういう苦労があると、どこかに所属しようという気にはならないですか？

ハーマン 確かにそうだね（苦笑）。だから1月の終わりぐらいまでにはいい所属先を見つけて、そこで集中したいという気持ちはあるよ。いまのところはチーム・クエストか、デューク・ルーファスのところにしようと思ってる。デュークのところにはUFCにも上がっているストライカーのパット・バリーがいて、いい練習相手になったからね。

——今年はまず脱ホームレスを目指す、と（笑）。でも、ハーマンさんは出張格闘家の前も、パートナーを持たずに一人で練習する〝エア格闘家〟として紹介されてましたよね。

ハーマン あぁ、あの時代は楽しかったな〜（しみじみと）。自分の好きな練習だけしていたし、正直、いまもあの頃に戻りたい気持ちはあるよ。

——でも、スパーリングパートナーがいなかったり、ウェートトレーニングのような一人でやる練習だけで強くなることはできるんですか？

ハーマン そりゃあ、自分でもエア格闘家時代に自分の技術が向上してるとは思わなかったよ（苦笑）。でも、あのときは無敗で負けたこともなかったからあまり考えなかったね。まぁ、一人でどうやって強くなるかは僕にもわからないけど、それで強くなれないとは誰も言っていないし、まるっきり不可能ではないってことだよ。

——なんでも「アクション映画を観てイメージトレーニングをしていた」って聞いたんですが、これは本当ですか？

ハーマン うん、ホントさ。子どもの頃にジャン＝クロード・ヴァン・ダムの映画がとにかく好きで、8歳の頃は「将来はヴァン・ダムになりたい！」って思ってたぐらいに彼のことが好きだったんだ。だからそのときのことを思い出して、イメージトレーニングをやってたね。

——やはり気持ちの面が大きそうで、技術や戦略面に活かしたわけではなさそうですね（笑）。自分が〝エア格闘家〟と呼ばれることはどう思います？

ハーマン 最初はちょっとへんな感じがしたけど、だんだんなじんできていまは気に入っているよ（笑）。

——ハーマンさんのようなエア格闘家の成功は、世界中の観る側の格闘技ファンに、「俺も強くなれる」と希望を与えるんじゃないかと思います（笑）。

ハーマン 確かに、彼らのほうが僕よりMMAの技術についてわかってるかもしれないからね（笑）。まぁ、だからといって強くなれるかはわからないけどね。

——やはりハーマンさんがエア練習でも強くなれたのは、レスリングでオールアメリカンに選ばれるまでの下地があったからでしょうか？

ハーマン 確かにそうだと思う。もしMMAをやるにあたって、事前にやるスポーツを何か一つ選ぶとしたら、やっぱりアマレスになると思うしね。だからアマレスをやっていたことは大きなプラスになっ

普通の仕事をする気はまったくないよ。バイトも1週間以上続いたことないし

たと思う。

—あと、今回の中尾戦に向けては会見での振る舞いやコメントの勉強のため、ランディ・サベージの映像を観て勉強したっていう話も聞いたんですけど？

ハーマン　ん？　それはどこで聞いたの？　サベージってマッチョマンの？

シュウ　それは何かおもしろいことを言わせようとして、彼らの陣営が作った話みたいですね（笑）。

—では、とくにプロレスがお好きなわけではない？

ハーマン　まぁ、小さい頃はよく観てたけど、かれこれ3年もテレビのない生活をしているからね（笑）。だから世間で大洪水とか大事件が起こっても、1週間後ぐらいにみんなから聞かされて知るんだよ。「あぁ、そういうことがあったのか」って。だから、なんだか世界から取り残された気がするんだけど。

—ハハハハ。あとは橋から川に飛び込んだり、死者も出るような立ち入り禁止の崖からダムに飛び込んだり、そういう危険なことも好んでやってるっていう噂も聞いたんですけど？

ハーマン　あぁ、それはホントだね（笑）。そういうエクストリーム・スポーツみたいのが子どもの頃から大好きなんだ。それでずっとやり続けてるんだよ。

—たとえばどんなことですか？

ハーマン　いやもう、いろんなことをやったもんだよ。たとえば16歳のときにヒザをケガしてしばらく松葉杖で生活していたんだけど、それが終わってやっと歩けるようになったときに、ある女の子からなぜか「あなたのことを車ではねていいかしら？」って言われたんだ。

—なんでまたそんなことを（笑）。

ハーマン　だから僕は普通に「やってみろ」って言って、車に当たった衝撃でボンネットやフロントガラスを全部壊しながら飛び越えたりね（笑）。そういうことばかりやっていたよ。

—昔、極真空手の映画で同じようなシーンがありましたけど、ハーマンさんの場合は正確には飛び越えてはないですね（笑）。

ハーマン　ほかにも高校で授業を受けていて、その教室は2階だったんだけど、クラスメイトの女の子が「窓から飛び降りてみて。そうしたら10ドルあげる」って言うんだよ。それでやったんだけど、そのときは凄く先生に怒られたね（笑）。

DAVE HERMAN■1984年10月3日、米国インディアナ州出身。レスリングでオールアメリカンに選ばれるなど活躍したのち、06年に総合デビュー。09年1月4日の『戦極の乱』で日本マット初登場。その後はベラトールFCとSRCを中心に活躍中。チーム・ピーウィーズ・プレイハウス所属。196cm、109kg。

—それもやっぱり大仁田厚のよく似た話を思い出します（笑）。

ハーマン　それでその次の週、ちょうどそのときは2月だったんだけど、セントジョーンズリバーっていう川があって、雪解けしたばかりのその川を泳いで渡ったこともあったな〜。冷たかったけど。

—あたりまえですよ！　いったい何がハーマンさんをそういうことに駆り立てるんですか？

ハーマン　そのときは「俺が本当にやったらどうする？」って聞いたら、クラスメイトみんながお金を集めてくれて150ドルになったんだよ。

—要は動機はお金だった、と（笑）。

ハーマン　そのときは高校のビデオクルーも撮影に来たんだけど、やっぱりそのときも学校にめちゃくちゃ怒られたね（笑）。

—でも、それだけいろんなことをやっていたら、格闘技をやるにあたって恐怖を感じることもないんじゃないですか？

ハーマン　それがデビュー戦のときはめちゃくちゃ酔っぱらっていたから、ナーバスも何も全然覚えてないんだよ（笑）。

—酒を飲んだのは度胸づけのために？

ハーマン　ちょうどデビュー戦のときっていうのがハロウィンの真っただ中で、フットボールの試合なんかもあったから1週間ずっとみんなでガンガン飲み続けていたんだ。それで気がついたら試合のある土曜日になっていて、このまま飲まないと逆に二日酔いになって試合に響くと思ったから、結局飲み続けたんだ。

—まるで昭和のプロレスラーですね（笑）。ハーマンさんはMMA一本で生計を立てていくつもりなんですか？

ハーマン　そうだね、楽しいっていうのはもちろんあるけど、普通の定職に就くより全然いいからね。

—何か定職に就く気はないんですか？

ハーマン　それは絶対嫌だね！（キッパリ）。一度、トレーナーの親父さんがやってる会社へ働きにいったことがあるんだけど、いかにサラリーマンがおもしろくないかっていうことを再認識しにいったような感じだったからね（苦笑）。それから2年に一回ぐらいはちょっと仕事をしてみようかと思ってバイトとかをしてみるんだけど、1週間以上続いたことがないよ。

—そんなハーマンさんはご自身の将来像をどんなふうに描いているんですか？

ハーマン　MMAをやり続けて、31歳ぐらいで引退できるぐらいのお金を貯めたいね。それで引退後は何かに投資して、ビジネスをやりたいと思ってるんだ。ちなみにいまはストリップクラブをやりたいって考えてるよ。チーム名のピーウィーズ・プレイハウスに引っかけて、ピーウィーズ・ストリップ・プレイハウスとかね（笑）。

—なるほど（笑）。今日は服装も独特ですけど、ひょっとしてそれはコメディアンのピーウィー・ハーマンを意識してるんですか？

ハーマン　そうさ、この格好でバーに行くとけっこう女の子もつかまるんだよ（ニッコリ）。まぁ、ピーウィー本人はそんなにおもしろくなかったけどね（笑）。

—ハハハハ、今日の話を聞いてるとハーマン選手のほうがおもしろいと思います。これからも武勇伝を期待してます！

【10年12月31日／埼玉県・某所にて収録】

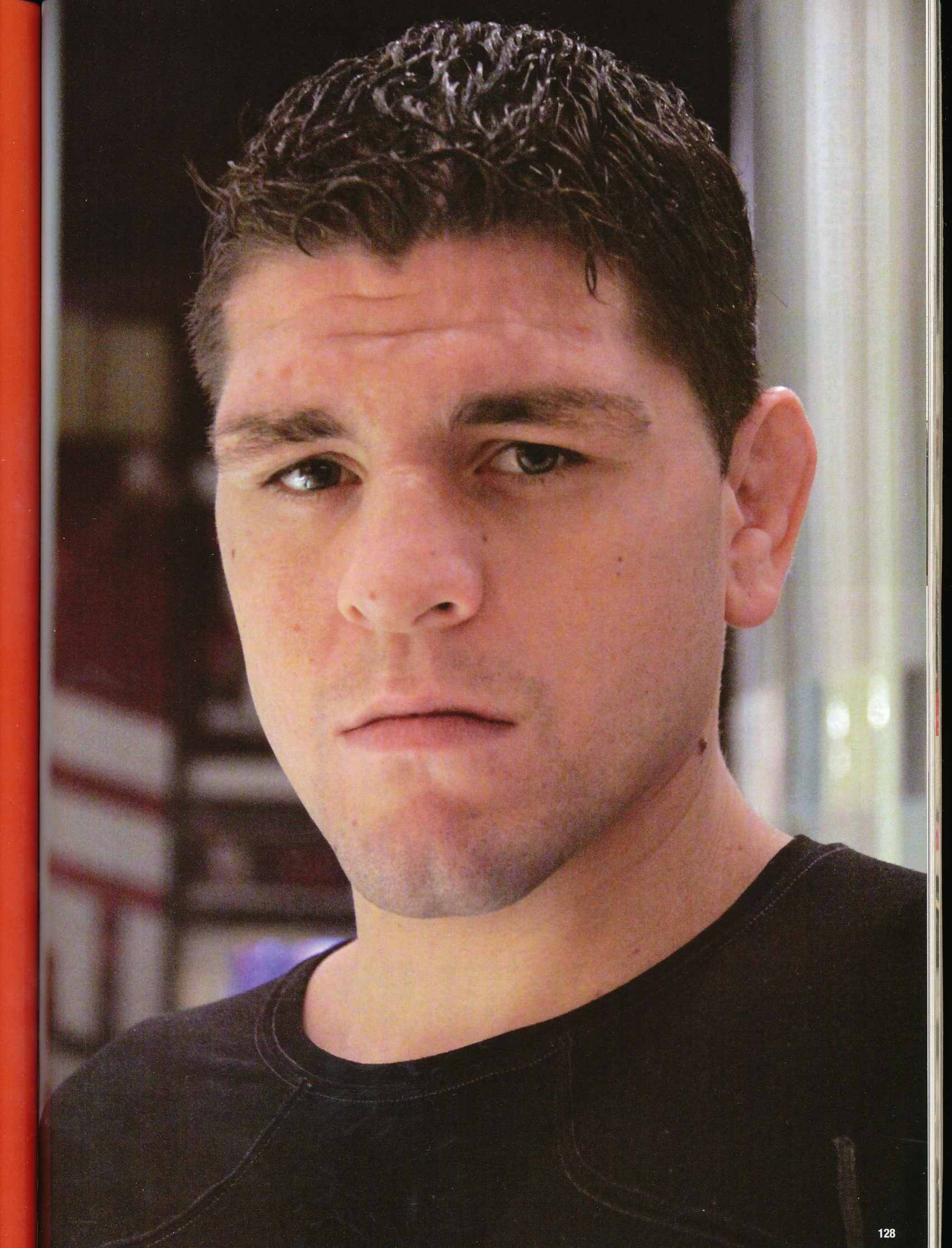
1.29ストライクフォースでサイボーグと激突!!
“暴力柔術”が青木vs自演乙、川尻vsトムソンを語る!

Nick Diaz

ニック・ディアス

「青木の復帰戦の相手を俺が務めてやる」

昨年、路地裏の不良キャラとそれに相反する知的な発言でブレイクした“暴力柔術”ニック・ディアス。1.29ストライクフォース・サンノゼ大会では、エヴァンゲリスタ・サイボーグを相手に世界ウェルター級タイトルマッチを控えているが、その前に1月1日、弟ネイト・ディアスのセコンドとしてUFCラスベガス大会に訪れたニックをキャッチ。『Dynamite!!』での青木vs自演乙、川尻vsトムソンの感想についても聞いてみた。

聞き手&撮影/石井史彦　試合写真/Esther Lin　構成/堀江ガンツ

——2011年の一発目のインタビューということで、今年もよろしくお願いします!

ニック　ニューイヤー最初のインタビューが俺でいいのかい?

——もちろんですよ。『kamipro』では2010年の「ベストインタビュー賞」にニック・ディアスが選ばれたくらいですから(笑)。

ニック　俺がベストインタビュー?　日本のファンがそんなに俺のインタビューを楽しんでくれてるのかい?

——そうなんですよ。不良のイメージに相反する知的な発言が好評なんです。

ニック　信じられないけど、ホントだったら光栄だね。

——ですから今回もいろいろ聞いていこうと思いますが、まず2010年を振り返って、あなたにとってどんな年でしたか?

ニック　ストライクフォース世界ウェルター級のチャンピオンになり、年間で3戦全勝と試合に関してはいい年だったけど、プライベートでは人生で最もつらい年になってしまったよ……。

——そうなんですか!?　いったい何が……?

ニック　俺もいい歳になったから、両親の家を出て自分で暮らし始めたんだけど、その途端に5年間付き合っていた彼女と別れてしまって、タフな時間をすごしていたんだ。

——そんなことがありましたか。

ニック　格闘技ばかりの俺に愛想をつかして離れていってしまった。でも、そういったジレンマを抱えながらもマーシャルアーツへの情熱を燃やし続けて、連勝を「8」に伸ばせたことには満足しているよ。

——では、いまは以前にも増して格闘技漬けの毎日ですか。

ニック　そうだね。トレーニング、トレーニング、トレーニングさ。もちろん彼女はほしいけどね(笑)。

——1月29日にも試合が組まれていますが、当初挙がっていたジェイソン・“メイヘム”・ミラー戦が舌戦のみで実現しなかったことについてどう思っていますか?

ニック　その試合は、あの馬鹿野郎が「やらせろ!」って騒いで動き始めたものなのに、結局受けなかったんだよ。あいつは俺のチームメイトであるジェイク・シールズに完敗しているし、俺としてはやる価値のない相手だったけど、「そんなに試合がしたいなら170ポンド(約77キロ=ウェルター級)でタイトルを賭けて受けてやる」って言ったんだ。でも、ヤツは「減量したくない」と言って受けなかった。じゃあ、「キャッチウェートでやるか?」と言っても、それすら受けずに「185ポンド(約84キロ=ミドル級)じゃなきゃやらない」なんて言ってるんだ。信じられるかい?

——ウェルター級チャンピオンに対して「ミドル級で俺と闘え」というのは、おかしいですよね。

ニック　だろ?　なんでなんの価値もない試合に俺が一階級上げて闘わなきゃならないんだよ。もしあいつがミドル級のチャンピオンであれば、そのベルトを賭けることを条件に喜んで受けるけどね。

——そのメイヘムが先日、柔術黒帯を取得したことについてどう思いますか?

ニック　まあ、ヤツがいい柔術スキルを持ったグラップラーであることは俺も認めているから、黒帯を授かるに値するとは思うよ。「おめでとう」と言っておいてくれ。ただ、俺たちシーザー・グレイシー柔術の黒帯とは、ちょっとレベルが違うけどな。

昨年10月のKJヌーン戦でも、ボクサーでもあるKJと血だるまの殴り合いを展開したニック。いまや妻のクリス・サイボーグともどもシュートボクセの"顔"になったエヴァンゲリスタ・サイボーグとも壮絶な打撃戦となるのか？

Diaz

——では、そのメイヘムに代わり、あなたの対戦相手となったエヴァンゲリスタ・サイボーグをどう評価していますか？

ニック　ストロングでタフな対戦相手だと思う。とにかく「デンジャラス」という言葉が似合うファイターだね。間違いなくメイヘムより危険な相手だ。

——一階級上のメイヘムより危険ですか。

ニック　たとえば、もしメイヘムに試合で負けたとしても判定で、こっちがダメージを受けることはないと思うんだよ。でも、サイボーグが相手なら失神KOされる可能性もあるし、まず無傷でケージから出てくるのは不可能だろう。勝つ自信はもちろんあるけど、血だらけにされる覚悟はできてるよ。とにかく言いたいのは、サイボーグはデンジャラスだけど、メイヘムにはその危険さが全然ないってことさ。

——サイボーグが所属するシュートボクセというチームについてはどんな印象がありますか？

ニック　キックボクシングに関してはいって聞いてるよ。でも、俺たちに比べたらたいしたことないさ。今度の試合はキックボクシングではなく、MMAだからね。

——試合のポイントはどこになると思いますか？

ニック　気をつけるのはスタンドの打撃とグラウンドのパウンドだっていうことはわかっている。だから俺もパンチ、キックを多用して、グラウンドでは必ずトップになり、パスガードからフィニッシュすることさ。

——この対戦カードが決まったのは試合の約1カ月前ですが、やはりもっと早く決まってほしかったという思いはありますか？

ニック　もちろんさ。今回の試合にかぎらず、俺の場合はいつもギリギリにならないと試合が正式決定しないから、充分な準備期間がとれないんだ。でも、ファイターによっては4カ月前から対戦相手も含めて試合のスケジュールがわかってるヤツもいるし、それはフェアじゃないよな。

——ストライクフォースも日本よりはまだマシですけどね（笑）。

ニック　確かに日本のそういった面は最悪だな。ストライクフォースだと、少なくとも数週間前にはわかるけど、日本だと数日前っていうこともあるんだろ？（笑）。正直、よく受けるよなって思うよ。ただし、日本のルールは大好きなんだよ。もし日本ルールでリングで試合をするのなら、誰にでも勝つ自信を持っているよ。弟のネイトも同じ考えさ。なぜDREAMは昔のPRIDEルールで試合をしないのかがわからない。ロープ際で膠着したらリング中央に戻してリスタートさせたりと、ファンにとっても試合が観やすくていいと思うんだけどな。次に日本で試合をするときは、ぜひリングでやりたいよ。

——去年、DREAMに上がったときは、なぜかケージでしたもんね（笑）。

ニック　あれは失望したね（笑）。DREAM関係者に「リングだったら誰とでもやる」って言っておいてくれ。

——その日本で、大晦日にメレンデスvs青木真也の再戦が実現しなかったことについて、どう思いますか？

ニック　いいマッチアップだから残念なことだけど、仮に再戦が実現していても、またメレンデスが勝つだけさ。

——青木選手がメレンデスとリマッチを実現させるためには、どうしたらいいと思いますか？

ニック　メレンデス自身、アオキとの再戦にそれほど興味があるように思えないん

ボクシングスキルがまったくないアオキがミックスルールをやるなんて馬鹿げている

Nick

だ。まあ、メレンデスにとって意味のある試合になるような条件を出せば実現するかもしれない。たとえばDREAMのタイトルマッチにするとかね。

——結局、青木選手はK-1 MAX日本王者の長島という選手とミックスルールで闘ったんですが、ご覧になりましたか？

ニック いや、まだ観てないんだ。どっちが勝ったんだい？

——2ラウンドに長島選手がニーキック一発で青木選手を沈めました。

ニック ホントかよ⁉ やっぱりミックスルールなんて受けるべきじゃなかったんだ。アオキはまったくと言っていいほどボクシングスキルを持ってないんだぜ？ キックボクシングは少しできるようだけどね。こんなところで経歴に傷をつけてしまうなんて、馬鹿らしいことだ。

——かなりイメージを落としてしまいましたからね。

ニック メレンデスに負けて、K-1ファイターにも負けてしまったわけだからね。これから、かなり強いヤツを倒していかないと、復活は難しいだろう。なんだったら、俺がアオキの復帰戦の相手を務めてやってもいいよ。155ポンド（約70キロ=ライト級）まで落とすのは不可能だけど、160ポンド（約72・5キロ）までなら落としてもいい。キャッチウェートで俺とアオキが闘うっていうのは、おもしろくないかい？

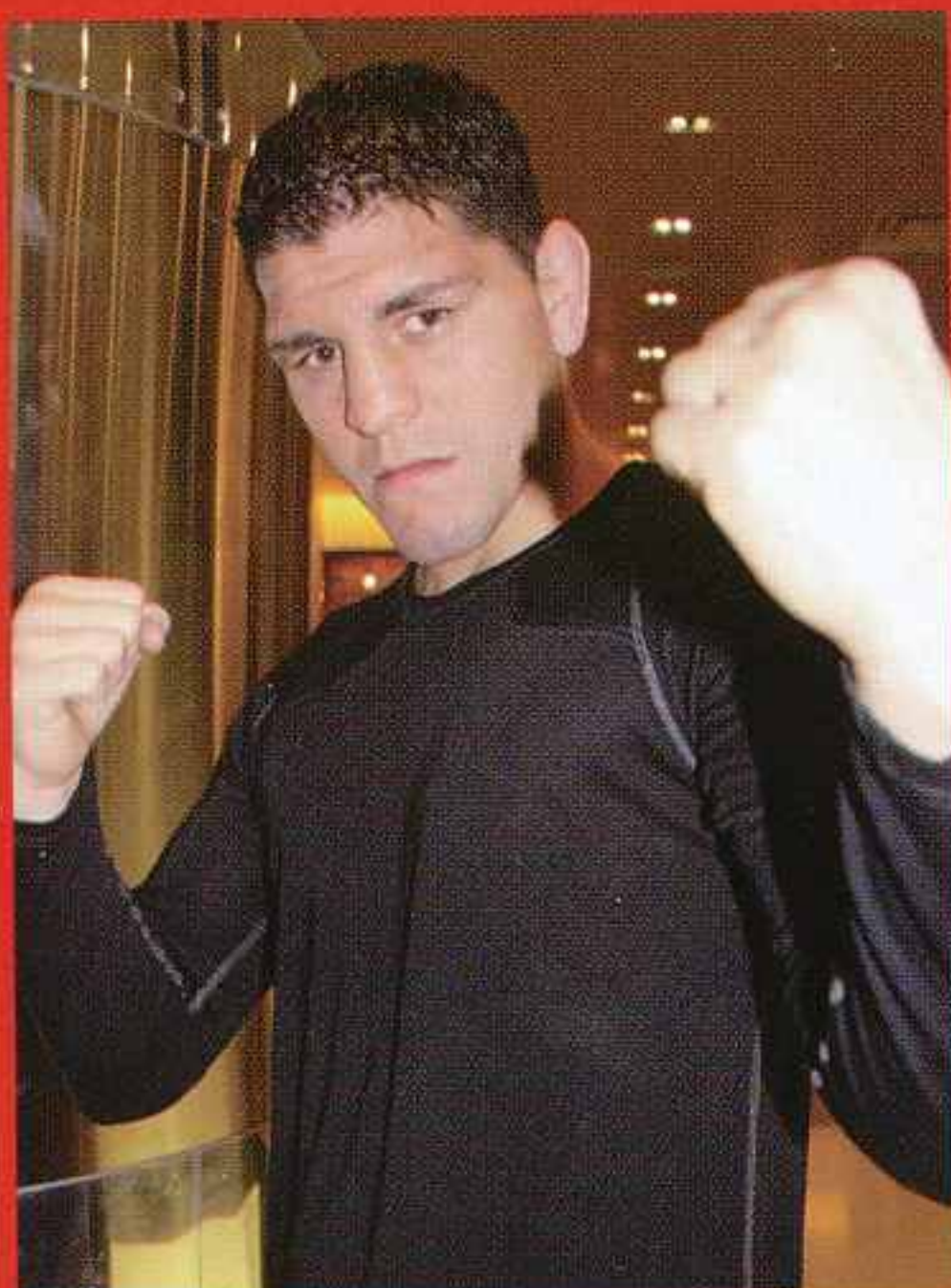
——いや、それは観たいですよ！

ニック 日本のリングでやってもいいよ。1月29日にサイボーグとの試合があるから、そのあとの3月末か4月ならOKだ。

——誌面に載せておきましょう！ また『Dynamite!!』ではジョシュ・トムソンに判定勝ちしたんですけど、この結果を聞いてどう思いましたか？

ニック ジョシュはもっとボクシングテクニックを磨いておけば勝てたんじゃないかい？ 試合を観てないからなんとも言えないけど、もしかしたらキックボクシングスタイルで、キックを出しすぎたんじゃないのかい？

——そのとおりなんですよ。ジョシュはいいハイキックを出してたんですけど、川尻選手にクリンチからテイクダウンを奪われる展開で。

ニック カワジリみたいなタイプと闘うときは、ボクシングのテクニックで頭にパンチを入れて、テイクダウンさせないようにするべきなんだよ。グラウンドでトップを取られたら、押さえ込む力は強いし、パウンドもあるので厄介だからね。もし

NICK DIAZ■1983年8月2日、米国カリフォルニア州出身。シーザー・グレイシー柔術アカデミー所属。01年、MMAデビュー。UFC、エリートXCで活躍後、09年よりストライクフォースに参戦。昨年1月に、世界ウェルター級王者となる。183cm、77kg。

俺がカワジリと試合をしたら、そう簡単にはテイクダウンを取らせないし、仮に取られたとしても下から極めることができるから、簡単にはテイクダウンを狙ってこないと思う。でも、ジョシュはキックボクシングスタイルのレスラーだから、カワジリにテイクダウンを狙われたんだろう。非常に理にかなった戦略だね。

——では、川尻選手の戦略勝ちでもあったわけですね。この結果を受けて、メレンデスvs川尻というマッチメイク案も挙がっているようですが、どう思いますか？

ニック メレンデスとカワジリは以前も闘ってて、メレンデスが勝ってるよね？

——PRIDE時代に一度実現していて、僅差の判定でメレンデスが勝ってます。

ニック その頃と比べてメレンデスの実力はかなり上がっているから、結果は変わらないんじゃないかな。もちろん凄い試合にはなるだろうけどね。

——あと『Dynamite!!』では、あなたとも対戦したマリウス・ザロムスキーと桜庭選手の試合もあったんですよ。

ニック らしいね。ザロムスキーが勝ったと聞いたけど、どうやって勝ったんだい？

——試合中に桜庭選手の耳が取れてしまって、ドクターストップです。

ニック （顔をしかめて）ウワ～ッ。それはひどい。サクラバは大丈夫なのかい？

——手術は成功したと聞いています。

ニック それはよかった。でも、サクラバには早くリングを降りてほしい。ここ数年、コンディションがいいようには見えないし、もうやるべきことはやりつくしただろう。サクラバは大好きなファイターの一人だから、彼がボロボロにされるのは見ていられないよ。サクラバはいま歳はいくつなんだい？

——たしか41歳ですね。

ニック もう引退するべき年齢だよ。スポーツ選手は誰にでもそういう時期がくるんだからね。

——では、あなた自身の2011年の目標を聞かせてください。

ニック 俺より上にランクされているファイターならば誰とでもいいから対戦したいね。そして勝って俺のほうが上だと証明するよ。

——ストライクフォースとはあらためて複数契約を結んだらしいですね？

ニック なんかそうらしいね。

——『そうらしい』って、よく知らないんですか？

ニック 契約についてはシーザー（・グレイシー）に任せているんだ。だからシーザーがストライクフォースと交渉していたのは知っているけど、ちゃんと契約をしたかどうかは聞いてなかった。だから数人から契約締結について「コングラチュレーション！」って言われたけど、「へえ、契約したんだ」って感じだったな。

——そんな感じなんですか（笑）。

ニック 俺はストライクフォースのチャンピオンだし、ここで闘い続けることに異存はないから、いいけどね。マネージャーであるシーザーが「UFCで闘ったほうがいい」と判断したら、UFCの連中を片っ端から倒したい気持ちはあるけど。

——では、2011年は去年以上の活躍を期待してますよ。

ニック ああ、試合には全部勝って、あと「ベストインタビュー賞」をまたもらえるように、今年もどんどんインタビューを受けていくよ（笑）。

【11年1月1日／米国ネバダ州ラスベガス、MGMグランドにて収録】

キング・モーと確執あり!?

08年の武蔵に続き、京太郎も撃破!

「今年は全力でストライクフォースの王座を奪います」

Gegard Mousasi

ゲガール・ムサシ

昨年『Dynamite!!』で京太郎に判定勝利し、またしてもK-1王者をK-1ルールでねじ伏せたゲガール・ムサシ。
今年はなんとストライクフォースのベルト奪取に向けて新年早々本格発進だ。
また、波紋が広がる青木vs自演乙についても感想をうかがった。はたしてムサシの見立てとは!?

聞き手/松下ミワ　試合写真/今村陽子

――先ほど、関係者の方にムサシ選手はちょっと体調がよくないとうかがったんですが、どうされたんですか？

ムサシ　はい、ちょっと寒気がしてまして。じつは試合のときも体調は万全じゃなかったんです。

――もしかして、熱があったとかですか？

ムサシ　いや、熱はないんですが、ウィルス性の胃腸炎か何かでずっと食欲がなかったんです。もう3キロぐらい痩せてしまったんですけど、試合前にこんなことを口にするのも言い訳になるかなと思って言わなかったんですが。

――さすがっ！　カッコいいですねえ。

ムサシ　フフフフ、アリガトウ（照）。

――しかし、昨日の試合は体調の悪さをみじんも感じさせない勝利でした。08年の武蔵戦を含め、またしてもK－1ファイターを倒したことになりますね。

ムサシ　ええ、そうなります。

――京太郎選手は10年のWGPにも出てますしK－1ヘビー級のチャンピオンですから、MMAの選手に敗れるというのは、もうこれほどの屈辱はなかったと思いますよ。

ムサシ　でも、べつにそういう競争じゃないですからね。

――そういう競争じゃないといいますと？

ムサシ　私のなかでK－1 vs MMAというふうには受け止めてるわけではないというか。たとえばミルコ・クロコップ選手もK－1出身ですけど、MMAで凄く強かったように、キックボクシング出身のMMAの選手もいるし、その逆もいるので、べつにK－1 vs MMAというのはあまり考えなくていいような気がします。

［10.12.31 Dynamite!!
～勇気のチカラ2010～］
埼玉・さいたまスーパーアリーナ
○ゲガール・ムサシ vs 京太郎×
（3R終了 判定 3-0）
京太郎のインローをもらいつつも、1ラウンドから鋭いパンチをヒットさせ、なんと2ラウンドには京太郎から初のダウンを奪った。これが決め手となり、判定勝利。08年の武蔵戦に続き、またしてもK-1ルールで圧勝したムサシだった。

――ただ、K－1ルールで闘うときにはもちろんK－1用の練習をするわけですよね？

ムサシ　今回に関して言うと、京太郎戦では特別な練習はしませんでした。もう、この試合は大会の2週間前に決まったので、この試合のために何かやろうと思っても、正直何もできませんでした。

――なるほど（笑）。試合まで2週間しかないのに、慣れないルールで闘うというのは不安じゃないんですか？

ムサシ　いえ、大丈夫です。逆に対戦相手が決まってからやっとやる気が出た感じなんです。もともと『Dynamite!!』で試合をするというのは聞いていましたが、対戦相手が決まらないと、なかなかそこまでやる気を出すのが難しかったんですけど、2週間でできるだけの練習ができたのでよかったです。

――そういうものなんですか。

ムサシ　それに、もともとキックボクシングはできると思ってますから、そこまで心配でもないんです。周りには「いきなりK－1ルールで試合するのは危険じゃないか？」という人もいるんですけど、自分自身はキックボクシングができるというのはわかってるので、そんなに不安なこともないといいますか。

――打撃勝負にも絶対の自信があるわけですね。

ムサシ　それに『Dynamite!!』はいつもギリギリなんです。だから毎年やる気を出すのが難しいなかでトレーニングをしているんですけど、出るといっても結局試合が流れたりする場合もありますし。対戦相手が決まらないと、なかなか「よし、やるか」という気にはなれないんですよ。

――そのあたり、ムサシ選手はいつも異常なほど落ち着いてますよね。

ムサシ　まあ、これが私の仕事なので。調子がいいときもあるし悪いときもありますけど、ちゃんと試合をするのみということです。

――20代半ばにして、仕事を語れるとは……。

ムサシ　フフフフ。こういう性格なのは、母のおかげかもしれません。

――ほう、お母さんからはそういう教育を受けたんですね。

ムサシ　ええ。ちゃんと母がしつけてくれました（照）。

――しかし、K－1ルールでもここまで強いと、今年は本格的にK－1WGPに参戦してくれというオファーも来るかもしれないですよ。

ムサシ　そうなんですか？　でも、たぶんK－1WGPに出るには参加資格を取らないといけないと思うんですけど、たとえ出場するとしても昨日の私の体重は97キロで、京太郎選手は104キロだったんです。真剣にK－1WGPに出るとなったら、身体にあと20キロの筋肉をつけないといけないので、それはちょっといまの段階では不可能です。身体がちゃんとできていて、しっかりWGPで闘えるという状態で、さらに1年間、どっぷりK－1に出る

私のなかではK－1 vs MMAというふうには受け止めてないというか

準備ができているんだったら出られますけど、いまの段階ではちょっと難しいですね。

――またしても非常に冷静な分析！ ただ、アリスター選手が昨年のWGPで優勝して、K-1ルールでもMMAファイターの強さというのが評価されてると思うので、そのあたりをムサシ選手がどのくらい強いのか見てみたいという声もあるかもしれないですよ。

ムサシ K-1でですか？ うーん、『Dynamite!!』みたいな大会でK-1ルールで闘うのは、それは一つの挑戦なんでいいんですけど、やっぱりいま自分が集中してるのは今年のストライクフォースでの試合です。その試合で勝てたら次はタイトルマッチに出られるかもしれないので、いまはそちらに集中してるんです。

――次のストライクフォースは2月12日ですが、それに出場する予定なんですね。

ムサシ そうです。マイク・カイルという選手と闘いたいと思っていて、これに勝てたらタイトルマッチを闘える可能性があるという感じなんです。

――ストライクフォースのタイトルマッチといえば、ムサシ選手の階級であるライトヘビー級タイトルマッチは3月に王者ハファエル・フェイジャオンとダン・ヘンダーソンが闘うことになってます。その勝者とムサシ選手が闘う可能性が高いということなんですね。

ムサシ ええ。

――3月のタイトルマッチはどちらが勝つと予想してますか？

ムサシ うーん、ボクはフェイジャオンじゃないかなと思ってますね。彼のほうが若いし、たぶん勝つと思ってます。でも、ダン・ヘンダーソンはいつもタフだからわからないですけどね。

――へえ〜。興味深い勝敗予想です。

ムサシ それはボクがフェイジャオンのほうと試合をしたいと思ってるからかもしれないです。これは個人的な事情なんですが、ダンとはトレーニングを一緒にしたこともありますし、ショーツなどいろいろ作ってくれる私のスポンサーがいるんですが、これはダンの会社で、ダンとはけっこう知り合いなんです。だからダンより、あんまりよく知らないフェイジャオンと試合したいなと思ってて。だからといって、もしダンが勝っても全力で試合をしますけど。

――そういう事情があったんですね。じゃあ、その勝者と闘えるよう、いまは準備に向けて忙しい、と。

ムサシ はい。今日から1週間はオフなんですが、2月12日はホントにベストな状態で試合をしようと思ってます。2月の試合が終わったらやっと2週間ぐらいオフを取ろうと思ってます。

――となると、今年は日本ではあまりムサシ選手の試合は観られなくなっちゃうんでしょうか？

ムサシ そんなことはありません。私のプランとしては1年間に5試合したいと思ってますので、2月に試合をしたあとは、日にちにもよりますけど、日本でも試合をする予定です。

©Esther Lin(STRIKEFORCE)

10年4月のストライクフォースでキング・モーを挑戦者に迎え、タイトルマッチを闘ったムサシ。再三にわたりテイクダウンを奪われ、上のポジションを握られたムサシがフルラウンドの闘いの末、判定負けに。王者であり15連勝中だったムサシにとっては痛い一敗となった。

じつはキング・モーと試合したくて一部ではそういう話も出てたんです

――それは安心しました。ちなみに、昨日はキング・モー選手が関係者に参戦をアピールしてたみたいですけど、やっぱりキング・モーにはリベンジしてほしいと思ってる人は多いと思うんですよ。

ムサシ じつは今回の『Dynamite!!』でキング・モーと試合をしたくて、一部ではそういう話も出てたんです。

――『Dynamite!!』で対戦の可能性があったんですか？

ムサシ ただ今年はキング・モーがケガをしたようで、彼自身ストライクフォースのタイトルも失なってしまいましたよね。でも、スコット・コーカーも言ってましたが、私がマイク・カイルに勝って、タイトルマッチを闘ったあと、キング・モーも誰かに勝ってたら防衛戦をキング・モーと闘うかもしれないです。まあ、いずれにせよ彼とはどこかで試合ができると思ってます。

――それはいいですね。ムサシ選手にとって、キング・モー戦での1敗というのはやはりキャリアの中で大きいですか？

ムサシ うーん、MMAでは負けることもありますけど、その前にどれだけ勝っててもみんな負けたことばかりを気にしすぎですよね。ヒョードル選手も去年一回負けてしまいましたけど、その一回負けただけで、パウンド・フォー・パウンドのリストから外れてしまいました。たぶんみんな一つの負けにこだわりすぎなんですよね。

――それはムサシ選手やヒョードル選手が負けるのが珍しいからでしょうね。

ムサシ そうなんですか？ ただ、キン

グ・モー選手に対して私自身何かあるとすれば、彼に負けたということよりも、彼の人間性が好きではないということなんですけど……。

――あら、ムサシ選手はキング・モー選手が嫌いなんですか？（笑）。

ムサシ ……傲慢だし、……うーん、でもあまりこういうことは言わないほうがいいでしょう。ただ言いたいのは、キング・モーたちと自分たちとはお互いに違うタイプだということです。

――若干、確執があるという感じなんですね。

ムサシ なんと言えばいいのか、大口叩くし、態度も大きいし……。それに、私が闘う場所といえば日本とアメリカぐらいなんですが、キング・モーは行くところ行くところ、どこにでもいるんです。もう、みんなの関心の中心にいたいということなんでしょう。……でもあんまり言わないほうがいいですよねえ。

――ワハハハハ！　いまので充分伝わりました（笑）。やっぱりそういう態度はいかがなものかと思ってしまうのは、しつけが厳しかったお母さんの影響なんでしょうか。

ムサシ フフフフフ。そうですね。母に感謝します（笑）。

――素晴らしいお母さんなんですね。

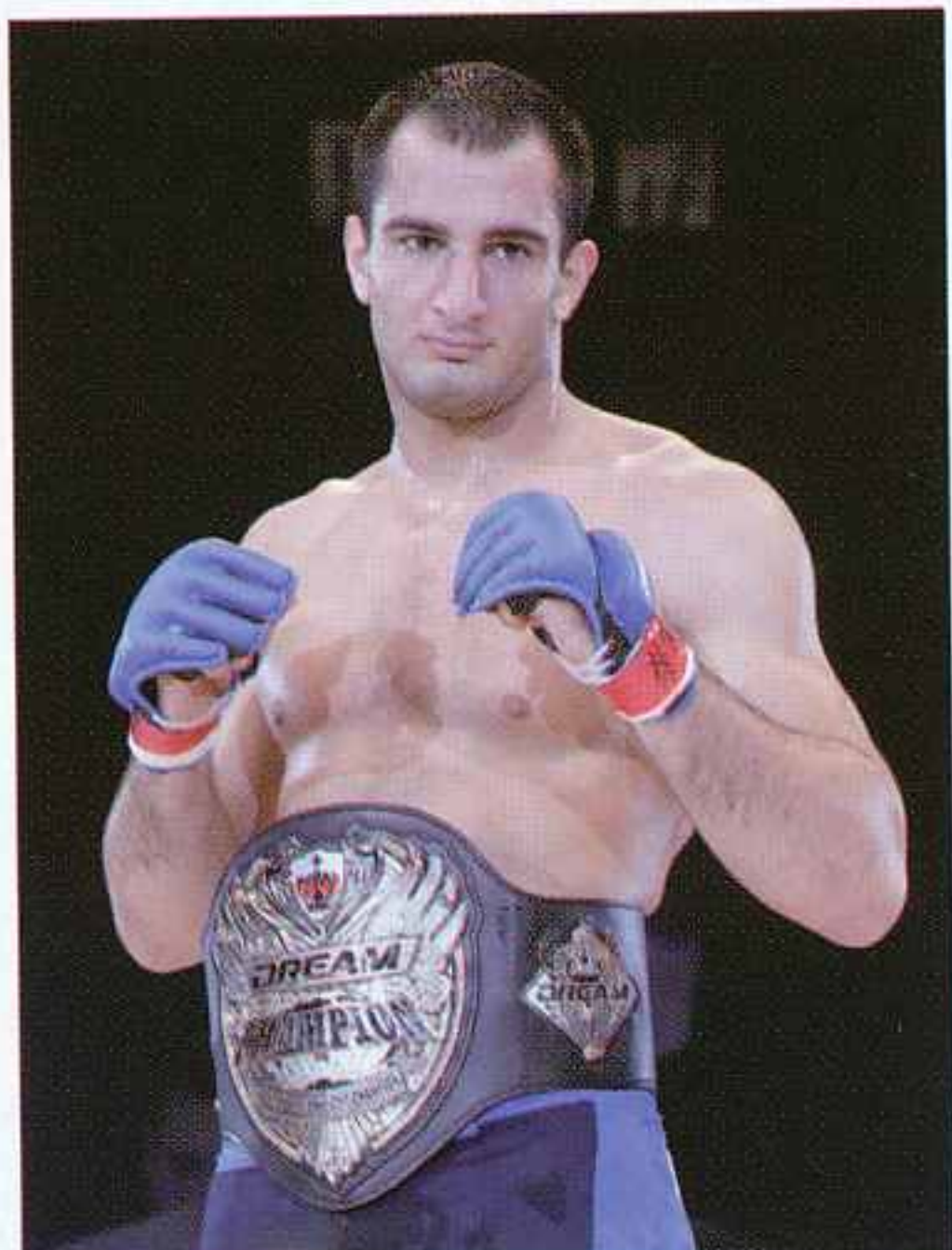
ムサシ ええ。私たち家族はイランからオランダに移住したんですけど、男兄弟も女兄弟も非常に結束が強いですし、兄弟はみんないまだに母のところに訪ねてくるという非常につながりの強い家族なんです。私も母の手料理を食べにいまでも実家に行きますし、もうこれは母の力だと思います。兄弟はみんなタバコも吸わなければ、悪いことも一切しないですから。

青木選手の立場でそういう試合になるのは理解はできますけど

――なるほど。しかし、タバコというのは世界的に非行の象徴なんですね（笑）。

ムサシ タバコだけじゃなくて、ギャンブルや、お酒もそうですよね。

――でも、一緒に練習しているヒョードル選手をはじめロシア人はかなりお酒を飲む人が多いと聞きますが……。

ムサシ ああ、そうですね。でもヒョードルはいま宗教に熱心だから、全然飲まないみたいです。ただ、ロシア人という意味では昔、旧ソ連の一部だったアルメニアに住んでたときは、みんな食事とお酒が一心同体のような感じでした。でも、それくらいだったらいいと思います。

GEGARD MOUSASI■1985年8月1日、アルメニア出身。05年12月にDEEPで日本デビュー。その後、PRIDE武士道参戦を経てDREAMへ。08年にはDREAMミドル級王座を、10年には同ライトヘビー級王座を戴冠。今年はストライクフォース王座を狙う25歳。186cm、93kg。

――限度があるということですね。

ムサシ 飲んだらとても攻撃的になる人もいますし、とても幸せな気分になる人もいますから、程度が大事です。

――ムサシ選手はお酒を飲むとどうなるんでしょう？

ムサシ そうですねえ。たぶん、いつも笑ってると思うんですけど……あんまりよくないかもしれないです（笑）。

――ハハハハ、自己反省ですか（笑）。ところで、昨日の大会で話題の中心になっている青木選手の試合はご覧になりましたか？

ムサシ ええ。ただ、ヒザ蹴りを受けたところしか観られなかったんですけど。

――ああ、そうなんですね。この結果を受けてどう思いますか？

ムサシ 青木選手はやはり、MMAの選手として、K-1の選手が相手ならタックルしてグラウンドに持ち込めばすぐに勝てると思ってしまったんだと思います。でも、そこでミスを犯したと思いました。もうちょっと時間をかけてじっくりやればよかったと思います。でも、ミスは誰でもしますから、しょうがないですね。

――K-1ファイターとのミックスルールが組まれたことについてはどう思いますか？

ムサシ うーん……正直よくわからないです。それでファンが喜んでるならいいと思います。ただ、ファンが喜んでるかどうかも私にはよくわからないです。

――ムサシ選手が観ていない1ラウンドはキックルールだったんですが、青木選手は逃げるというか、ドロップキックやロープをつかんで攻撃してたりしてたんですよ。

ムサシ 青木選手の立場でそういう試合になるのは理解はできますけど。まあ、勝ちたかったんでしょう。だから1ラウンドは膠着して、2ラウンドになったら勝てると思ったんでしょうね。だからなぜそういう行為をしたかというのは理解できます。それに、彼の対戦相手もグラウンドに持ち込まれたらたぶん膠着したと思いますので、お互いの土俵でできることをしたんじゃないかという感じです。

Gegard

――1ラウンドの青木選手の闘い方に関しては厳しい意見もあるようですが、それはどう思いますか？

ムサシ 難しい試合ですよね……。ただ、試合の直後というのはいつも批判されやすいですから、次に青木選手がいい試合をしたらみんな忘れてくれるんじゃないかと思います。

――大人な意見ですねえ。

ムサシ フフフフ。そうですか？（照）。

――日本のファンはわりと根に持つといいますか、こういうことが起こるとけっこう引きずるんですよ。

ムサシ 日本の方はそうかもしれないですね。逆にアメリカ人は直前のことしか覚えてないですけど（笑）。

――ムサシ選手のお国ではどっちのタイプですか？

ムサシ もっと冷めてます。それが私の国の文化といいますか。

――ああ、やっぱり大人な方が多い、と。

ムサシ フフフフ。よくわかりません（照）。

――いや、非常に貴重なご意見をありがとうございます。今年はその冷静な洞察力と強さでストライクフォースでの活躍、そしてDREAMのタイトル防衛も期待しておりますので、ぜひ頑張ってください！

ムサシ ええ、必ずそうします。今日はどうもアリガトウ。

【11年1月1日／都内・某ホテルにて収録】

業界騒然の問題提起

修斗で何が起こっているのか？

東京イエローマンズ代表
朝日昇

聞き手／ジャン斉藤

昨年12月27日、朝日昇氏のブログに「修斗の未来のために、日本のMMAの未来のために、そして世界のMMAの未来のために」というタイトルのテキストがアップされた。かなりの長文のため転載は難しいので直接お読みになっていただきたいが(http://ameblo.jp/a-pop-tv/entry-10748170200.html)、それによれば朝日氏は12月23日の修斗アマチュア大会後、修斗協会理事の桜田直樹、草柳和宏、ジム代表者である佐藤ルミナ、池田久雄、佐川宏海らとともに日本修斗協会の若林太郎アマチュア普及委員長（パラエストラ東京番頭）のもとへ出向き、その職の解任を要求。若林氏はそれに対して中指を立てるという異常な事態となった……。

これは何を表わすかといえば、青木真也は「パラエストラ東京イズムの継承者だった」、という話ではもちろんない。

以前から、朝日氏のもとには修斗協会の会計報告などの運営方針に疑問を抱く声が寄せられており、朝日氏は事実上、協会の会計をコントロールしている若林氏に再三にわたって会計報告書の開示を要求する。しかし、若林氏が向き合おうとしないことから、12月のジム代表者会議（協会の理事会ではない）で若林氏の解任を決議。その席に若林氏、一部の理事（サステイン代表の坂本一弘氏）が出席しなかったため、前述のアマチュア大会での勧告へ。しかし、その場でも話し合いは決裂したことから朝日氏は事の顛末をブログに公開するに至ったという（『YouTube』では朝日氏に中指を立てる若林氏の動画がアップされている）。

いったい修斗に何が起こったのか。そのブログがアップされた翌日、朝日氏に直接、話を聞いた。なお、本誌は若林氏から一昨年の10月頃に取材拒否を通告されており（佐伯さんが悪い！）、坂本氏からは今回の件での取材は断られている。

朝日　今回のことって凄くマジメにやってるんです。本当はオモテに出したくなかったけど、問題提起も半分あって。ワイドショーのようには絶対にしてほしくないんですね。

——わかりました。

朝日　良い意味で皆さんが「修斗はどうなっているのか」を知るべきだと思うんで。このままだと修斗が恥ずかしいことになるんで、そこだけはぜひ。こうやってしゃべる機会を与えてもらったらちゃんとしゃべるんで。

写真のレフェリーが若林太郎氏。本誌にも何度か登場していただいたが、一昨年の10月頃、若林氏の物言いに佐伯さんが本誌で反論を展開したところ本誌に対して取材拒否を通告。中井氏を含めパラエストラ東京を取材できないことになってしまった。

——今回、朝日さんがブログで修斗協会の運営のあり方について問題提起されたわけですが、多くの方はそもそも修斗の組織系統がわからないのではないかと思うんですよ。

朝日　そうですよねぇ。まあ、僕ってブログにも書いたとおり、はっきり言って部外者なんですよね。いまは修斗の理事じゃないんですけど、僕が知ってる修斗協会のことは全部しゃべりますよ。始まりはまだ佐山（聡）さんがいた時代に、みんなで修斗の今後のことをしゃべって、それが会議というかたちとして始まったんじゃないかと思うんですけど。間違えてたら申し訳ないんですが、名前をつけるなら「会議」というだけで。そのときはただ集まってみんなでしゃべってたわけですよ。

——その集まりが「修斗協会」というものに発展していったわけですか。

朝日　ええ。佐山さんとプロ選手が集まって、お金も集めないし。その頃、は石川（義将）さんという先輩がいて、いまは大阪で事業を手がけてる方なんですけど、唯一、佐山さんに物が言える人だったんですよ。その石川さんをみんなが頼りにしてて、その先輩が全部仕切っててくれてたんですね。で、その先輩が大阪に戻っちゃうことになって「誰かが代わりにやらなきゃいけないな。」と思って、僕が似たようなことを始めました。ぶっちゃけ、僕、若林（太郎）さんがやってる裏の仕事って得意なんですよ。木口道場にいたときに全日本（アマチュア修斗選手権）を始めたのは僕ですし。全日本の前身のような大会も木口道場で開きましたし。

——朝日さんが始めたんですね。

朝日　町田の体育館でやったんですけど、（佐藤）ルミナが準優勝しましたね。そこらのジムがジム大会をやるのと一緒ですよね。あの頃は僕が山田学と一緒に住んでるときで。

——いまの修斗協会ってどういう位置づけになるんですか？

朝日　位置づけ？

——修斗には、運営を行なう修斗協会、興行に携わるプロモーター、ルール管轄を取り仕切るコミッションという三権分立があるわけですよね。

朝日　……そう言われてますけど、現実問題はまったく違いますよね。だから言うべきなんですよ、これは知るべきなんですよ。これは批判じゃないですよ。

——つまり、三権分立は現実では施行されてないということですか？

朝日　残念ながら、実際は違いますよね。たとえば、若林さんがすべてに入ってるわけですよね。

——若林さんはパラエストラ東京の人間で、修斗ではアマチュア普及委員長という役職に就いていますが、すべてにかかわってる、と。

朝日　ええ。三権分立なのにおかしくないですか？　だから僕、知り合いにも言われたんですよ。「ねえ、朝日さん。なんでパラエストラの人間だけが修斗のレフェリーやるの？」って。……まあ、純粋な疑問ですよね。

修斗は三権分立？　残念ながら実際はそうではないですね

――コミッションとして独立性がないわけですね。

朝日　彼は弁が立つから、多くの人間がたじろいじゃうんですよね。また、協会の会議が召集されて、話し合いの末、決議されることばかりではないと思いますよ。

――ボクらもあまり修斗の内部には詳しくないんですけども……。

朝日　詳しくなくていいですよ、そんなもん（笑）。僕も詳しくないですもん。いつのまにか理事を外された人間だから。

――いつのまにか？

朝日　ある大会を観に行ったときにパンフレットを見たら「あれ、オレの名前が理事に列記されてないじゃん」って。

――え、大会パンフレットでその事実を知ったんですか？

朝日　知ったんですよ（苦笑）。ある関係者に「オレはどこいったねん？」と聞いたら「わかんねえ」って。

――理事会等で決定したんじゃないんですか？

朝日　いや、まったく知らないですよ（笑）。ある修斗の上層部の人間は「朝日さんは（理事を）自分から辞めると言ったはずです」って言うんですが。でも、辞めさせるにしたって通告があって当然のことですよね。

――まあ、そうですよね。

朝日　僕、小学校3年生～6年生まで学級委員長をやらしてもらってたんですけど、修斗協会ってそれ以下のレベルに思えるんです。給食係もない、体育係もない、だから学級会もできないんですよ。

――三権分立のシステム自体はできていたんだけど、いまの修斗はそれをうまく活用できていない現状があるわけですか？

朝日　そのとおりです。みんな一生懸命やっているのは事実です。利権争いをしてるとか、そんなことはやってないです。ただ、現実的にできていないし、いまの時代にそれを確立するのもまだ難しいと思うんです。たとえば10年後を目指して、少しずつでいいから進めればいいと思うんですが、ドンドン無理やり枠を縮めているように感じます。若林さんがあまりにもすべてを一人で独善的にやることによる弊害も大きいと思います。自分のイエスマンだけを残して、意見をする人間たちを次から次へと皆、排除してしまう。だからといって僕がすべて正しいというわけでもありません。理事から外すなら外してください。でも、それらはどうやって決められたかは協会はキッチリ明示すべきでしょう。

――理事会は開かれてないですか？

朝日　開かれているとは思います。が、時には若林さんから「～だから～でいい？」と朝7時に各理事に電話がかかってきて、それで決定されたことも近年はあったと聞きました。本当に理事会で話され決議されたものがどれくらいあるかわかりません。たとえばルールなども、プレイヤーやその出身者なら到底設定しないような不思議なものがいつのまにか決められていたり。「なんでこんなルールになったの？」と周りに聞くと、皆「知らない」と。

――なぜそこで若林さんに意見を言わないんですか？

朝日　弁が立つからじゃないですかね。だってこの前、彼に中指立てられたときも、まったく突拍子もないことをあたかも正論のように堂々と言ってきましたからね。だからみんな引いちゃうんじゃないですか？

――それはわかるような……（笑）。正直、

外から修斗を見てると、若林さんが権力を握って利益を得てるっていうイメージってないんですけどね。

朝日　それがわからないんです。とにかく、わからないんですよ。

――要するに朝日さんの最大の引っかかりは、若林さんが修斗というものをわからないものにしてるということなんですか？

朝日　とにかく僕、こういう性格でフラフラしてるし、ぶっちゃけて全部しゃべっちゃうじゃないですか。だから後輩が修斗のことで相談してくるんですよ。「こんなことあったんですけど、どうにかしてもらえますか？」って。僕に言ってもしょうがないんだけどさ。

――たとえばどんなことですか？

朝日　たとえば選手や関係者になんの相談もなくあらゆることが決定してしまう。突然ルールが変わっちゃうんですよ。あと、こないだバリジャパに出た選手が拳をケガしたんですけど、いきなり新しいグローブを使わされて拳が陥没しちゃったそうなんです。

――え？　グローブテストもなく？

朝日　そう。一事が万事すべて突然に決まって、誰も知らないんですよ。でも、オレに相談されたって、どこに連絡していいかわかんねえし。北森（代紀）に「これ、どこに聞きゃあいいんだ？」って聞いてもわかんないんですよ。

――北森さんというのは、坂本（一弘）さんが代表を務めるサステインの広報ですよね。

朝日　サステインは〝中央〟だから聞くしかないじゃないですか。「どうなっとんねん」と。

――サステインというのは修斗の有力プロモーターですよね。

朝日　坂本は修斗の理事でもあり、大変な仕事もいろいろとしていると思うんです。しかし、理事のなかには「功績ある人間をクビにするのは認められない」「クビにするのは気に食わない」と言う人もいるようなんです。誰が何を言っても、それはあくまで一人の意見であり、あくまで一票にしかすぎません。みんなで話し合い、その意見が認められない場合だってあるわけで、それが合議制の基本原則だと思うんですが、「気に食わない」と言うのは違いますよね。また「これからは俺が頭でやる」と突然言ってきても、それはみんなに選ばれたわけじゃないから、まったくお門違いなわけで。そもそも理事にいることだって、みんなが認めなかったら、居続けられないはずですから。理事って、永久職じゃないですよね。この前のジム代表者会議でもわかったけど「理事とは？　協会とは？」ということがキッチリ定義されてないし、理解されてないんですよね。このままでは、修斗は単なるスポーツ馬鹿集団になってしまいます。

――言葉は悪いですけど相撲協会的な……。

朝日　環境は同じですね。ある人に、会社ならば、会長が役員を選ぶことができると聞きました。協会のようなものについては立候補があり、そこから選ばれる、と。修斗の運営方針について全国各地から署名を集めたことにしても「こそこそ署名をするのは気に食わない」って一部の理事は言っていたようですが、署名にこそこそもないですよね。それ以上に、署名活動をせざるをえない状況を生んでしまったことを問うべきだと思うんです。「修斗協会のお金はどうなっているのか？」という声に対して、一部の理事と修斗の選手、関係者が立ち上がったわけなんです。が、まったく聞く耳すら持たず、この不透明なシステムを守ろうとするならば、それはまったく理解しえませんよね。

――不透明な実態があるんですか？

朝日　逆に聞きたいです。どうなんですかね？　みんなの声を集めて開示を求めても会計報告書も預金通帳も見せてもらえない。よって、サッパリわかりません。話し合いにすら応じてもらえないんですから。どうしたらいいんですか？　こちらはみんなが集まる会議にも参加を要請していました。欠席裁判をするつもりはないんで。が、とにかく逃げるようなかたちで、まったく何にも応じてもらえない。裁判所うんぬんと言ってきましたけど、弁護士もつかないんじゃないですか？

――正直、弁護士費用の無駄でしょうね。

朝日　だからこれは内々で話して済ますのがベスト。僕はそれを望み続けたんですけど。

――普通、こうなる前に協会側が要求に応えるはずですよね。ここまで大事になるほうがおかしいというか……。

朝日　あたりまえですよね。上のほうから「なんでおまえはこういうことをそこまでやるんだ！」って言われましたけど。

いまさら言うまでもないが、五味、川尻、青木など修斗が輩出したプロファイターは数えきれない。修斗しかこなすことができない“場”としての役割がある（「こっちもやってるだがや!」という鼻息の荒い声は無視して）。

修斗で何が起こっているのか？

皆の声を集めて開示を求めても話し合いにすら応じてくれない

――なぜ修斗協会はそこまで隠したがるんでしょうか。

朝日　わからない。まず根本的なことをね、誰か教えてあげてくださいよ。上の人間も「なぜ会計を公開しなきゃいけないんだ」ってことを言い続けるんですよ。

――そこで朝日さんは不正が行なわれてると思ってるんですか？

朝日　それもわからない。わからないから開示してくれって要求です。会計を公開してくれってことにしても、200円しかないのに「ロールスロイスを買ってくれ」って言ってもダメじゃないですか。いまどれくらいのお金の動きがあるかを理解しないと適切な提案がしにくい。だから教えてほしい。それらを知ることで、より建設的な提案ができますから。

――商法上、決算書を公開しなくてはならない義務って、修斗協会にはあるんですか？

朝日　これらについては安易にものを言うべきではないのですが、法人化していない場合の協会の会計報告の義務はどうなのでしょうか？　でも、協会という名を信じて協会にお金を払っている人たちがいるんですから「なぜ協会を名乗ってるの？」ということです。みんな、協会と信じて、それに対して支払っているわけで、ある個人に対して、支払っているわけじゃないですよね。たとえば「この登録費ってなんで集めてるの？」って問題なんかも出てきますよね。

――まあ、そこらへんの商店街の集まりだって、ちゃんと会計の報告書を出すでしょうね。

朝日　そうですよね。高校の生徒会だって公開しますよ。個人の名前でお金を集めてんだったら別ですけど。

――今回、話題が少し先走ってるのは、お金の問題だけ……。

朝日　（さえぎって）じゃありません。

――会長の中井祐樹さんは理事会を変えようという気はないんですか？

朝日　わかんないです。本人に聞いてください。

いわゆるスキャンダルとは無縁のイメージがあった修斗。それが魅力の一つであったが、この件は修斗のブランドにどのような影響を与えるのか。

――中井さんと話し合いはされてきたんですよね。

朝日　中井とは話しましたよ。5～6回話しました。誤解されてるかもしれないけど、中井はちゃんと応じてくれました。つらかったと思います。会議でもみんなの絨毯爆撃ですよね。「中井さん、どうなってるんですか！」って。中井が偉いのはちゃんと顔をさらしました。中井は絶対に逃げなかったです。意見はちゃんと言いました。それが認められるか、認められないかはわかんないです。中井が会長職に適任であるかは別問題だけど、中井はずるいことは絶対してません。ただ、会長にふさわしいかどうかはこれから論議する問題であって。一部の理事については「逃げ回ってる」と言われてもしょうがないと思います。僕は一部の理事に何回も電話を入れましたけど、コールバックすらない。まあ「逃げてる」と言われてもしょうがないと思います。

――今後はどういう展開になるんですか？

朝日　協会側がどういう反応を示すかでしょうね（取材後に修斗協会より若林氏のアマチュア普及委員長の解任が発表）。あと、これって修斗内部だけの問題ではないんです。僕は格闘技の人間じゃない。サッカーやって、野球やって、普通に大学行って、絵描いてる。それプラス3年間ぐらい吉田（善行）と一緒にUFCに行ったりしたじゃないですか。それで思ったこと。「MMAがプロスポーツになってきた」と。そこの10年くらいは僕、この世界でシラケてたんですよ。芸能人がやって、ヤンキーが争ってこんなの優秀な男の子はやんないし、頭いい子はやんないよって。いま僕が大学で優秀な競技者であったなら、卒業後に競技者として生きるならば、UFCの頂点だけを目指すと思います。もし僕に子どもがいて、この世界に進みたいと言ってきたら「やめろ」とも言うでしょう。それがアメリカに行ったら、若干違った世界がありました。

――理想の世界になっていた、と。

朝日　既成競技に比べたら、まだまだですが、その息吹のような感じだと思うんです。向こうのコミッションは本当の意味でのコミッションに近いですよね。いまはあきらかに日本より進んでいます。日本がこのままじゃダメです。中蔵（隆志）とかリオン（武）とかみんな一生懸命やってるじゃないですか。「こいつらの時代にはちゃんとしてやらなくちゃいけないよな」って思うんです。

――アマチュア修斗の普及という点では、若林さんも精力的に全国を回られてましたよね。

朝日　もちろんその部分は本当に素晴らしい功績ですよね。しかし、一人の人間がすべてを司ることが無理だし、おかしな話なんです。たとえば若林さんがアマチュア修斗の審判のために全国を飛び回っていた。けど、そうじゃなくて、ドンドンみんなに任していかなきゃダメなんです。システムの間違いです。

――人材不足というか。

朝日　人材不足じゃないです。人材はたくさんいます。みんなに任せたりすることをしなかったんだと思うんです。一人ですべてやってしまうことはあまり賢明な策じゃないですよね。でも、これは一つの意見です。意見はあくまで仮説です。仮説と仮説をぶつけ合い、そこから最善を選択すべきなんです。くだらない個人批判とはまったく違います。しかし、こういった意見の交換をしたくても、まったく相手にされることはないし、時には排除されてしまうんです。「朝日さんはいらない」と理事会で決議のうえ排除されるなら仕方ないですが、実際はそうではない。結果、何か偶像を崇拝するような方向に向かってしまったと思うんですよね。ひとまず、

MMAが社会に認められるには　もっと大きな信頼が必要でしょう

僕の役割は終わったので、次は現理事の人たちに動いてもらうしかないですよね。もう何人もの理事の方々が決意してくれたようですし。修斗は日本の総合格闘技の中で最も根幹をなすものだと思うんです。現場を体験させてもらった人間として言わせていただくと、UFCにはもう勝てません。無理です。何かが起こらないかぎり。

——しばらくUFC天下の状態は続くでしょうね。

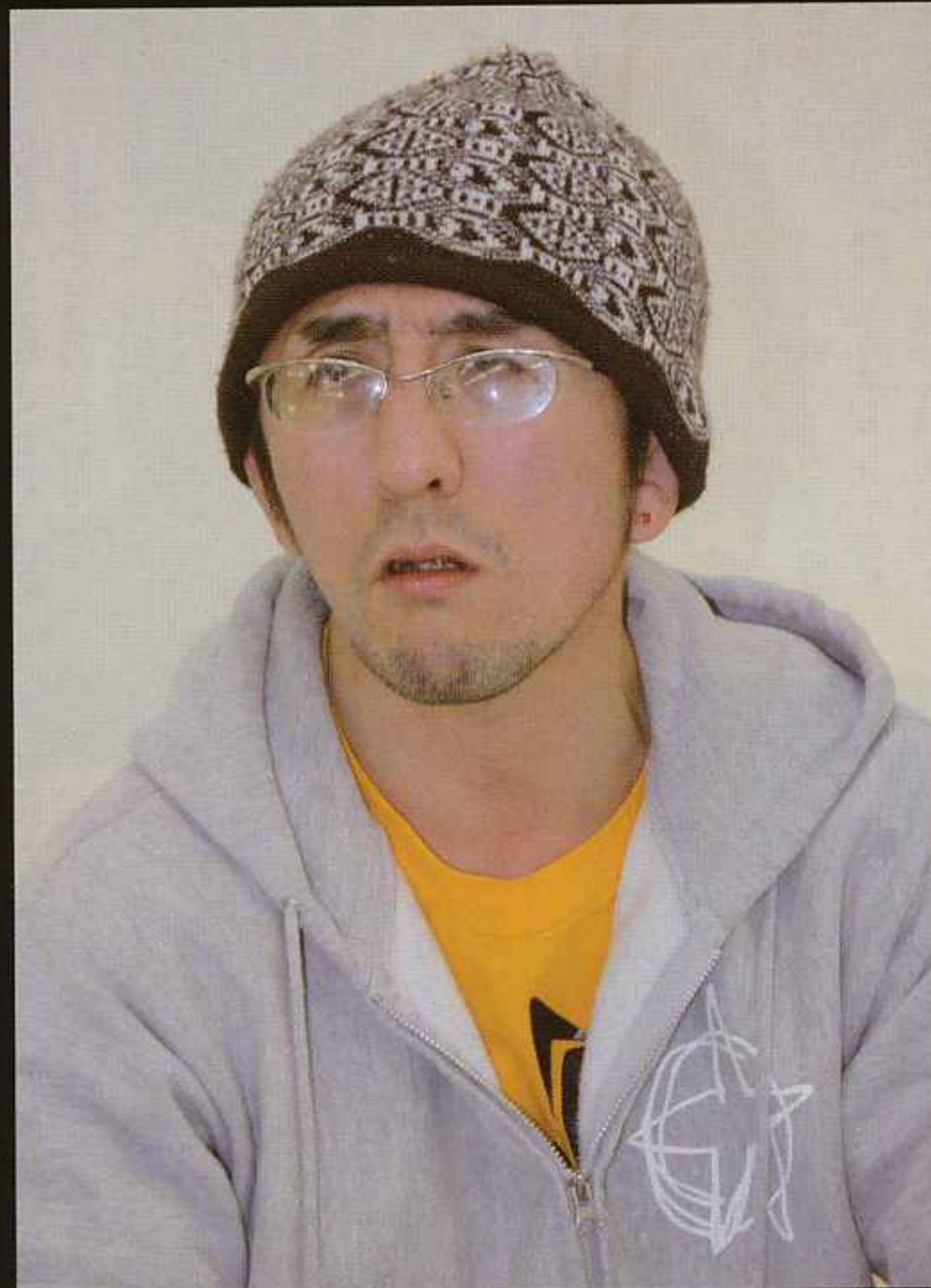
朝日　無理です。その要素はいくつもありますが、たとえば社会システムが違いすぎますよね。しかし、日本には日本のやるべきことはあるし、修斗には修斗のやるべきことがある。そのためには現実をよく見て考えなくてはならない。いずれにせよ、運営を少しずつでいいからキチンとしとかねばならない。MMAをあらゆることで普通にしないと社会では認められないし、国に認められるにはもっと大きな信頼が必要でしょうから。

——アマチュア育成という点で修斗のはたす役割はは大きいですが、プロ育成という部分では正直、選手が我慢しなければならないところは多いですよね。たとえばファイトマネーとかも。

朝日　僕の意見で言いたいのは、プロとは金ですよ。ガイジンはちゃんと言いますよね、「生活のために闘う」って。ずる賢く稼ぐんじゃなくて、腕一本で実力で稼ぐ。それでよりファイトマネーが高いところに行く、プロだったらあたりまえですよね。それを否定するのが大きな間違いで。まず「金である」ってことをちゃんと言っていいと思います。「いいマネーがあるところにどんどん行ってくれ」と。

——修斗にはそこは口に出してはいけないムードがありますよね。

朝日　オレは全員に言ってます。「プロは金や」と。誰と会っても言います、「稼げ！」と。ただ、「おまえらじゃ客が集まんねえんだよ。いいか、そのためにプロとはなんぞやを勉強しろ」と。やっぱりプロは金ですよ。だってそれがなかったら生きられないですもん。それに選手だって、より高いレベルでやりたいですよね。挑戦したいじゃないですか。金が回る場所には、良い人材が集まりますよね。

——まあ、そうですよね。

あさひ・のぼる■本名、朝日慎一。1968年1月5日、神奈川県出身。修斗四天王の一人として90年代末期から00年代前半の修斗の隆盛を支えた。元・修斗世界ライト級チャンピオン。現在は東京イエローマンズ代表。

修斗で何が起こっているのか？

朝日　アメリカがそうじゃないですか。金があるから、また良い人材がやってくる。そして盛り上がる。そしたら「お、いい大会があるじゃねえか」って、スポンサーがやってくる。そうじゃないと選手はどうやって食うねん、と。僕がDEEPに出たのは軽量級の壁を破壊するためでしたからね。僕が出たら、表になかなか出られない軽量級の奴らが出れるようになるだろう、と。重量級はエンセンが壊してくれた。次いで僕と桜井が出たら、また壁を壊せる。そうしたら、若くて才能のある奴らの道ができるだろう、と。

——修斗が変わったのってDEEPができてからですもんね。

朝日　みんなが豊かになんないと。選手も儲かる、ジムも儲かる、そういう良い回転を加えないと。たやすいことではないのは重々承知していますが、プロの人間が稼げるようにしなくてはダメだと思います。あと「アマチュアだけがあればいい」っていうのも大きな間違いですよ。「プロがあるからアマチュアがある」んですよ。プロが原点です。僕らの世代と、いまの子どもたちの世代は価値観が違うところも多々あるでしょうが、僕らの世代はアスリート能力の高い人間の大多数は野球に集まったと思うんです。それはなぜか。テレビのプロ野球を観て憧れたからですよね。

——プロがあったからですね。

朝日　それだけではありませんが、修斗にも佐藤ルミナがいたから、憧れて修斗を始めた人も数多くいると思うんです。やっぱプロはかっこよくないと。だからプロの選手には「バイトをやっていても、バイトの話はするな」と。「ファンに夢見させようぜ」と言います。

——いまの若い選手はプロ意識は薄いですよね。

朝日　プロとはなんぞやっていう講習会やりたいんですよ。そういう点では、やっぱ（山本KID）徳郁はプロだったっすよね。言いたくないけど、「こいつ、人気出るわ！」って。インタビューのコメントの一つ一つが凄いですよね。

——センスありますよね。

朝日　うまいっすよ〜！　あれは天性のものだと思うんですよ。

——そのための今回の改革っていうか。

朝日　その手前ですから。MMAなんてたかだか20年くらいの歴史じゃないですか。まず日本を一個にまとめないと。それで世界をまとめないと。そのために立ち上がったんですよ。これでオレ、消されたらすげえな。

——ここまでしゃべったら消されることはないと思います（笑）。今日はありがとうございました！

【10年12月25日／都内・某所にて収録】

この取材後に修斗協会は若林氏のアマチュア普及委員長の解任を発表。若林氏も自身のブログで今回の件に触れ、騒がせたことを謝罪している。

そして朝日氏は年明け1月5日付けのブログで、1月10日に修斗執行委員会臨時開催を予告。「ジム代表及び主要選手による、修斗初の合議的暫定理事選出」がされるという……。

椎名基樹のサムライ三昧

第57回

バラモン兄弟と青木真也

あけましておめでとうございます。おまえら死んで、地獄に堕ちて、今度生まれ変わったら、ウジ虫になるぞ～！

と、新年の挨拶に紛れて、いままでこのコラムで触れたかったけれどタイミングがなく、保留のままであった、バラモン兄弟の決め台詞をここに記すことができた。あ～気持ち良かった。とにかく、筆者はバラモン兄弟が好きだ。かつてこれほど破廉恥なプロレスラーがいただろうか？　決め台詞のセンスでもわかるように、バラモン兄弟は、徹頭徹尾、下品でどーしよーもない。

「普段はどうしているのだろうか？」と、心配になるほど後先考えていない、落ち武者カットのヘアスタイル。それを双子でやってるから、インパクトは数倍だ。生きた虫を使ったギミック。「燃えよ！　バラモン、我が闘争」と題されたブログのどーしよーもなさ。一切の共感を拒否した狂った在り方。そーゆーものが大好きなのだ。

共感を拒否というか、本人は激しく求めていそうであるが、ナチュラルに共感が得られないという点では、同じバラモン教の教徒ではないかと思われるのが、我らが年末お騒がせ男、青木真也である。去年の年末は、海老蔵、麻木、そして青木がトドメを刺した。

それにしても、一昨年の腕折り中指立てで世間及び格闘界をヒートさせ、去年は気色悪いコスプレ男にKOされて、MMAファンをがっかりさせて、2年連続負の要素で格闘界の話題を独占してしまうのだから立派だ。やっぱり、青木はバラモンだ。負の話題でも、青木の試合がなかったら大晦日に何も起こらなかった。ただ、猪木が強烈な波動砲を鼻からぶっ放した（鼻水）ことだけが格闘ファンの胸に刻まれただろう。

ネット上でこの試合のことは、激しい賛否両論があったようだが、もう真面目に語るのが馬鹿馬鹿しいような日本の格闘世界なので、何も言うことはない。

ただ、青木ほどリング上で強烈に伸ばされてしまった経験を持つ選手をほかに知らない。マッハ戦、ヨアキム戦、そして今回。桜庭、そしてPRIDEからUFCに行った選手を見てもわかるように、選手は激しい闘いで猛烈な早さで消耗している。彼らと比較すれば、3回も意識を飛ばされた選手がどーゆーダメージを負っているか、想像することができるはずだ。さらに、選手として残されたピークの時間も。まずは、バカサバイバーの身体の心配をしてあげましょう。

それにしても、PRIDEをはじめ、10年にわたって行なわれてきた格闘技大晦日興行であるが、壊す物もだんだん小さくなり、もう壊す物もなくなった感もあるがどうだろう？

さて、冒頭でバラモン兄弟愛を唐突に宣言されていただいたが、もう一人、タイミングを逸してこのコラムで触れられなかった、大好きな男がいる。これまた唐突だが、告白できぬままでいるときっと後悔するであろうから、一方的な気持ちを伝えさせてほしい。その男の名は、ディエゴ・サンチェスだ！

ずっと、前から好きでした！

試合前の「泣き出すのかな？」と思うほど、フガフガと興奮しすぎの表情。ザ・ナイトメアというのが、彼のニックネームらしいが、対戦相手に悪夢を見させるというよりも、試合前の表情は「おまえが悪夢を見てうなされてんの？」と感じる。そして、どうにもかっこ悪い短い手足。本人がシリアスになればなるほど、なんだかこっちが笑えてしまう、奇特な個性の持ち主だ。

そして、何より素晴らしいのは、フガフガ興奮の入場の態度のままの、アグレッシブなファイトスタイル。『UFC121』のパウロ・チアゴ戦では、メインのレスナーvsヴェラスケスを押さえて、ファイト・オブ・ナイトを獲得している。

ディエゴ・サンチェスは、今年の1月2日に五味を下したクレイ・グイダも下している。大流血戦で、凄惨なファイトが好きな筆者でも目を背けたくなる内容だったと記憶する。ディエゴと五味が闘ったら、とても興奮したであろうが、その下のグイダで止められてしまった。

五味vsグイダは、打撃戦だけならば五味のほうが上であったように思えたが、グイダのほうがあらゆる局面で引き出しが多かった。ボクシングで打開できぬとみるや、ハイキックからのタックルでテイクダウン。きっと、得意にしているコンビネーションだろう。

そして、何より最後のギロチンチョーク。下の状態で、相手の首に腕を回しただけの体勢から、ギロチンチョークを極めるまで絞められるとは、五味は思っていなかったのではないか？　筆者は、まさかあそこから極まるとは思っていなかった。極まった瞬間、テレビ画面に向かって思わず「技術が高え～！」と、感歎の声を漏らしてしまった。

かつてPRIDEで、エンセン井上がノゲイラと対戦したとき、オモプラッタから足首固めを仕掛けられて、試合後に「何をされているのかわからなかった」とコメントしていたのを思い出した。

MMAの技術の進歩は凄まじく早い。見かけで判断してはいけないが、クレイ・グイダのようなルックスの選手が、あんな達人のようなチョークを持っているなんて驚く。

これが本文中に登場するバラモン兄弟だ！　かつてのケンドー・ナガサキを彷彿とさせる落ち武者カットに、生きた虫を使う異常な戦術。素はイケメンなのに、この双子、相当狂ってる！

「今後については白紙です」な読者プレゼント

kamipro PRESENTS

応募要項

ハガキに応募券を貼り、①～⑧の質問の答えをご明記のうえ、下記の宛先まで郵送してください。応募多数の場合はそれぞれ抽選で決定いたします。ただし、雑誌公正競争規約の定めにより、懸賞に当選された方は、この号の他の懸賞に当選できない場合がありますのでご了承ください。なお、当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます(商品は2011年2月24日(木)頃発送予定です)。

【質問事項】①郵便番号・住所・電話番号②氏名③年齢・職業④希望商品⑤おもしろかった記事&その理由⑥つまらなかった記事&その理由⑦青木真也が次に上がるべきだと思うリングは?⑧あなたがkamiproに望むことは?

【宛先】〒162-0805 東京都新宿区矢来町41-1 ザ・フタガミハウスNo.1 (株)ツー・スリー内『kamipro』編集部 「胆石は2億円ベルトの飾りに」係まで

※応募締切は2011年2月10日(木)当日消印有効

PRESENT 01 SPECIAL PRESENT 1名様

小見川道大直筆サイン色紙

[非売品]

ついにUFCとの契約が発表された小見川道大。今回のサイン色紙にもちゃんと「UFC」の三文字を入れてもらいました! 日本フェザー級最強の名のもと、世界を舞台に"グソッタレ劇場"を繰り広げるか!?

ブログ■http://ameblo.jp/micci-mou/

PRESENT 02 1名様

上田馬之助マグカップ

[非売品]

ひさびさにメディアに登場した、まだら狼のかわいらしいイラストが入ったオリジナルマグカップ。作画はあのいしかわじゅん先生です。

PRESENT 03 1名様

上田馬之助Tシャツ

[¥3,500(税込)]

こちらは「GOLDEN WOLF」の文字が勇ましい、劇画調のオリジナルTシャツ。ぜひ着るときは馬之助のように顔をしかめよう!

PRESENT 04 1名様

伊藤薫直筆サイン色紙

[非売品]

平成以降のデビュー組で初の『1993年の女子プロレス』登場となった伊藤薫。井上京子との新団体旗揚げがウワサされているが……?

HP■http://www.w-footstamp.com/

PRESENT 05 1名様

寺西勇直筆サイン色紙

[非売品]

今号と次号にわたって登場する"いぶし銀の中のいぶし銀"寺西のサイン。「努力」の二文字がなんとも年輪を感じさせます、はい。

PRESENT 06 1名様

AJドロドロロゴ ニットキャップ

[アートジャンキー/¥3,990(税込)]

ドロっとした「ART JUNKIE」のロゴが、オドロドオドロしくもかわいい、寒い日にピッタリのニットキャップ。サイズはフリー。

PRESENT 07 1名様

Catch Wrestling Rock Tシャツ

[アートジャンキー/¥3,990(税込)]

「キャッチレスリングは荒っぽいからロックだ!」という思いから作られたこのTシャツ。サイズは150なので女性向けです。

アートジャンキー■http://www.artjunkie.jp/index.html

PRESENT 08 1名様

アンドラ・井・ルイス Tシャツ

[NO NEED NEW/¥3,675(税込)]

禅道会所属でDEEPなどで活躍中のルイスのTシャツ。右肩に禅道会、背中にはゴールドでNNNのロゴをプリント。サイズはXL。

PRESENT 09 1名様

出貝Tシャツ

[NO NEED NEW/¥3,675(税込)]

『バンゲリングベイ』所属でJ-NETWORKで活躍中の出貝のTシャツ。フロントの蝶とスカルのプリントがかっちょいい! サイズはM。

NO NEED NEW■http://www.no-need-new.com/

PRESENT 10 1名様

宮田和幸モデルTシャツ

[リバーサル/¥5,040(税込)]

フェザー級に転向してから現在6連勝と、敵なし状態の和製ヘラクレス、宮田の筋骨隆々でインパクト大なTシャツ! サイズはS。

リバーサル■http://www.rvddw.com/

PRESENT 11 1名様

新日本プロレス 1976年上半期カレンダー

闘道館からはなんともレトロでストロングスタイルなカレンダー! 初々しいドラゴンや本名時代の長州……これは貴重!

闘道館■http://www.toudoukan.com/

kamipro155 応募券 風太郎

こちらでも毎週プレゼント実施中!! http://kamipro.com/

kamipro 紙のプロレス
No.155
2011年2月5日 発行

発行人
浜村弘一

編集人
斉藤慎一
青柳昌行

編集統括本部長
ジャン斉藤

編集スタッフ
堀江ガンツ
松下ミワ
スズキ
八木賢太郎（大感謝祭年のため非番）

終身名誉バイザー
吉田 豪

助っ人
高橋くん

編集次長（逃避行!?）
松林 貴

デザインGM
出田 一（TwoThree）

デザイン隊長
金井ヒサくん（TwoThree）

デザイン
松坂マツくん
廣田ブンちゃん
野口ノグッチー
鐘田やっちゃん
白木みのる（以上、TwoThree）

カメラマン
乾 晋也
菊池茂夫
平工幸雄
吉場正和
今村陽子
笹井孝祐
タイコウクニヨシ
梅木麗子
金山フヒト
丸山剛史

南南東
入江恵方巻（TwoThree）

営業部
堂前秀隆
中村宣忠

業務部
樽本“アドニスラフBlue”義之

庶務部
原 正典
山内ユリコ

編集チアガール
金川“ナツコ”奈津子
安部“クリン”悠子

Soul of Fightマダム
廣橋久美子

発行所
株式会社エンターブレイン
〒102-8431
東京都千代田区三番町6-1
☎0570-060-555（代表）

発売元
株式会社角川グループパブリッシング
〒102-8177
東京都千代田区富士見2-13-3

印刷
図書印刷株式会社

協力
BUSHIDO KOVOTOJO KELIAS
FightSport

■広告掲載のお問い合わせは下記まで
株式会社エンターブレイン
スポーツ企画編集部 ☎03-3265-7166

本書の内容、不良品交換等についてのお問い合わせは下記の窓口までお願いいたします。なお、内容につきましては記載以上の詳細につきましてはお答えできませんので、あらかじめご了承ください。

[カスタマーサポート]
☎0570-060-555
（受付時間／土日祝祭日を除く 12:00～17:00）
メールアドレス support@ml.enterbrain.co.jp

●個人情報の取り扱いについて
本書にお寄せいただいたハガキ、各種のお問い合わせに関連してご提供いただいた個人情報につきましては株式会社ダブルクロス、および株式会社エンターブレイン（URL: http://www.enterbrain.co.jp/）、それぞれのプライバシー・ポリシーの定めるところにより、取り扱わせていただきます。